

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ

鳥取県鳥取市

本高弓ノ木遺跡(5区) Ⅱ

【遺物(木器)編】

2014

鳥取県教育委員会

序

国土交通省が整備を進めている山陰自動車道は、鳥取市を起点とし、山口県美祢市を終点とする延長約 380km の高規格道路です。現在、鳥取県東部では、鳥取市本高から同市青谷町青谷を結ぶ延長 19.3km の区間で、一般国道 9 号（鳥取西道路）改築工事として行われています。

さて、その一環として、鳥取県教育委員会では、この工事計画地内に所在する遺跡の発掘調査を平成 20 年度から実施しており、平成 21 年度からは財団法人鳥取県教育文化財団（当時）に発掘調査、出土遺物等の整理作業、報告書の作成を委託しています。

このうち平成 21・22 年度に発掘調査を実施した本高弓ノ木遺跡では、膨大な遺物が出土し、古墳時代前期の水利施設や、弥生時代成立期の人々が木材の集積等に利用した河川跡がみつかりました。本書はその調査の記録と成果をまとめたものです。ここに記録された調査成果が今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

さらに、発掘調査および本書の作成に当たっては、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所並びに地元関係者の方々から一方ならぬ御助言、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

鳥取県教育委員会
教育長 横 濱 純 一

例言・凡例

- 1 本書は、一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XI『本高弓ノ木遺跡（5区）II【遺物（木器）編】』である。また、一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XII『本高弓ノ木遺跡（4区）』に報告した木器も再掲載している。
- 2 本書に報告した木器が出土した遺構や、木器に供伴するその他の遺物類については、一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書VIII『本高弓ノ木遺跡（5区）I』で報告を行っている。併せて、参照されたい。
- 3 本書の編集は財団法人鳥取県教育文化財団調査室の下江健太が担当した。
- 4 第I章から第IV章は下江、第V章は中原計（鳥取大学地域学部准教授）が執筆した。また、710溝、949構造物出土木材一覧表は下江と山梨千晶（財団法人鳥取県教育文化財団調査室）が、4落ち込み内木製構造物出土木材一覧表については下江と中尾智行（財団法人鳥取県教育文化財団調査室）が作成した。
- 5 木器の整理作業について、中原氏の御協力を得た。また、樹種同定については、株式会社古環境研究所に一部委託した以外は、中原氏の指導の下、当財団調査室が作成した観察用の薄片を、中原氏が観察、同定を行った。また、工楽善通氏（大阪府立狭山池博物館長）に御助言をいただいた。
- 6 本書に報告する木器は、帰属する遺構や包含層毎に通し番号とすることを原則としている。
- 7 実測図の縮尺は、1：8を原則とするが、小さなものには1：4、長大なものには1：10、1：16で掲載したものがある。
- 8 実測図には、表面の木目などは表現せずに、加工痕、炭化範囲などを示した。また、木口側の断面図に木取りを模式的に表した。
- 9 赤色塗彩、樹皮、炭化している範囲を以下のように表現した。



- 10 本書に係る記録類及び出土遺物は、鳥取県埋蔵文化財センターで保管される予定である。
- 11 木器の分類、器種等については、以下の文献を参考にしながら、検討を行った。

上原真人編 1993『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所

鳥取県埋蔵文化財センター編 2005『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告書1 木製容器・かご』

鳥取県埋蔵文化財センター編 2008『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告書3 建築部材（資料

編)』

鳥取県埋蔵文化財センター編 2009 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告書 4 建築部材 (考察編)』

鳥取県埋蔵文化財センター編 2012 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告書 8 木製農耕具・漁撈具)』

山田昌久編 2003 『考古資料大観 8 弥生・古墳時代 木・繊維製品』 小学館

目 次

【遺物（木器）編】

序

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 遺跡と出土木器の概要	1
第1節 遺跡の概要	1
第2節 出土木器の概要	1
第Ⅱ章 木器の調査方法と分類について	2
第1節 調査方法	2
第2節 分類について	2
第Ⅲ章 第4区出土木器	4
第1節 第3-1-2a層と下面遺構出土の木器	4
第1項 第3-1-2a層出土の木器	4
第2項 8溝出土木器	4
第3項 9溝出土木器	4
第4項 40溝出土木器	4
第Ⅳ章 第5区出土木器	8
第1節 第2a層～第3a層出土木器	8
第2節 第3a層出土木器	8
第3節 第2a層下面遺構出土木器	10
第1項 1溝出土木器	10
第4節 第3-1-1a層下面遺構出土木器	10
第1項 6溝出土木器	10
第2項 209土坑出土木器	12
第3項 664構造物出土木器	12
第4項 2溝上部木製構造物出土木器	15
第5節 第3-1-2a層下面遺構出土木器	17
第1項 2溝出土木器	17
第2項 4落ち込み出土木器	43
第6節 第3-1-3a層、第3-2a層下面遺構出土木器	77
第1項 708溝出土木器	77
第2項 952溝出土木器	77
第3項 861ピット出土木器	78
第7節 第4a層下面遺構出土木器	78
第1項 710溝出土木器	78

第2項 949 構造物出土木器	86
第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用……………中原計	87
掲載木器観察表	168
図版	179
奥付	

挿図一覧

第II-1図 木器の分類、木取りについて……………3	第IV-4-8図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(4)……………21
第III-1-1図 第4区第3-1-2a層・8溝出土木器 ……………5	第IV-4-9図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(5)……………22
第III-1-2図 第4区8・9溝出土木器……………6	第IV-4-10図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(6)……………23
第III-1-3図 第4区40溝出土木器(1)……………6	第IV-5-1図 第5区2溝出土木器(1)……………24
第III-1-4図 第4区40溝出土木器(2)……………7	第IV-5-2図 第5区2溝出土木器(2)……………25
第IV-1-1図 第5区第2a層～第3a層出土 木器(1)……………9	第IV-5-3図 第5区2溝出土木器(3)……………26
第IV-1-2図 第5区第2a層～第3a層出土 木器(2)……………10	第IV-5-4図 第5区2溝出土木器(4)……………27
第IV-2-1図 第5区第3a層出土木器(1) ……………11	第IV-5-5図 第5区2溝出土木器(5)……………28
第IV-2-2図 第5区第3a層出土木器(2) ……………12	第IV-5-6図 第5区2溝出土木器(6)……………29
第IV-2-3図 第5区第3a層出土木器(3) ……………13	第IV-5-7図 第5区2溝出土木器(7)……………30
第IV-3図 第5区1溝出土木器……………14	第IV-5-8図 第5区2溝出土木器(8)……………31
第IV-4-1図 第5区6溝出土木器……………14	第IV-5-9図 第5区2溝出土木器(9)……………32
第IV-4-2図 第5区209土坑出土木器……………15	第IV-5-10図 第5区2溝出土木器(10)……………33
第IV-4-3図 第5区664土坑出土木器(1) ……………16	第IV-5-11図 第5区2溝出土木器(11)……………35
第IV-4-4図 第5区664土坑出土木器(2) ……………17	第IV-5-12図 第5区2溝出土木器(12)……………36
第IV-4-5図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(1)……………18	第IV-5-13図 第5区2溝出土木器(13)……………37
第IV-4-6図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(2)……………19	第IV-5-14図 第5区2溝出土木器(14)……………38
第IV-4-7図 第5区2溝上部木製構造物出土 木器(3)……………20	第IV-5-15図 第5区2溝出土木器(15)……………39
	第IV-5-16図 第5区2溝出土木器(16)……………40
	第IV-5-17図 第5区2溝出土木器(17)……………41
	第IV-5-18図 第5区2溝出土木器(18)……………42
	第IV-5-19図 第5区4落ち込み出土木器(1) ……………43
	第IV-5-20図 第5区4落ち込み出土木器(2) ……………45
	第IV-5-21図 第5区4落ち込み出土木器(3)

第IV-5-22図	第5区4落ち込み出土木器(4)	第IV-5-41図	第5区4落ち込み出土木器(23)
.....	46	65
.....	47	66
第IV-5-23図	第5区4落ち込み出土木器(5)	第IV-5-42図	第5区4落ち込み出土木器(24)
.....	48	67
第IV-5-24図	第5区4落ち込み出土木器(6)	第IV-5-43図	第5区4落ち込み出土木器(25)
.....	49	68
第IV-5-25図	第5区4落ち込み出土木器(7)	第IV-5-44図	第5区4落ち込み出土木器(26)
.....	50	69
第IV-5-26図	第5区4落ち込み出土木器(8)	第IV-5-45図	第5区4落ち込み出土木器(27)
.....	51	70
第IV-5-27図	第5区4落ち込み出土木器(9)	第IV-5-46図	第5区4落ち込み出土木器(28)
.....	52	71
第IV-5-28図	第5区4落ち込み出土木器(10)	第IV-5-47図	第5区4落ち込み出土木器(29)
.....	53	72
第IV-5-29図	第5区4落ち込み出土木器(11)	第IV-5-48図	第5区4落ち込み出土木器(30)
.....	54	73
第IV-5-30図	第5区4落ち込み出土木器(12)	第IV-5-49図	第5区4落ち込み出土木器(31)
.....	55	74
第IV-5-31図	第5区4落ち込み出土木器(13)	第IV-5-50図	第5区4落ち込み出土木器(32)
.....	56	75
第IV-5-32図	第5区4落ち込み出土木器(14)	第IV-6-1図	第5区708溝出土木器.....
.....	57	76
第IV-5-33図	第5区4落ち込み出土木器(15)	第IV-6-2図	第5区952溝出土木器.....
.....	58	77
第IV-5-34図	第5区4落ち込み出土木器(16)	第IV-7-1図	第5区710溝出土木器(1)
.....	59	79
第IV-5-35図	第5区4落ち込み出土木器(17)	第IV-7-2図	第5区710溝出土木器(2)
.....	60	80
第IV-5-36図	第5区4落ち込み出土木器(18)	第IV-7-3図	第5区710溝出土木器(3)
.....	61	81
第IV-5-37図	第5区4落ち込み出土木器(19)	第IV-7-4図	第5区710溝出土木器(4)
.....	62	82
第IV-5-38図	第5区4落ち込み出土木器(20)	第IV-7-5図	第5区949構造物出土木器
.....	63	85
第IV-5-39図	第5区4落ち込み出土木器(21)	第V-1図	顕微鏡写真(1).....
.....	64	100
第IV-5-40図	第5区4落ち込み出土木器(22)	第V-2図	顕微鏡写真(2).....
.....	64	101
		第V-3図	顕微鏡写真(3).....
		102
		第V-4図	顕微鏡写真(4).....
		103
		第V-5図	顕微鏡写真(5).....
		104

第V-6図	顕微鏡写真(6) ……………	105	第V-12図	顕微鏡写真(12) ……………	111
第V-7図	顕微鏡写真(7) ……………	106	第V-13図	顕微鏡写真(13) ……………	112
第V-8図	顕微鏡写真(8) ……………	107	第V-14図	顕微鏡写真(14) ……………	113
第V-9図	顕微鏡写真(9) ……………	108	第V-15図	顕微鏡写真(15) ……………	114
第V-10図	顕微鏡写真(10) ……………	109			
第V-11図	顕微鏡写真(11) ……………	110			

表一覽

表IV-1	710溝出土木材の樹種と木取り ……………	84	……………	93	
表IV-2	710溝出土木材の出土位置別樹種構成 ……………	84	第V-7表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹6) ……………	94
第V-1表	出土木材の解剖学的特徴(針葉樹) ……………	88	第V-8表	木製構造物木材の樹種構成(段階別) ……………	96・97
第V-2表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹1) ……………	89	第V-9表	710溝出土木材の樹種構成 ……………	98
第V-3表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹2) ……………	90	第V-10表	949構造物出土木材の樹種構成 ……………	98
第V-4表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹3) ……………	91	第V-11表	4落ち込み出土木材一覽 ……………	115
第V-5表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹4) ……………	92	第V-12表	710溝出土木材一覽 ……………	148
第V-6表	出土木材の解剖学的特徴(広葉樹5) ……………	92	第V-13表	949構造物出土木材一覽 ……………	159
			第4区	掲載木器観察表……………	168
			第5区	掲載木器観察表……………	169

図版一覽

図版1	1 第4区包含層・8溝出土木器(第Ⅲ-1-1・2図)	2 第5区6溝出土木器(第Ⅳ-4-1図)
	2 第4区8・9溝出土木器(第Ⅲ-1-1・2図)	3 第5区209土坑出土不明製品(第Ⅳ-4-2図)
	3 第5区第2a~第3a層出土部材(第Ⅳ-1-1図)	図版4
図版2	1 第5区第2a~第3a層出土矢板(第Ⅳ-1-1図)	1 第5区664構造物出土木器(第Ⅳ-4-3図)
	2 第5区第3a層出土木器(第Ⅳ-2-1~3図)	2 第5区2溝上部木製構造物出土田下駄(第Ⅳ-4-5図)
	3 第5区1溝出土椀(外面)(第Ⅳ-3図1)	図版5
図版3	1 第5区1溝出土椀(内面)(第Ⅳ-3図1)	1 第5区2溝上部木製構造物出土不明製品(第Ⅳ-4-5図)
		2 第5区2溝上部木製構造物出土建築部材

- (第IV-4-6図7)
- 3 第5区2溝上部木製構造物出土杭・矢板(第IV-4-7・9図)
- 図版6
- 1 第5区2溝出土田下駄(第IV-5-1図)
- 2 第5区2溝出土田下駄(第IV-5-1図5)
- 3 第5区2溝出土田下駄拡大(第IV-5-1図5)
- 図版7
- 1 第5区2溝出土鋤状木器(第IV-5-2図6)
- 2 第5区2溝出土槽(第IV-5-2図7)
- 3 第5区2溝出土不明製品(第IV-5-3図10)
- 図版8
- 第5区2溝出土柱材(第IV-5-4図11)
- 図版9
- 1 第5区2溝内出土柱材拡大1(第IV-5-4図11)
- 2 第5区2溝内出土柱材拡大2(第IV-5-4図11)
- 3 第5区2溝出土柱材(第IV-5-4図12)
- 図版10
- 1 第5区2溝出土垂木(第IV-5-5図)
- 2 第5区2溝出土両頭製品(第IV-5-6図)
- 3 第5区2溝出土建築部材(第IV-5-6図24)
- 図版11
- 1 第5区2溝出土建築部材(第IV-5-7図)
- 2 第5区2溝出土建築部材(第IV-5-8図29)
- 3 建築部材拡大1(第IV-5-8図29)
- 4 建築部材拡大2(第IV-5-8図29)
- 5 第5区2溝出土転用杭(第IV-5-9・10図)
- 図版12
- 1 第5区2溝出土垂木(第IV-5-5図)
- 2 第5区2溝出土矢板(第IV-5-14図56)
- 3 第5区2溝出土矢板(第IV-5-14図57)
- 図版13
- 1 第5区2溝内杭列出土杭(第IV-5-15~18図)
- 2 第5区4落ち込み出土田下駄(第IV-5-19図2)
- 図版14
- 1 第5区4落ち込み出土鋤状木器(第IV-5-19図3)
- 2 第5区4落ち込み出土大足(第IV-5-19図4)
- 3 第5区4落ち込み出土大足(第IV-5-19図5)
- 図版15
- 1 第5区4落ち込み出土掛矢(第IV-5-20図6)
- 2 第5区4落ち込み出土腰掛(第IV-5-20図8・9)
- 3 第5区4落ち込み出土火きり板(第IV-5-20図)
- 図版16
- 1 第5区4落ち込み出土槽(第IV-5-21図12)
- 2 第5区4落ち込み出土槽(第IV-5-21図13)
- 3 第5区4落ち込み出土臼(外面)(第IV-5-22図14)
- 図版17
- 1 第5区4落ち込み出土臼(内面)(第IV-5-22図14)
- 2 第5区4落ち込み出土臼(第IV-5-22図15)
- 図版18
- 1 第5区4落ち込み出土臼(内面)(第IV-5-22図15)
- 2 第5区4落ち込み出土鳥形木製品(第IV-5-23図16)
- 3 第5区4落ち込み出土不明製品(第IV-5-23図17)
- 図版19
- 1 第5区4落ち込み出土不明製品(第IV-5-23図)
- 2 第5区4落ち込み出土不明製品(第IV-5-24図22)
- 3 第5区4落ち込み出土不明製品(第IV-5-24図)
- 図版20
- 1 第5区4落ち込み出土不明製品(第IV-5-24図)
- 2 第5区4落ち込み出土棒状製品1(素材?)(第IV-5-25図)
- 3 第5区4落ち込み出土棒状製品2(素材?)(第IV-5-25図)
- 図版21
- 第5区4落ち込み出土柱材(第IV-5-26図40)
- 図版22

第5区4落ち込み出土柱材(内面)(第IV-5-26
図40)

図版23

- 1 第5区4落ち込み出土柱材(第IV-5-26図
41)
- 2 柱材材大1(第IV-5-26図41)
- 3 柱材拡大2(第IV-5-26図41)
- 4 第5区4落ち込み出土柱材(第IV-5-27図44)
- 5 第5区4落ち込み出土柱材(第IV-5-27図45)

図版24

- 1 柱材拡大1(第IV-5-27図45)
- 2 柱材拡大2(第IV-5-27図45)
- 3 第5区4落ち込み出土建築部材(第IV-5-28
図49)
- 4 第5区4落ち込み出土柱材?(第IV-5-27図
46)

図版25

- 1 第5区4落ち込み出土柱材?(内面)(第IV-
5-27図46)
- 2 第5区4落ち込み出土建築部材(第IV-5-29
図52)
- 3 第5区4落ち込み出土建築部材(裏)(第IV-
5-29図52)

図版26

- 1 第5区4落ち込み出土板材(第IV-5-30図)
- 2 第5区4落ち込み出土有頭製品(第IV-5-31
図58)
- 3 第5区4落ち込み出土梯子(第IV-5-30図56)

図版27

- 1 第5区4落ち込み出土有頭製品(第IV-5-32
図)
- 2 第5区4落ち込み出土転用杭(第IV-5-33図
66)
- 3 第5区4落ち込み出土有頭製品(第IV-5-34
図68)
- 4 第5区4落ち込み出土有頭製品(第IV-5-36
図77)

図版28

- 1 第5区4落ち込み出土転用杭(第IV-5-40図)
- 2 第5区4落ち込み出土転用杭(第IV-5-44図
108)

- 3 第5区4落ち込み台形杵出土木器1(第IV
-5-50図)

図版29

- 第5区4落ち込み台形杵出土木器2(第IV-5-48
~50図)

図版30

- 1 台形杵拡大1(第IV-5-48図118)
- 2 台形杵拡大2(第IV-5-49図123)
- 3 台形杵拡大3(第IV-5-50図127)

図版31

- 第5区4落ち込み板敷遺構出土板材

図版32

- 1 第5区708溝出土斧柄(第IV-6-1図1)
- 2 斧柄拡大(第IV-6-1図1)
- 3 第5区708溝出土不明製品(第IV-6-1図2)

図版33

- 1 第5区708溝出土矢板(第IV-6-1図)
- 2 第5区952溝出土杭(第IV-6-2図)
- 3 第5区861ピット出土礎板(取上No.7500・
7501)

図版34

- 1 第5区710溝出土鍬先(第IV-7-1図1)
- 2 鍬先(裏面)(第IV-7-1図1)
- 3 第5区710溝出土二脚盤(第IV-7-1図2)

図版35

- 1 第5区710溝出土飾り弓(第IV-7-1図3)
- 2 飾り弓(裏面)(第IV-7-1図3)
- 3 第5区710溝出土斧柄?(第IV-7-2図4)

図版36

- 1 斧柄?拡大(第IV-7-2図4)
- 2 第5区710溝出土掛矢(第IV-7-2図)
- 3 第5区710溝出土掛矢(第IV-7-3図7)

図版37

- 1 第5区710溝出土不明製品(第IV-7-3図)
- 2 第5区710溝出土放射状分割材(第IV-7-4図)

3 第5区710溝出土分割材(取上No.7669)

図版38

1 第5区710溝出土分割材(取上No.7670)

2 第5区710溝出土分割材(取上No.7675)

3 第5区710溝出土分割材(取上No.7688)

図版39

1 第5区710溝出土分割材(取上No.7845)

2 第5区710溝出土分割材(取上No.8627)

3 第5区949構造物出土木器(第IV-7-5図)

第 I 章 遺跡と出土木器の概要

第 1 節 遺跡の概要

本高弓ノ木遺跡は鳥取市本高に所在し、千代川西岸、またその支流である有富川北岸の谷底平野に立地している。いわゆる低湿地遺跡であり、木器をはじめとした有機質の遺物が良好な状態で保存されていると考えられる環境である。

平成 21・22 年度に一般国道 9 号（鳥取西道路）の改築に伴い、財団法人鳥取県教育文化財団が国際文化財株式会社西日本支店の調査支援を受けて発掘調査を実施した。調査地は 4 カ所の橋脚部分である 4 区（4-1 ～ 4-4 区 474㎡）とその南側の盛土部分である 5 区（7,350㎡）の 2 つに大きく分かれており、いずれの地区からも数多くの遺構、遺物を発見した。

発掘調査の結果、本高弓ノ木遺跡は、遺構検出面を 6 面もつ、縄文時代後・晩期～中世にかけての集落、生産遺跡であることが明らかとなった。特筆すべき遺構としては、鳥取東部地域で最古段階と考えられる遠賀川式土器や多量の木材集積が認められた弥生時代開始期の河川跡（710 溝）や、平野につくられた弥生時代終末段階の四隅突出型の盛土遺構（700 盛土）、幾重にもつくられた木製構造物や土のう積みが見つかった古墳時代前期の池状の落ち込み（4 落ち込み）とそこから続く大型の溝（2 溝）などが挙げられる。これらの遺構や出土した土器、石器、鉄器については、財団法人鳥取県教育文化財団編 2013『本高弓ノ木遺跡（5 区）I』を参照されたい。

第 2 節 出土木器の概要

本書で述べる木器は、先述した平成 21・22 年度に財団法人鳥取県教育文化財団が行った本高弓ノ木遺跡 4・5 区の発掘調査で出土したものである。先述した弥生時代開始期の 710 溝からは、遠賀川式土器や突帯文土器と共に鍬先や二脚盤、飾り弓、斧柄未成品、掛矢などが出土している。また、この溝からは木材が約 400 点出土している。これらのほとんどは長さ 1～3 m ほどのものであり、樹皮や枝葉を欠き、明らかに分割されたと考えられるものを含むことから、貯木されたものと考えられる。同じく先述した古墳時代前期の水利施設である 2 溝と 4 落ち込みからも数多くの木器が出土している。2 溝では、堰や木製構造物に使用したと考えられる長大な建築部材（柱材、壁板材）や杭、矢板が多く出土し、田下駄や槽なども出土している。4 落ち込みでは数多くの木製構造物が累重する形で認められるが、2 溝のそれとは異なり、樹皮がついたままの芯持ち丸太材でつくった簡易な杭や横木がほとんどである。ただし、長大な建築部材や大型の矢板、杭も数多く見つかっている。特に建築部材については、台形枠や板敷遺構といった家屋の何らかの一部と考えられるものがそのままの状態出土している。また、田下駄、鋤状木製品、指物腰掛の脚、掛矢、臼、槽、火きり板、鳥形木製品、籐状の素材などが出土しているが、4 落ち込み周辺には弥生時代後期の居住域が確認されており、その時期のものが混入している可能性がある。この他、4 区の 40 溝から丸木船、弥生時代終末期の 708 溝からは袋状鉄斧の柄、古代～中世と考えられる 2 溝上部木製構造物からは、田下駄や長大な建築部材、大型の杭、矢板、中世の 1 溝の底面からは椀がそれぞれ出土している。

第Ⅱ章 木器の調査方法と分類について

第1節 調査方法

2年間の発掘調査で出土した木器は総数で4,000点を超えている。その多くは4落ち込み内で検出した木製構造物を構成する木材と710溝から出土した貯木群である。

4落ち込み内で検出した木製構造物の木材の取り上げについては、出土状況を記録した後に、それぞれの木材の法量（長さ、幅、径など）を計測、樹皮の有無、加工痕などを記録し、デジタルカメラでメモ写真を撮影している。その後、建築部材などを転用したものや製品などは全量持ち帰り、明瞭な加工が施されていない材については、樹種同定などの分析を行うため一部を切断し、サンプルとして持ち帰った。

710溝、949構造物出土の木材についても、樹種同定などの分析を行うため一部を切断し、サンプルとして持ち帰った。出土状況を記録した後に、法量（長さ、幅、径など）を計測、樹皮の有無、分割痕跡の有無などを記録した後、明瞭な製品以外は、樹種同定の分析、ならびに分割痕跡のさらなる確認を行うため一部を切断し、サンプルとして持ち帰った。

なお、4落ち込みと710溝、949構造物出土木器については、法量や樹皮の有無、木取りや樹種などを記した一覧表を作成している（第V-11~13表）。

この他、2溝上部や2溝内、その他の溝内からも木器が多く出土しているが、基本的に自然木も含め、全点出土状況を記録し、取り上げて持ち帰っている。明らかに木製構造物と考えられる部分については、平、立面図が作成できるよう出土状況の記録をとっているが、包含層内や溝内で明らかに遊離している木器については、中心の1点の座標を記録して取り上げている。ただし、長大な建築材や矢板、杭などが多いため、長さが1mを超えるものについては、両端2点の座標を記録している。

第2節 分類について〔第Ⅱ-1図〕

木製品は形状により「棒状材」と「板材」、「分割材」の大きく3つに分けている。棒状材はさらに、角材と丸太材に細分できる。棒状材の角材については、板材、もしくは分割材との見分けがつきにくいものがあるが、木口面において、長辺と短辺の比率が1.5:1以内のものについては、棒状材の角材とした。明瞭な板状の製品、またはその素材として板状に加工しているものを板材とし、丸太材を楔等によって分割した段階の材で、断面が半円状もしくは縁辺部が弧状を呈しているものや、長細い三角形の形状を呈するものなどを分割材としている。なお、板材の中には分割材の一部と考えられるものが含まれていたり、分割材としたものの中には、大型の柱材等をさらに分割したものが含まれている可能性もある。

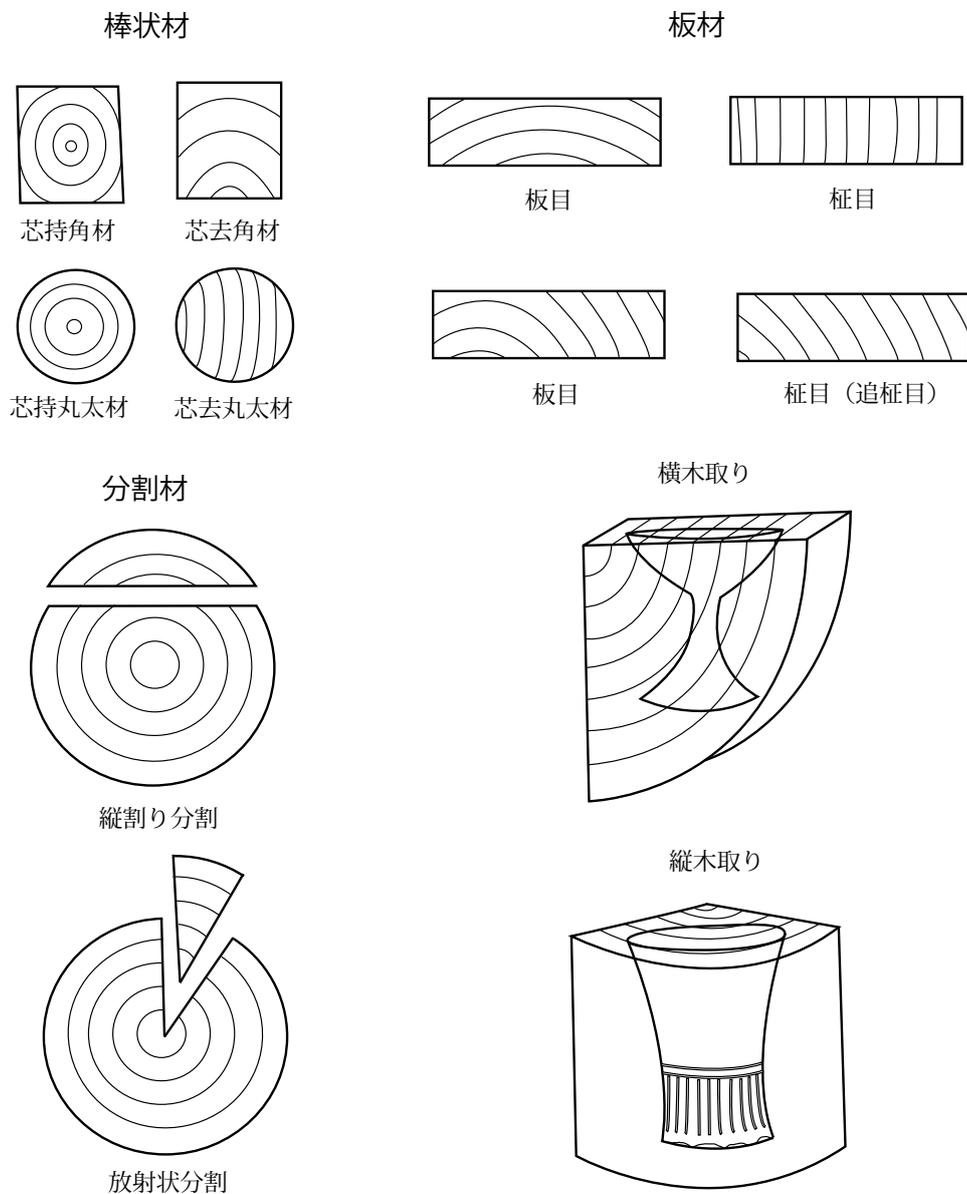
形状で分類した後は木取りによって分類している。棒状材は樹芯を残したまま使用する「芯持材」と樹芯を外している「芯去材」に、板材は、樹芯に対して平行に採ったものを「板目材」、樹芯に対して放射状に採ったものを「柃目材」に分けている。分割材はその性質上、板材と木取りは基本的に同じであるが、名称は変えて、板目材と同じく樹芯に対して平行に採ったものを「縦割り分割」、放射状に採ったものを「放射状分割」とした。さらにこうした分割材の中で、木口の形状や年輪から、どの程度の割合で分割したものが分かるものについては、その割合についても記載している。

容器の木取りについては、分割した木材を使った「縦木取り」と「横木取り」の2つがある。縦木取りは木材の横断面を上面とし、横木取りは木材の縦断面を上面にしてつくるものである。

木製品の種類や部分名称等については、奈良国立文化財研究所編 1993『木器集成図録 近畿原始編』や、山田昌久 2003『考古資料大観8 弥生・古墳時代 木・繊維製品』を参考にしている。また、当遺跡では、木製構造物等に使用された杭や矢板が多く出土している。これらの中には、どちらとも言えないようなものがあるため、棒状材を用いたものを杭、板材を用いたものを矢板として記述する。

また転用品ではなく、当初から矢板材として加工したと考えられるものは縦矢板と記述する。

なお、分割材を用いたものについては、棒状材にも板材にも加工されている段階ではないので、矢板より広義の意味を含む杭と呼称する。



第II -1 図 木器の分類、木取りについて

第三章 第4区出土木器

第1節 第3-1-2a層と下面遺構出土木器

第1項 第3-1-2a層出土木器〔第Ⅲ-1-1図1、図版1-1〕

1は芯去丸太で方形の孔があいている。上端から15cmほどで斜めに削り、段を形成し幅6cmほどに細くしている。下端近くにも段があるが、これは欠損と考えている。樹種はヒノキであり、建築材の一部であろうか。

第2項 8溝出土木器〔第Ⅲ-1-1図2～2図8、図版1-1・2〕

2は半分ほど欠損しているが、径45cmほどの円形の板で、中心部には孔があいていたとみられる。表面に長さ3～5cmほどの刃物の痕跡があり、曲物の底板であると思われる。3は芯去丸太材の棒状製品である。4、5は矢板である。使用している板材の厚さは異なるが、両側面を加工して先端を尖らせている。4は全長1.5mを超える大型のもので、表面にハツリなどの痕跡はみられないのに対し、5は表面に丁寧な加工の痕跡がみられる。6は、欠損部分が多いが、先端部に欠き込みが確認でき垂木を分割したものの可能性がある。7は長細い板で側面に欠き込みが認められる。8は片側側面に2箇所欠き込みが認められる板材である。

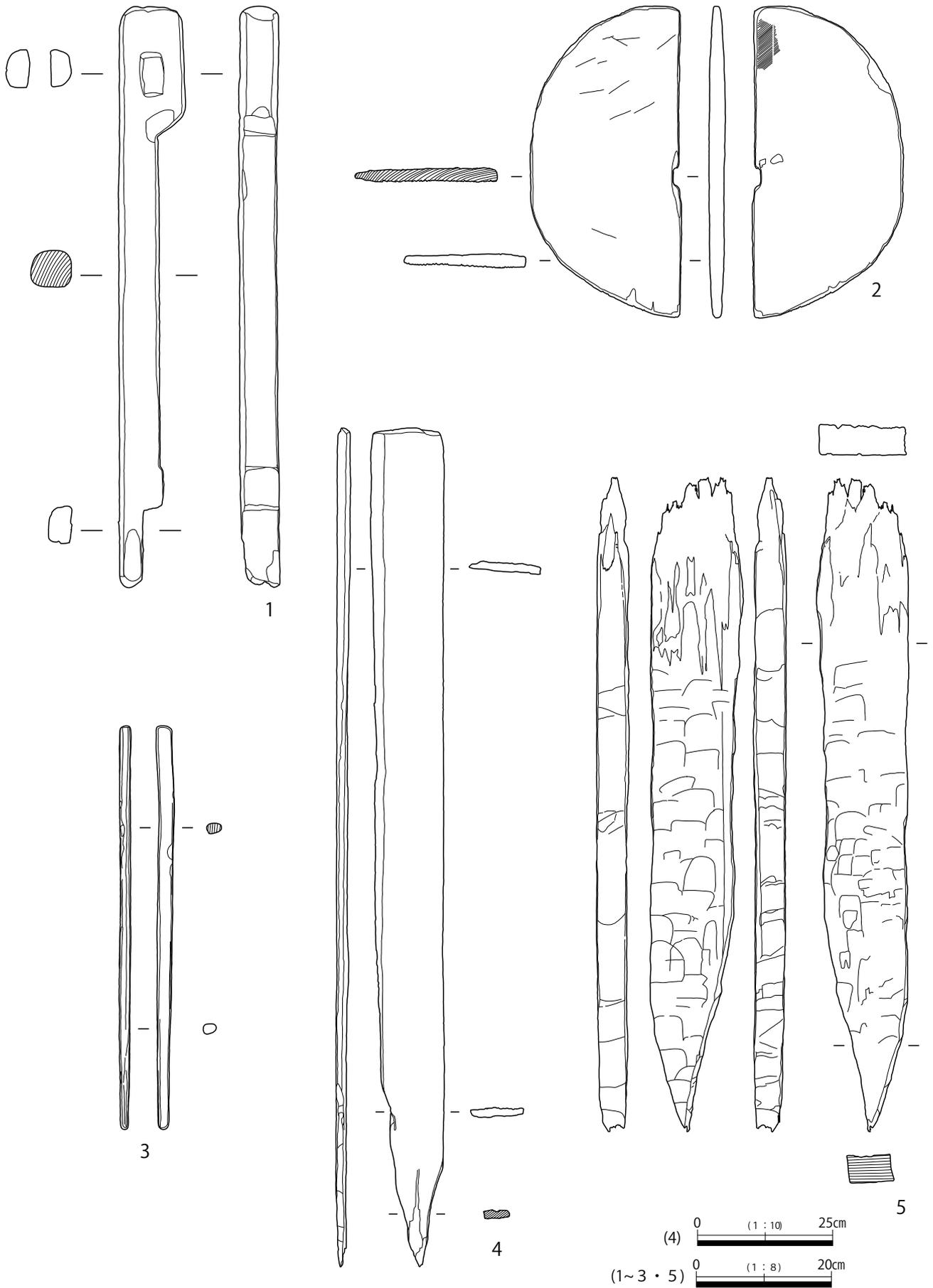
第3項 9溝出土木器〔第Ⅲ-1-2図9 図版1-2〕

9は両端側面に欠き込みをいれて有頭状にしている板材である。中心部分でも両端に欠き込みの跡がある。全長81.6cm、幅7cm、厚さ4cmをはかる。断面は隅丸方形ではなく角張っており、大足の一部の可能性もある。

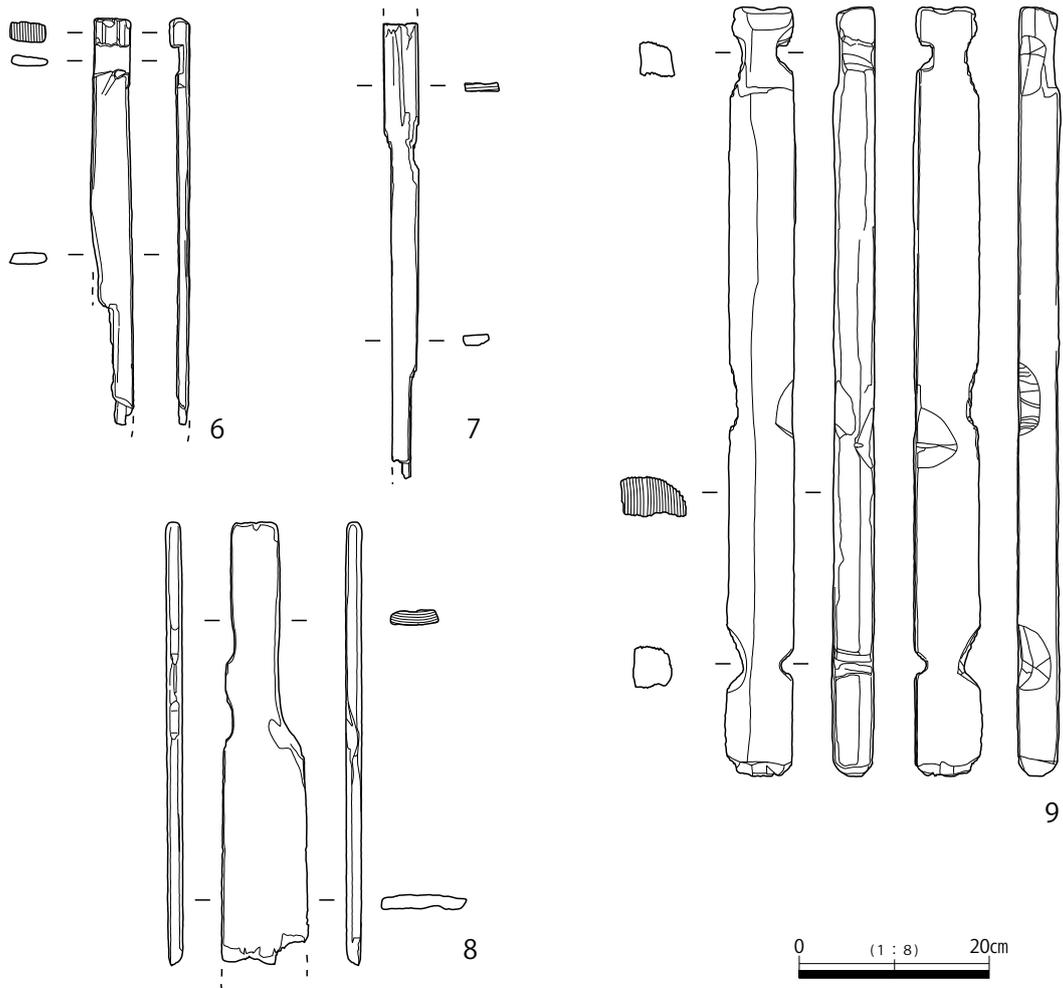
第4項 40溝出土木器〔第Ⅲ-1-3図1・4図2〕

1は中心部側面に欠き込みのような跡が認められる板材であるが、ちょうど半分に割れた方形の孔の可能性もある。

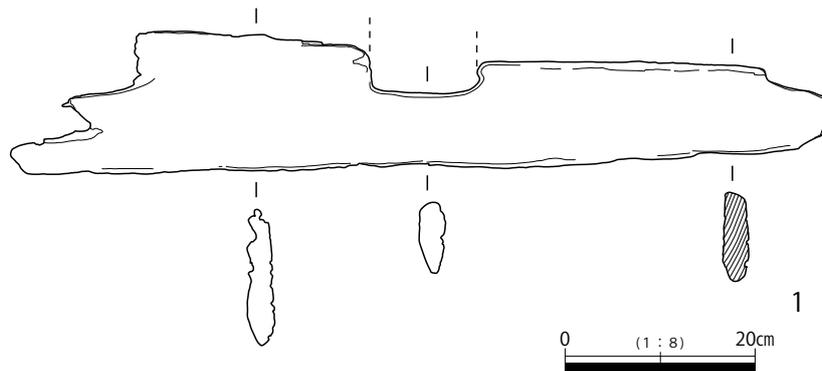
2は断面がU字形、先端が丸く尖った形状の大型の木材であり、丸木船の可能性が強い。先端部分が一部欠損しているが、残存長196cm、最大幅60.5cm、最大高28.8cm、最大厚10.5cm。一木を刳りぬいてつくられており、その際の加工痕と思われる単位がいくつかみられる。先端の方では長さ4cm、幅1cmほどの細かく直線的な単位、また下方では、長さ10～15cm、幅5～6cmの長細い楕円形の単位がそれぞれ連続してみられる。樹種はムクノキである。



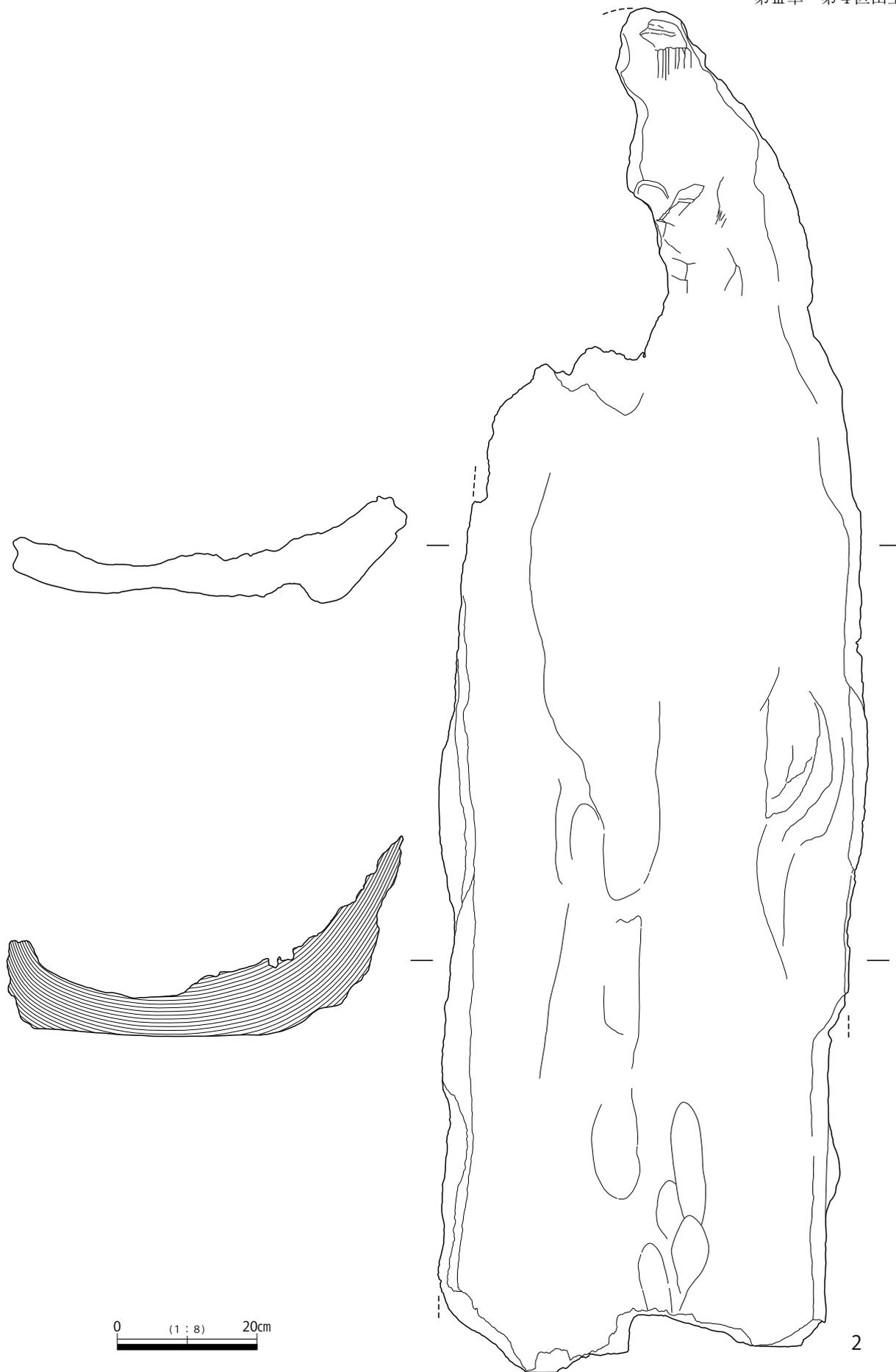
第III -1-1 图 第4区第3-1-2a层·8溝出土木器



第III -1-2 図 第4区8・9溝出土木器



第III -1-3 図 第4区40溝出土木器 (1)



第III -1-4 图 第4区40沟出土木器(2)

第IV章 第5区出土木器

第1節 第2a層～第3a層出土木器 [第IV -1-1・2図、図版1-3・2-1]

第5区の第2a層は、奈良時代～鎌倉時代の土器を包含している層であり、その下に続く第3a層は、第3-1-1a～第3-1-3a層である。この層には、弥生時代後期から飛鳥時代までの土器が含まれている。

第3a層掘削の際に、第2a層が残存していたり、場所によって層厚が薄い等の理由で、層の帰属が正確に分からなかった木器について、この節で報告する。

1は一部欠損しているが、細く薄い板材が上下両端でふくらんで、それぞれの中心に径4cmほどの孔があいている製品である。材と材をつなぐ接合用の部材であろうか。

2、3は矢板である。2は方形の孔、もしくは抉りがいくつみつかっている。厚さから壁板の転用と考えられ、先端は片方の側面を斜めに分割して尖らせている。3は大型の矢板である。端部には切断痕があり、両面に丁寧な加工が施されている。両側縁を加工して尖らせている。

4～8は杭である。4は角材の1面を中ほどから粗く加工して先端をとがらせている。また、上部でも加工痕があり、角材の厚さが薄く、断面が長方形となっている。その他の杭は基本的に先端部のみであり、5～7については角材の一側縁のみの加工で先端を尖らせており、8は2側縁を加工して先鋭化させている。また5は表面にハツリと考えられる加工痕が認められ、柱材などを分割した転用材と考えられる。

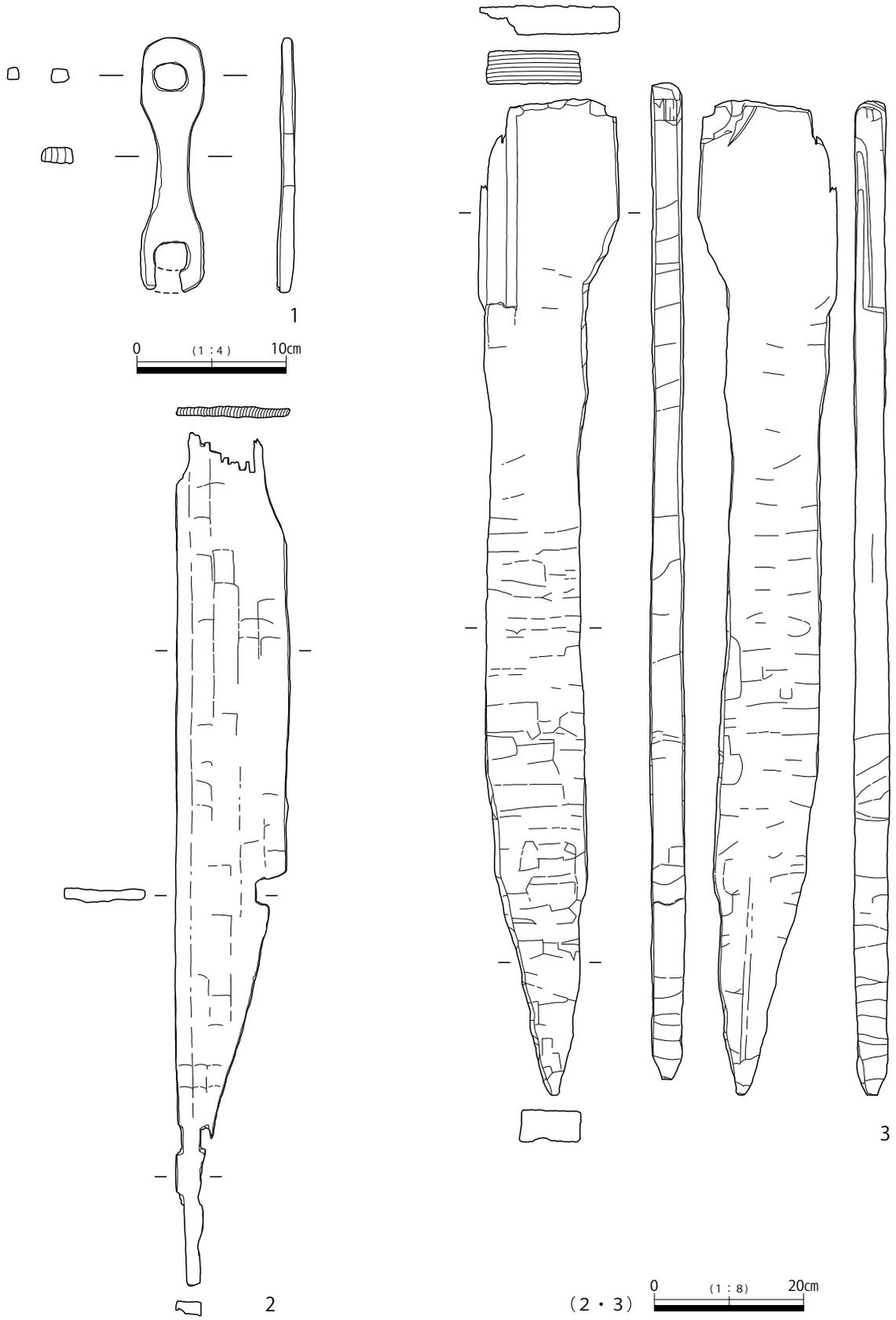
第2節 第3a層出土木器 [第IV -2-1～3図、図版2-2]

先述した第3a層（第3-1-1a～第3-1-3a層）出土の木器である。ただし図示したものは、2を除いて全て4C-10j区出土のものであり、2溝上にあたる。木器の多くが杭や矢板であり、隣接する4D-10a区では、664構造物、北へ20mほどの位置には、2溝上部木製構造物が確認されていることから、この場所にも木製構造物があった可能性がある。

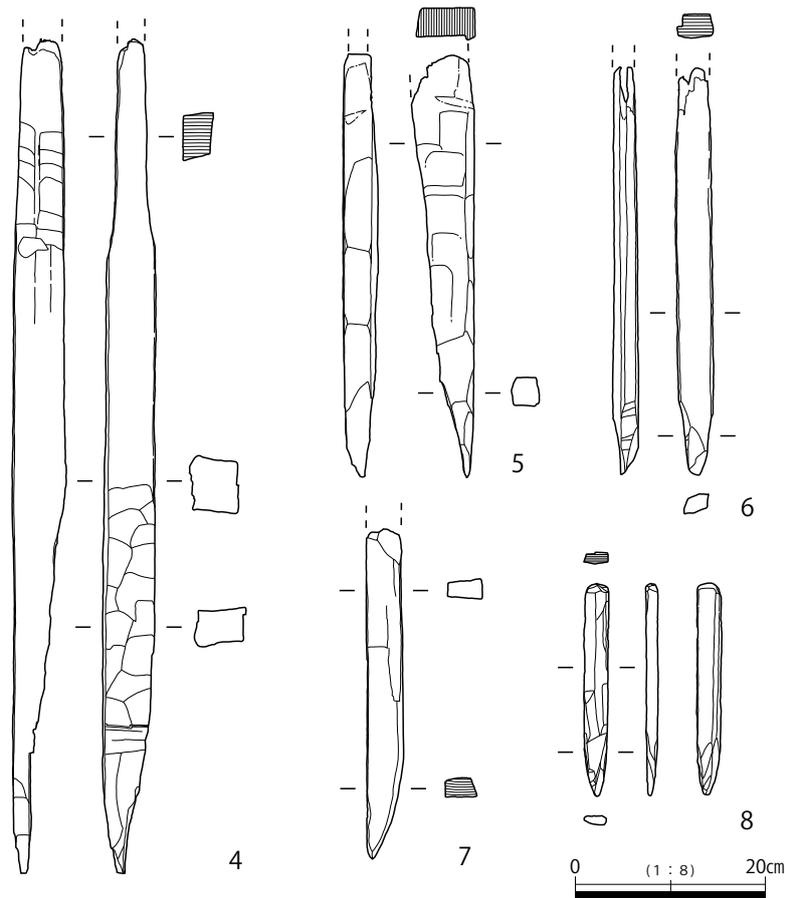
1は中央部分に径3cmほどの円形の孔があいている板材である。平面形が台形で妻板のような形であるが、厚さから床板の可能性もある。

2～13は杭もしくは矢板である。2は大型の杭であり、長さは140cmを超える。角材を分割したものと考えられる。3は表面に丁寧なハツリと考えられる加工痕が確認できる。4～6は両端が尖っているが、片方は分割の際に薄く尖ったものになったと考えられる。特に4は、先端部のみ薄くなっており、元々の形状がよく残っている芯去角材を用いた杭である。9も分割したものであるが、片方の端はL字状に分割されており、折り取った可能性がある。11は板目材を用いた矢板である。片側の側面のみ丁寧な加工が施されている。12は放射状分割した材を使用している杭である。13は6×4cm程度の方形の孔があいている転用材の縦矢板である。片方の側面は全面加工があるが、反対側の側面は分割された面である。先端を一部加工して尖らせている。建築材を転用したものとする。

14～17は、芯去角材である。この内、14は130cmほどの長さで、一部湾曲した部分がある。両端共に切断されたようで元の先端部の形状は分からないが、建築材の垂木の可能性がある。15～17は両端もしくは片端が尖っている材である。これは分割や切断の際に尖ったものとするが、それを利用して、杭として使用していた可能性もある。



第IV-1-1 図 第5区第2a層~第3a層出土木器(1)



第IV -1-2 図 第5区第2a層～第3a層出土木器（2）

第3節 第2a層下面遺構出土木器

第1項 1溝出土木器 [第IV -3 図、図版 2-3・3-1]

1は大型の板材である。節が多く、幅は不明であるが、長さ12cmほどの方形の孔が確認できる。

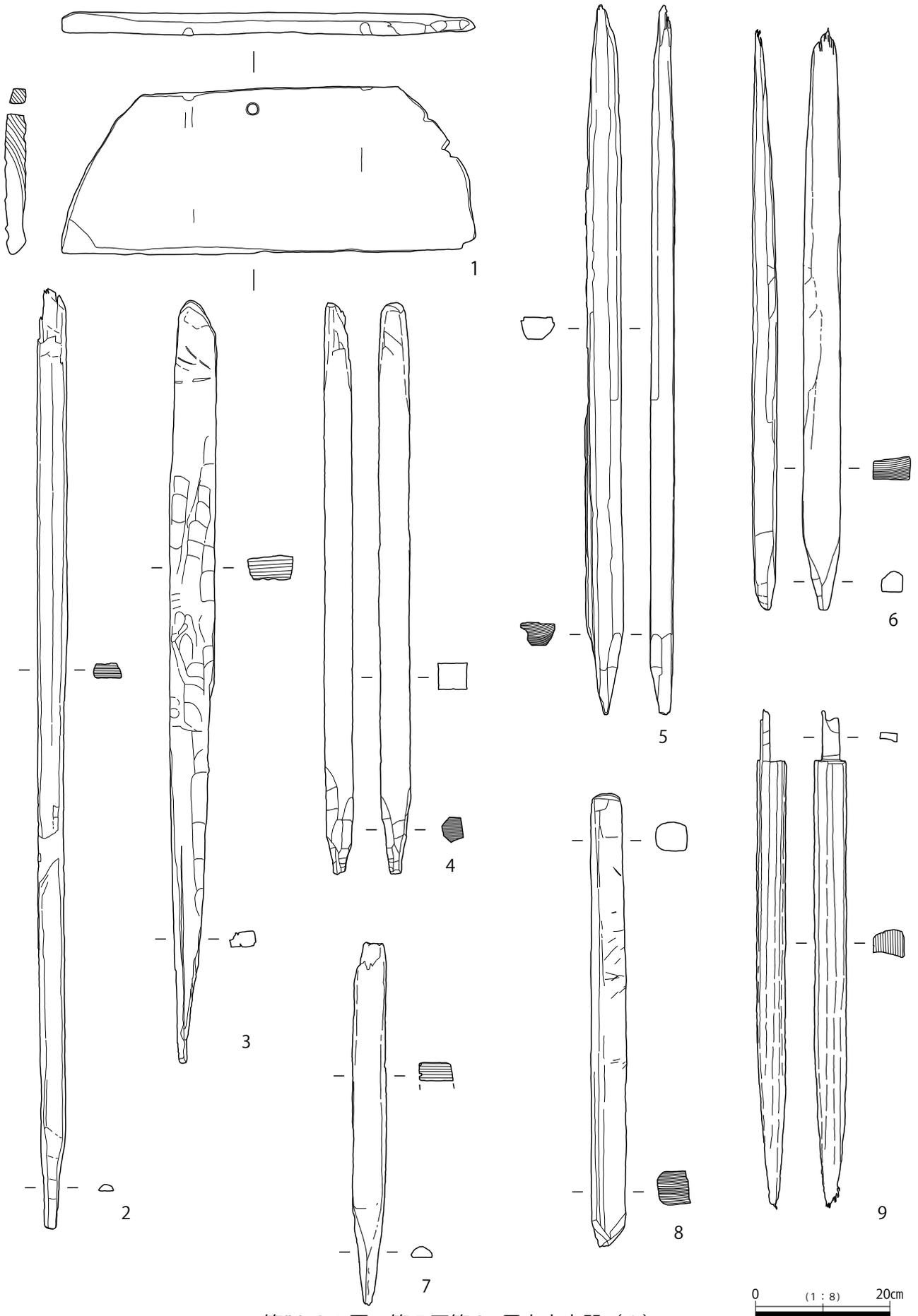
1溝からは、大型の木器はこの資料の他には見当たらないことから、下層で検出された2溝に付属する可能性がある。2は木製椀の底部付近である。木取りは横木取りで、底部径16cm、残存高5.6cmをはかる。外面に黒色の塗料が付着していて、下地として黒漆が塗られた可能性がある。1溝の底面から出土している。

第4節 第3-1-1a層下面遺構出土木器

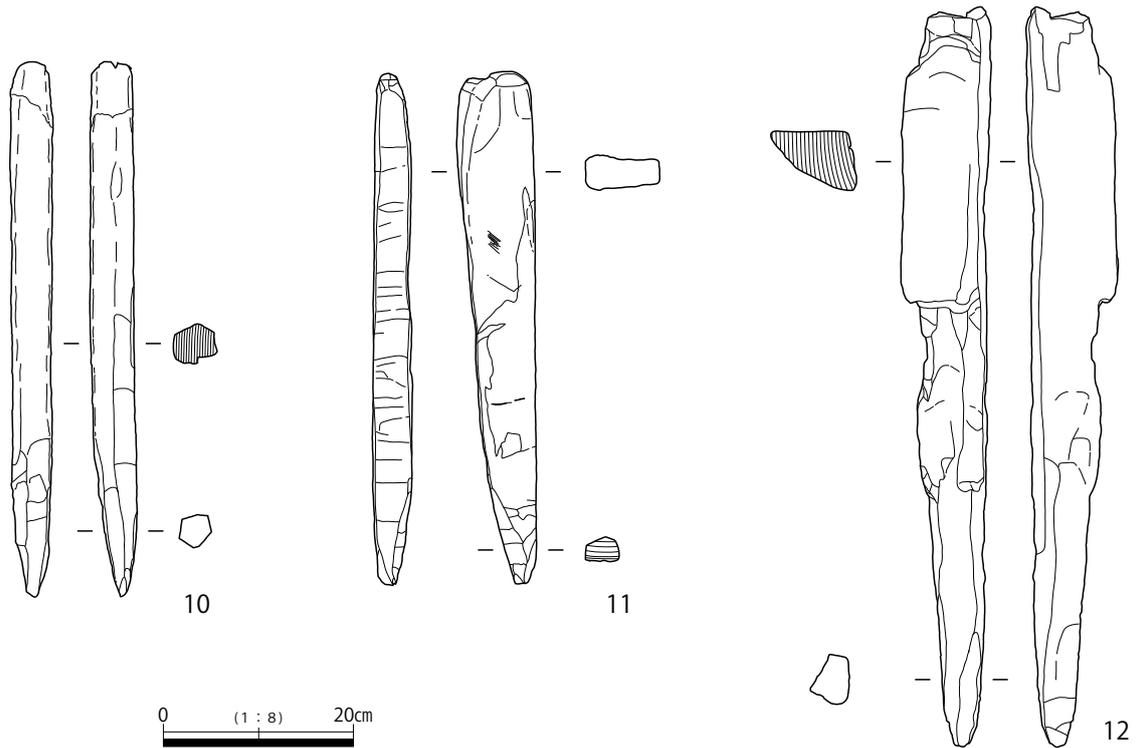
第1項 6溝出土木器 [第IV -4-1 図、図版 3-2]

6溝は、連続して掘られた土坑群と関連する遺構で、中から木器が出土する要因があまり考えられない。664構造物や下層の遺構である2溝や弥生時代後期の大型溝と重なる部分での出土が多く、もとはそれらのものであった可能性がある。

1、2は穿孔式の田下駄である。1は、上部中央に2箇所縦に並べて方形の孔をあけており、中央部では、両側縁付近に2箇所穿孔している。下端部は切断されているが、中央に方形の孔の跡がみら



第IV-2-1图 第5区第3a层出土木器(1)



第IV-2-2 図 第5区第3a層出土木器（2）

れる。欠損していると考えられるが、孔の大きさが、他の箇所と同じであるので、5箇所の穿孔があったと考えてよい。2は半分ほど欠損していると思われるので、元は4箇所の穿孔であったと考える。ただし、側縁部にも穿孔の跡がある。元の建築部材等として穿孔されたもの、もしくは抉りとして穿孔されたものと考えられる。3は、全長80cmほどの大型のスギの板材であり、厚みも5cmほどある。上端には切断痕があり、下端はほぞ状に突出している。片側の側縁近くに2箇所、一辺1.5～2cmほどの方形の穿孔が認められる。表面には丁寧な加工痕が明瞭に認められる。建築部材の一部であろうか。4は角材であるが、もともと角柱状の材をさらに半分程度に分割したものであろう。5は全長246cm、径11cmの芯持丸太である。樹種はヤナギ属であり、樹皮はついておらず先端がやや細くなっている。大型の杭であった可能性がある。

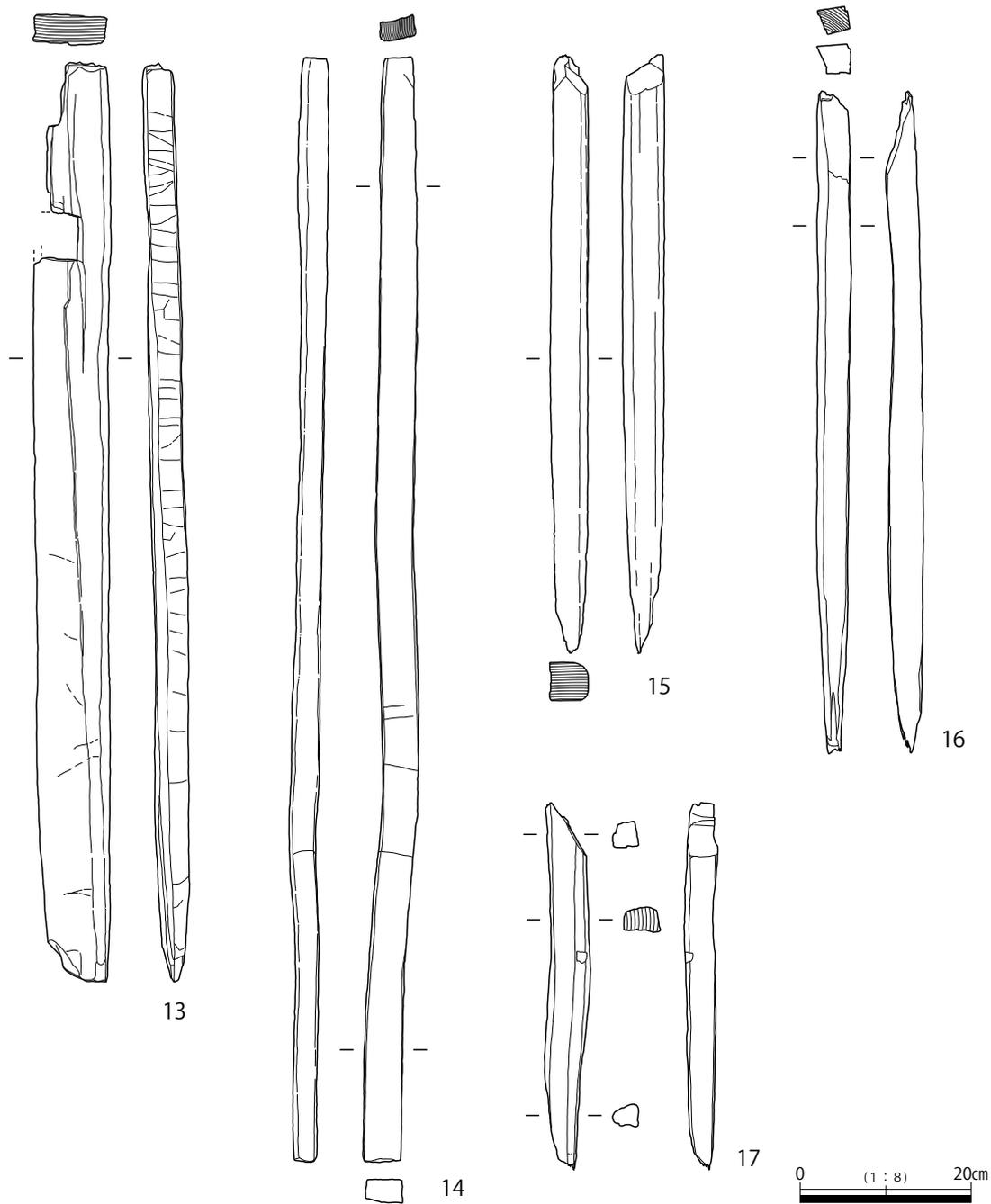
第2項 209 土坑出土木器 [第IV-4-2 図1、図版3-3]

209 土坑は、先述した土坑群（B群）の中にあり、2溝や弥生時代後期の大型溝と重なる部分なので、もとはそれらのものであった可能性がある。

1は左右両側縁に欠き込みの入った、全長61cm、幅5.4cm、厚さ1.8cmほどの縦長の板状製品である。欠きこみは左右対称に2箇所認められるが、片側には3箇所欠き込みがある。上端から1.5cmほどの位置に両側縁から欠きこみが施され、2番目の欠きこみは、間隔は2.8cmほど開けて左右に施されている。3番目は片側のみ確認できるが、その間隔はほぼ同じである。樹種はスギである。

第3項 664 構造物出土木器 [第IV-4-3 図、図版4-1]

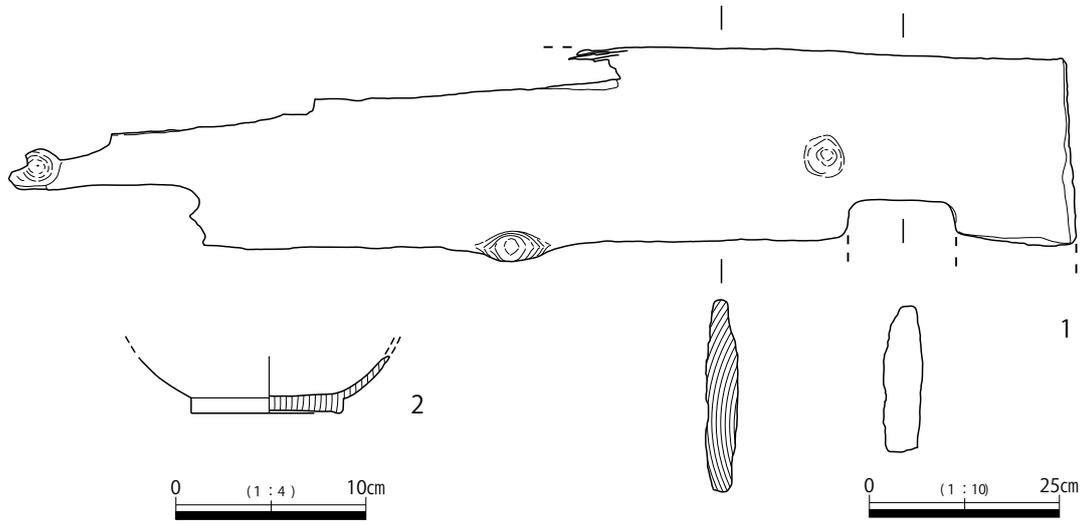
664 構造物は、4D-10a区にあり、先述した土坑群に隣接している。また、第3a層出土資料が多く



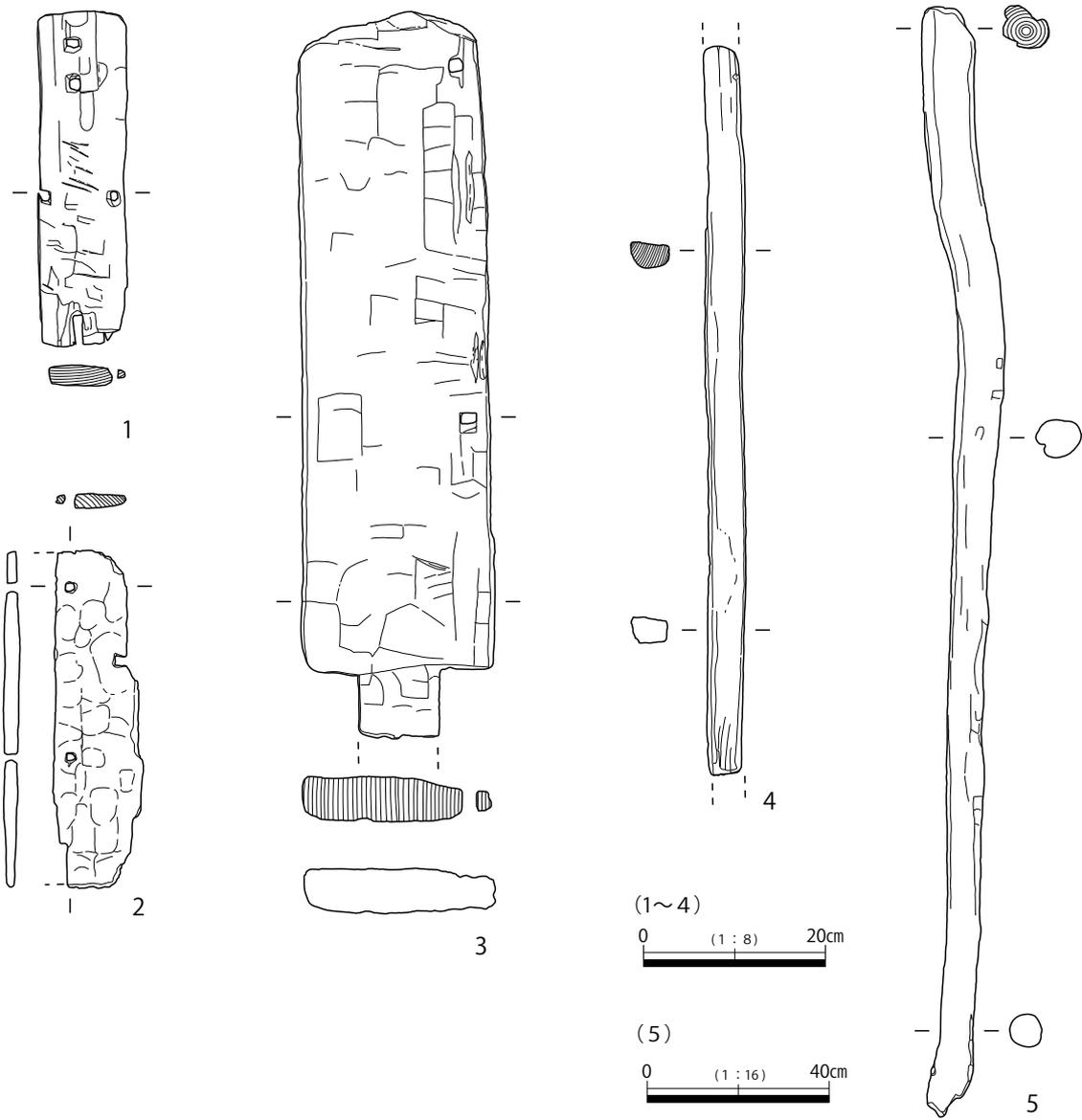
第IV-2-3 図 第5区第3a層出土木器（3）

見つかったいる4C-10j区のすぐ隣である。ここで図示した資料は確実に地面に刺さっていたり、石等と絡んでいるものであるが、土坑群出土資料や第3a層出土資料ともあわせるともっと大規模な木製構造物であった可能性が強い。

1、2は抉り式の田下駄である。いずれもスギの板目材を使用し、左右両側面に2箇所ずつ抉りをいれている。3、4は杭であり、3は芯去角材、4は芯去丸太である。3は上下両端に加工を施し、先端を尖らせている大型の杭であり、全長は112cmをはかる。明らかな割れ面があり、元は板材であった可能性もある。4は断面丸形の棒状製品の先端を丁寧に全面加工して尖らせている。5～8は縦矢板である。5～7については、小口の長辺と短辺の比率は1.8～1.6：1程度であり、角材に近いものである。5は先端の1側面のみを粗く加工して尖らせたものである。先端部には段差があり、元の



第IV-3图 第5区1沟出土木器



第IV-4-1图 第5区6沟出土木器

材の加工が残存しており、梁等の建築部材を転用したものだろう。また上半部は縦方向に分割されているようである。6、7はいずれも厚い板材で、先端がL字状に分割され、折り取られたものか。もう一方の先端は両側面から加工して尖らせている。いずれも板材として分類しているが、明らかに割られたものであり、元々は角材であった可能性もある。8は長さ66cm、幅14.9cm、厚さ4.8cmの厚手の板材を用いたものであり、両側縁全体を加工して先端を尖らせた縦矢板である。全面に幅3cm程度のハツリ痕が確認できる。

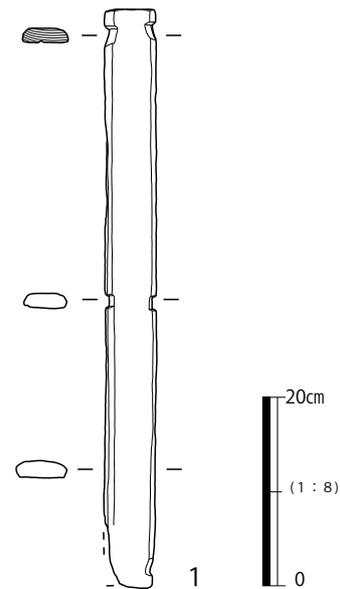
第4項 2溝上部木製構造物出土木器 [第IV-4-5～10図、図版4-2～5]

2溝上部木製構造物は、5区北東隅(4C-6i・6j・7i・7j・8i・8j区)で検出された。南西-北東方向に列状に並ぶ人頭大の礫と多くの杭や板材で構成されている。第3-1-2a層上で検出しているが、基本的に原位置を保つものはない。そのため、その上層や、下層検出遺構である2溝に帰属する資料を含んでいる可能性を考慮する必要がある。

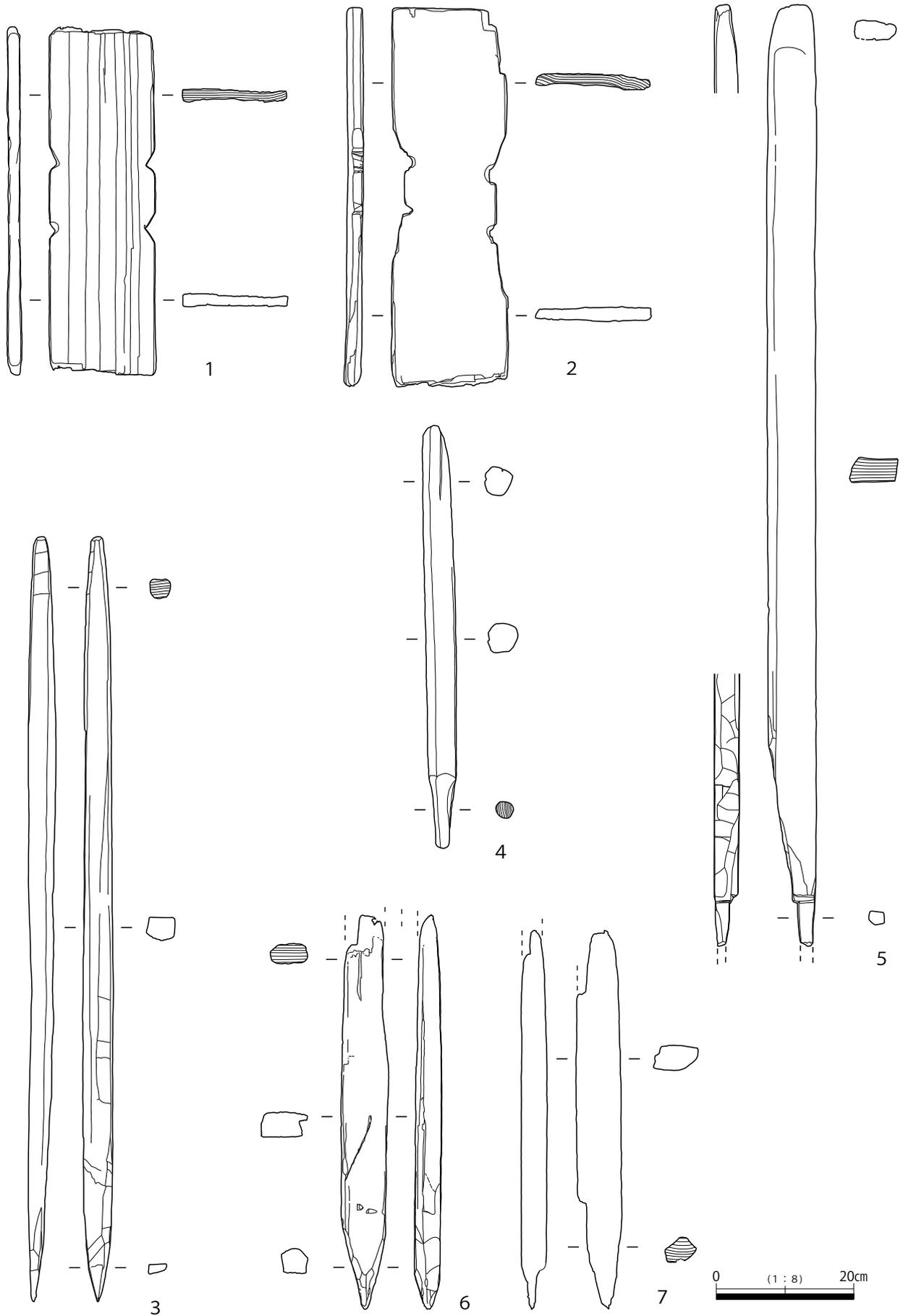
1～3は板目材を用いた穿孔式の田下駄と思うが、1は上端が長く別のものである可能性もある。いずれも表面にハツリ等の加工痕がみられるため、建築材等からの転用だろう。1の上端部は切断による分割ではなく、地中にあったため腐食して欠損したものと考えられ、4箇所穿孔が認められる。2も1と同じような穿孔パターンであり、ハツリ痕が明瞭に観察できる。3は縦方向に連続して3箇所穿孔されている。これについては、半分ほどが欠損しているものとする。4は挟り式の田下駄である。表面に幅2～3cmほどの間で幾重もの刃物痕がある。いずれも構造物の矢板のようなものとして再利用されていたと考えられる。

5は平面が台形状の厚さ3.3cmの厚手の木製品で、上部中心に一辺1cmほどの方形の孔があいている。また、上端面には2つの孔が対となって計4つの孔があいている。この孔は小さく径5mm程度である。また、左右下端で1.5cmほどの突出がみられる。この突出でできた平坦面にも径5mm程度の孔があけられ、下まで貫通している。樹種はスギで、高下駄状の田下駄の歯や、机の脚部の可能性がある。6は長さ30cm、幅3cm、厚さ1.2cmほどの板材の先端の両側面に欠き込みを入れた有頭状の製品である。形状から大足等の部材の可能性はある。

7～10は方形の孔のあいた板材である。7は全長203cm、幅23cm、厚さ4.3cmの大型の板材である。長辺11cm、短辺9.5cmの方形の孔がほぼ中央で確認できるが、この孔の短辺中央の上下で、さらに長辺5cm、短辺3cmの方形の孔があけられ、十字形になっている。また、上端にも幅10cm、長さ20cmの方形の孔、もしくは欠きこみがある。8は長さ152cm、幅23cm、厚さ4.6cmの大型の板材で、端部に短辺10cm、長辺14cm以上の方形の孔があけられている。9は、方形の孔もしくは欠き込みが側縁に2箇所認められる板材である。欠き込み間の距離は32cmである。10は方形の孔が2箇所認められる板材である。上部の方形の孔は完全に残っており、8.5×5.5cmほどの大きさである。2つ目の孔はそれより40cmほどの間隔をあけて穿孔されているが、下端が切断されており完全な形ではないもの



第IV-4-2図
第5区209土坑出土木器

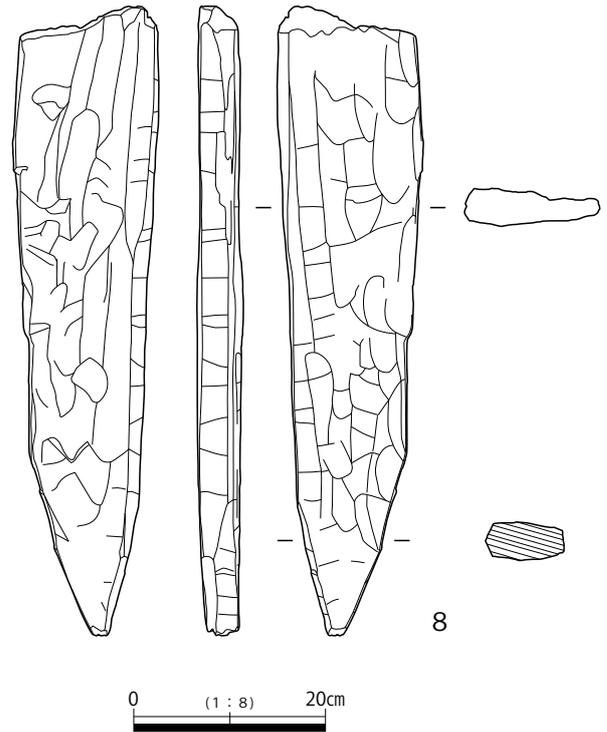


第IV-4-3图 第5区664土坑出土木器(1)

の、同程度の孔であったと考えられる。厚さ2.5cmの厚手の板材で、表面にハツリの痕跡が明瞭に確認できる。

11、12は建築材と考えられる材を転用した矢板である。11は角材もしくは厚手の板材を半分程度に分割したもので、上部中央部に長辺5cm、短辺4cmの方形の孔があげられている。先端を尖らせているので、矢板として使われたと思われる。12も角材もしくは厚手の板材を分割したものと考えられ、2箇所穿孔が認められる。いずれの孔も幅の中心からずれて側縁寄りである。先端部の孔は平面楕円形であると考えられ、上部の孔とは形態が異なる。先端部を加工して尖らせ、地中に刺さったままで出土している。

13～27は杭もしくは矢板である。13は芯持丸太を用いた杭である。樹種はスギであり、全長141cm、径9.4cmをはかる。先端は2方向からの加工で尖らせている。14は角材もしくは板材を分割したのを用いた矢板である。木口の長辺と短辺比は1.8:1であり、角材に近い。両側縁の先端部を加工している。15～23は全長70cmをこえる大型の矢板である。22以外はいずれも立ったままの状態出土している。15、16はいずれも両側面の加工が著しい。22は側縁に長さ3cm、幅1cmほどの方形の抉りがあり、転用材と考えられる。23～27は全長50cm未満の小型の杭、矢板である。23は小口の長辺と短辺の比率が1.5:1であり、角材ともいえるものである。角材を分割して片側側縁のみ加工して尖らせたものと考えられる。24は側縁に長さ3cm、幅1cmほどの方形の抉りがあり、22と同様の転用品と考えられる。25は先端を両側面から加工して尖らせている。もう一方の先端は腐食したような状態であり、こちらの方が地中にあった可能性がある。26は角材を半分程度に分割したものと考えられる。27も角材を分割したものと考えてよいが、木口の長辺と短辺の比率からは角材であり、杭とする。



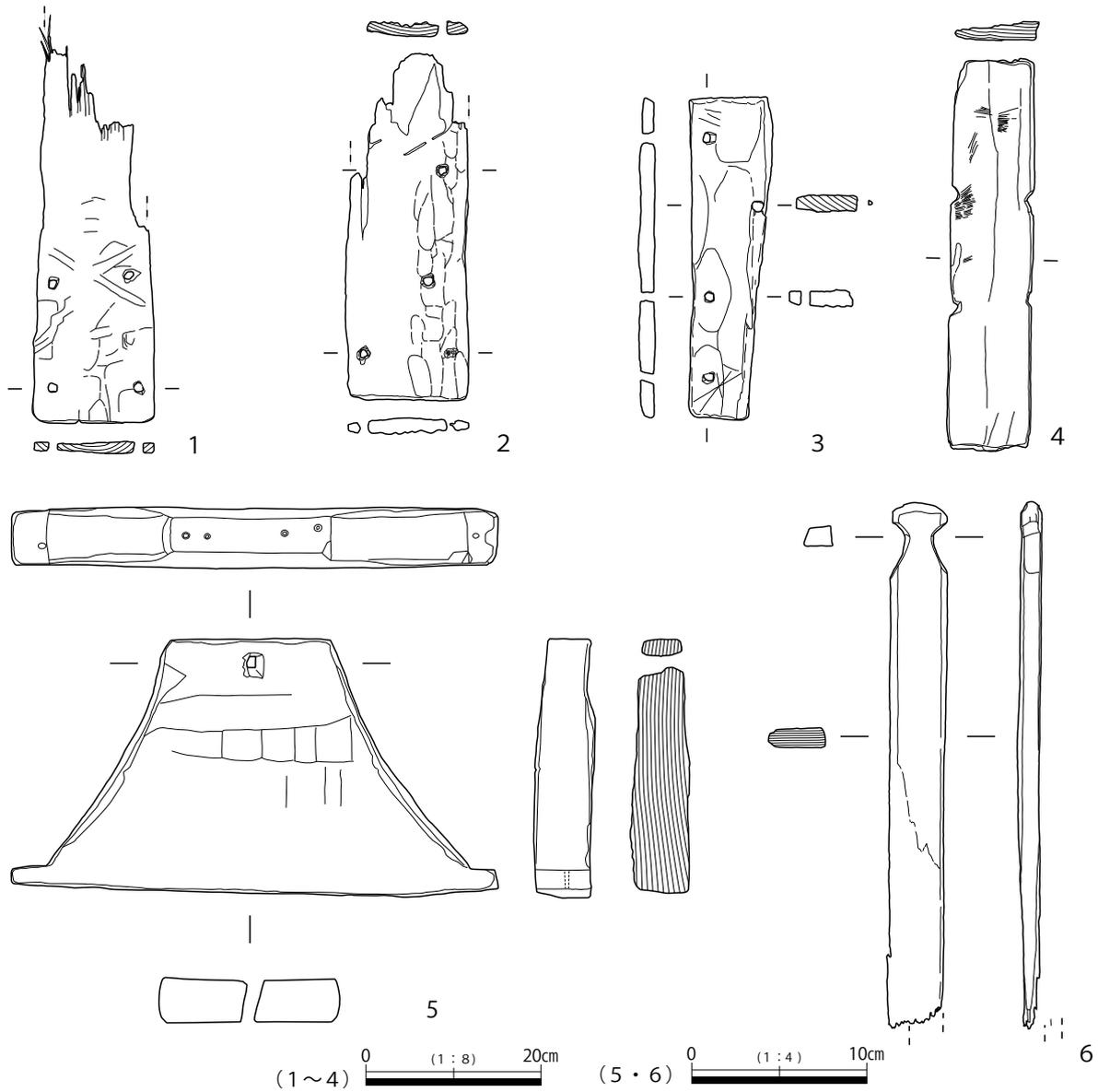
第IV-4-4図 第5区664土坑出土木器(2)

第5節 第3-1-2a層下面遺構出土木器

第1項 2溝出土木器[第IV-5-1～18図、図版6～13-1]

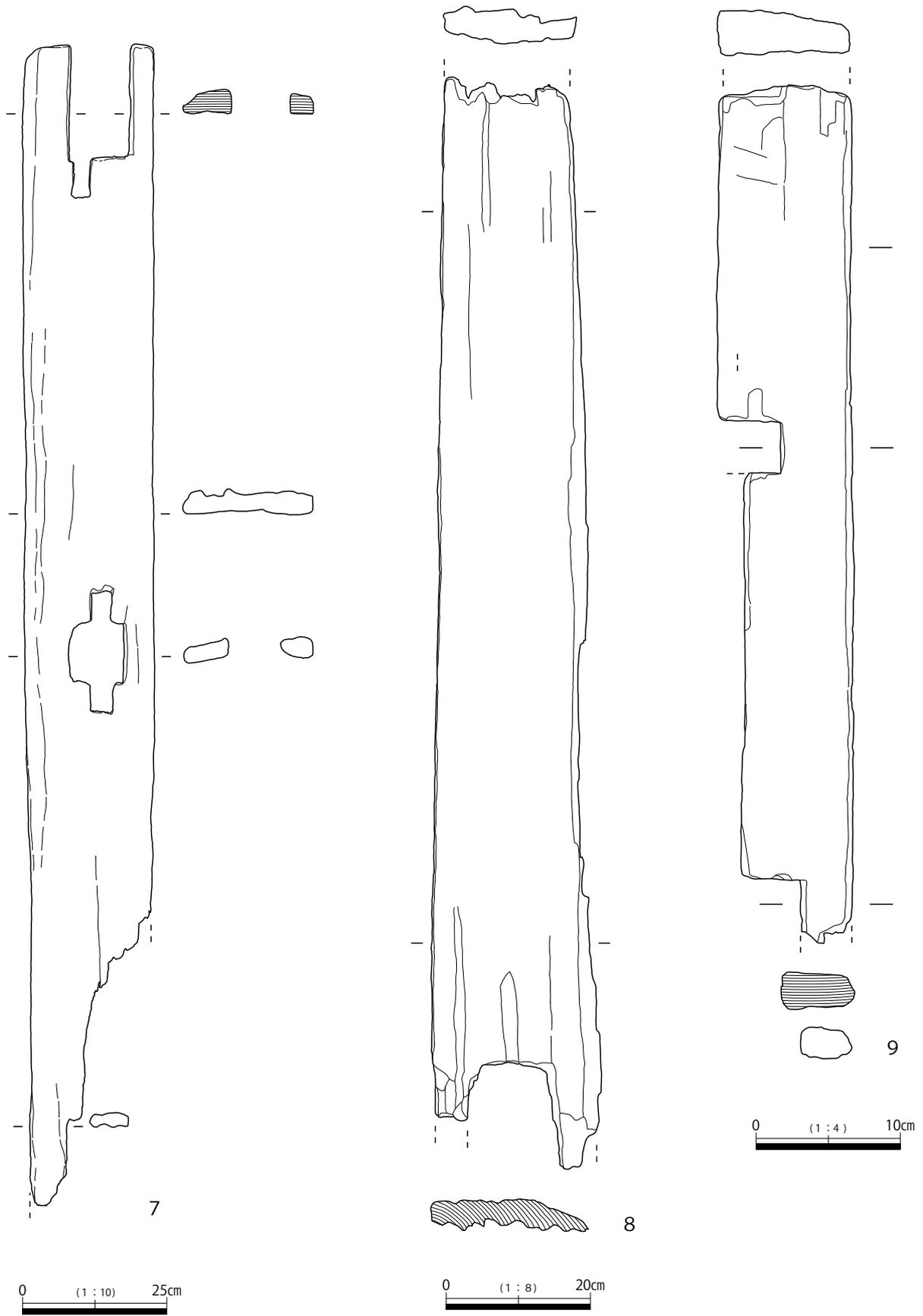
2溝は5区全域を南北に縦走する大型の溝である。上層、中層、下層の3つに大別され、砂層を主体とした中層から多くの木器が出土している。溝内からは木製構造物が検出され、それに関係する杭や矢板、建築部材の転用材などが出土木器の主体を占める。また後述する4落ち込みでは、木製構造物が数多く認められるが、構成する木材の多くは、樹皮のついた芯持丸太材(ヤブツバキ、ヤナギ属)を一部加工したものであり、転用材を含むスギの木器が多い2溝の様相とは異なっている。

1～5は田下駄である。1は穿孔式、2は抉り式である。3～4は穿孔、抉り共に認められる。1は、縦長の柁目板の中心に4×1cmの横長の孔が2箇所並んであげられている。2は片側側面に2箇所

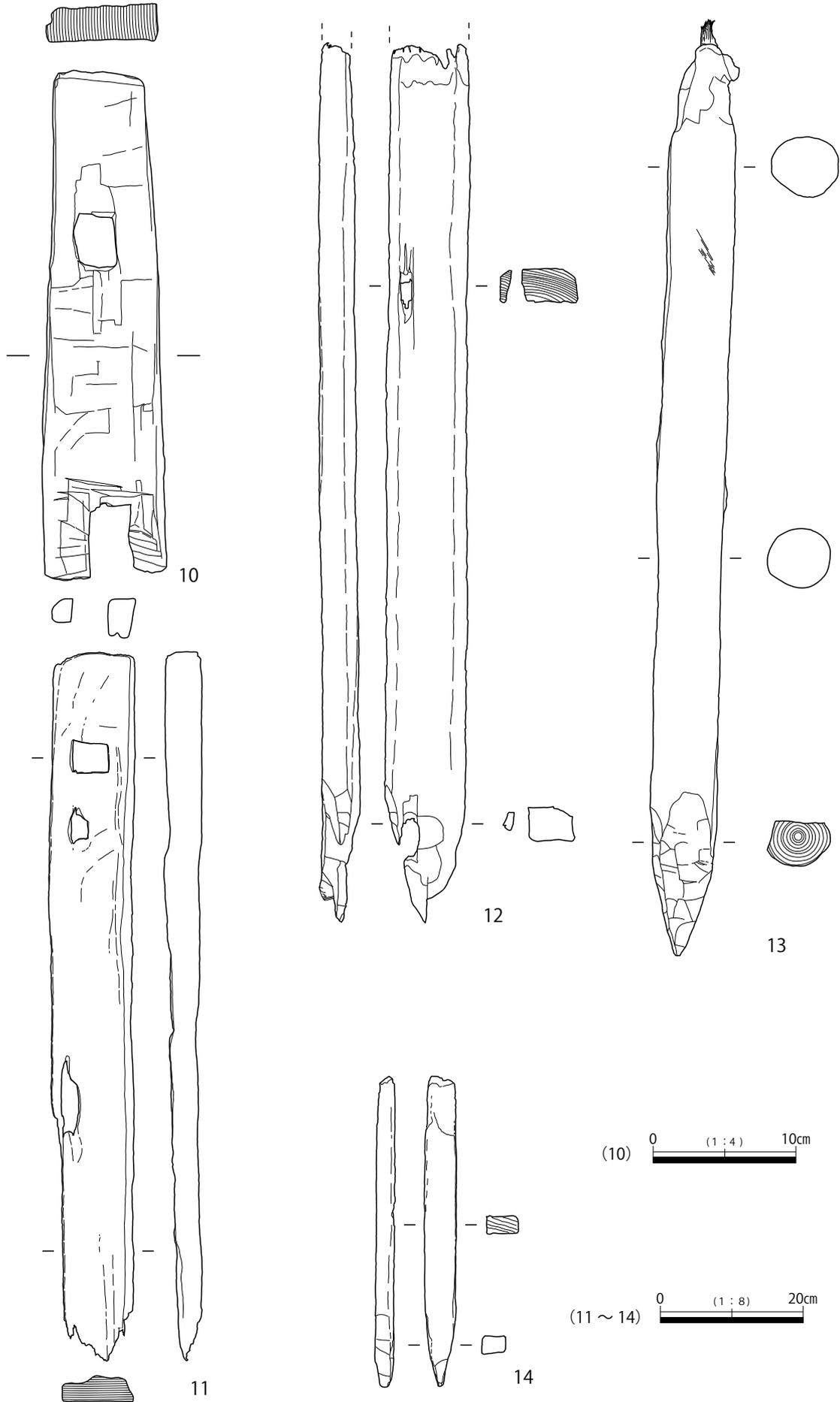


第IV-4-5図 第5区2溝上部木製構造物出土木器（1）

所三角形の抉りが認められるが、それに対応する反対側の側面には、長さ12cmほどの抉りがある。またその上部にも2cmほどの方形の抉りらしき跡がある。また表面には、刃物のようなもので切り付けている痕がある。3は両側面に2箇所ずつ三角形の抉りを入れたもので、さらに上部では4×2.5cmの方形の孔が2箇所並んであけられている。2と同じく刃物で切り付けている痕がある。4は厚さなどから転用したものと考えられ、穿孔は転用以前にあけられたものとする。5は、平面が楕円形の厚手の柁目板を使用し、表面に5mmほどの大きさの三角形の刻みが列状をなして全面に認められる。上端には2×3cmの方形の孔があいていたようなので、別の部材と組み合わせた装飾をもった板である。側面近くには粗い穿孔が並んで2箇所認められるが、この穿孔は田下駄に転用する際のものであったと考えている。樹種はスギである。



第IV-4-6図 第5区2溝上部木製構造物出土木器(2)



第IV-4-7図 第5区2溝上部木製構造物出土木器(3)



第IV-4-8図 第5区2溝上部木製構造物出土木器（4）

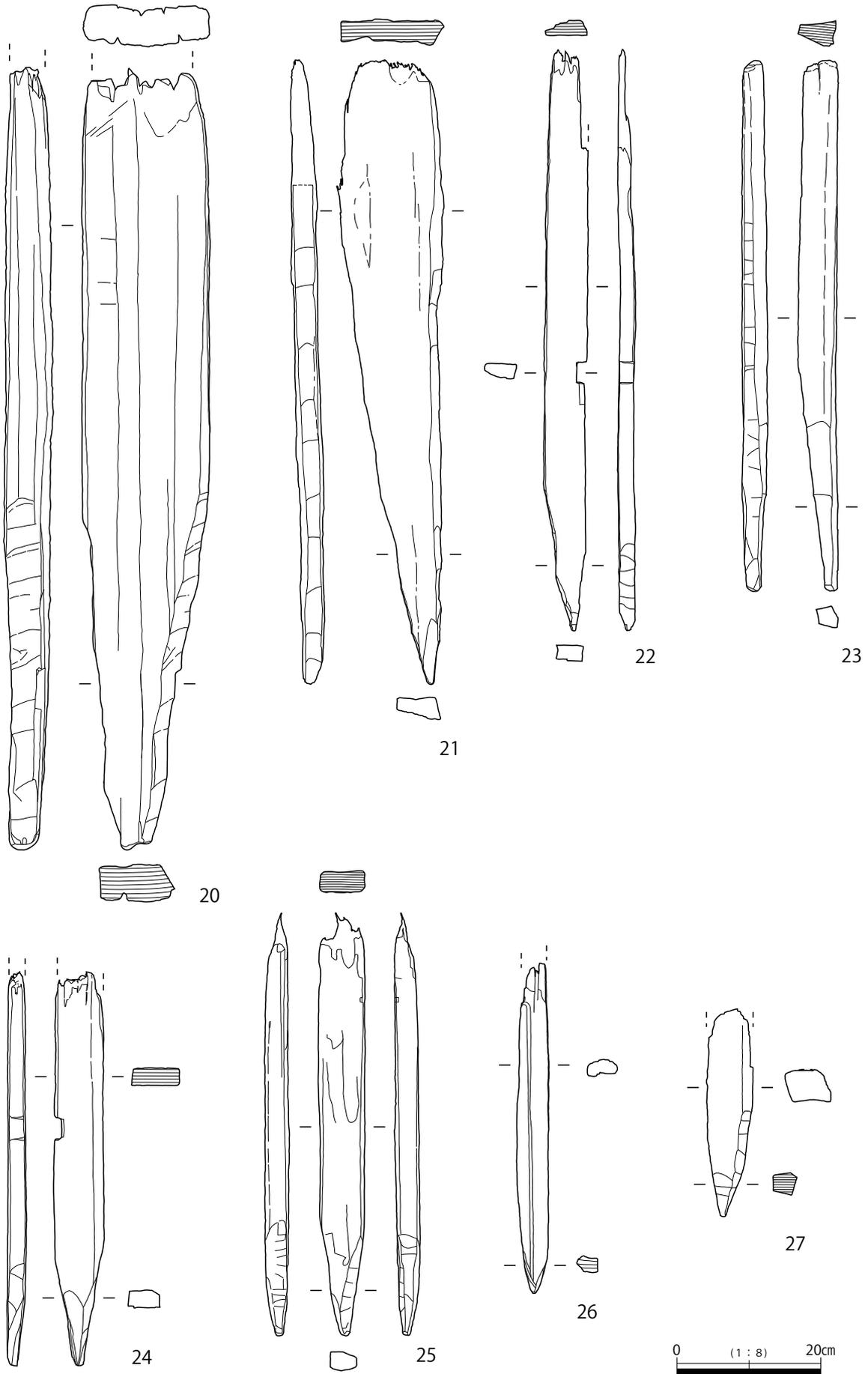
6は中心部に2つの半円状の孔をあけた組み合わせの鋤状木製品である。厚みが2cmにも足りないスギの薄手の板目材なので、実際に鋤として機能できたかは不明であるため、この名称をつけた。2つの半円状の孔は左右対称ではなく、上部がずれている。上端の着柄部分とこの孔の間との2箇所て柄を緊縛して固定していたと考えられる。全体の形状は柳葉形で一面のみの加工が大変細かく丁寧な



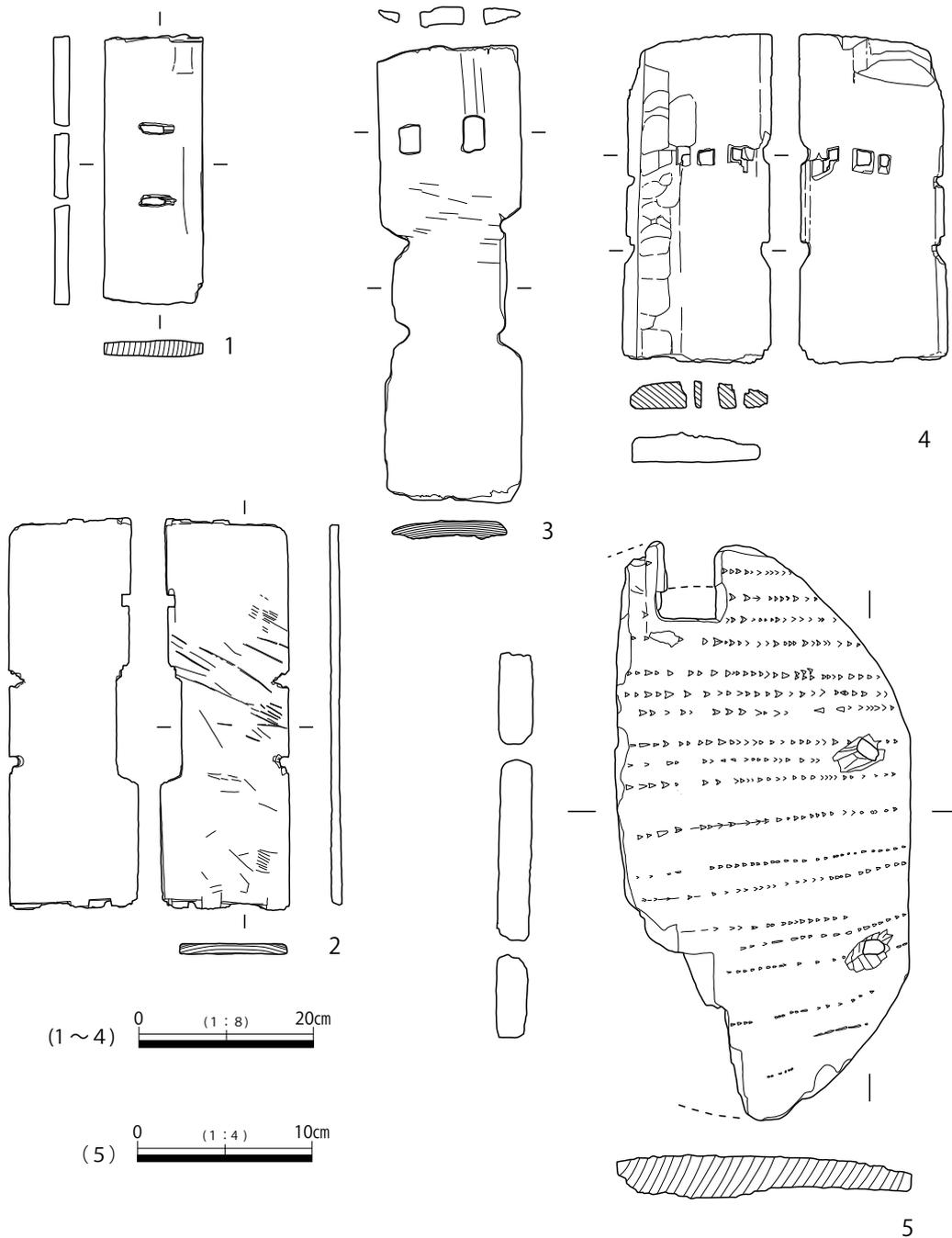
第IV-4-9図 第5区2溝上部木製構造物出土木器 (5)

つくりである。

7は、脚付きの槽である。縦方向に割られたもので、現存で長さ47cm、幅8.5cm、全高5cmをはかる。木取りは横木取りで、底面に脚が1脚残存しており、もう1脚分もその痕跡が認められる。脚は長方形を呈し、脚高は4cmである。内面の立ち上がりは直線的で角度は緩い。端部には幅3cmほどの平坦面を設けている。内面には刃物状の工具で切り付けた跡が認められる。



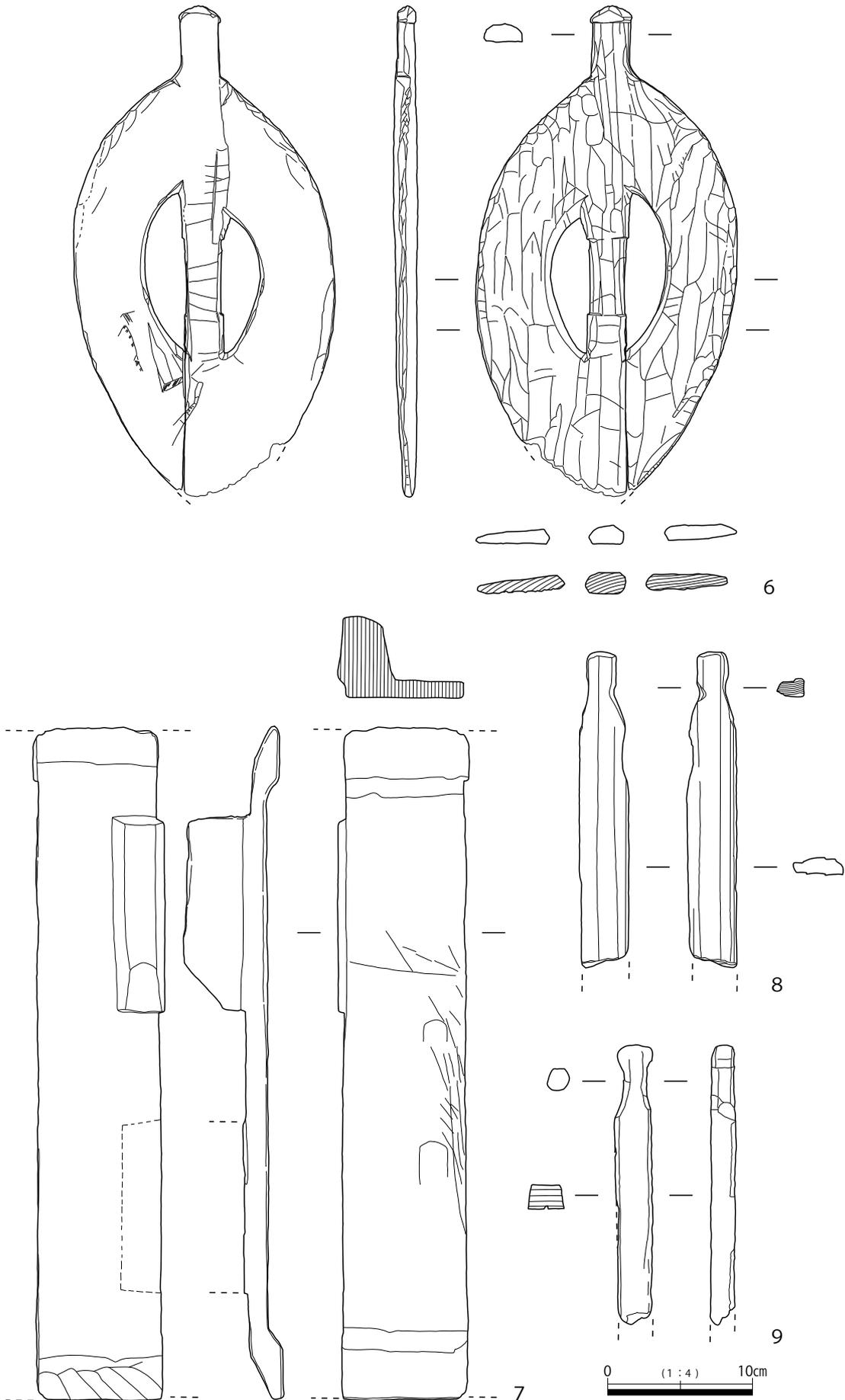
第IV-4-10 图 第5区2溝上部木製構造物出土木器 (6)



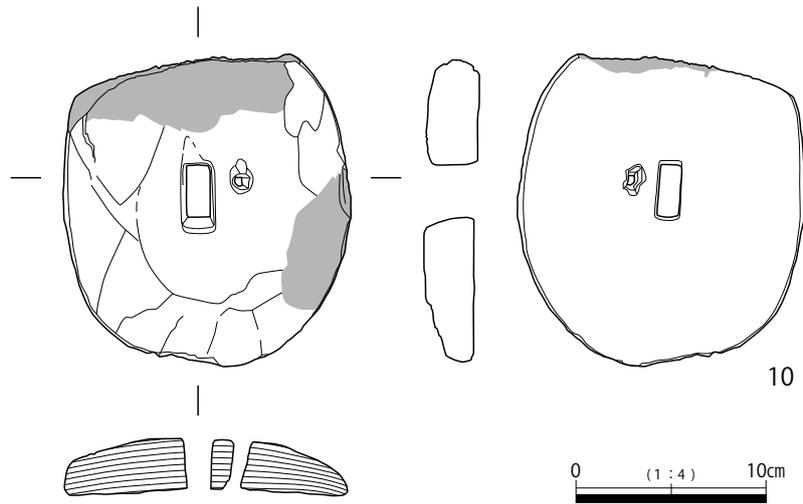
第IV-5-1図 第5区2溝出土木器(1)

8～10は不明製品である。8、9は幅2.5～3cm、厚さ1～2cmの板材の先端近くの両側面に欠き込みをいれて有頭状にしているものである。いずれも下端は欠損しているが、長さ20cmを超える。いずれも樹種はスギである。10は、一部破損し、焼けた跡があるが、長軸16.4cm、短軸15cm、厚さ2.7cmの楕円形を呈し、中心に2.8×1.4cmの方形の孔があいている。スギの板目材で、形態から泥除けとも考えたが、厚みがかかなり厚いなど、不明瞭な部分が多いので不明製品としている。中心の方形の孔のすぐわきに粗く小型の孔があげられているが、これは、目的が分からないが、後に穿孔されたものと考えている。

11～15は、建築部材の柱材と考えられるものである。11は長さ298cm、径11cmのヒノキの芯持丸太の柱材と考えられる。下半部の130cmほどは、丁寧な加工によって長辺7cm、短辺5cmほどの断面



第IV-5-2图 第5区2沟出土木器(2)

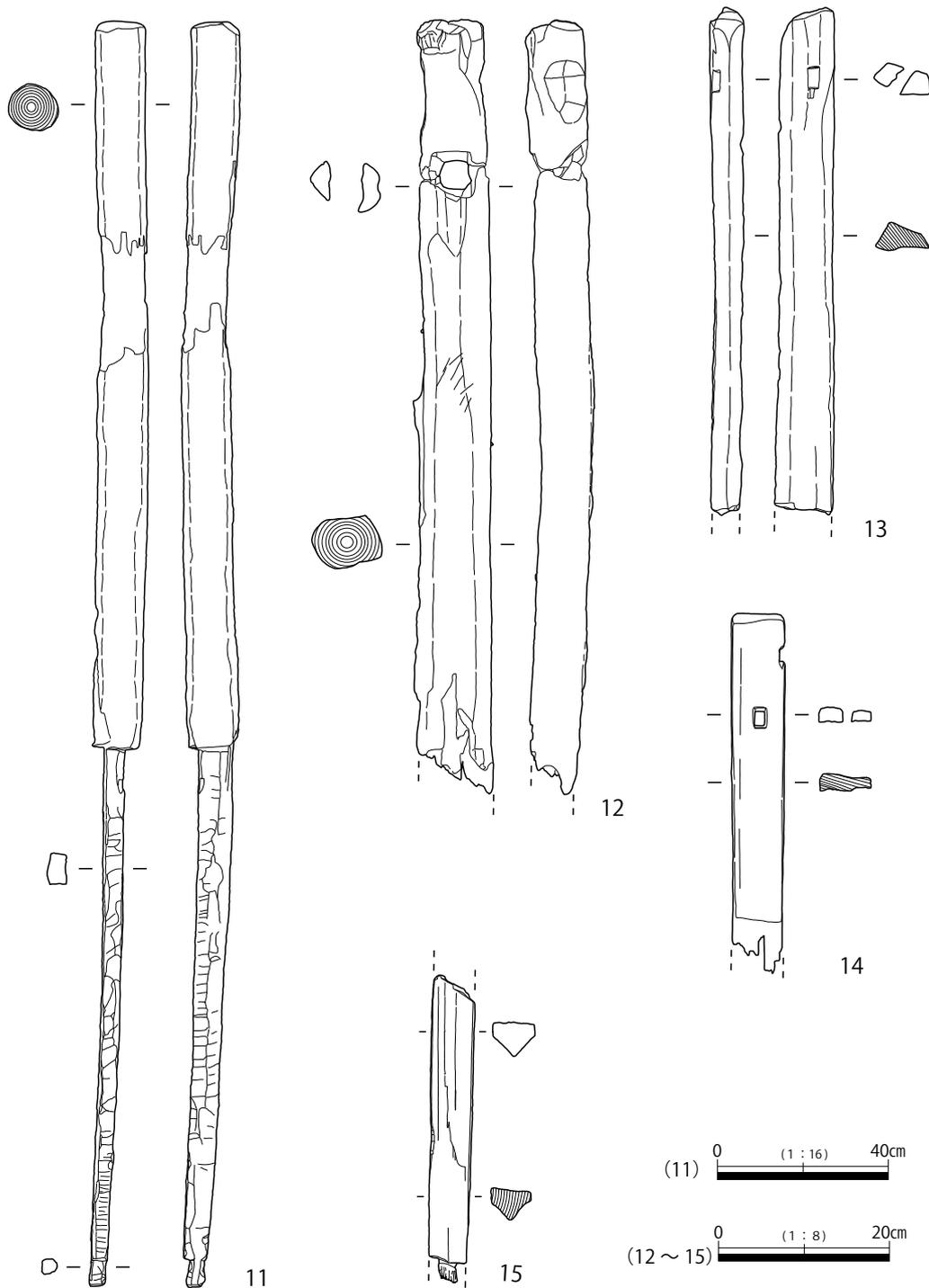


第IV-5-3図 第5区2溝出土木器(3)

方形に加工している。下端部の5cmほどの箇所では、段を作り、突出した形態となり、断面は一辺3cmのほぼ正方形となっている。丸太部分の上位1/3ほどの位置でやや窪んでいる箇所がある。長さ25cmほどの範囲であるが、この箇所は別の材と組み合っていた跡と考えられる。12も、径9cmのイヌマキの芯持丸太の柱材と考えられる。残存長は91cmをはかる。上部で一辺3cmの方形の孔があげられている。また側面には別の木と組み合わせた時にできたと考えられる窪みもみられる。裏面では全面に焦げが確認できる。13～15は、断面が三角形、もしくは板状を呈しているが、分割されたもので、元々は角材を使用した柱材と考えられる。13は半分程度、木口面で斜め方向に分割された柱と考えられる。上部に2.4×1.5の方形の孔が穿孔されている。14も半分程度に分割されたものと考えられるが、これは木口の短辺と平行する形で分割されたと考えられる。2×1cmほどの方形の孔があいている。15は断面三角形であるが、もとは1辺10cm程度の柱材であったと考えられる。下端部にほぞ状の突起があるが、折り取られた跡と考えられる。

16～19は建築部材の垂木と考える。16は全長133cmほどで、元々は角材であったが、中心部から下端にかけて半分程度に分割されており、また一部で焼けた跡が認められる。17は上端部にわずかな段差をつくって有頭状にしている。断面はやや扁平な隅丸方形を呈している。18は下半部がL字状に折り取られているようである。上端部の欠き込みはゆるやかに湾曲している。19はカヤの芯持角材で、細かい加工痕がみられ大変丁寧な作りである。このため、垂木とは異なるものの可能性がある。20は建築部材の小舞と考える。全長は127cmあり、下半部で大きく湾曲している。これは別の木材と組み合っていたためと考えられる。

21～24は芯持丸太材の先端を加工して有頭状にしているものである。全長200cmを超える大型のものがあり、さらには、樹皮がついたままのものもある。21は全長227cm、径6.5cmの芯持丸太材で、片端のみ有頭状に加工したもので、逆の先端も加工されているが、尖らせていた可能性があり、杭のように使っていた可能性がある。22は、全長が240cmをこえる大型のものであり、両端を有頭状に加工している。また、長さ12～16cm、幅3.5～5cm、深さ1cmほどの平坦部を2箇所加工してつくっている。2つの平坦部の間は中心間で50cmである。この平坦な部分は、有頭部分と同様に別の部材と組み合わせて紐などで縛り強固に固定していたと考えられる。23も同様の作りであるが、平坦

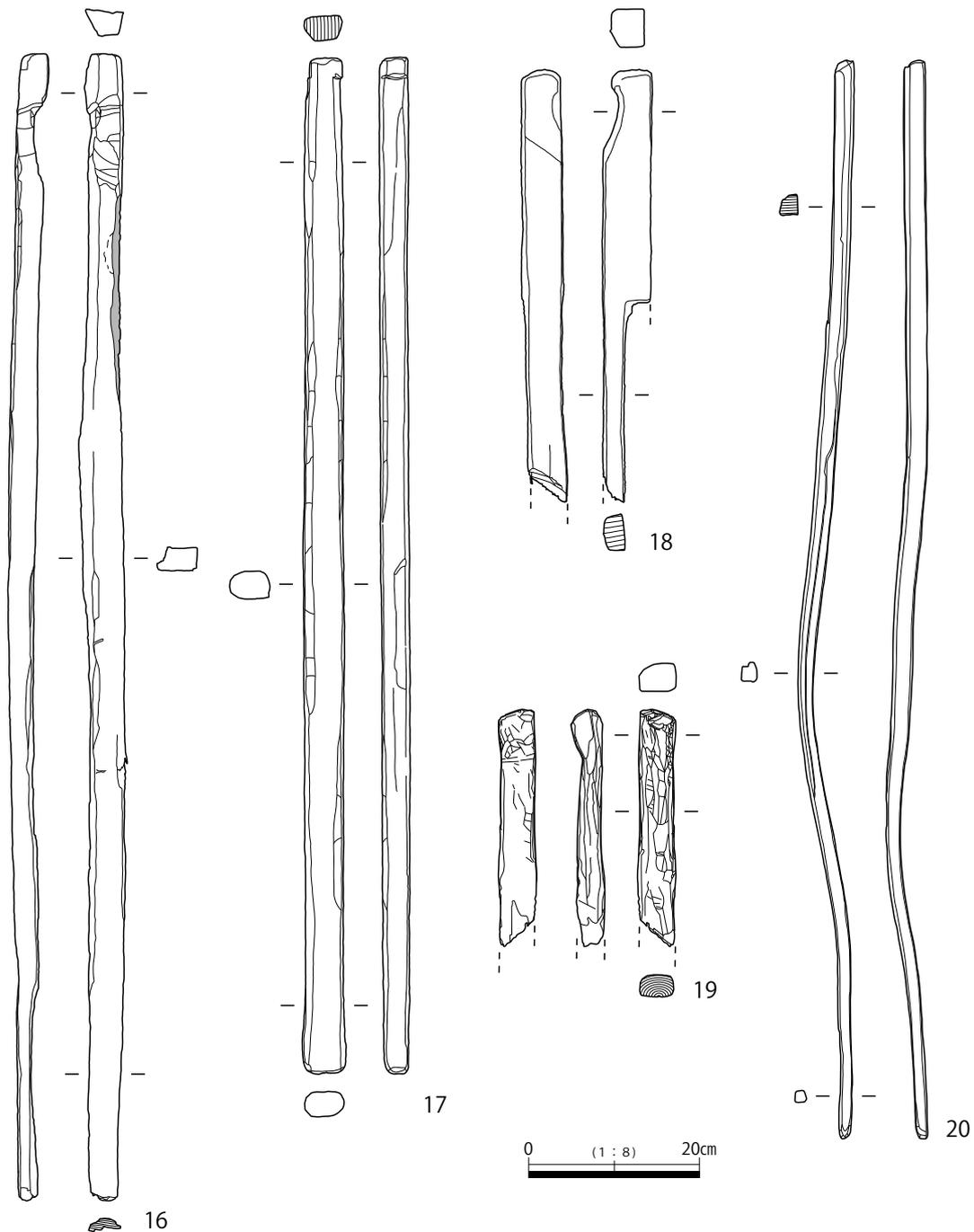


第IV-5-4図 第5区2溝出土木器(4)

部が1箇所であり、場所も端に近い点が異なる。さらにこの資料には樹皮がついたままである。これらはいずれも、後述する4落ち込みの木製構造物に多く使われている横木と同様のものと考えられ、2溝内でも同様の構造物がつけられたか、4落ち込みから流れてきたものと考えている。

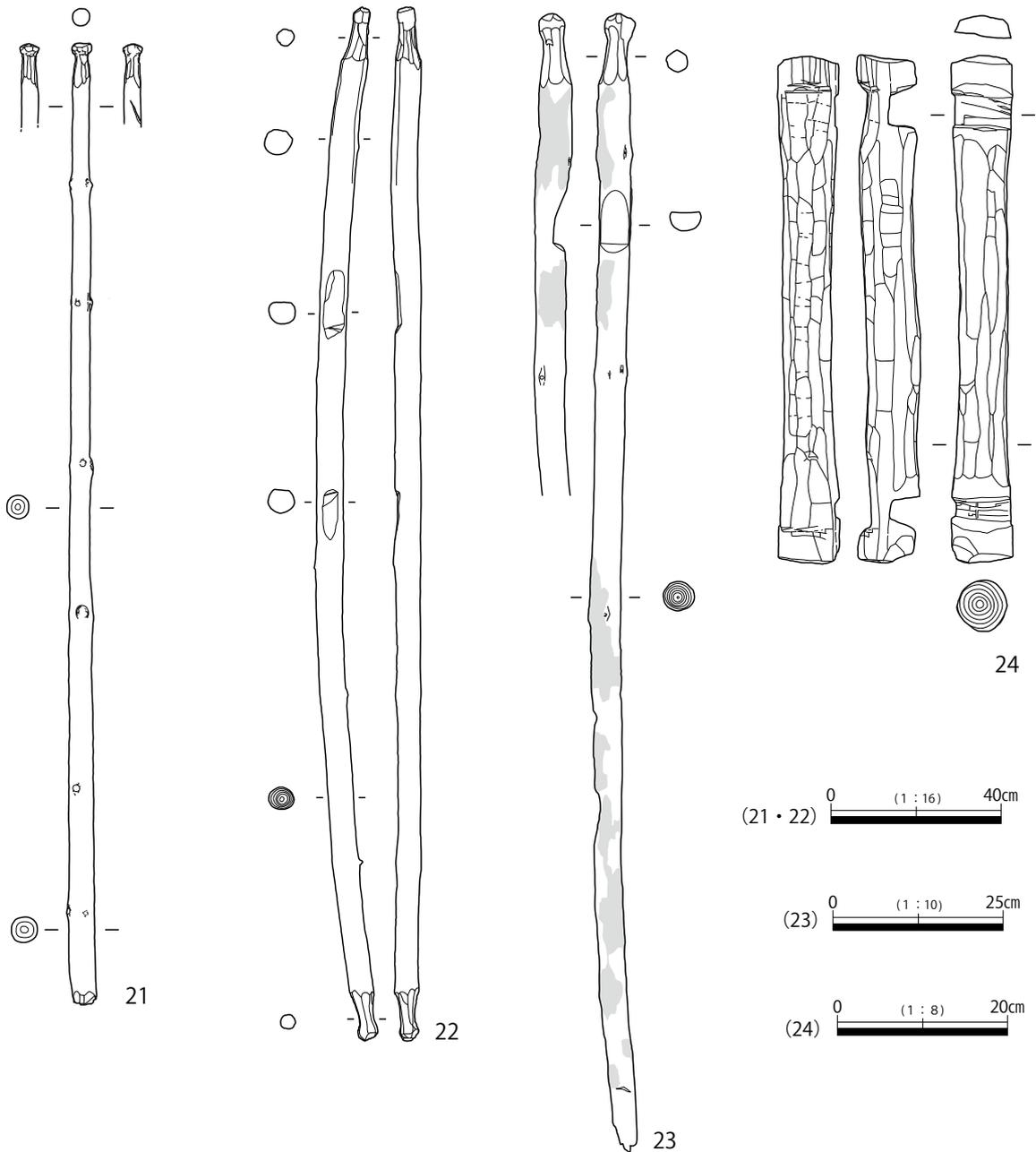
24は、芯持丸太材を全面丁寧に加工して、両端に長さ6~7cm、幅3~4cm、深さ4cmほどの欠き込みを施している。また欠き込み面の裏側も削り込んで、両端を有頭状にしている。建築部材の梁と似ている構造であるが、大きさが全く異なる。

25~33は穿孔、欠き込みが認められる板材である。木取のほとんどは板目であり、多くが建築材



第IV-5-5図 第5区2溝出土木器(5)

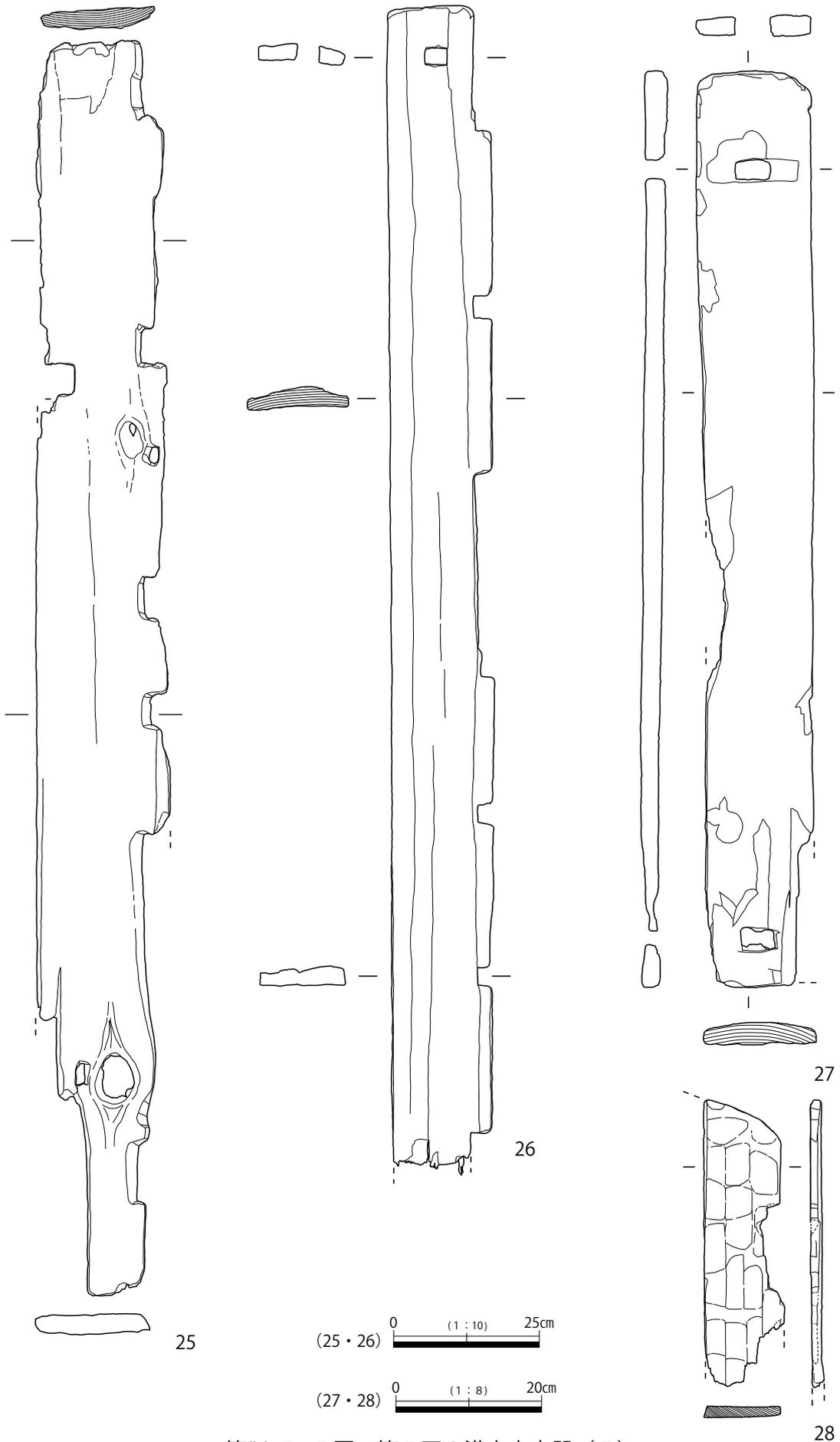
と考えられる。25は全長216cm、幅22cmをはかる大型の板材で、長さ5～7cm、幅2～5cmほどの方形の欠き込みが両側面に計4か所認められる。欠き込みの位置は左右非対称である。また同一側縁の欠き込み間は44cmと20cmで異なる。小型の方形の孔が2つあいている。径7cmほどの丸い孔もあいているが、これは節と考えている。26も全長200cmを超える大型の板材である。1箇所、上端中央に5×3cmの方形の孔をあけ、片側側面にのみ方形の欠き込みが3箇所認められる。欠き込み間は55cmである。27は両端に5×2.5cmほどの方形の孔があげられている板材である。28は柱目板であり上端が斜めになっている。表面には幅2.5～3cmほどの単位で丁寧な加工痕がみられる。29は細長い板材で、全長333cm、幅16cmをはかる。5.6×5cmの方形の孔が上部中央に認められ、すぐ近くにより



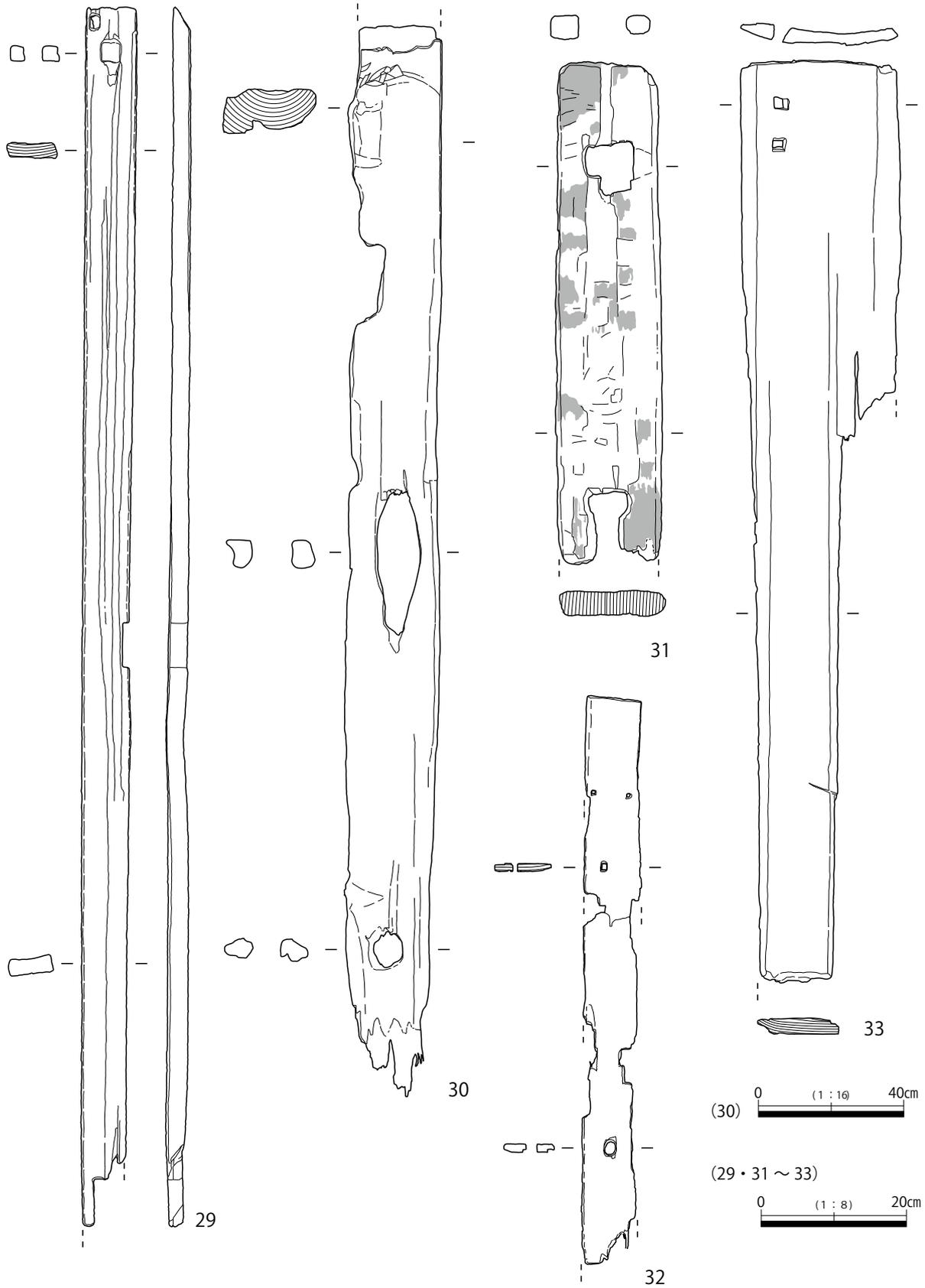
第IV-5-6図 第5区2溝出土木器(6)

小型の方形の孔があけられている。片側側面に欠き込みが1箇所確認できる。端部の1つは斜めに切断されている。30は丸太材をほぼ半割して加工した板材である。片側側面に欠き込み、中央に縦に長い長辺40cm、短辺11.2cmの楕円形の孔、端部近くに径8cmほどの円形の孔があいている。31は柃目板で、2箇所方形の孔が認められる。平面がT字状の孔であった可能性がある。表面には焦げ跡がある。32は薄い板材で、厚さは1~2cmほどである。小さな径1~2cmほどの孔が4箇所確認できる。33は上部も片側側縁近くに2箇所、一辺1.5cmほどの方形の孔が並んであいている。

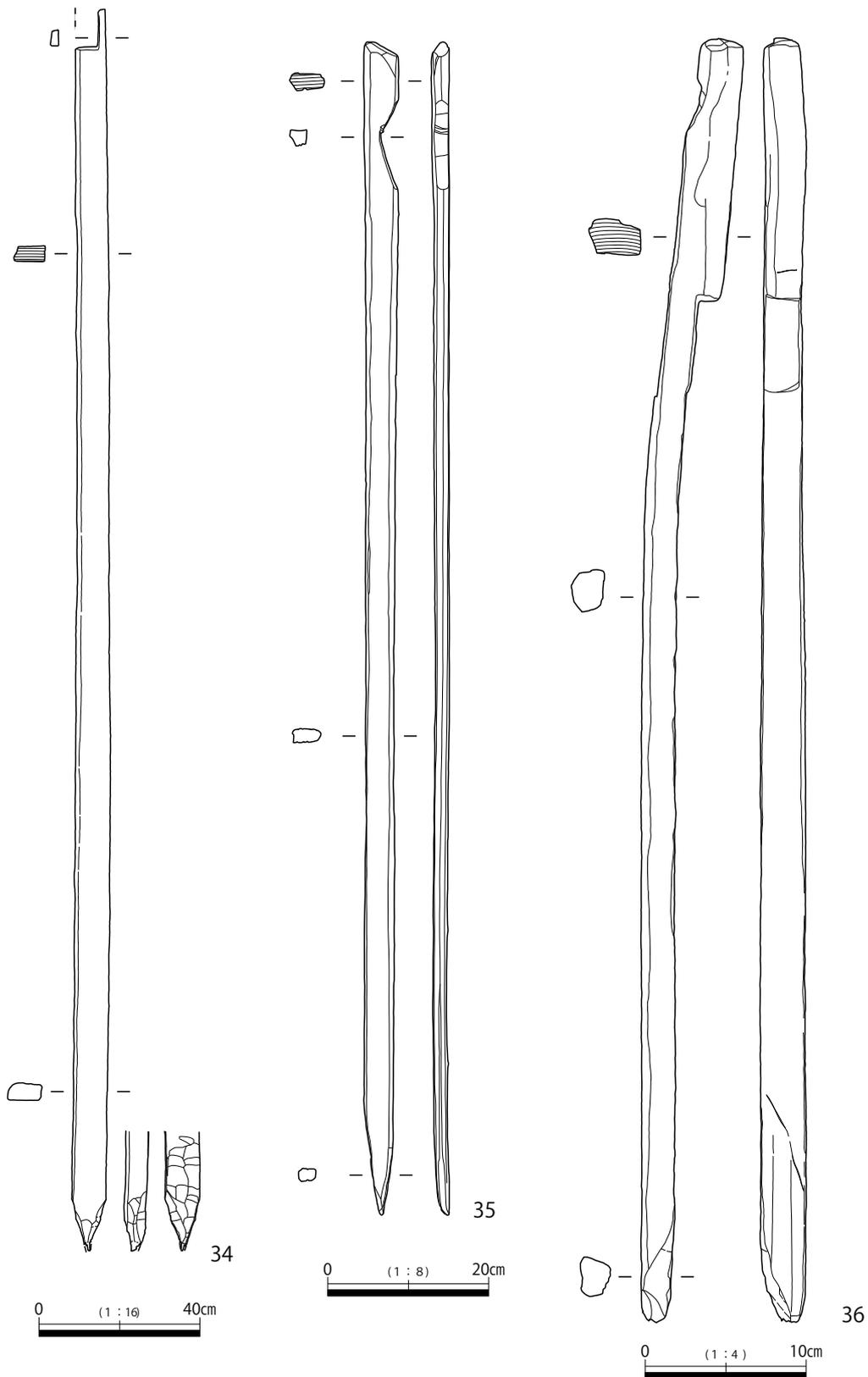
34~38は建築材等を転用したと考えられる杭である。34は端部がL字状に折り取られているようであるが、全長311cmと長尺の杭である。梁や垂木を分割して転用したと考える。先端部を丁寧な加工で尖らせている。35は上端部に欠き込みを施し、有頭状にしている垂木を転用した杭と考えら



第IV-5-7图 第5区2溝出土木器(7)



第IV-5-8図 第5区2溝出土木器(8)



第IV-5-9図 第5区2溝出土木器(9)

れる。36は全長の4分の3ほどが半割された状態である。37、38は芯去角材の垂木の先端を尖らせている杭である。反対側の先端は折り取り、又は斜めに切断している。

39～42は丸太材を使用した杭である。39は芯持材、40～42は芯去材である。ただし、41は樹種



第IV-5-10图 第5区2沟出土木器(10)

はサカキで樹皮が残っており、芯持材と同様にほとんど加工されていない状況である。39は両端を加工している。一方は斜めに切り落としたような加工で、もう一方は両側面から加工している。40、42は棒状丸太材で、垂木等の転用の可能性がある。後述する4落ち込みの杭や横木の多くが樹皮のついた芯持丸太材であるのに対して、同時期の2溝では杭に限らず他の木器でも、芯持丸太材の数が少ない点は特徴といえる。

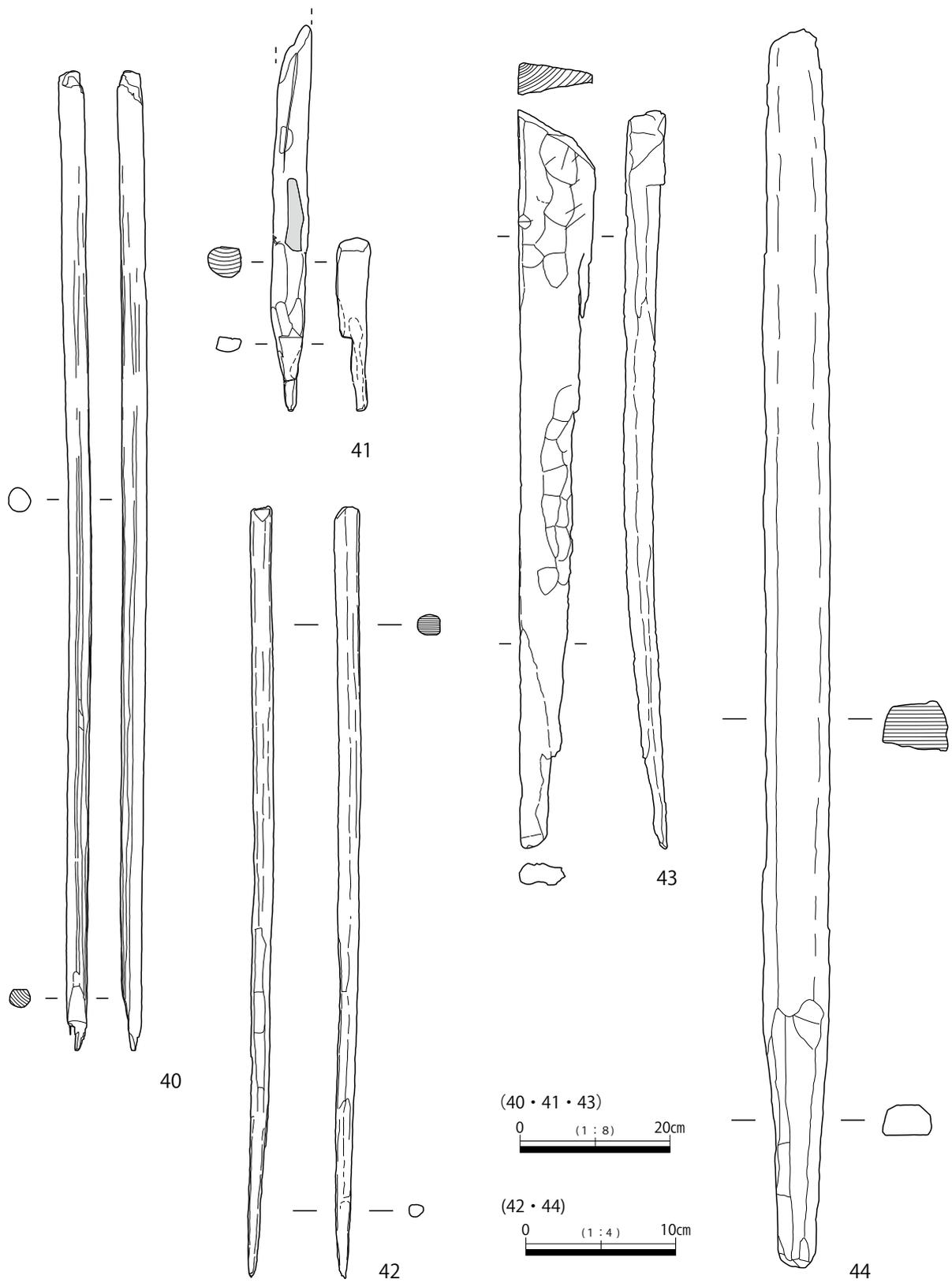
43は放射状分割されたスギ材を用いた杭である。長さ99cm、幅9.9cm、厚さ5.2cmをはかる。表面上端と中ほどで加工痕がよくみられる。

44～59は角材または板材を用いた杭や縦矢板である。その中で44～47は両側縁、48～50は一側縁のみの加工で先をとがらせている杭や縦矢板である。51～59は明らかに矢板とわかるもので、大型のものである。44は全長83.5cmで先端は丁寧に全周を加工して尖らせている。45は全長105cmの角材を使用した杭であり、全面に焦げが認められる。46、47はいずれも厚手の板材を用いた杭であり、先端はL字状になっている部分があり、折り取られた可能性がある。48は全長158cmの大型の板材であるが、分割された材と思われる。先端はL字状になっており、折り取られたと考えられる。51～56は両側縁から加工し、先端を尖らせているものである。53、54の逆側の先端は腐食している。55は表面にハツリ痕が明瞭に残っている。56は薄手の板材を使用しており、先端を尖らせるというよりは、凸字状に突出させている。上端に径7mmの孔が2箇所、縦方向に並んで穿孔されている。57、58は一側縁側のみ加工して先端を尖らせている縦矢板である。57は全長131cm、幅27cm、厚さ2.4cmの大型の板材を利用した矢板であり、表面に幅6.5～7cmのハツリ痕が認められる。58も一側縁側のみ加工で先端を尖らせているが、下端の12cmほどが直線的に突出している。

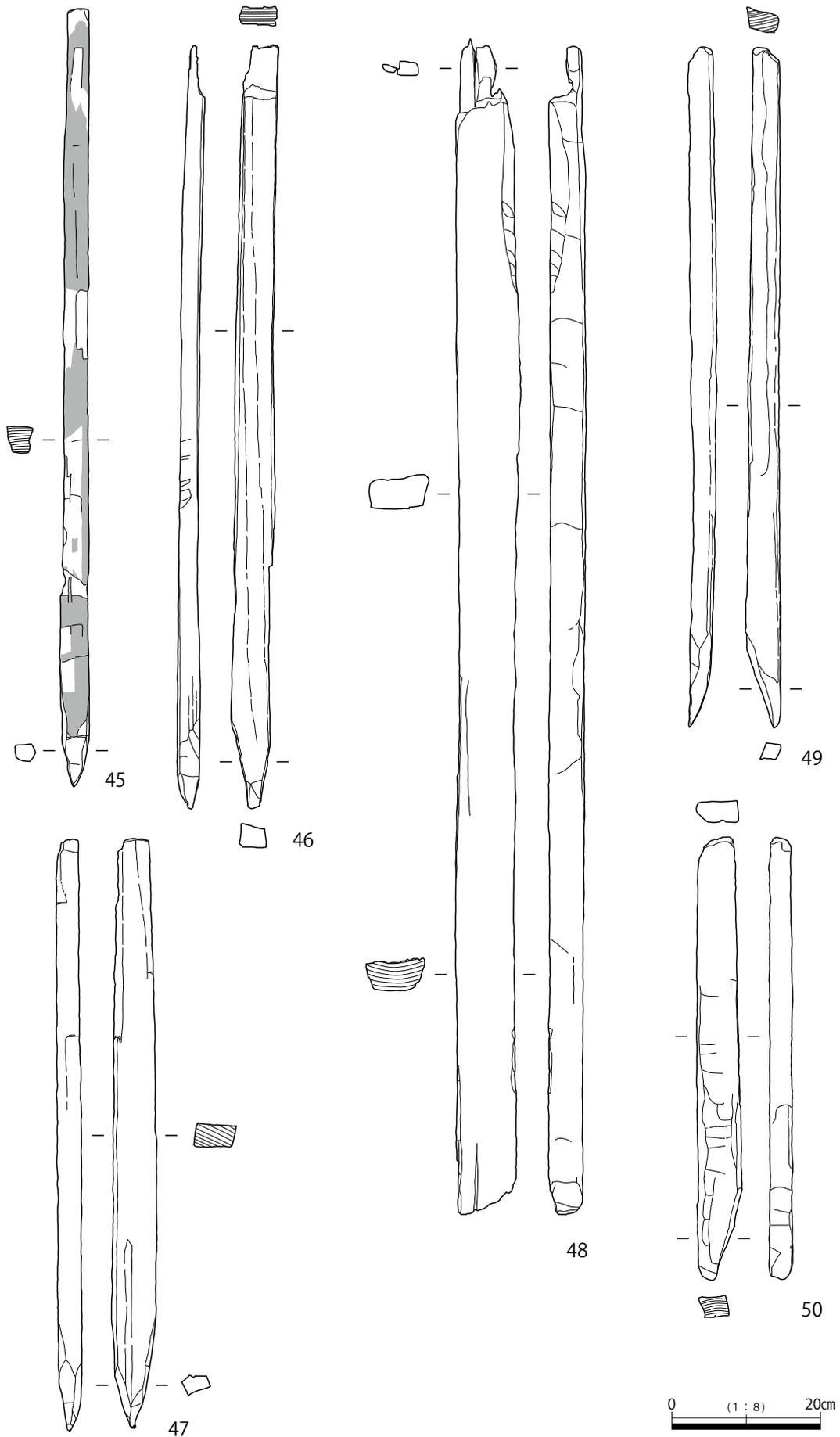
59は長さ16.3cm、幅13.5cm、厚さ3.5cmの板材の両面から加工して先を尖らせており、楔のような形状をしている。後述する弥生時代後期の708溝内からは列で検出している。

60～76は2溝内杭列で出土した杭と矢板である。2溝と4落ち込みとの接続部付近で検出した東西方向に並ぶ杭列である。60は芯去丸太材を加工した杭である。61は角材を縦方向に分割した板材を利用した矢板と考えられる。62は分割した角材であり、一側面のみ加工し先端を尖らせている。逆の側面の一面にはハツリ痕が確認できる。方形の孔もしくは欠き込みの跡がある。63～76は放射状分割した材の先端部を加工した杭である。いずれも全長105～132cm、厚さ8cm前後の大型の杭で、杭上部の断面は三角形となっている。ほぼ8分の1から16分の1くらいの分割であり、同じ原材からつくられた可能性がある。樹種は75のヒノキ以外は全てスギである。

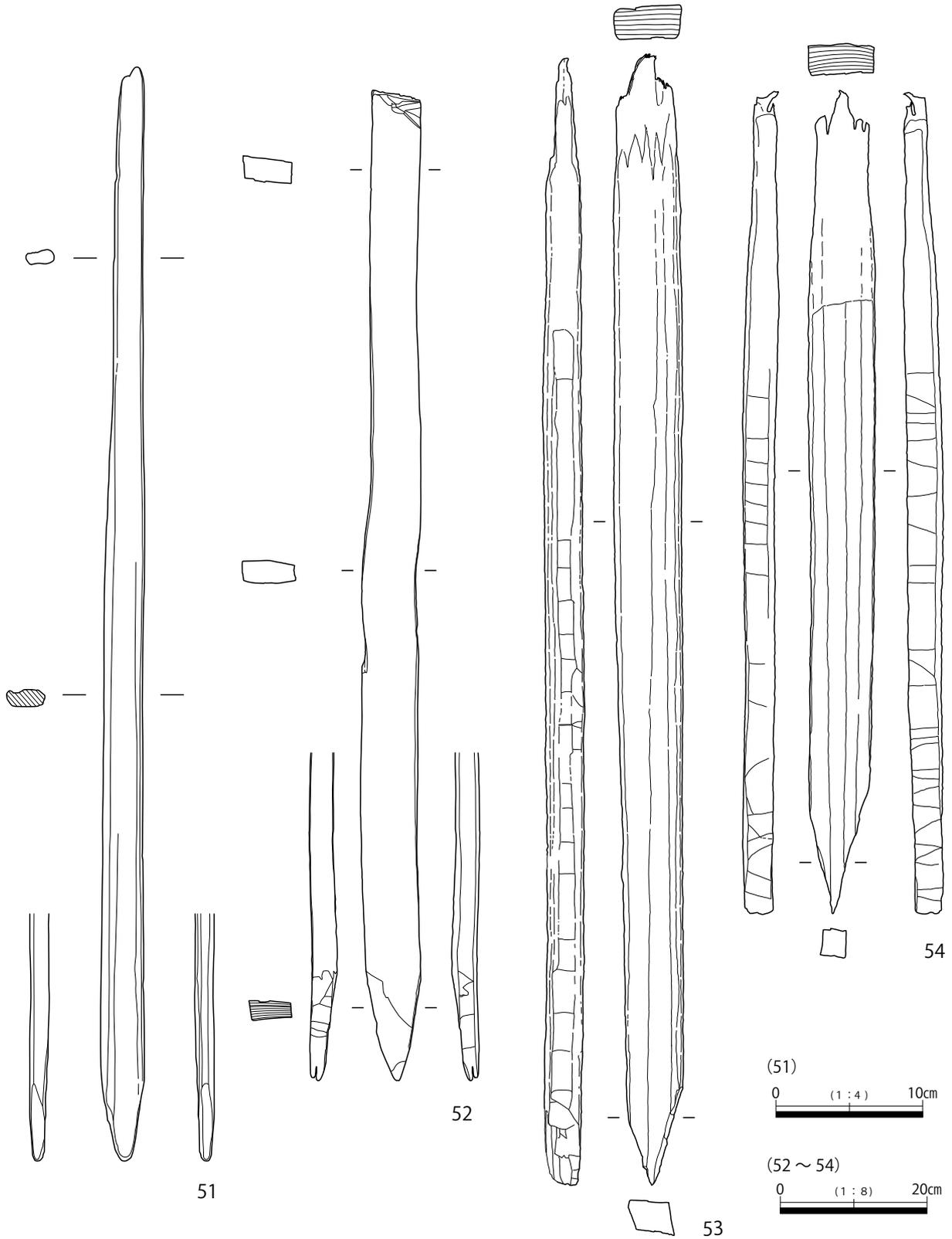
先述したように2溝内出土の木器はスギが大変多く、全点ではないものの、掲載木器を含めた702点を樹種同定した所、約8割の569点がスギであった。これは2溝内の木製構造物もほとんどがスギであり、明らかに後述する4落ち込みと様相が異なっている点で興味深い。



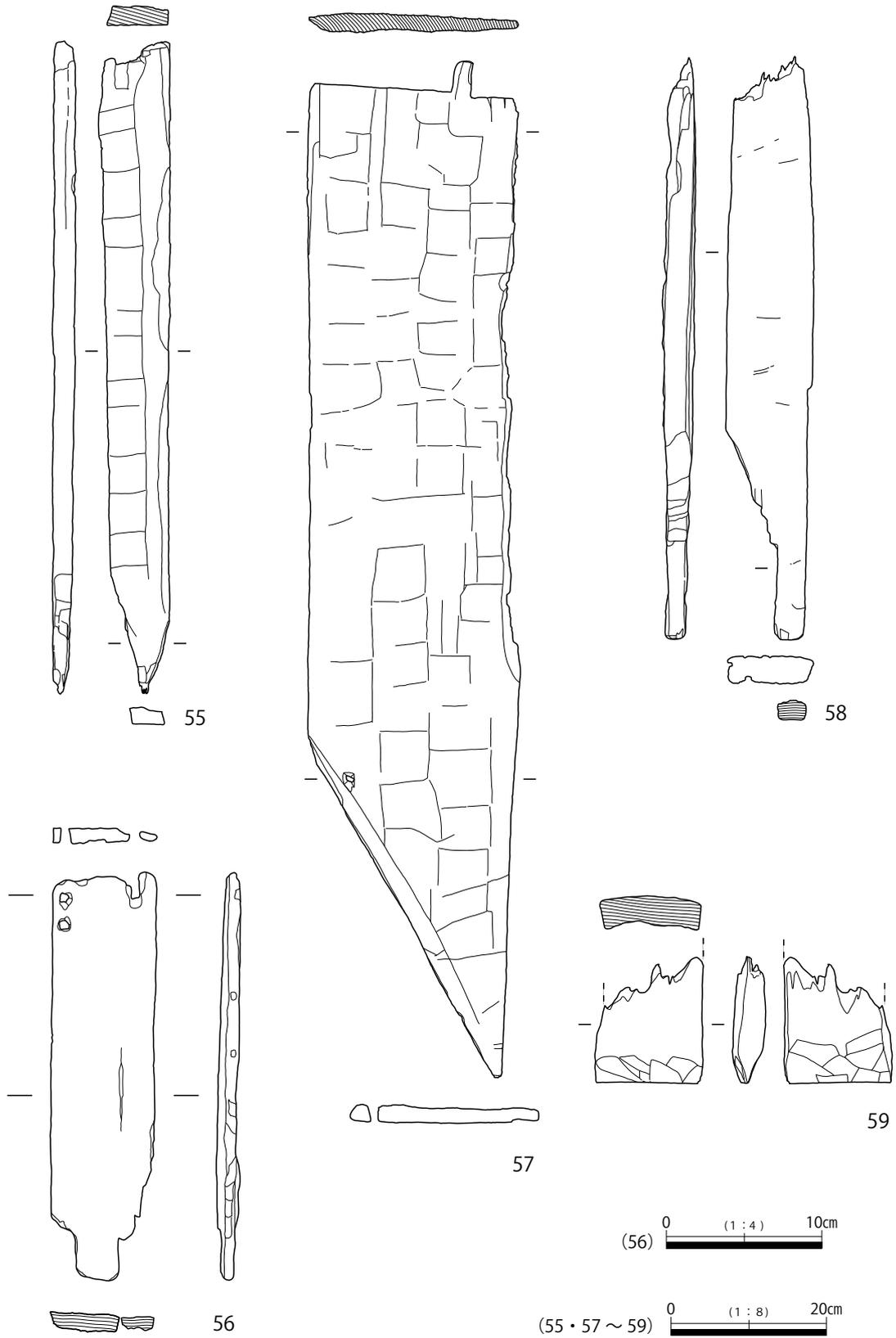
第IV - 5 - 11 图 第5区2沟出土木器 (11)



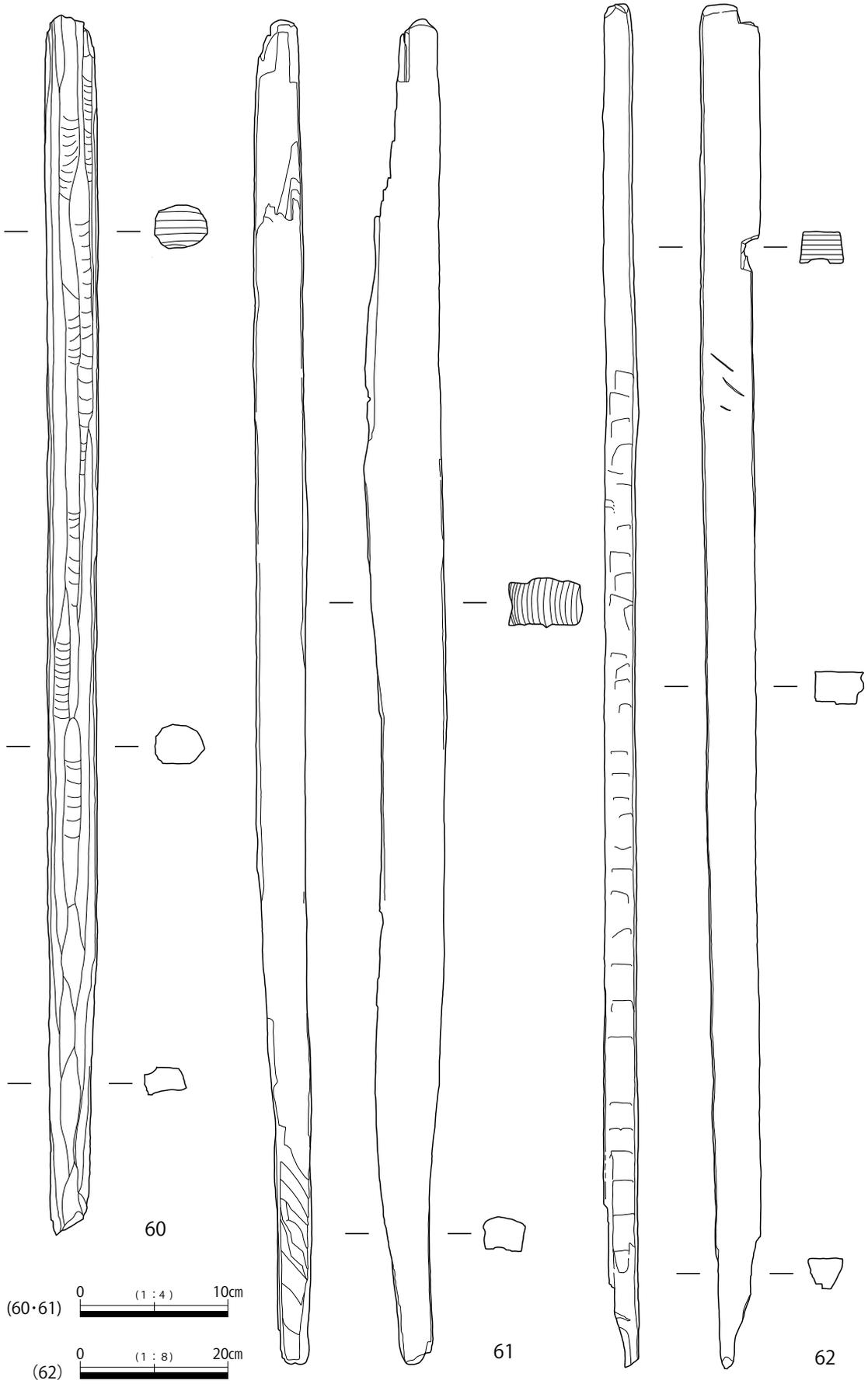
第IV-5-12图 第5区2沟出土木器(12)



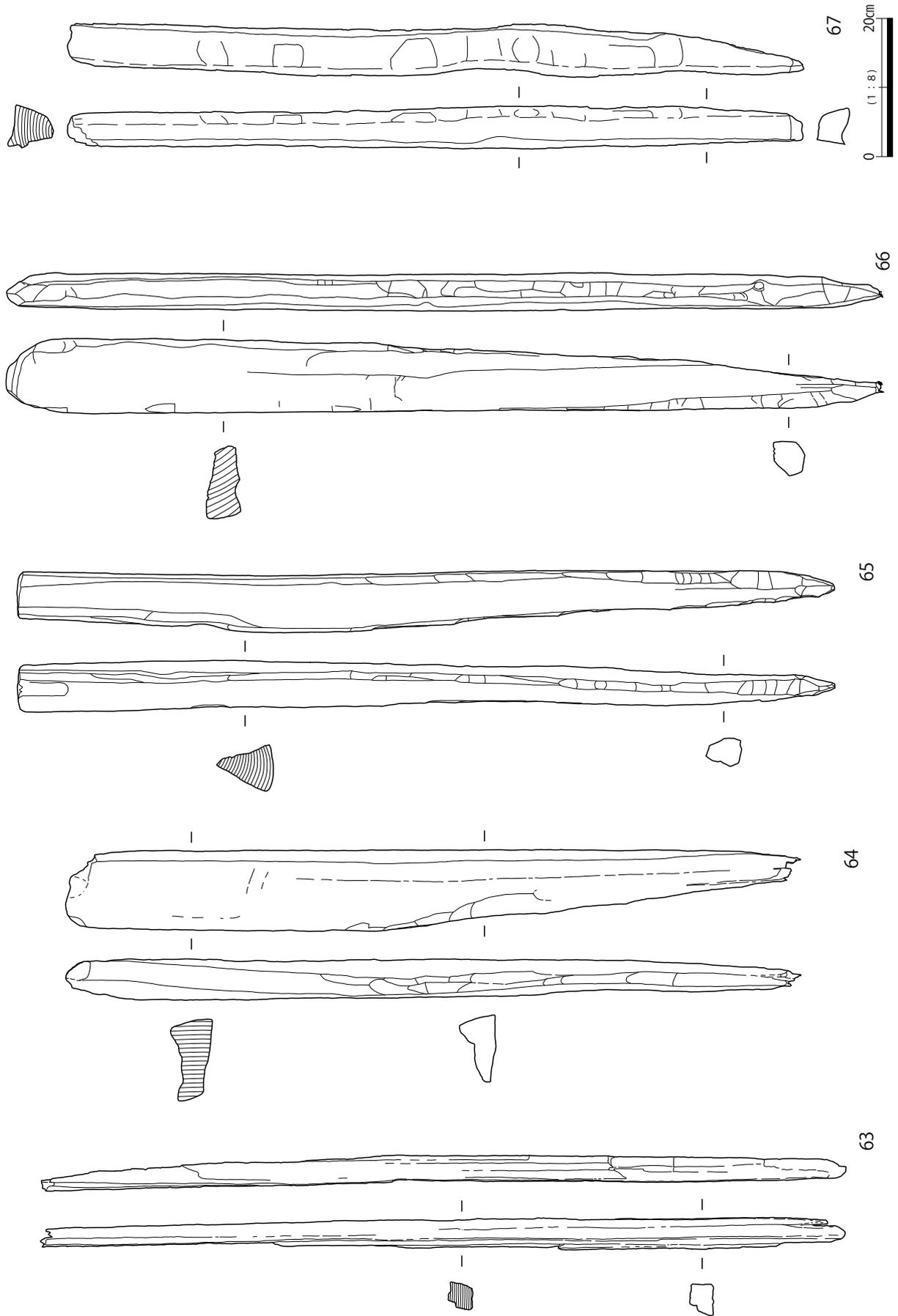
第IV-5-13 图 第5区2溝出土木器 (13)



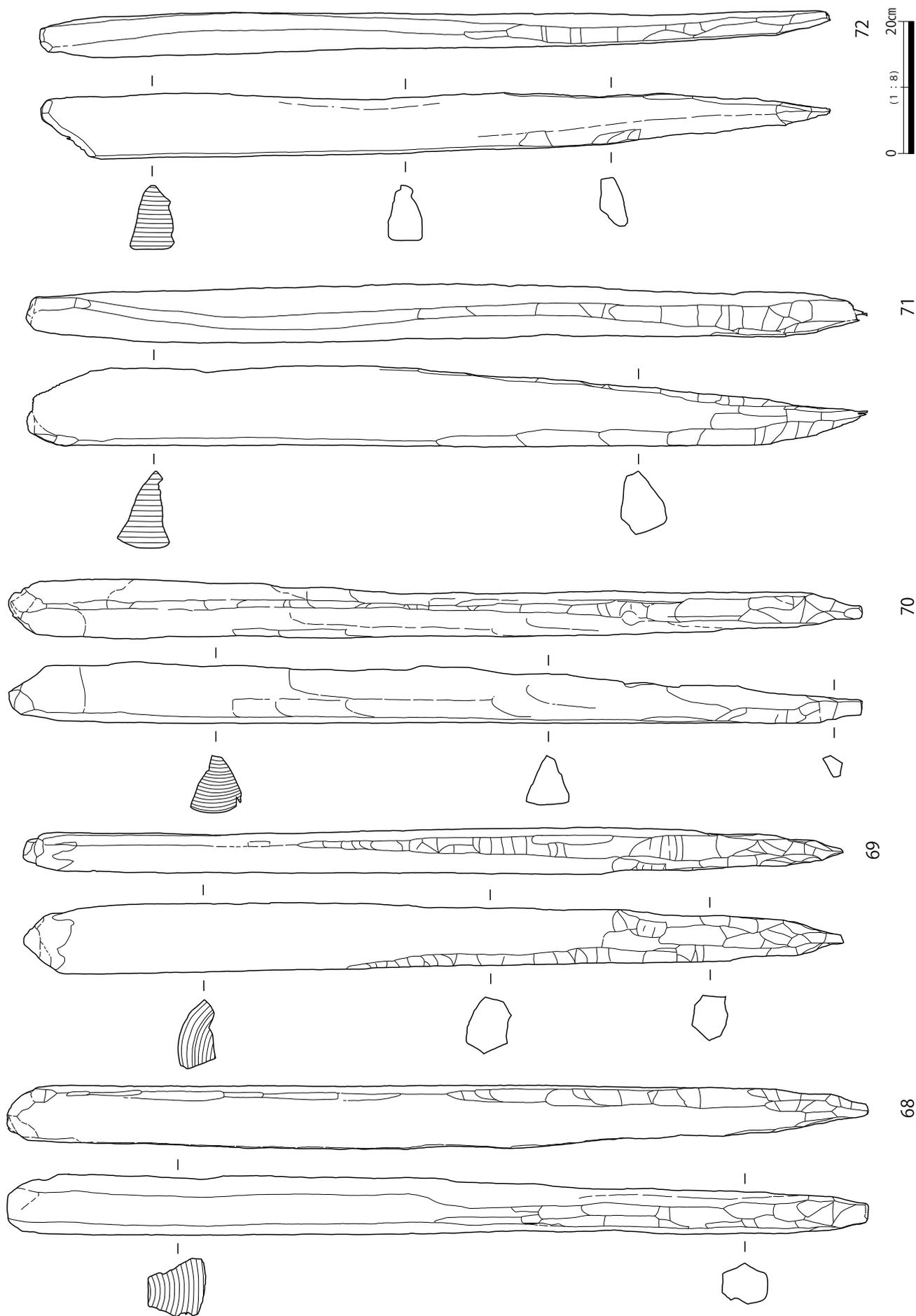
第IV-5-14图 第5区2溝出土木器 (14)



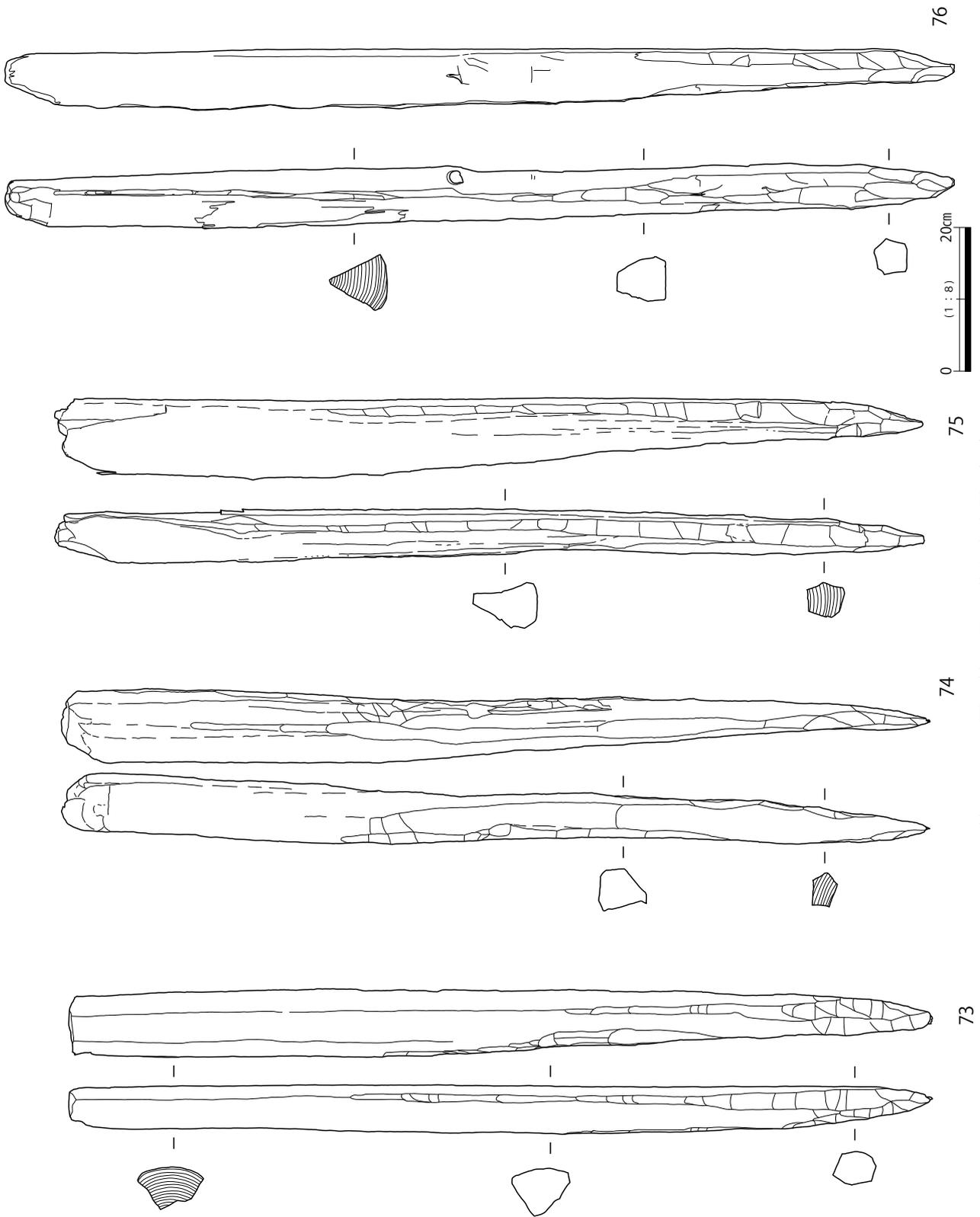
第IV-5-15图 第5区2溝出土木器 (15)



第IV-5-16 区 第5区2溝出土木器 (16)



第IV-5-17图 第5区2沟出土木器(17)

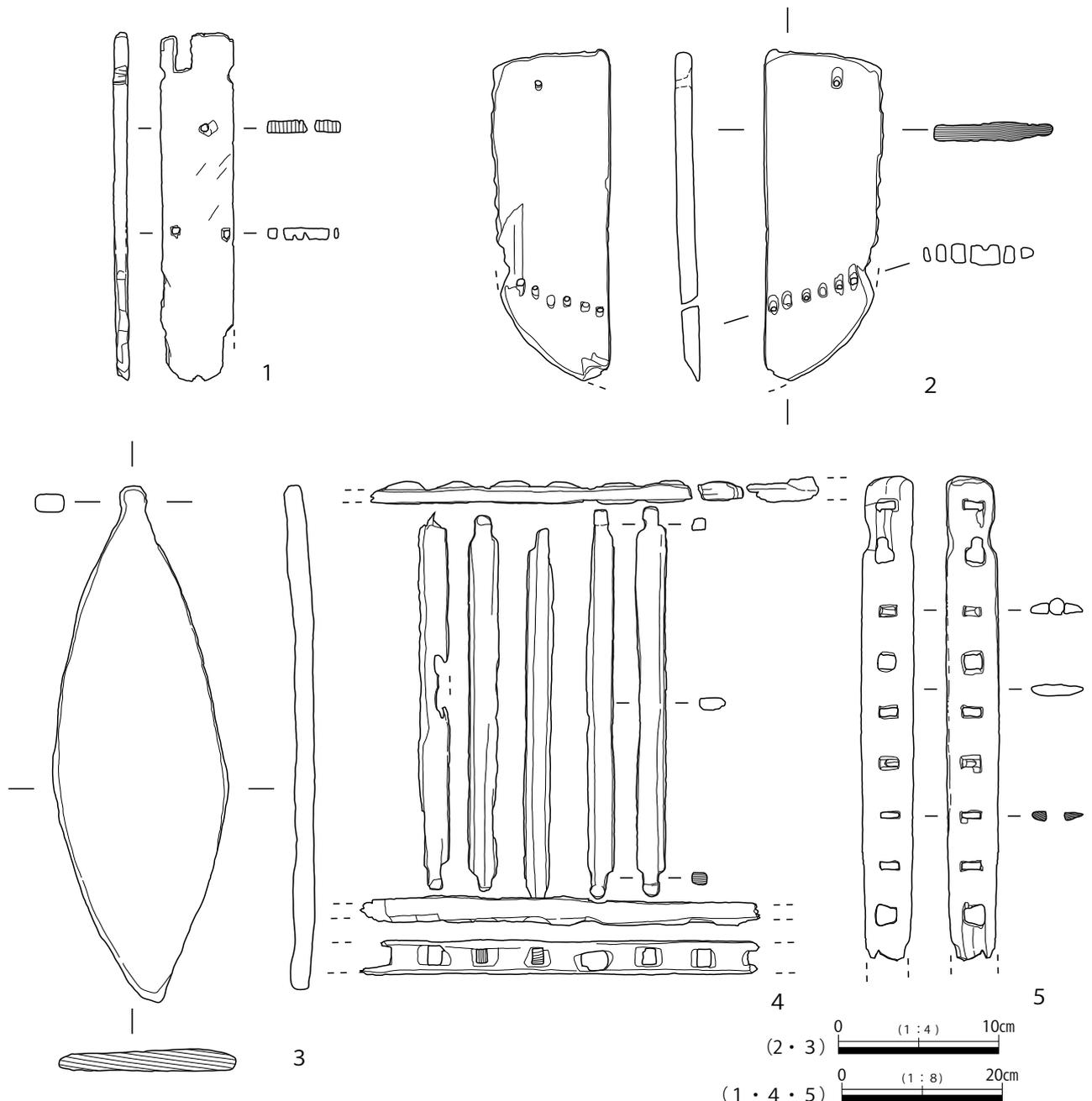


第IV-5-18 图 第5区2溝出土木器 (18)

第2項 4 落ち込み出土木器 [第IV -5-19 ~ 50 図 図版 13-2 ~ 31]

4 落ち込みは、5区南西隅で検出された池状の落ち込みで、そこから大型の溝である2溝に繋がっている。落ち込み内からは、幾重にも重なった状況で木製構造物が見つかり、木製構造物を構成する杭や矢板、大型の横木などが建築部材の転用品と共に数多く出土している。その他にも製品類が出土しているが、4 落ち込み周辺は弥生時代後期の居住域と重なっており、4 落ち込みを掘削する際にその時期のものが混入している可能性もある。

1は田下駄と考える。上方の両側面に挟りがみられ、表面には方形の孔が3箇所あけられている。2は連続した6つの穿孔がみられる板材である。孔は円形で径5mmほどである。また、上部にも1箇所穿孔があり、これも田下駄と考える。3は平面柳葉形の厚さ1.3cmの板材で、端部に着柄軸をもつ。組み合わせの平鋤とも考えられるが、樹種はスギで、着柄軸のつくりも弱く、刃先がつくられていない。



第IV -5-19 図 第5区4 落ち込み出土木器 (1)

いことから、ここでは鋤状木製品としておく。4、5は大足と考えられる。4は各部材が組み合わさった状況で出土している。杵部分は6つの方形の孔があいており、そこに5本の部材が残存していた。部材は全長48cm、幅3.2cm、厚さ1cmほどの板材で、両端を有頭状に加工している。5は杵部分のみである。断面半円形の長さ61cm、幅6.6cm、厚さ1.4cmの板材に9箇所の方形の孔があげられており、部材が入ったままの状態の部分もあった。

6、7は掛矢である。6は、ニヨウマツの大型の芯持丸太を使ったもので、全長は41cmある。握り部を丁寧な加工でつくりだしている。使用による窪みが1箇所認められる。7はヤブツバキ製で、木が二股に分かれる部分を使った掛矢である。6と同様に握り部は丁寧な加工でつくられている。明瞭な使用による窪みなどの痕跡はみつかっていないが、表裏両面とも中心部分を平坦に加工している。

8、9は指物腰掛の脚である。8は上部と下部両端部がほぼ同じ幅であり、その間の両側面はくびれた形をしている。上部の座板との結合部は欠損している。9は上端よりも下端の方が幅広く、両側面は上端から10cmほどまでは直線的であるが、そこからゆるやかに外湾し、下端より5cmほどの所で再び直線的になっている。こちらも座板との接合部分は欠損している。いずれもスギの板目板を使用している。

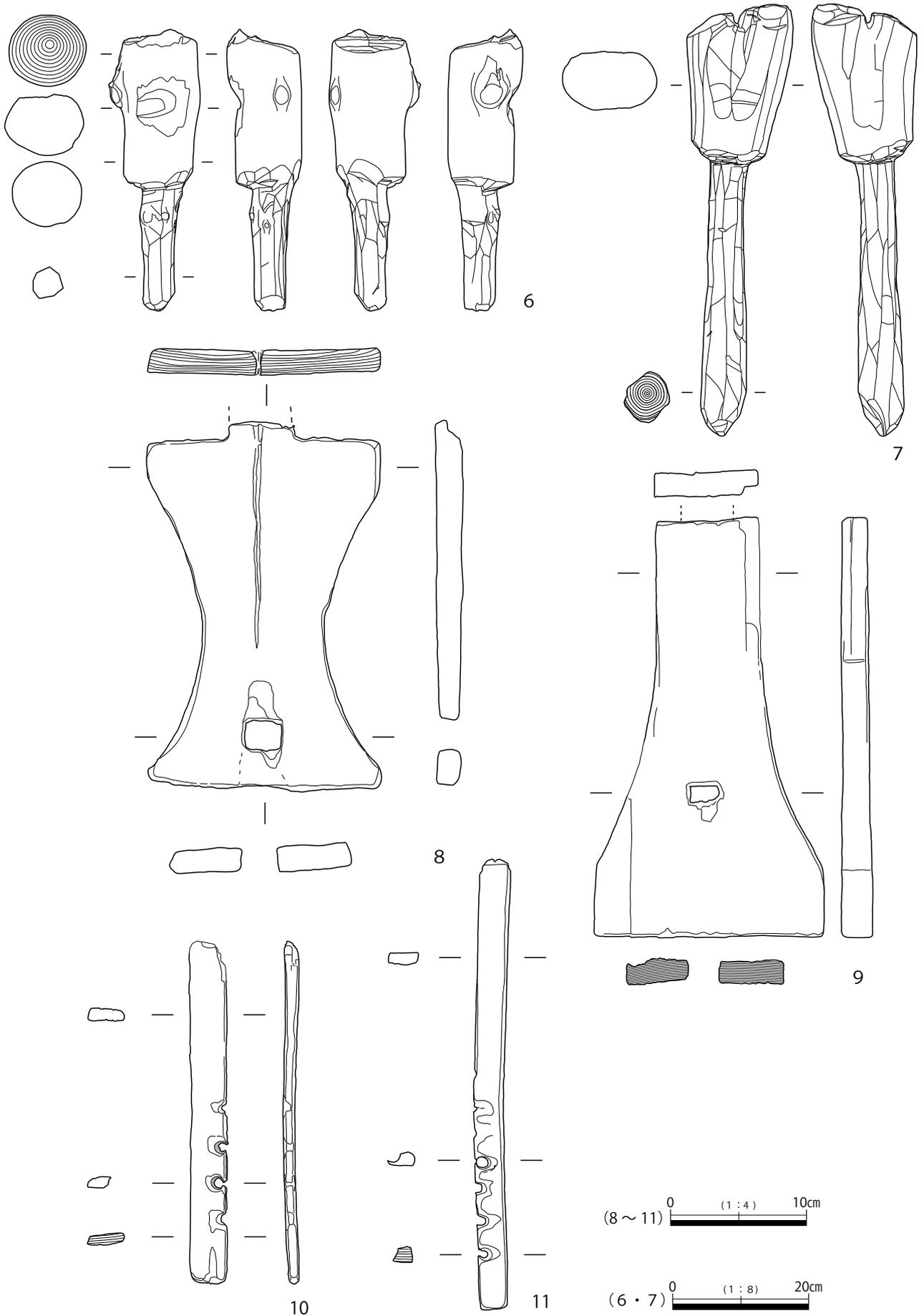
10と11は火きり板である。いずれも長さ20cm以上、幅2～2.8cm、厚さ1cmほどの板材に4箇所の火きり孔があるが、10には2箇所炭化している箇所があるが、11には孔が開いていない。ただし、発火を試みた途中のような痕跡がある。

12は槽である。半分ほどが欠損している。短辺、長辺ともに斜め上方に開く。底面や長辺立ち上がりと比較して短辺立ち上がり部分の厚さが厚い。内・外面に刃物によって切りつけた跡が多く残っている。13は槽または盤であるが、立ち上がり部分も含めて多くが欠損していると思われる。現存で長さ84cm、幅20.4cm、高さ2.5cmほどが残っている。上端部には幅9cmほどの平坦部が巡っている。

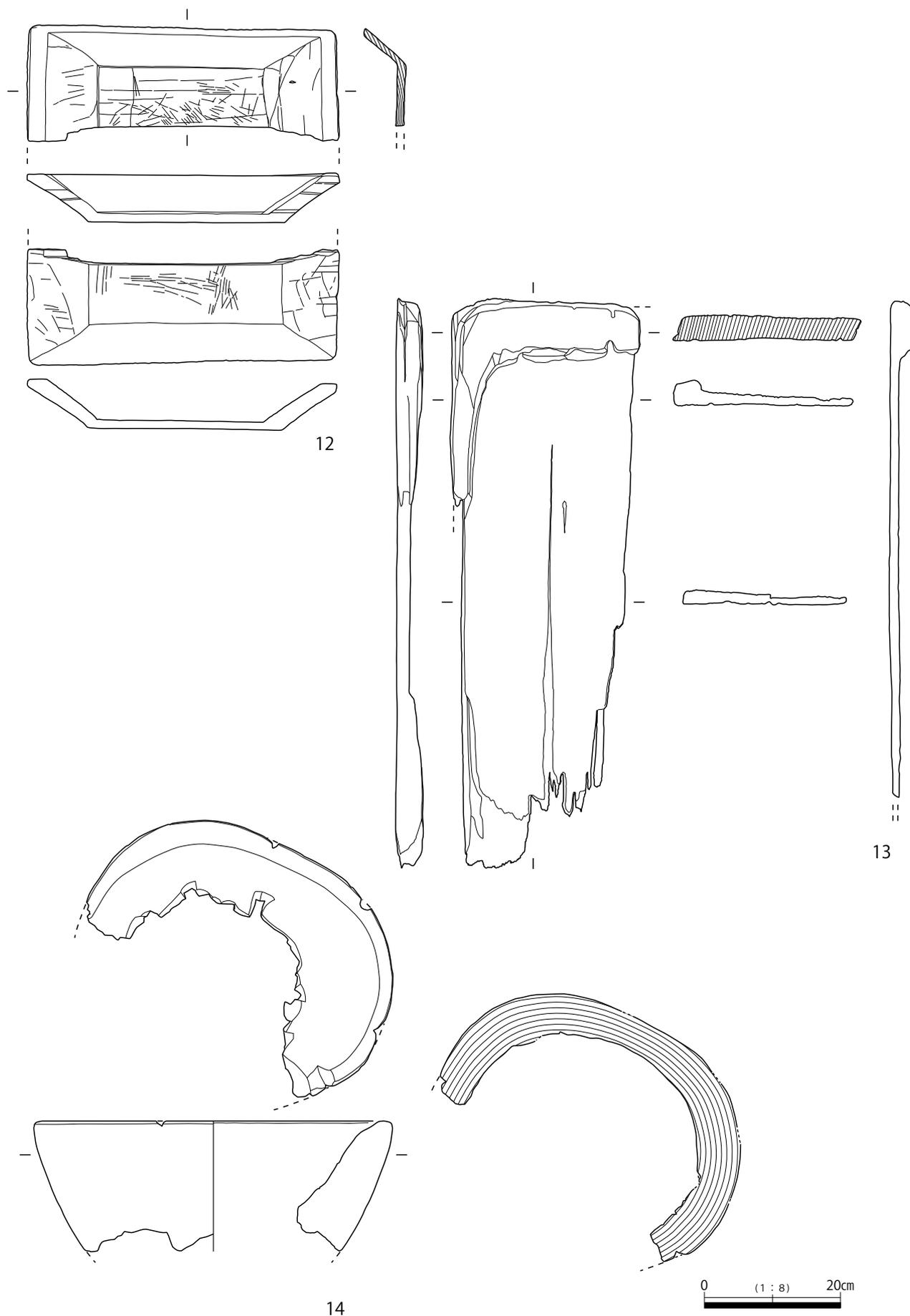
14は臼である。約半分ほどが残存している。上から見ると楕円形を呈す。木取りは縦木取りで、樹種はヤナギ属。長径52cm、残存高19.2cm、厚さは8cmほどである。内面に使用痕は見当たらない。内・外面全面に焦げが認められる。15も臼である。ほとんどの部分が残存しており、外反する脚がついている。上から見ると楕円形を呈し、長径48.8cm、短径40cm、高さ55.2cm、そのうち脚の高さは24.5cmである。下側つまり脚からみるとほぼ正円に近く、径は38～41cmである。内面は深く掘り込んでいるが、加工は荒く、未成品と思われる。樹種はヤナギ属で、木取りは縦木取りである。内面底からの高さは19.6cmである。使用痕は見当たらないが、焦げが付いた部分がある。

16は鳥形木製品である。板材ではなく、厚手の角材を使用し、尾の部分の断面は楕円形となっている。全長18.3cm、幅3.8cm、厚さ3.4cmをはかる。

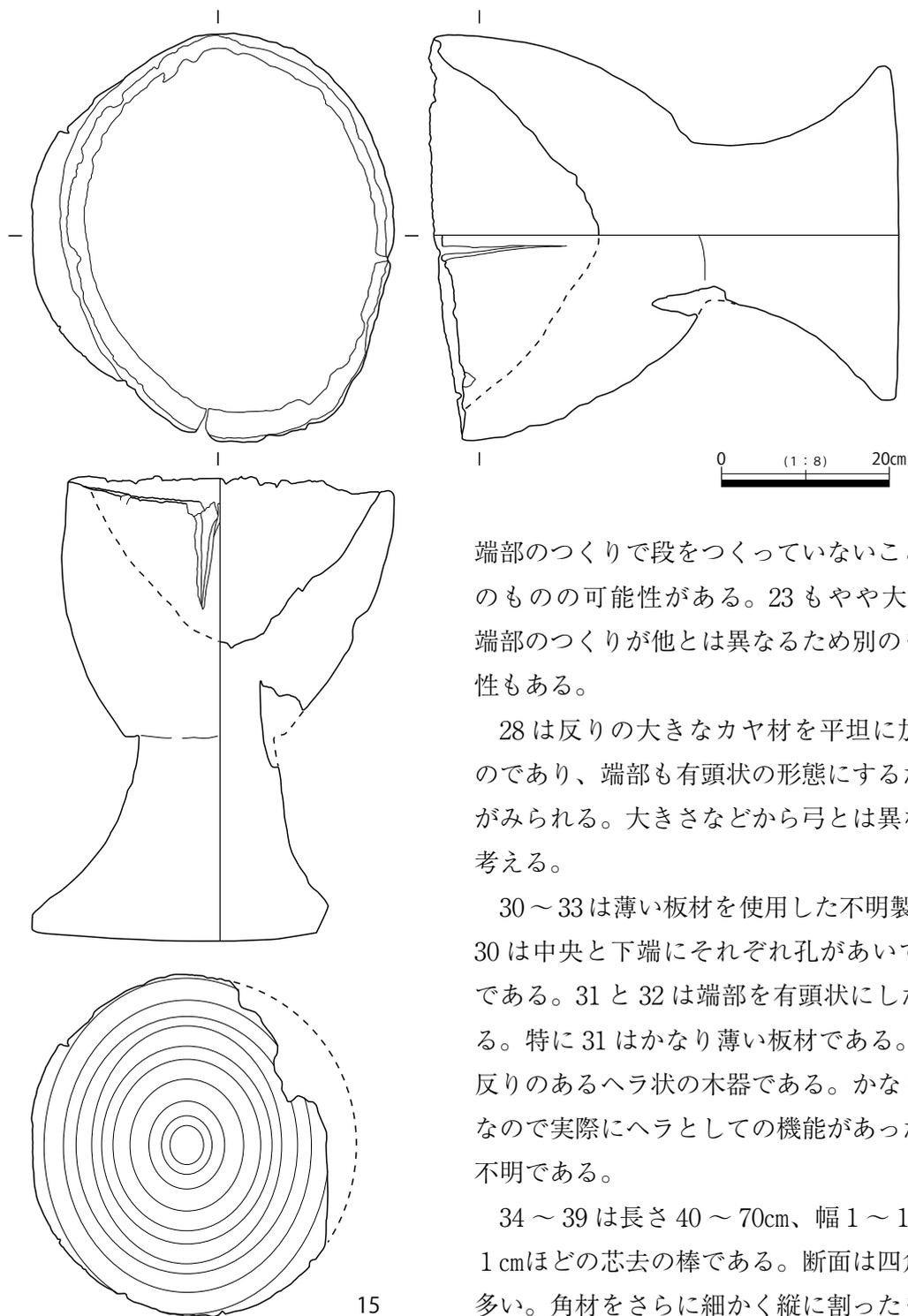
17～33は用途不明の製品である。17は全長42.2cm、幅13.8cm、厚さ2.4cmのスギの板目材で、平面は上部が丸く途中から直線的になり、下部にいくほど広がっていく。腰掛の脚の可能性はある。上部に幅5cm、深さ1cmほどの段差をつくり、その中央部に一辺5cmの方形の孔があげられている。18～21は、板材の端部両側面をけずり、平面三角形状にし、反対側の端部にいくにしたがい、細くなっている形態のものである。中心に稜をつくり、断面は菱形に近い形態である。いずれも形態、大きさがほぼ同じであり、全長28～31cm、幅3cm、厚さ1.3cmほどである。22～27は芯去丸太の半割材を使用し、両端に段をつけて丁寧な加工で平面三角形にしている。断面は半円状である。23～27はほぼ同じ大きさで、長さは45cm、幅、厚さ3cmほどである。22は大型品で途中が欠損している。また、



第IV-5-20 図 第5区4落ち込み出土木器 (2)



第IV-5-21 图 第5区4 落ち込み出土木器 (3)



端部のつくりで段をつくっていないことから、別のものの可能性がある。23もやや大型であり、端部のつくりが他とは異なるため別のものの可能性もある。

28は反りの大きなカヤ材を平坦に加工したものであり、端部も有頭状の形態にするための加工がみられる。大きさなどから弓とは異なるものとする。

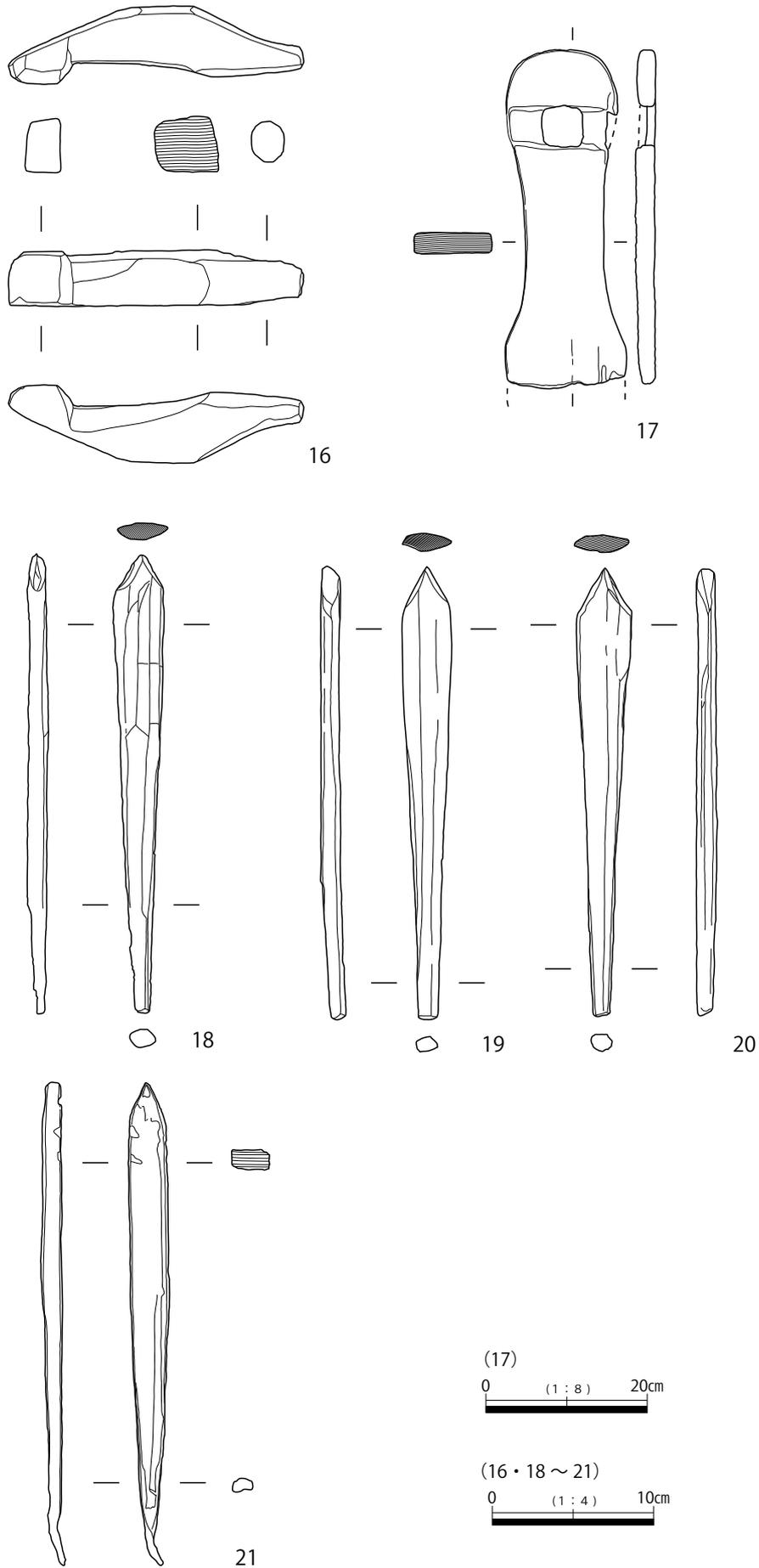
30～33は薄い板材を使用した不明製品である。30は中央と下端にそれぞれ孔があいていた板材である。31と32は端部を有頭状にしたものである。特に31はかなり薄い板材である。33はやや反りのあるヘラ状の木器である。かなり薄い板材なので実際にヘラとしての機能があったかどうか不明である。

34～39は長さ40～70cm、幅1～1.5cm、厚さ1cmほどの芯去の棒である。断面は四角のものが多。角材をさらに細かく縦に割ったものと考えられる。4落ち込み内でまとまって出土している。

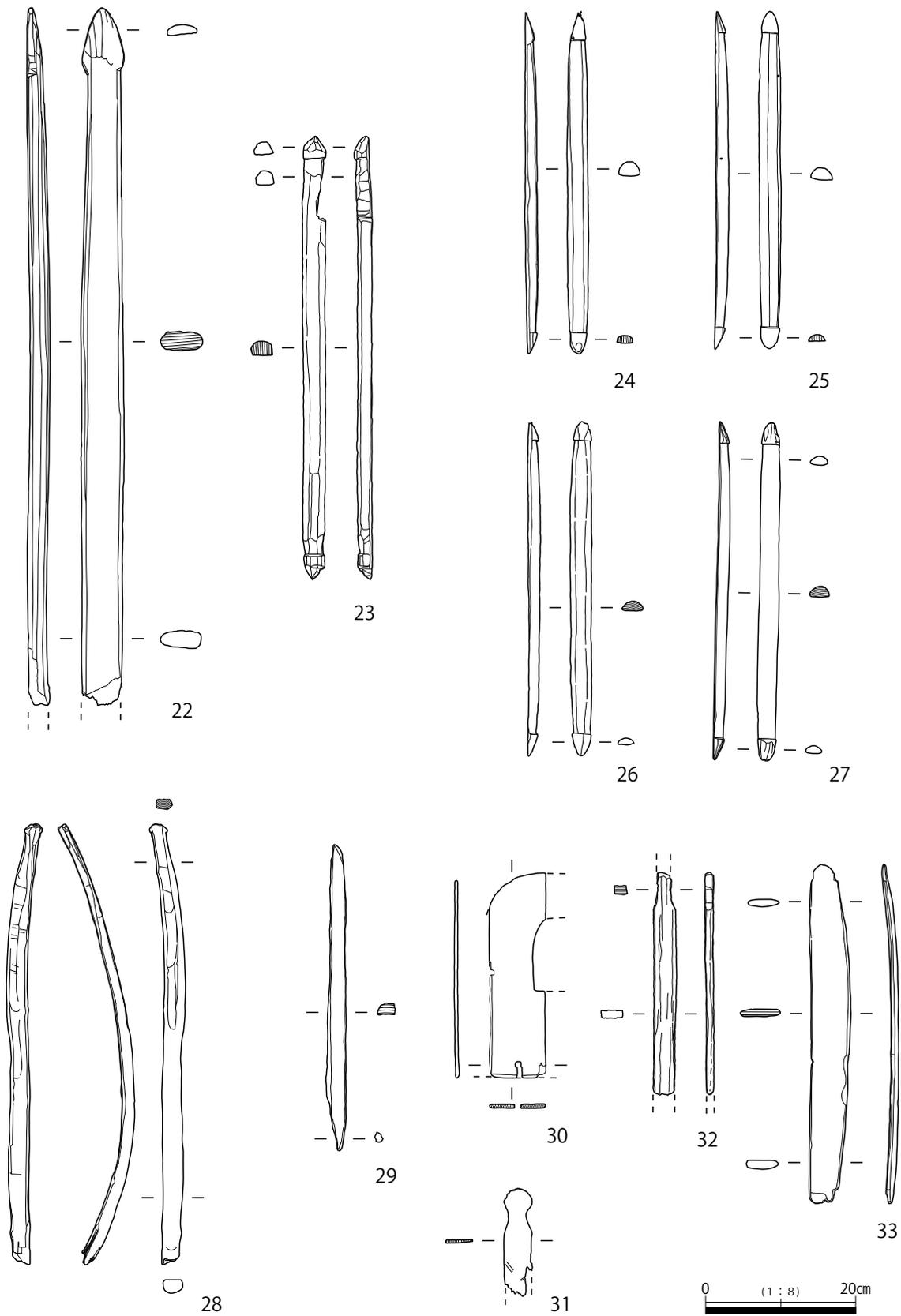
第IV-5-22 図 第5区4落ち込み出土木器(4)

樹種はスギであり、編みカゴに使うようなひこ籬状の素材の加工途中のものと考えられる。

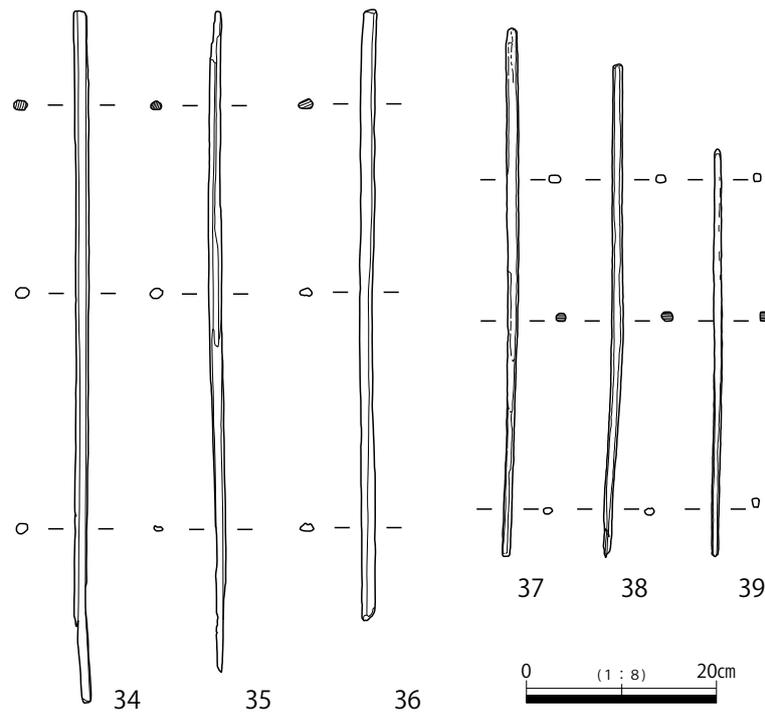
40～45は柱材と考えられるもので、基本的に芯持丸太材を使用し、方形の穿孔が認められるものである。40は縦に半割されているが、本来は径15cmほどの円柱形であったと考えられる。全長は227cmあり、下半部50cmほどの範囲を細く加工している。断面方形で長辺12cm、短辺7cmほどである。貫孔と考えられる孔が4箇所認められる。同方向のものと90度直交するものの2者がある。真ん中にある2つの孔は、半割されているが、長さ11cmほどの方形の孔である。上端よりやや下がった位



第IV -5-23 図 第5区4落ち込み出土木器 (5)



第IV-5-24 图 第5区4落ち込み出土木器 (6)



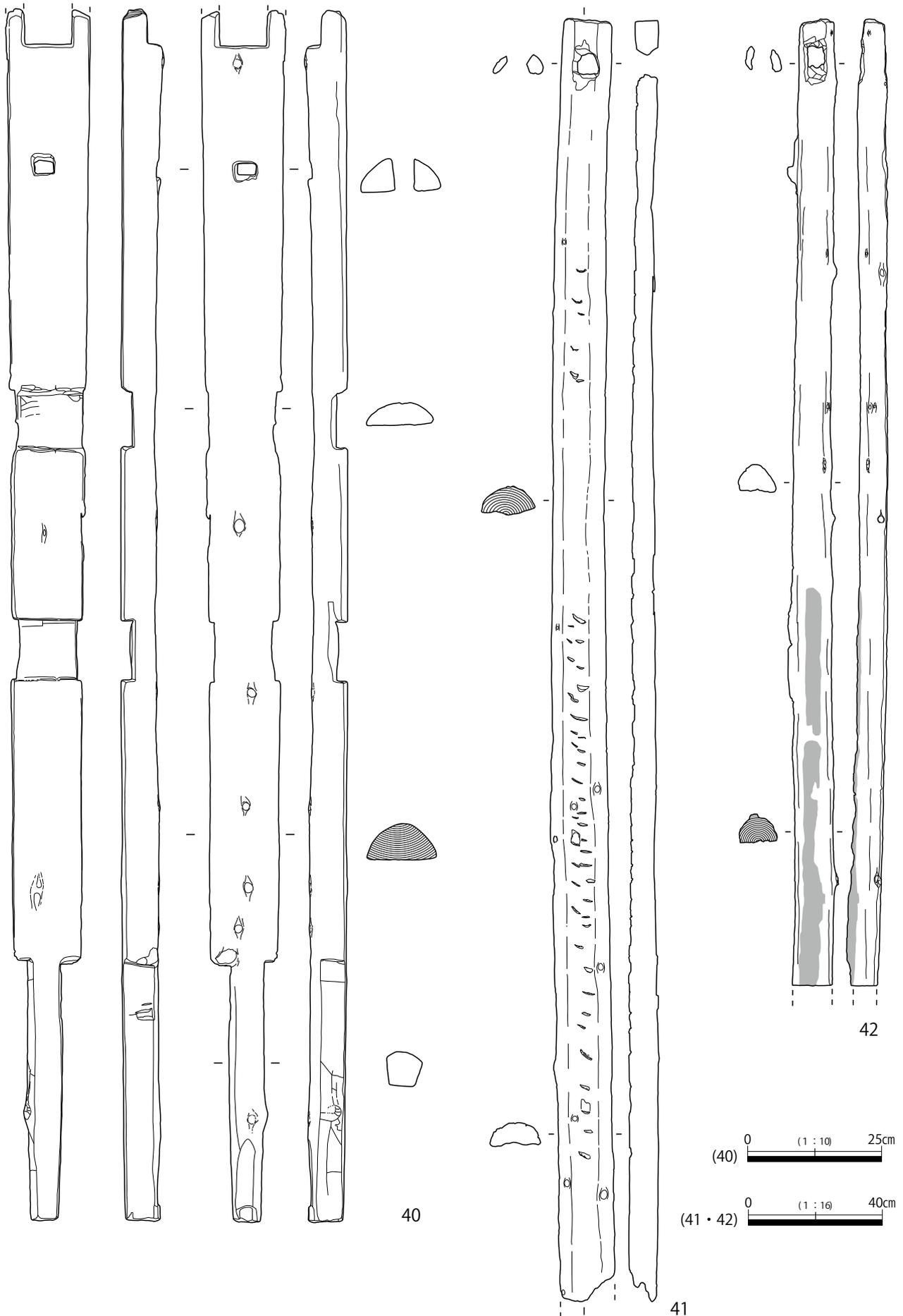
第IV-5-25 図 第5区4落ち込み出土木器（7）

置にある孔は $3.5 \times 2.5\text{cm}$ ほどで、他と比較しても小さく、別の機能の可能性もある。41 は全長 389cm をはかる大型の材で、表面に幅 $3 \sim 5\text{cm}$ の刃先の跡が連続して残っている。42 は表面に焼けた痕跡が残っている。43 は径 10cm ほどのニヨウマツの芯持丸太材を用いたもので、上端部を斜めに切っている。44 は反りが認められるが、この状況で使用していたかは不明である。この資料の上端部も斜めに切られている。45 はニヨウマツの芯持丸太材を用いたもので、全長 317cm をはかる。上端と下端は共に斜めに切られている。さらに上端、下端近くでともに方形の孔が穿孔されている。全体にわたって平坦面があるが、下半部で幅 $3 \sim 4\text{cm}$ の工具による加工の跡が認められる。

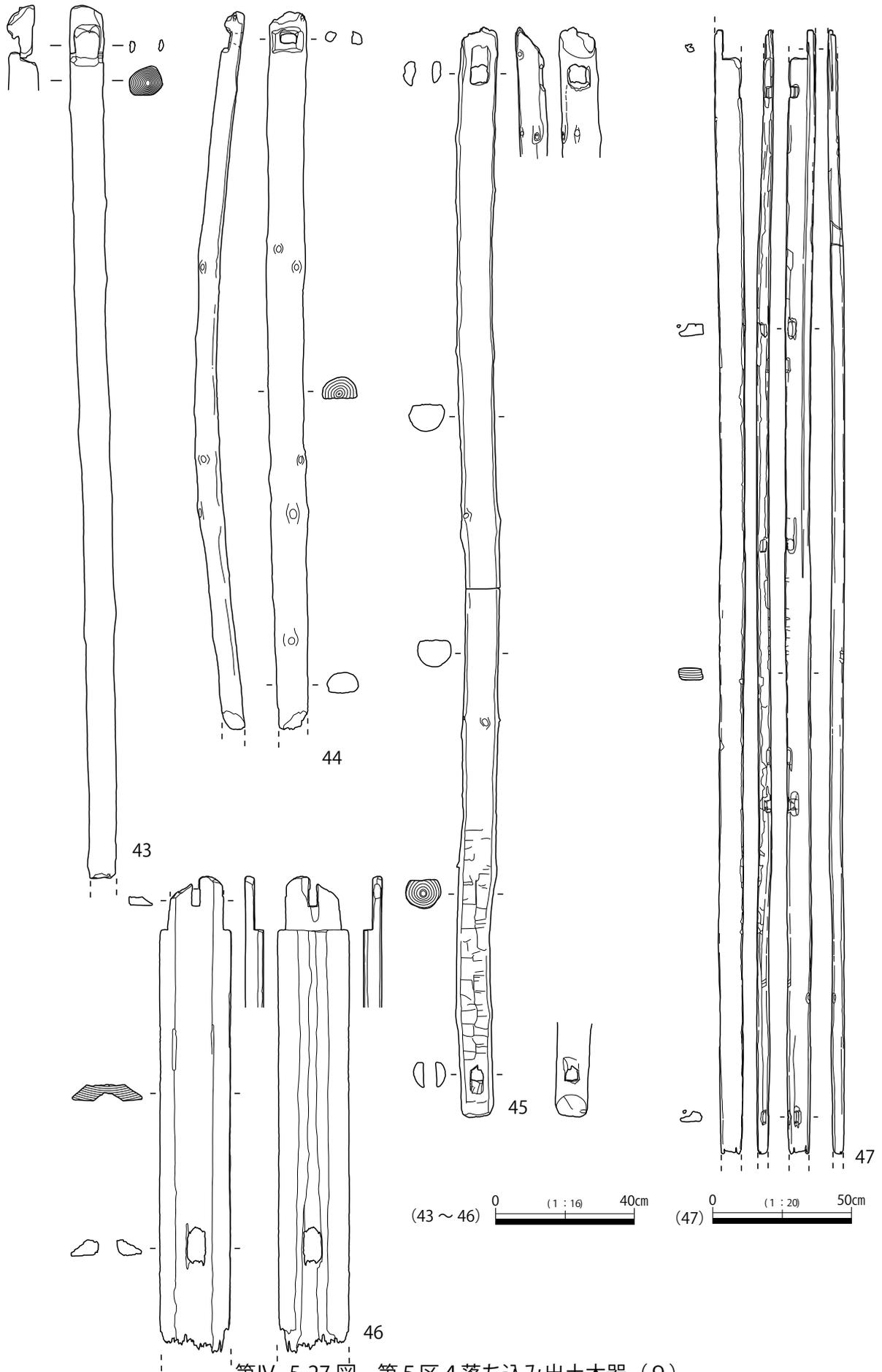
46 は断面台形の板目材であり、長さ 138cm 、幅 20cm をはかる。内面に幅 8cm 、深さ 1cm ほどの溝状の窪みが認められる。表面には $9.5 \times 2\text{cm}$ ほどの方形の孔が認められる。また、先端部では内面に段差をつくっており、そこから厚さが半分ほどになっている。大きさ等から、柱などに関係する建築材と考えられる。

47 は長さ 400cm を超える長い板材であり、片側側縁に5箇所、長さ $5 \sim 6.5\text{cm}$ 、幅 3cm ほどの方形の孔を表面から 1cm ほどあけ、そこから側面方向へぬける、断面L字形の孔をあけている。孔同士の間隔は $80 \sim 120\text{cm}$ とバラつきがある。紐をひっかける為の構造であり、建築部材の桁と考えられる。

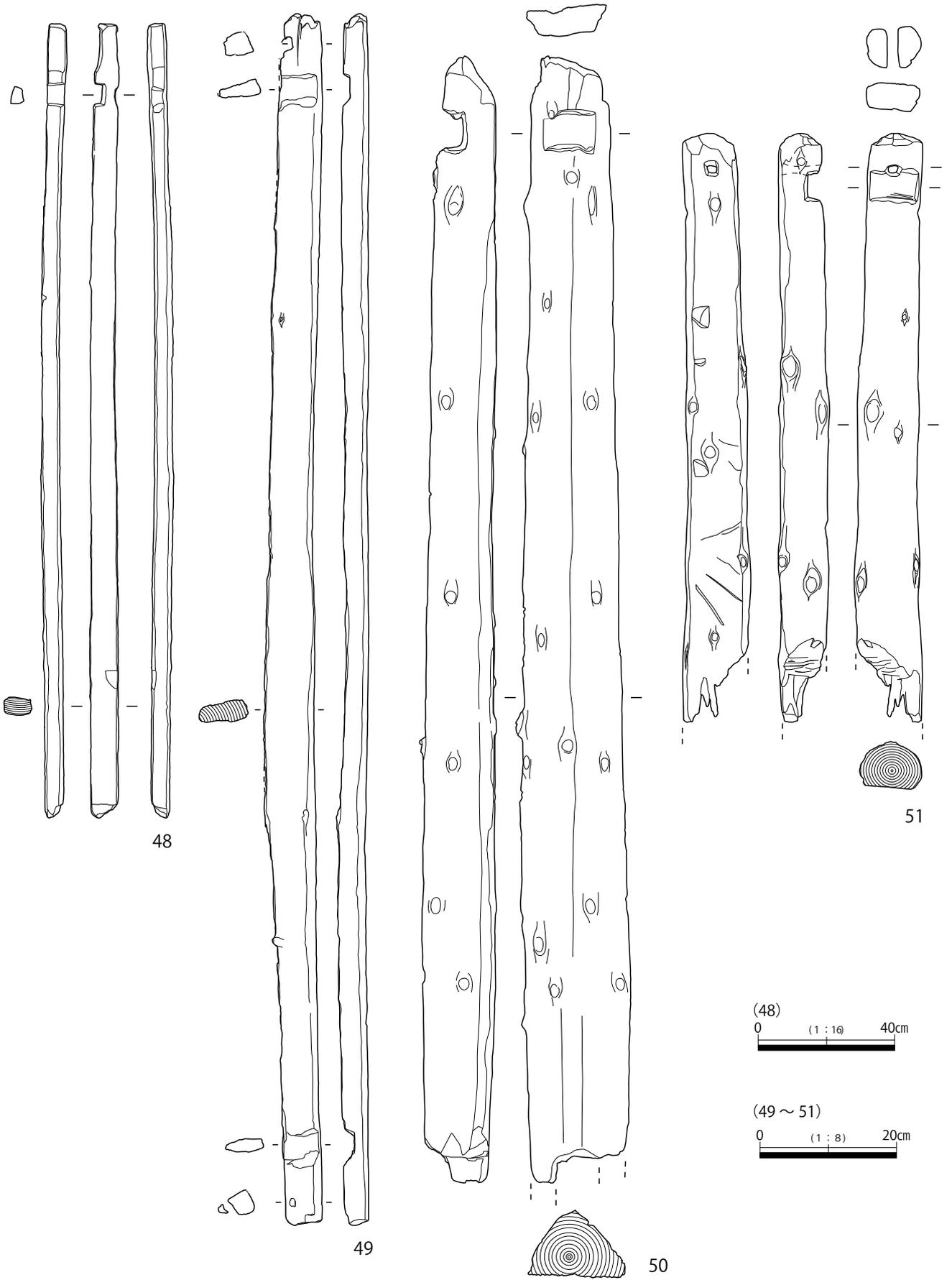
48 ～ 52 は長い板材の表面に方形の欠き込みを施しているものであり、建築部材の垂木や梁もしくは根太と考えられるものである。48 は先端を尖らせており、垂木と考えられるが、やや幅が大きいことから根太を分割して、杭等に転用した可能性もある。49 は柵目板を使用したもので、2箇所の欠き込みが確認でき、さらに下方に径 1.5cm ほどの円形の孔が穿孔されている。欠き込みの間隔は 310cm である。50 は断面三角形の芯持材を使用したものである。欠き込みは1箇所確認できるが、下端では方形の孔らしき痕跡が認められる。51 は梁と考えられるが、欠き込み部分の上端に一辺 1cm ほどの方形の孔があげられている。イヌマキの芯持丸太材で平坦面をもっている。52 は51 と形態が



第IV-5-26 图 第5区4落ち込み出土木器 (8)



第IV-5-27 図 第5区4落ち込み出土木器 (9)



第IV-5-28 图 第5区4落ち込み出土木器 (10)



第IV-5-29 図 第5区4落ち込み出土木器 (11)

ために、紐をかけて緊縛する機能があったとともに、大型のものについては、運搬の際に紐をかけて、運搬しやすいようにした可能性もある。

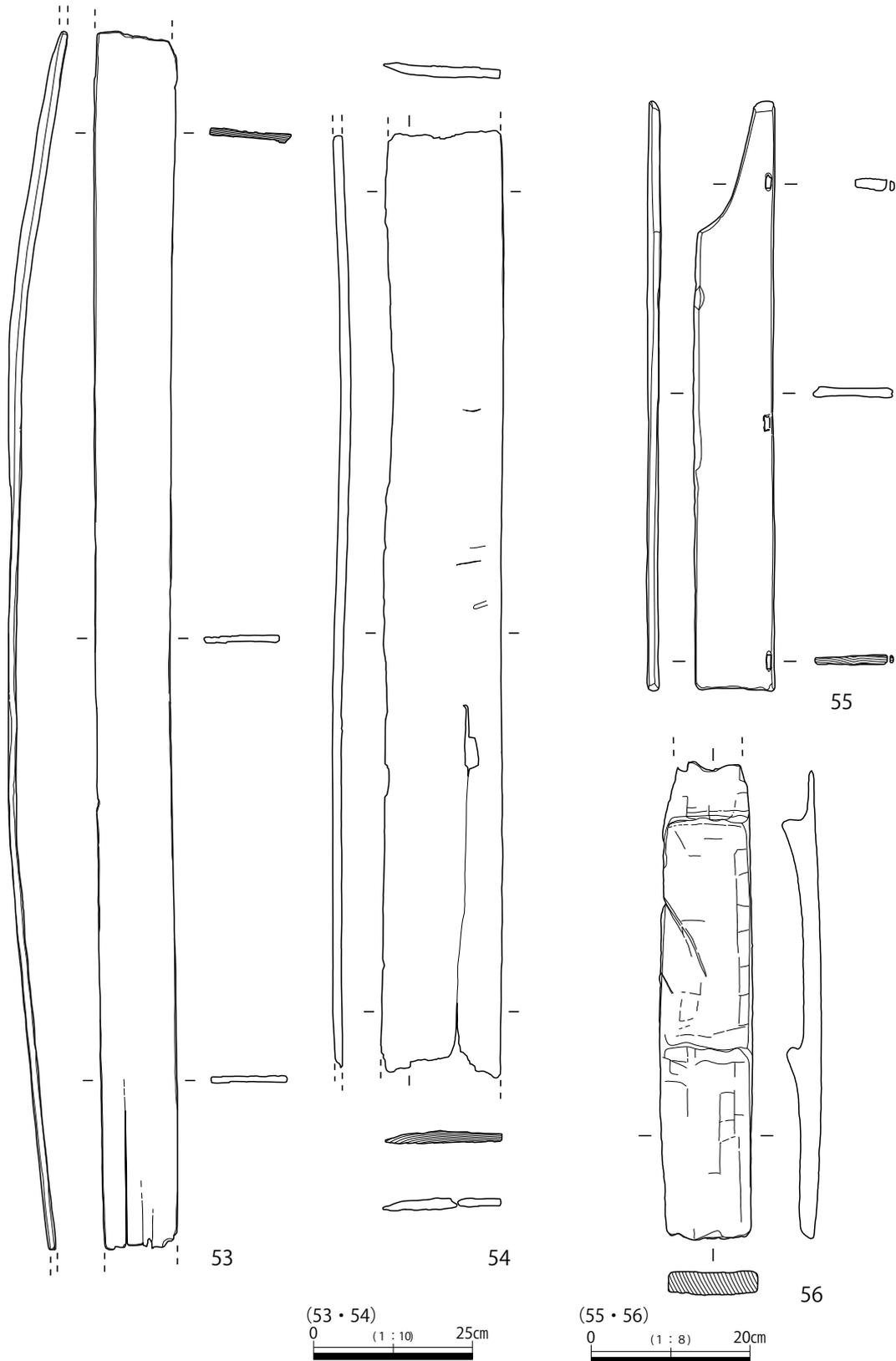
似ているが、方形の欠き込みではなく、そのまま上端断面がL字状になっている梁と考えられる。ムクロジの柾目材を使用しており、全面に加工痕が認められ、一部に焼けた跡も認められる。

53～55は大型の板材である。厚さが2cm未満の薄いもので壁板と考える。53は長さ192cmの長い板材で、後述する4落ち込みの板敷遺構から出土した板材と類似する。54はやや幅が広い板材である。55は、平面上半部が湾曲しながら細長く突出している板材である。片側側縁に2×1cmほどの方形の孔が3箇所認められる。孔の間隔はほぼ30cmである。柱もしくは壁板同士の緊縛固定用の孔だろう。

56は梯子である。全長60cm、幅11cm、厚さ4.3cmの柾目材を使用したものである。2段残存しており、段部分の平坦面の幅は1.5～2.5cmで、1段目と2段目の間隔は28cmほどである。

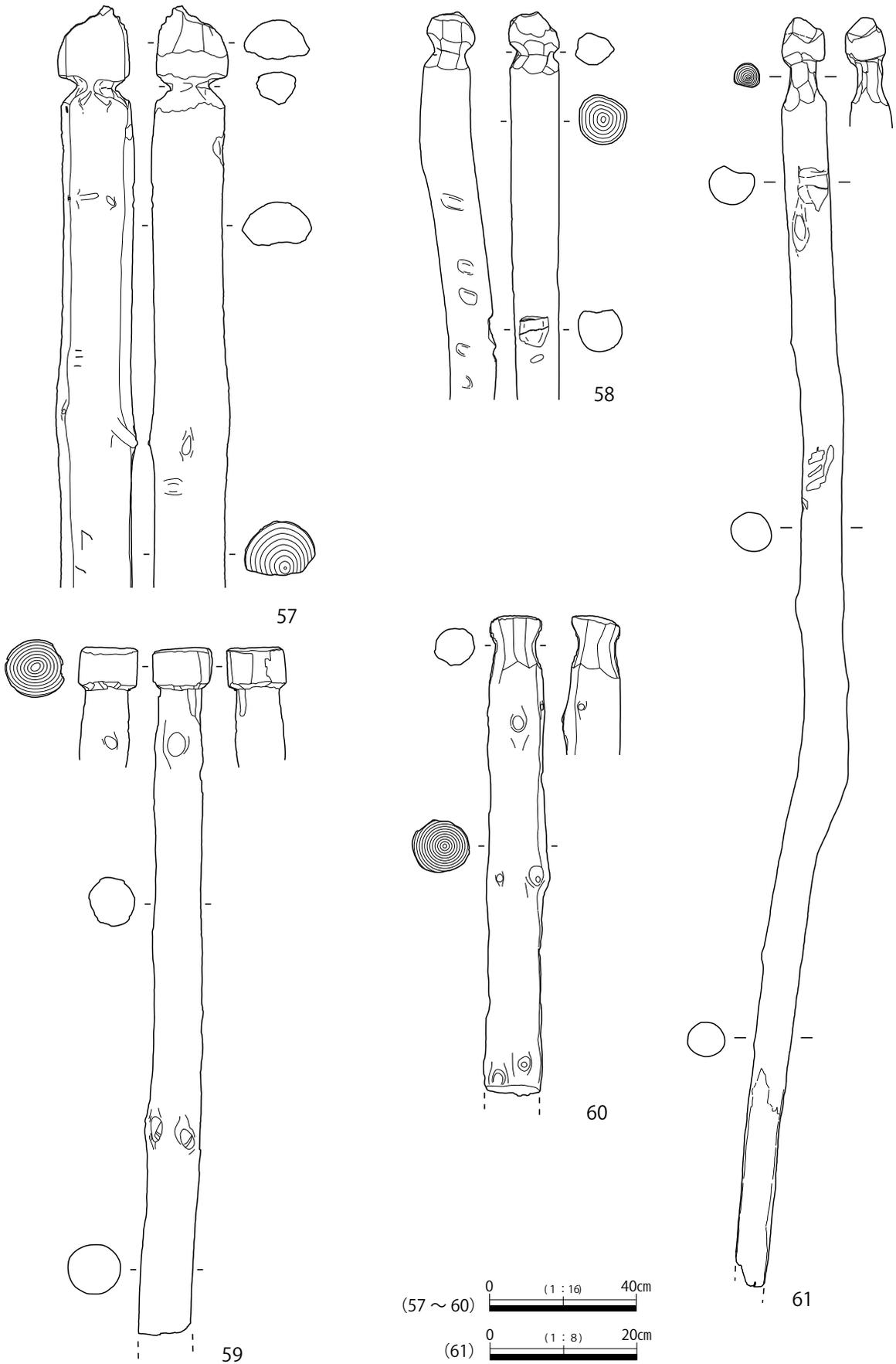
57～61は芯持丸太の先端部を加工し、有頭状にしたもので大型のものである。57、58は加工した周辺部分のみの実測であるが、全長は400cm前後のものである。57は、全長425cm、径21cmのゴヨウマツの先端を擬宝珠状に成形したものである。水流によるものか、平坦になっている部分がある。58は長さ394cm、径14cmのムクノキを加工したものである。上端から90cmほどの場所に欠き込みがある。59は径16cmほどのニヨウマツの芯持丸太材の上端10cmより下方を削って、径14.5cmほどに細めたものである。60は先端部全面を加工して有頭状にしている。樹種はニヨウマツである。61は全長174cm、径7cmのイヌマキの芯持丸太材を加工したもので、上端より23cmほどの位置に欠き込みがある。

これらはいずれも4落ち込み内の木製建造物の横木として用いられたものと考えられる。上端を有頭状に加工する以外は、一部欠き込みがあるのみである。この有頭状の部分は、他の部材と連結する

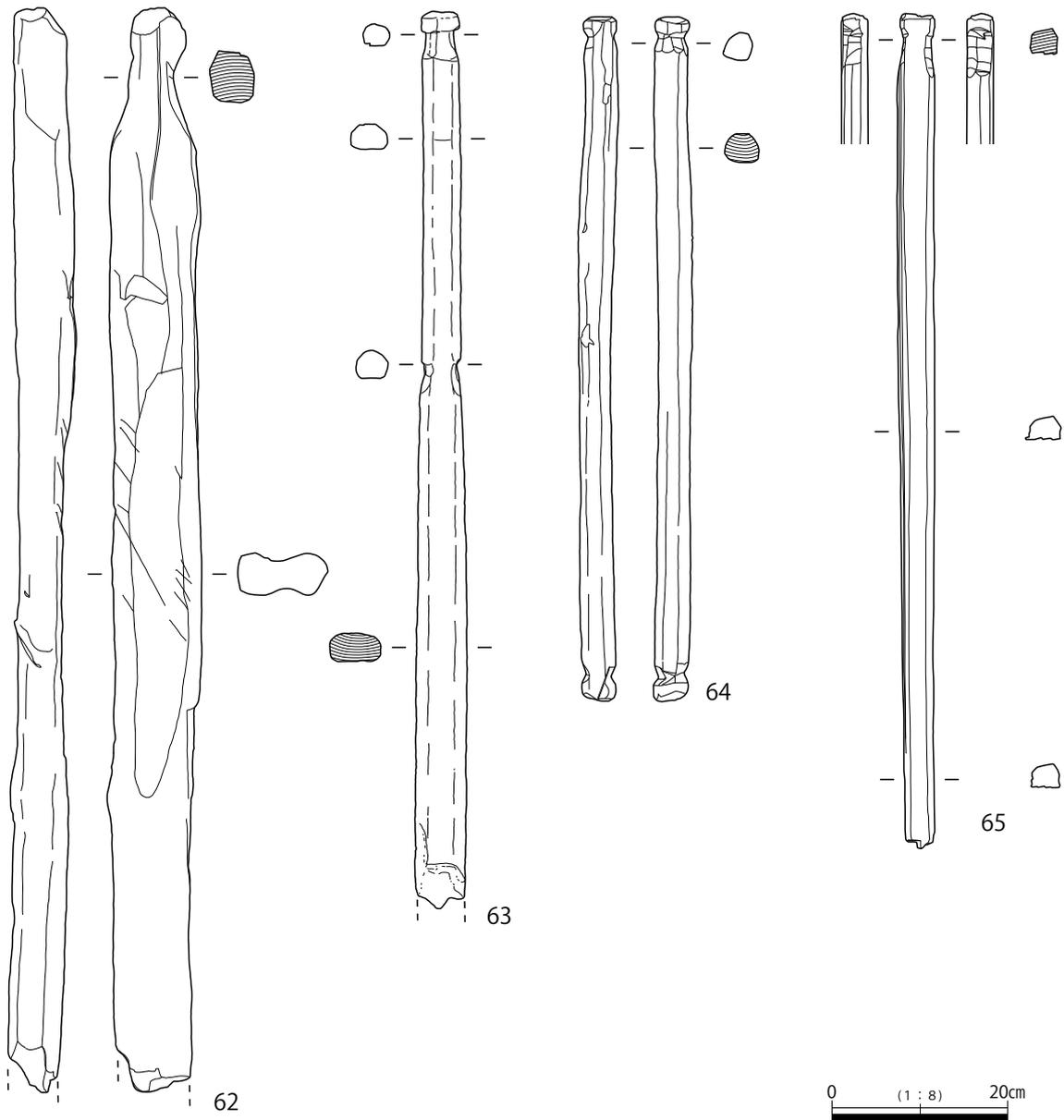


第IV-5-30 図 第5区4落ち込み出土木器 (12)

62～65は芯去材もしくは板材の端部を加工して、有頭状にしたものである。62はスギの板目材の先端を有頭状にしたものであるが、不整形である。63～65はほぼ同じような大きさで、幅4～6cm、厚さ2～3cmほどである。63は、先端から下端にかけて幅が広がっており、上端から42cmほどの位



第IV-5-31 図 第5区4落ち込み出土木器 (13)

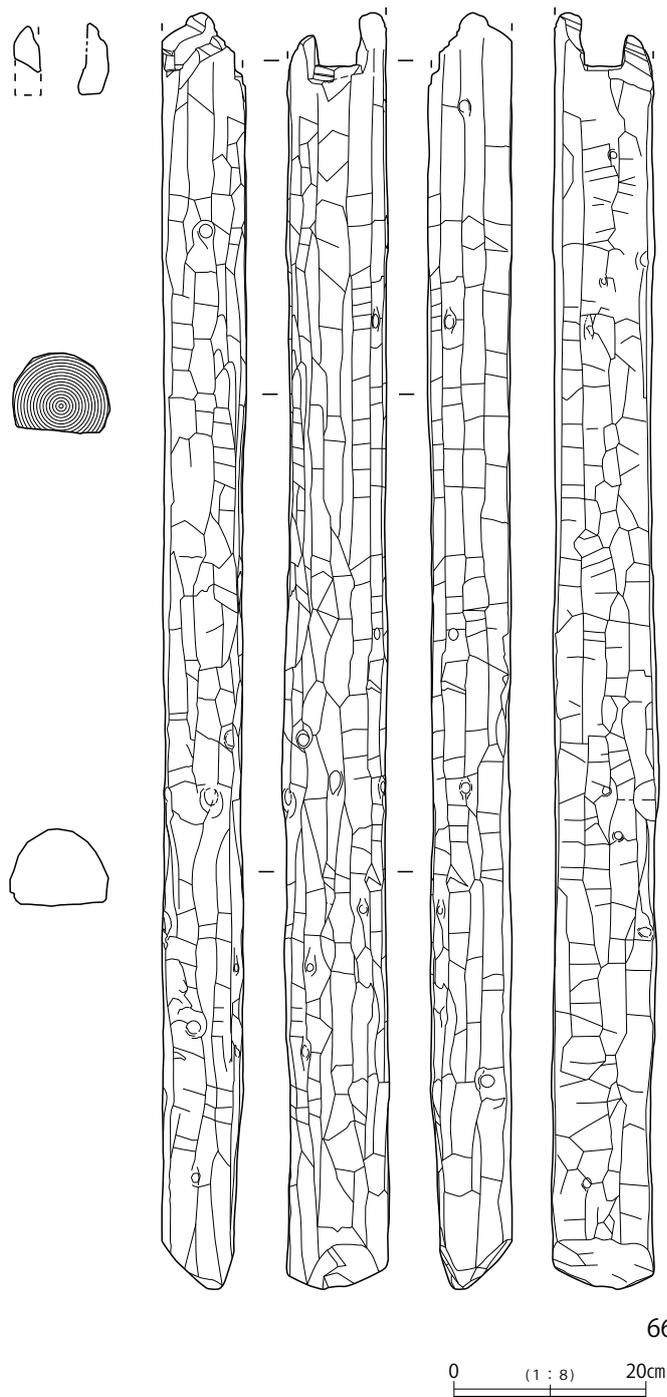


第IV -5-32 図 第5区4落ち込み出土木器 (14)

置には両側面から欠き込みが施されている。64は両端が有頭状になっており、完形品である。スギの芯去丸太材で全長78.4cm、幅4.4cm、厚さ3.3cmをはかる。65は63、64と比較して扁平であるが、同様に丁寧な加工を施した有頭状の端部をもつ。樹種はムクノキである。

66は柱材を転用した杭と考える。径10cmほどのイヌマキの芯持丸太材に、幅2～3cmほどの工具で全面丁寧な加工をしている。上端では、切断されているものの幅4cm、長さ4cm以上の方形の貫孔が確認できる。

67～69は有頭状の端部をもつ芯持丸太材を使用した杭である。67、68は300cmを超える大型品である。67は全面に加工痕が確認できるもので、樹種はサカキである。68は上端より15cmの位置に欠き込みがある。一部樹皮が残存しており、さらに表面には連続して刃物で切り付けたような跡が見つかっている。樹種は同じくサカキである。69は全長178cm、径6.8cmのカエデ属の芯持丸太材を使用しており、先端部には焼けた跡がある。



第IV-5-33 図 第5区4落ち込み出土木器 (15)

79は端部が有頭状に加工されており、元々は有頭状の製品であったものを転用したものかもしれない。表面には刃物によって何度も切られた跡が確認できる。81は、カヤの芯持丸太材の先端部に2方向から欠き込みを入れて凸状にしたものである。凸状部分は現存長19cm、幅10cm、厚さ4cmほどである。表面には樹皮と焼け跡が確認できる。

82～85は芯持丸太材を用いた杭である。82は先端部が腐食している。逆の先端部には孔もしくは欠き込みがあった可能性がある。83はイヌマキの芯持丸太材の上部に欠き込みを施したものだが樹種や木取りなどから根太や垂木を転用した可能性は少ない。表面に刃物で何重にも切った痕が認められる。84も同様に上端部に欠き込みがある。中央部分には幅2～3cmほどの工具痕が明瞭に確認でき、

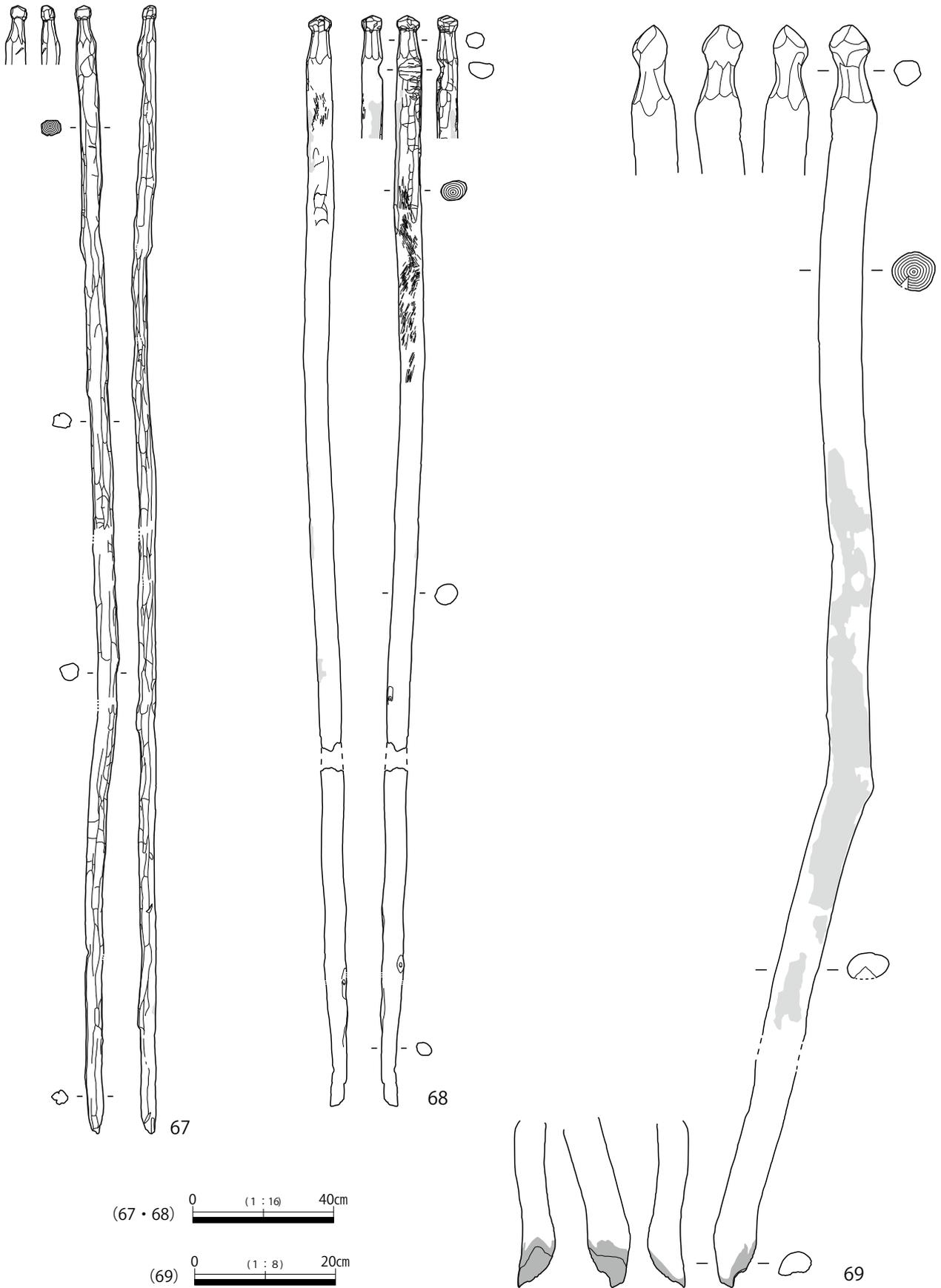
70～73は、芯持丸太材の先端を有頭状に加工したものの小型品である。70は長さ144cm、径5.6cmのヤナギ属の芯持丸太材である。71は上端より20cmの位置に欠き込みがある。72は全面樹皮が残っており、有頭状の先端の加工部分と上端から29cm下にある欠き込み部分のみ、樹皮が剥がされている。樹種はニヨウマツである。

74は木の二股部分を利用したもので、4落ち込み内では支保工と呼ばれたものである。全長144cm、径12cmのクリの芯持丸太で、二股部分の先端を全面加工して杭状に尖らせている。

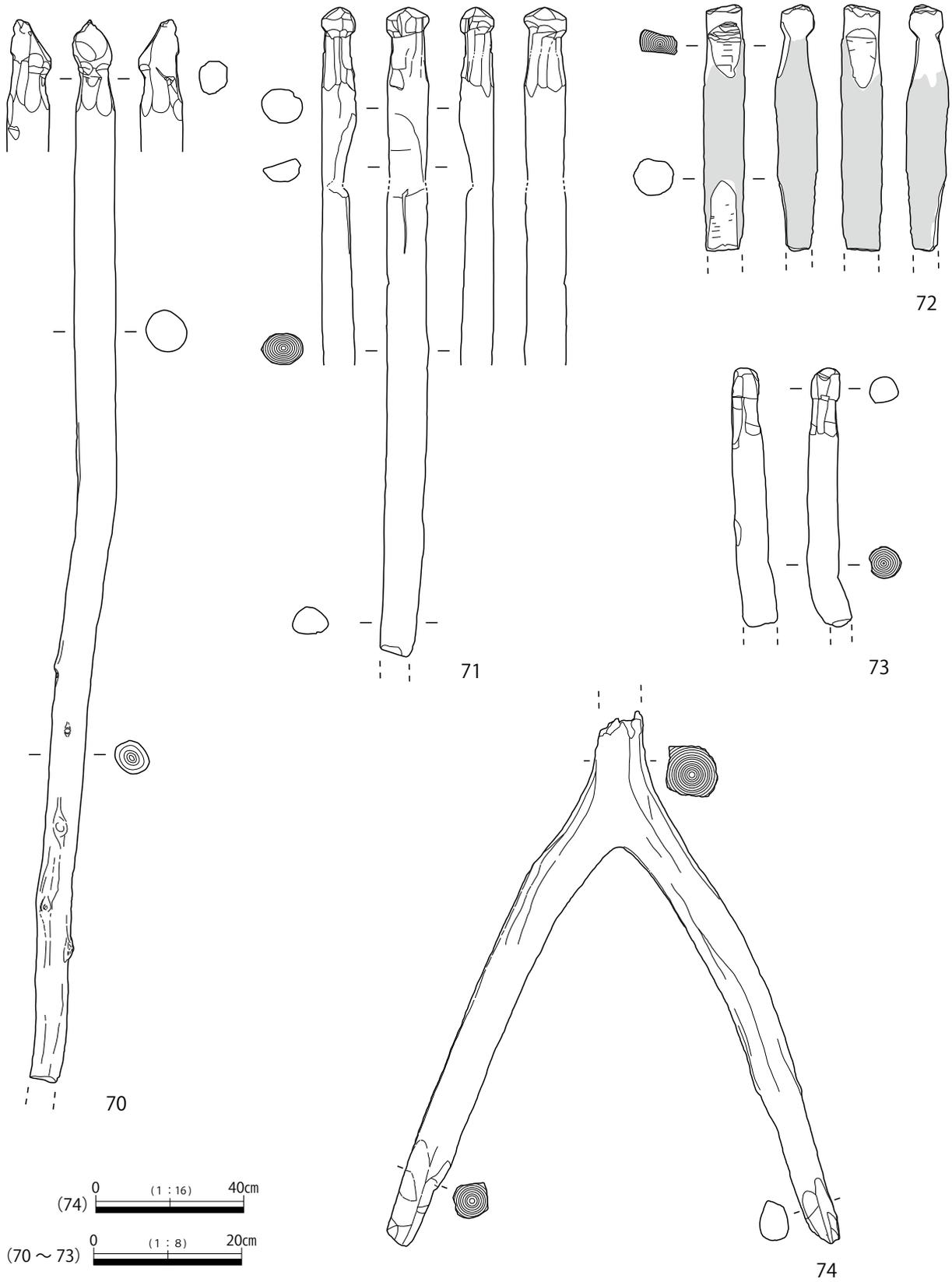
75～80は、芯持丸太材の先端部にL字状の欠き込みがみられるものである。150cmを超える長いものがほとんどで、木製構造物の横木に使われていたものである。75は完形で全長342cmをはかる。L字状の欠き込みとは反対側の端部でも小さな欠き込みが認められ、このことから、横木として使用する際、両端に紐等で他の材と緊縛していた機能がうかがわれる。76、77、80には樹皮が残っており、L字状の欠き込み以外の加工は見当たらない。木製構造物の杭なども樹皮のついたままで先端のみ加工しているものが多いこととあわせて考えると、周辺に自生している木を最小限の労力で利用したのだろう。樹種は、カヤ、ニヨウマツ、アカガシ亜属、ケヤキ、シイノキ属、ヤブツバキとバラエティに富んでいる。

66

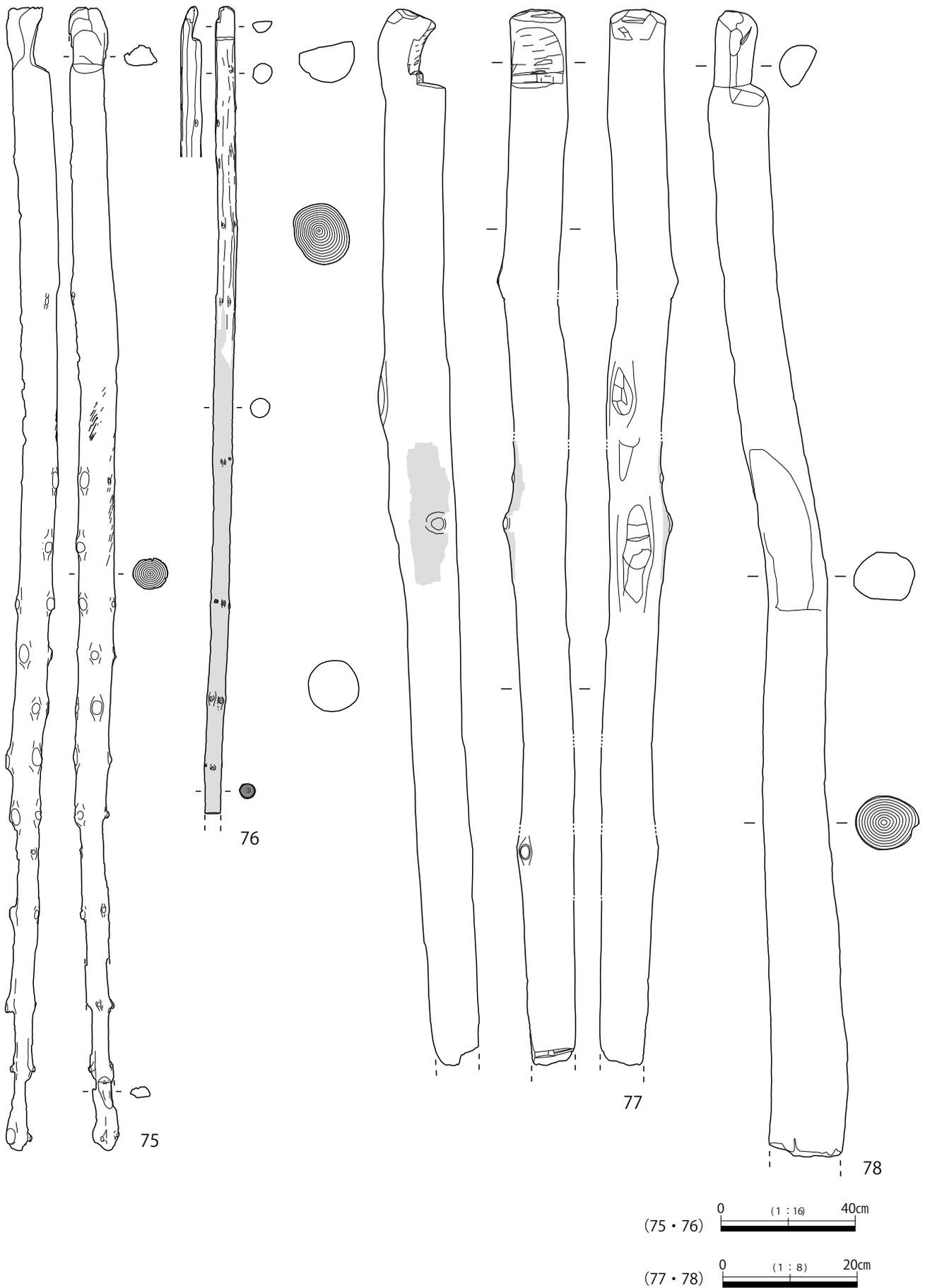
0 (1:8) 20cm



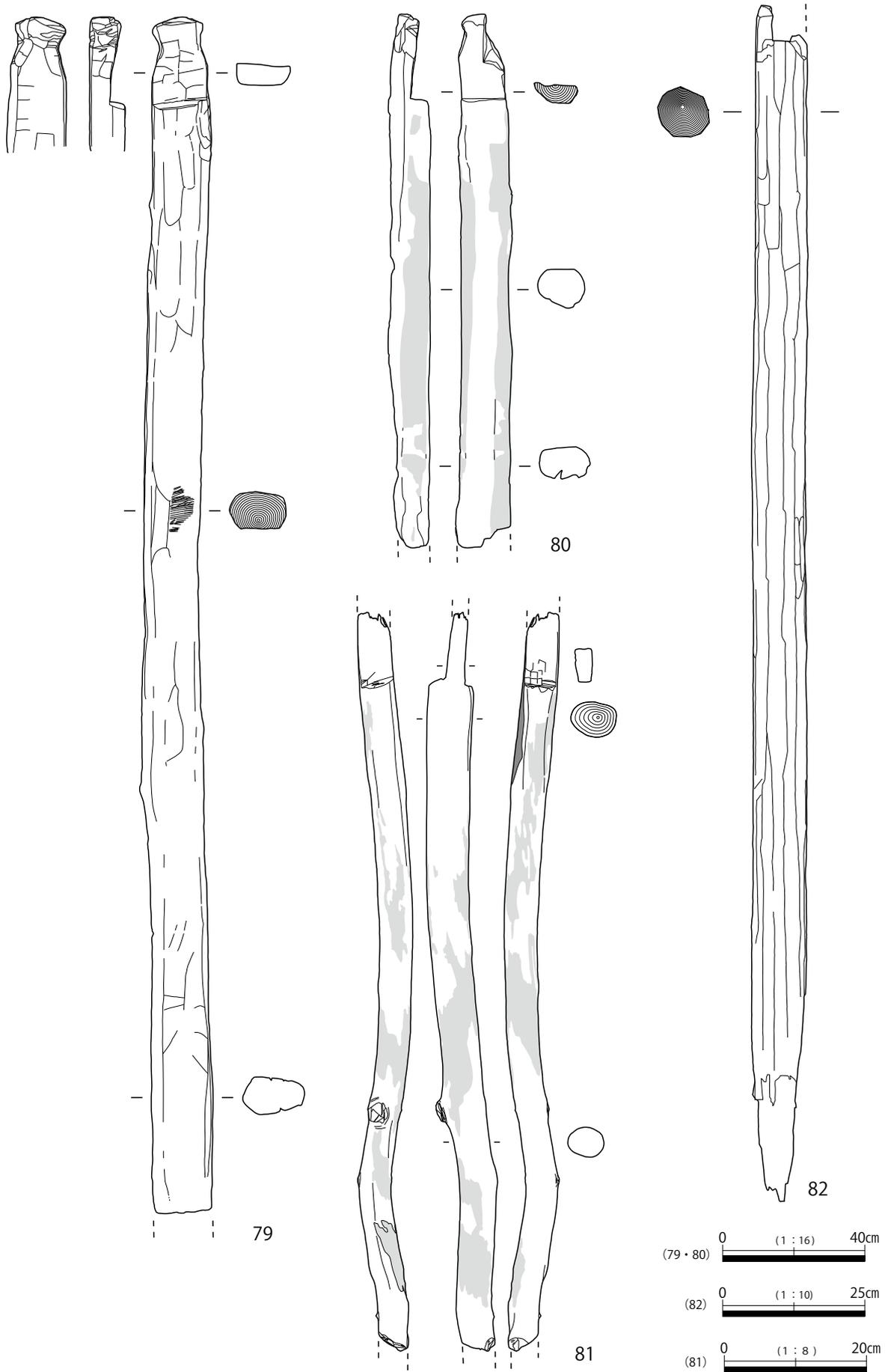
第IV-5-34 图 第5区4落ち込み出土木器 (16)



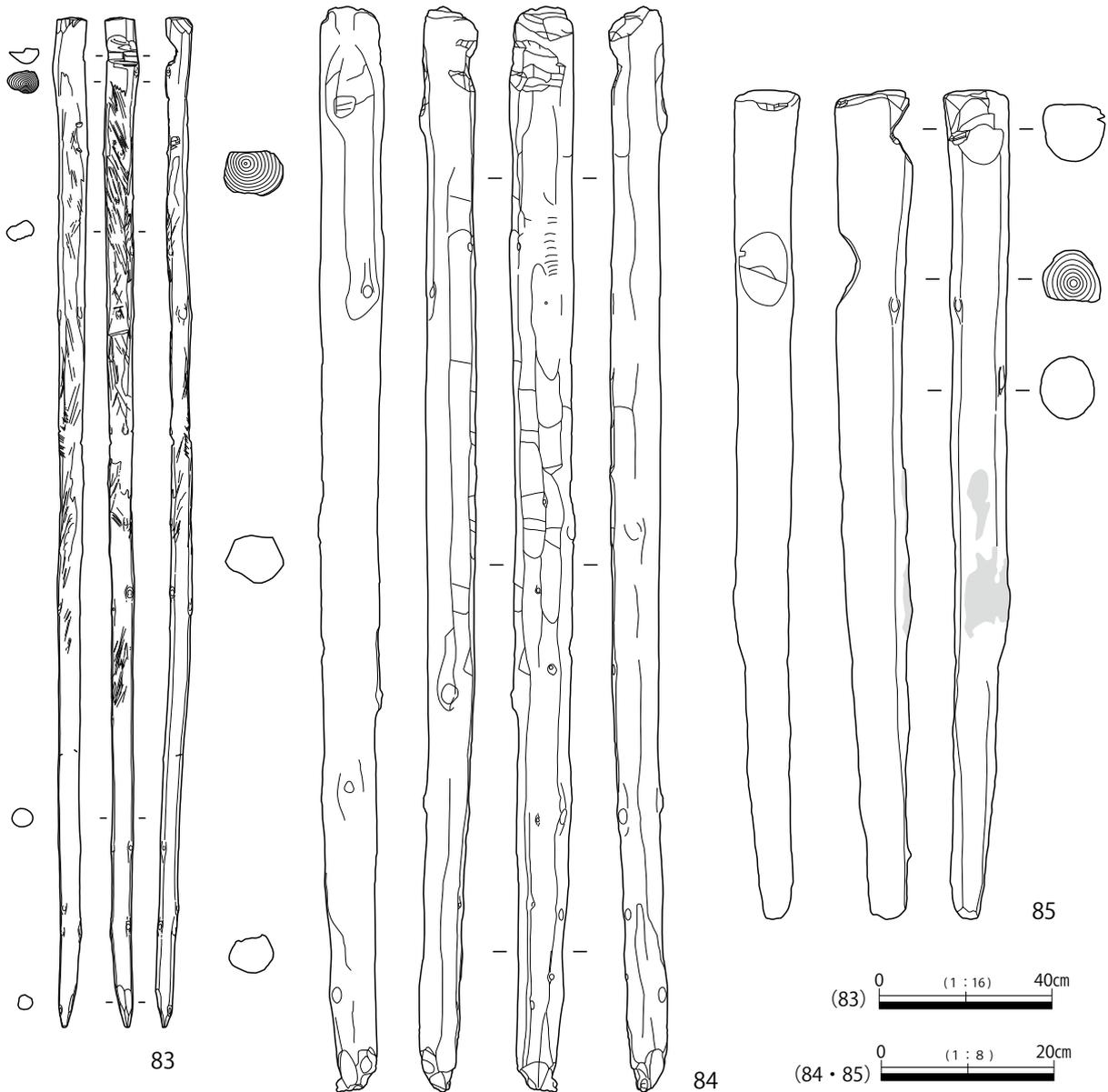
第IV-5-35 图 第5区4 落ち込み出土木器 (17)



第IV-5-36 图 第5区4落ち込み出土木器 (18)



第IV-5-37 图 第5区4落ち込み出土木器 (19)

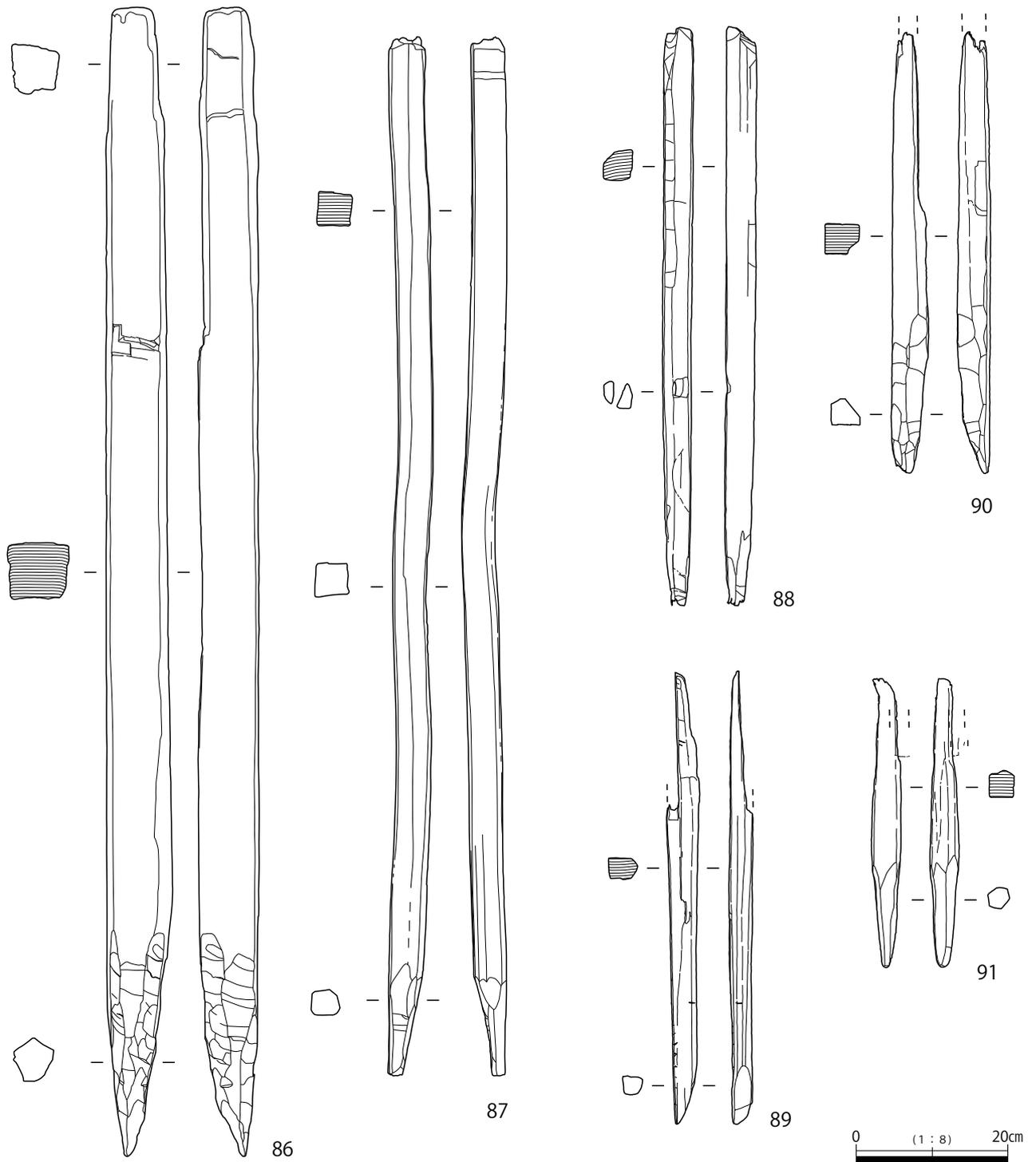


第IV -5-38 図 第5区4落ち込み出土木器 (20)

平坦面を形成している。85には欠き込みが2箇所認められる。1つは、上端から5cm下にあり、2つ目はさらに16cm下にあるが、同じ面ではなく180度反対側にある。樹種はヤナギ属で、樹皮が一部残っている。

86～91は芯去角材を使った杭である。86、87は全長130cmを超える大型の角材を使った杭であり、先端は全面加工して尖らせている。88は上部で角の稜線を消すように加工痕がある。また、2.5×2cm方形の孔があいていることから、何らかの部材の転用品とみられる。89、90は片側側面からの加工によって先端を尖らせており、片刃状になっている。91は先端を全周加工して尖らせており、断面は円形に近い。

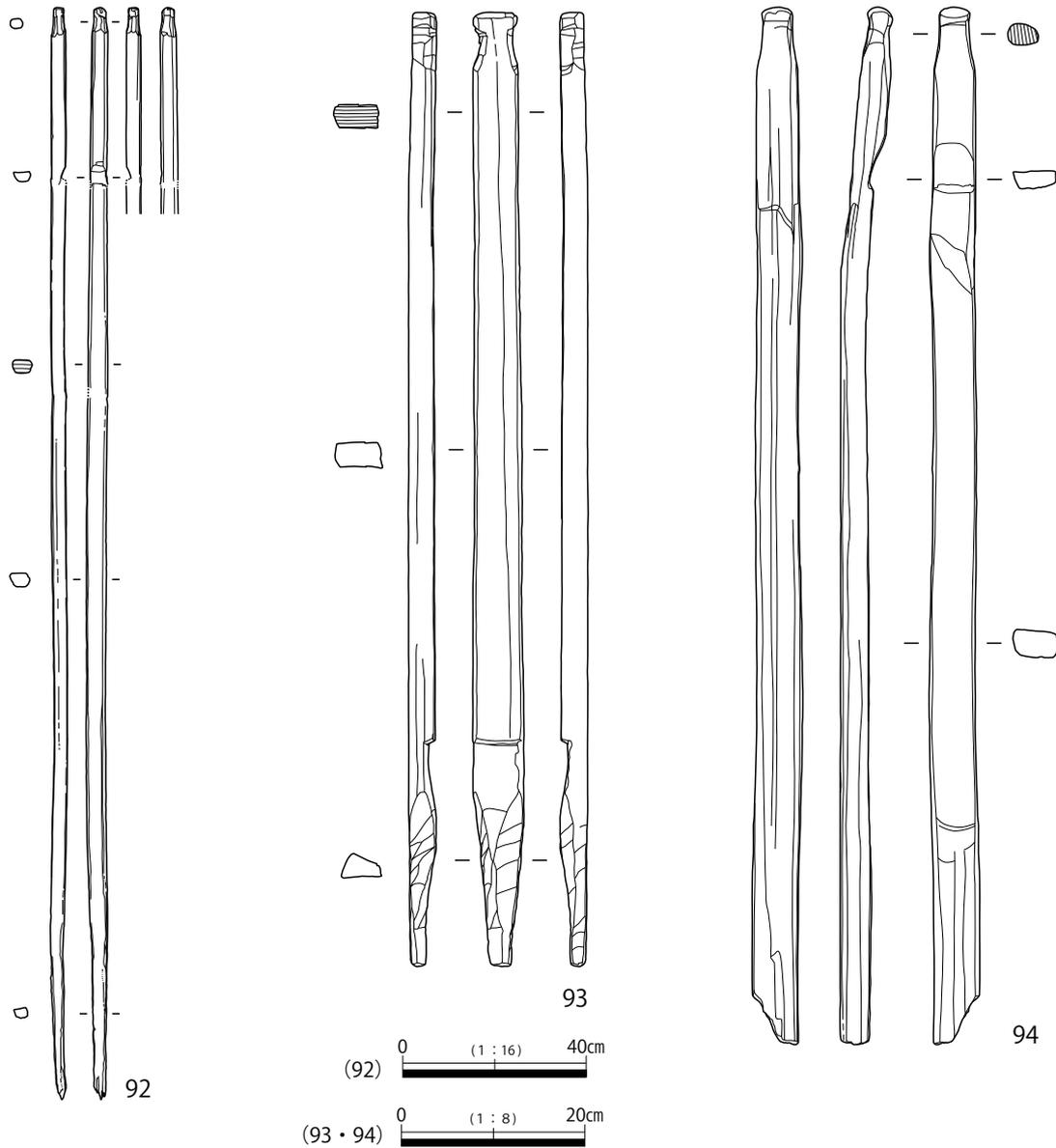
92～94は芯去角材もしくは板材を使用して先端部を有頭状に加工した杭、矢板である。92は全長239cmの大型の有頭状の端部をもつ角材を杭として転用している。上端より37cmほどの位置に方形の欠き込みがある。93は有頭状の端部をもつ板材の下半25cmほどの位置で段を作り、丁寧に加工し、



第IV-5-39図 第5区4落ち込み出土木器 (21)

先を尖らせている。この段差の部分はこの材にあらかじめあった欠き込みを利用した可能性もある。94は有頭状の端部を持つ角材を、上端部から19cmほどの位置にあった欠き込み部分から下部を分割して先端を尖らせ、杭として使用している。

95、96は両端が尖っており、片側は丁寧な加工で10cm以上突出させている。いずれも角材を分割した杭と考えられる。95は全長161cmをはかり、表面と一部側面に刃物によって切られた、細かい刃跡が認められる。96は上半部に工具痕が明瞭に残る径6.8cmほどの芯去材だが、中央部より杭の先端



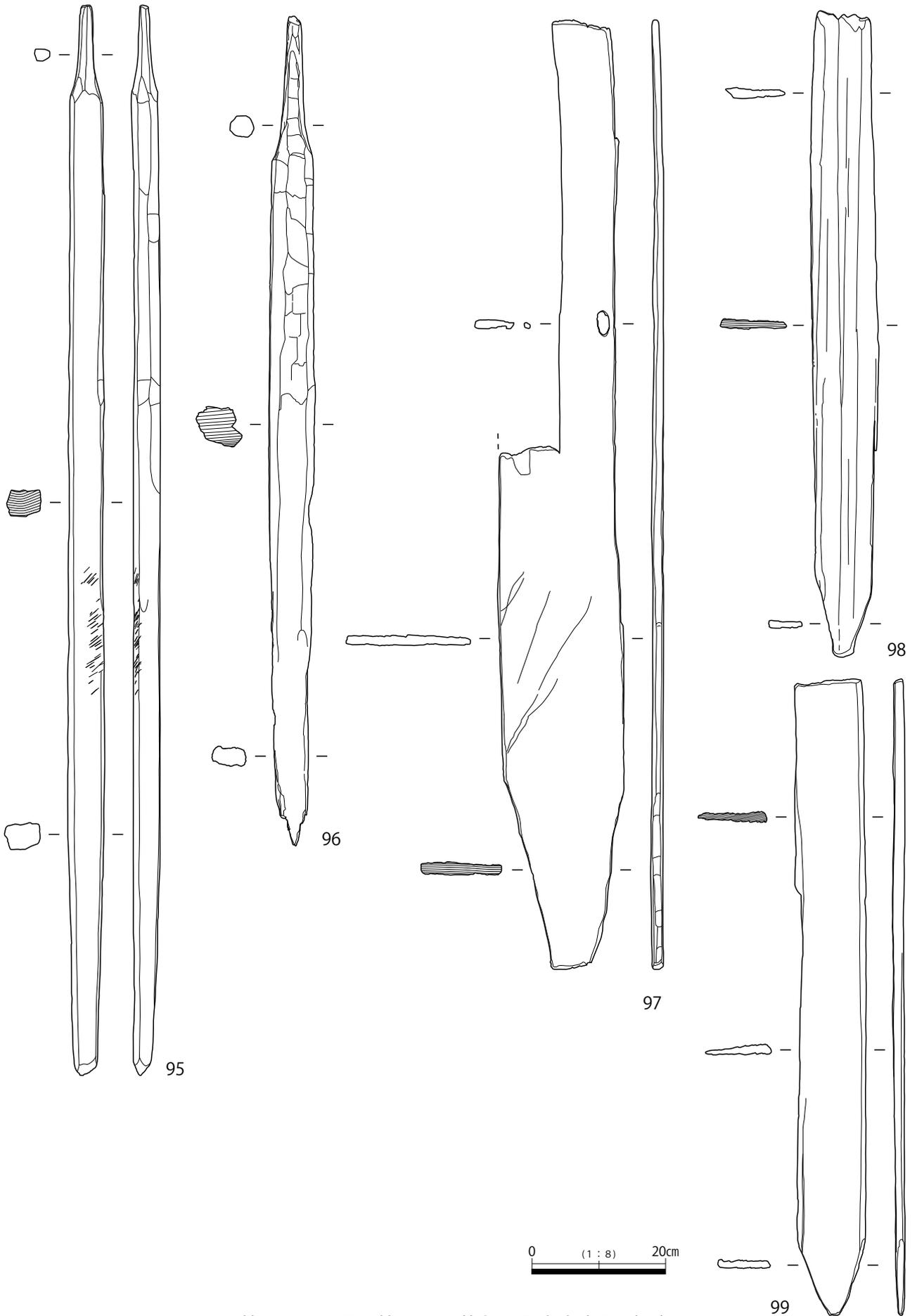
第IV -5-40 図 第5区4落ち込み出土木器 (22)

に向かって分割されたようである。建築部材を転用したものとする。

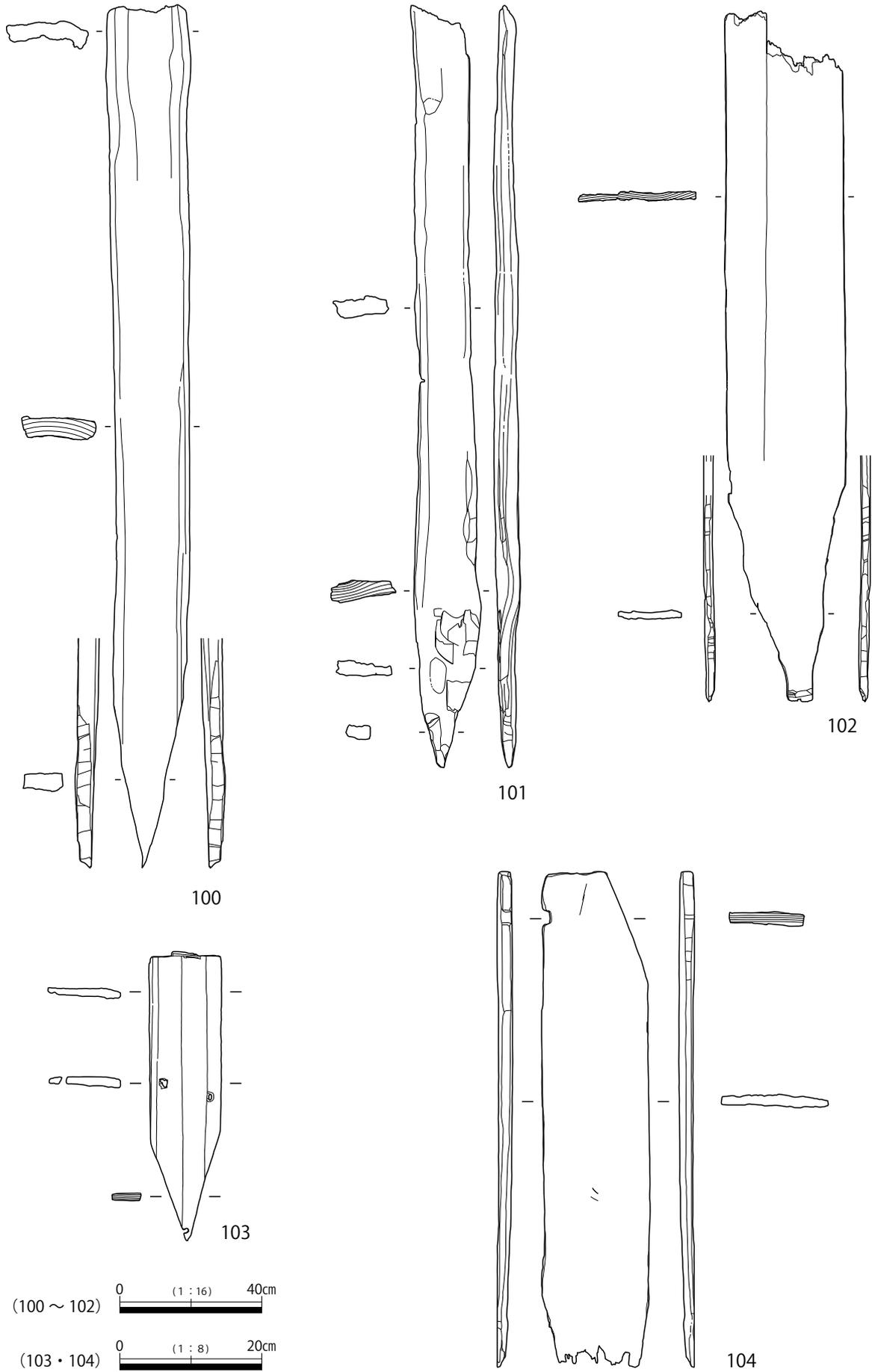
97～110は板材を利用した矢板である。97は全長143cm、幅18.5cmの大型の板材で、上半部は半分ほど欠損している。側縁付近に3.5×2cmの楕円形の孔があいている。98～102は特に転用をうかがわせる孔や欠き込みがみられない縦矢板である。厚さは1.5～2cmほどのものと4cm以上のものの2者が認められる。前者は建築材の壁板、後者は床板や他の部材を分割したものなどの可能性がある。103は両側縁付近に1箇所ずつ円形の孔が認められるが、左右対称ではない。104は平面台形の板材で方形の欠き込みが認められる。先端は一部腐食している。いずれも厚さが2cmに満たないので、壁板を転用した可能性がある。

105は両端が尖った板材を使用した縦矢板である。片方の先端は腐食しているが、もう一方の先端は、細かい加工の単位が確認できる。矢板中央付近の表面には刃物で切られた細かい跡も認められる。

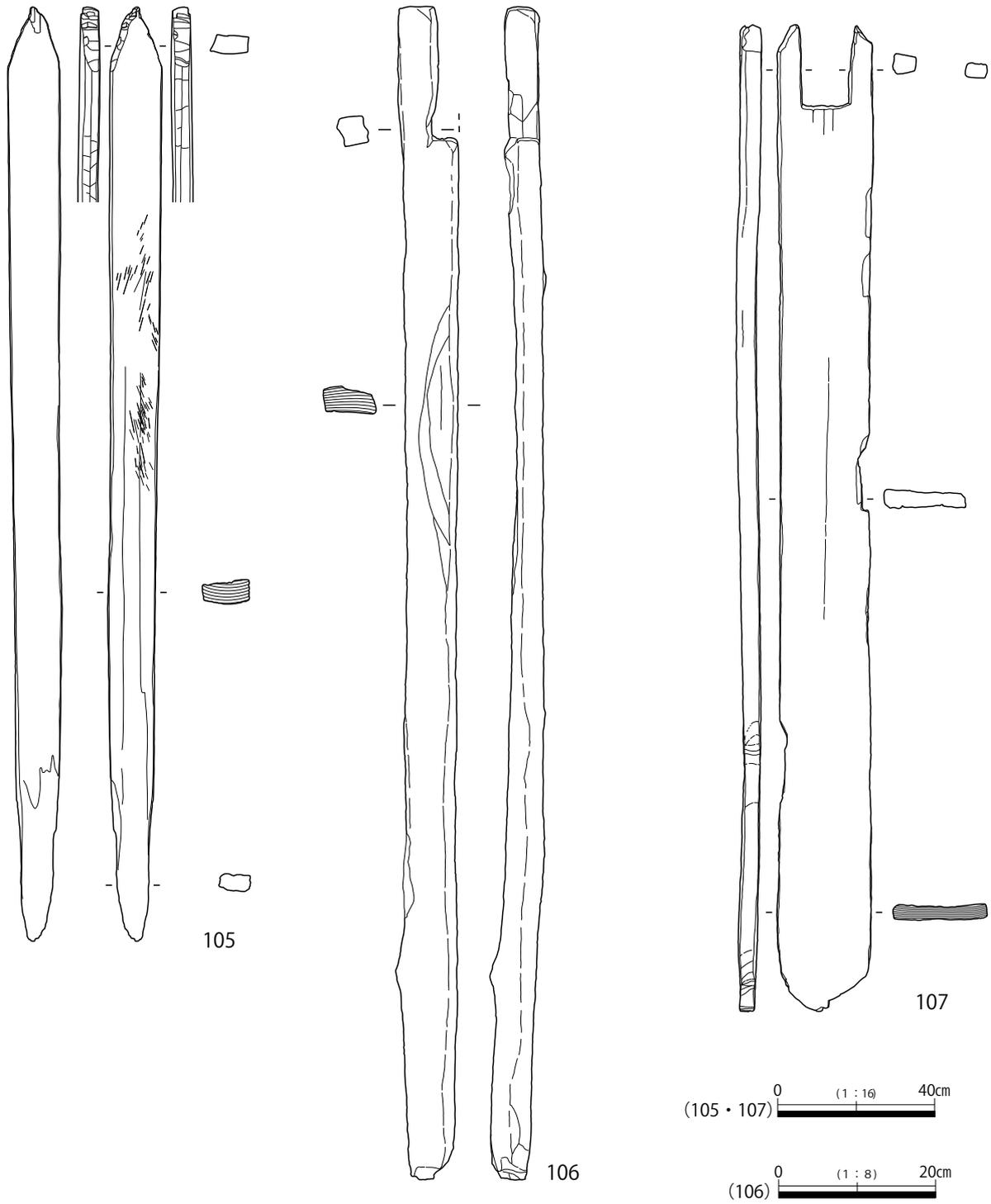
106は板目の板材を一部分割したもので、先端部をわずかに加工して杭状にしている。全長は150cmを超え、厚さも6cmと厚手である。上端部近くでL字状に折り取られているようであるが、欠き込



第IV-5-41 图 第5区4落ち込み出土木器 (23)



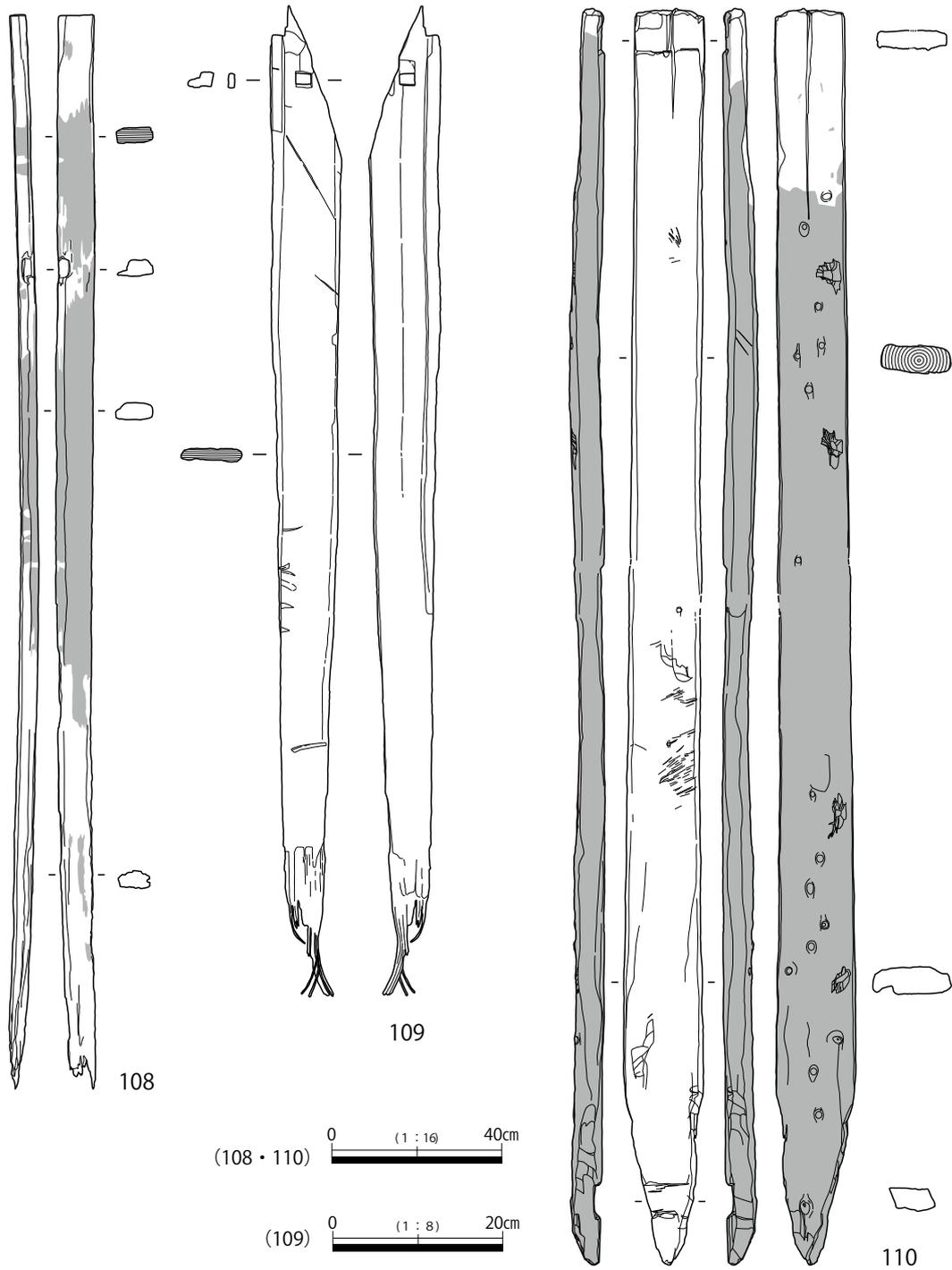
第IV-5-42 図 第5区4落ち込み出土木器 (24)



第IV-5-43図 第5区4落ち込み出土木器 (25)

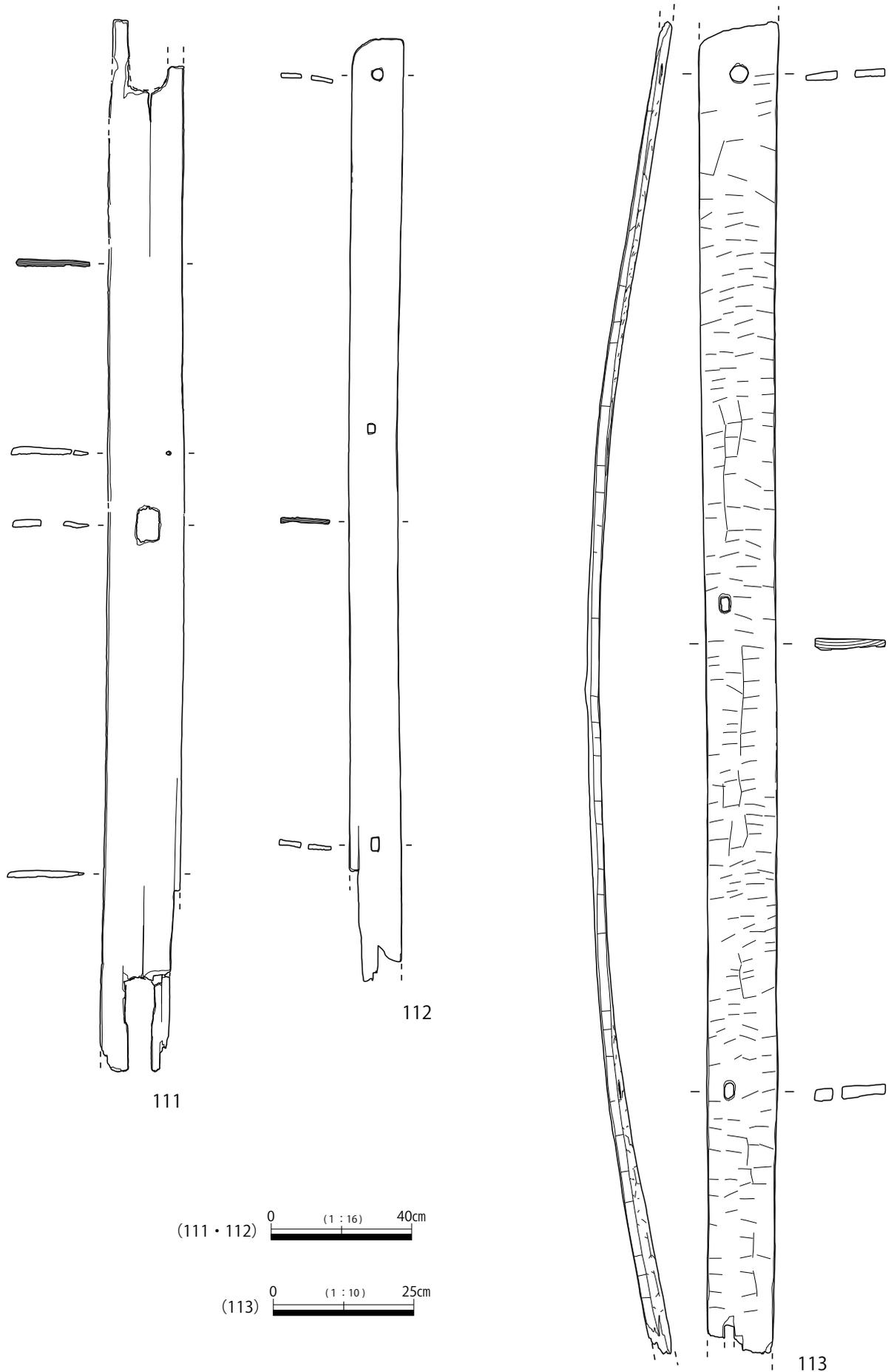
み等があった可能性もある。

107～110は孔や欠き込み等が認められる矢板で、転用品と考えている。107は幅12cm、長さ20cm以上の方形の孔があいている全長253cmの板材を利用した矢板である。側縁に欠き込み状の窪みがあるが、はっきりと欠き込みと言えるかは不明である。108は断面L字状の欠き込みが認められる。全長258cm、幅8.9cm、厚さ4.4cmをはかり、表面に焼けた焦げ跡が認められる。建築材の桁の転用品と考える。109は上端部付近に一辺1.5cmの方形の孔があいている。また上端は斜めに切断されている。

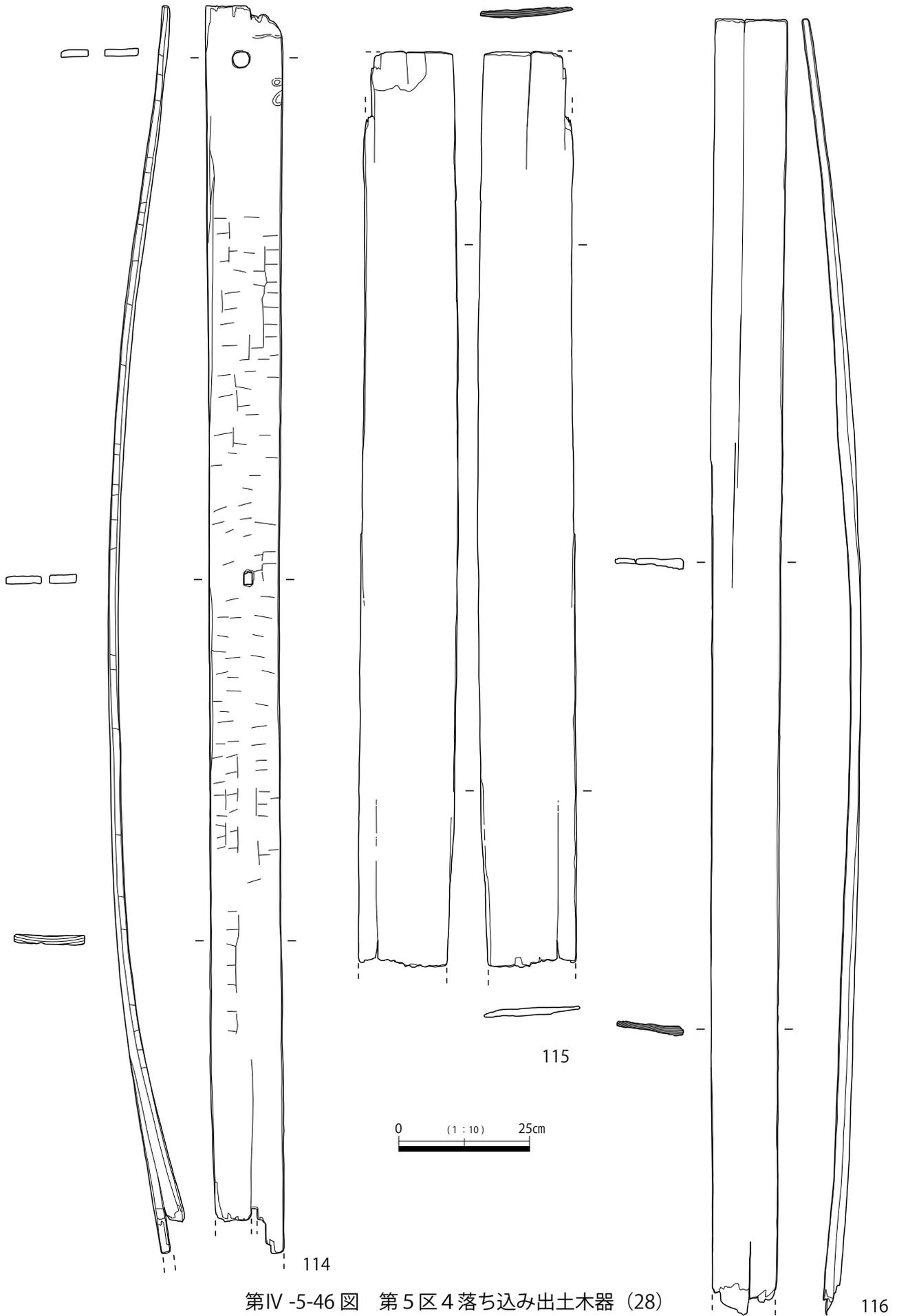


第IV-5-44 図 第5区4落ち込み出土木器 (26)

先端部については腐食している。110は芯持ちの柱目材で、側面からの加工で先端を尖らせているが、幅6cmの欠き込み状の窪みがある。形態から梁や根太を転用した可能性もある。欠き込み状の窪みのある面の中央部分では、刃物による切り痕が集中して認められる。またそれ以外の面は焼け焦げた跡がある。



第IV-5-45 图 第5区4落ち込み出土木器 (27)

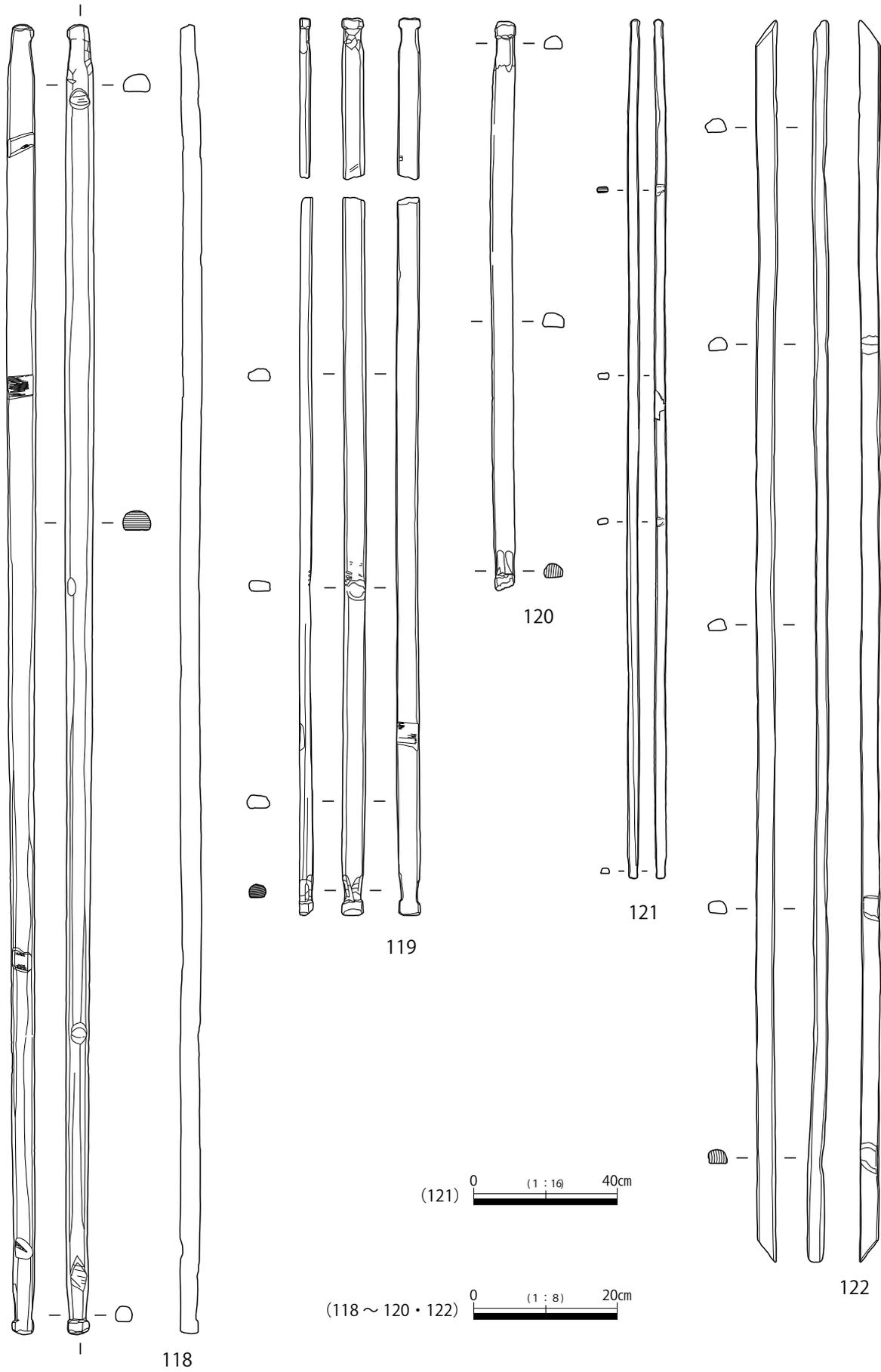


第IV-5-46 図 第5区4落ち込み出土木器 (28)

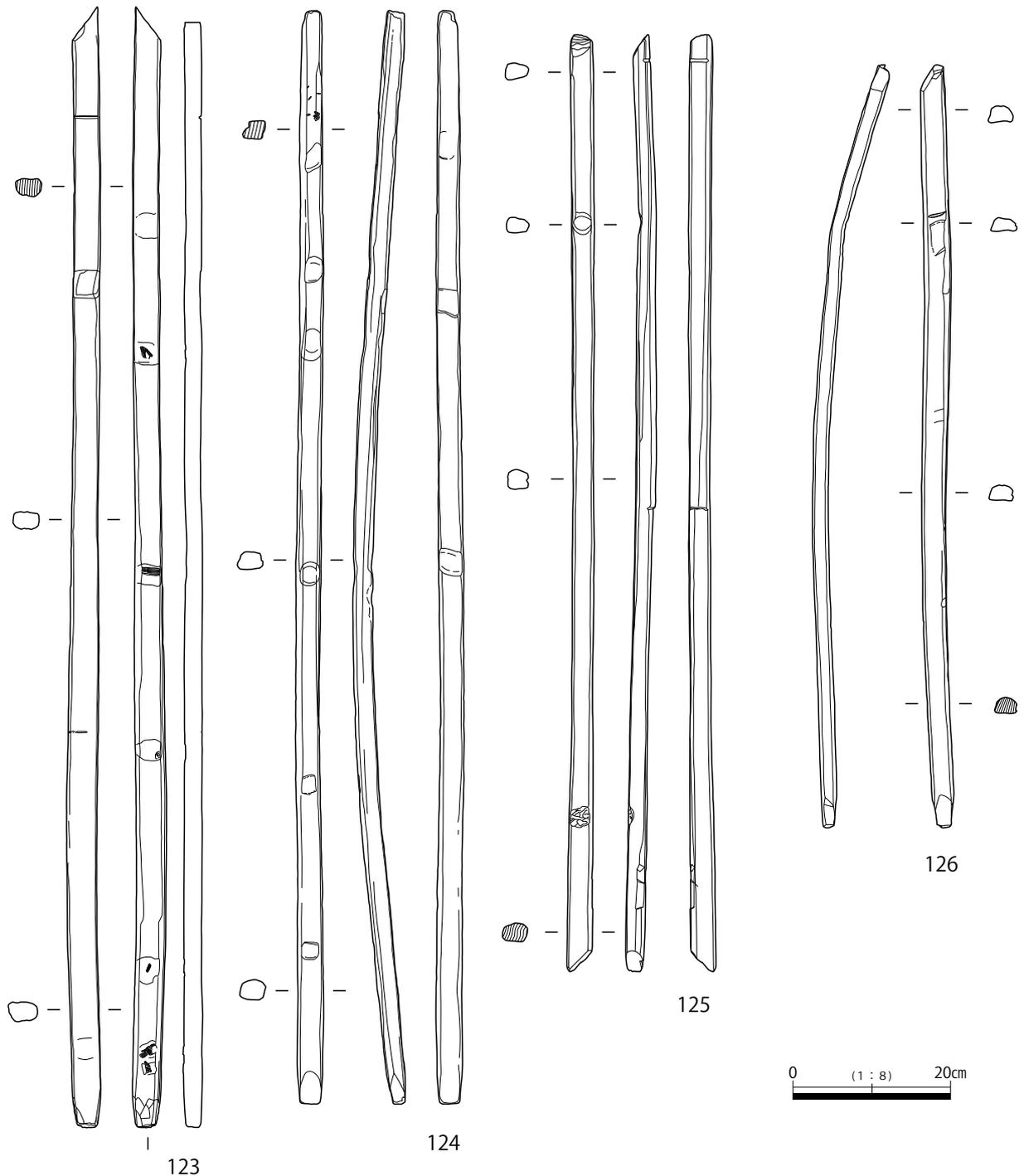


第IV-5-47 図 第5区4落ち込み出土木器 (29)

111～117は板敷遺構から出土した板材である。いずれも150～300cmの長大な板材である。111～116は厚さ4cm未満の薄い板材であり、壁板と考えられる。111は10×8cmの方形の孔が板材の中央に3箇所あいている。孔の間隔は130cmほどである。また2番目の孔の付近に径1cm未満の孔もある。全長は301cmをはかる。112も同様に3箇所孔があいている。ただし、孔は径もしくは一辺が



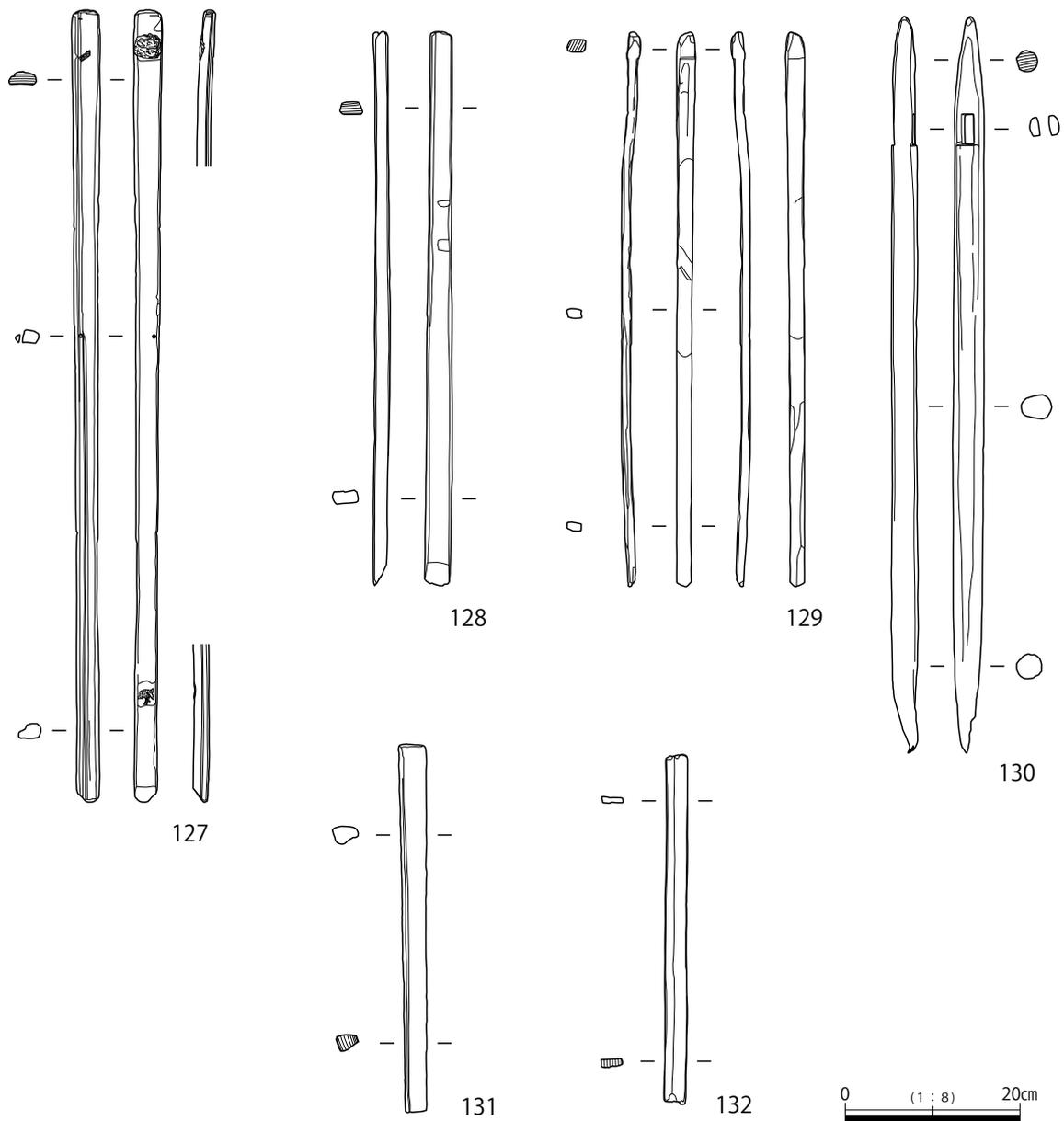
第IV-5-48 図 第5区4落ち込み出土木器 (30)



第IV-5-49図 第5区4落ち込み出土木器 (31)

3 cm程度であり小型である。全長は 269cmをはかる。113、114 も同様に小型の孔があげられており、表面にハツリ痕が明瞭に観察できる。いずれも側面が湾曲している。また上部の孔は円形で下部のそれは方形である。115、116 は孔のあいていない板である。117 は全面に加工痕が明瞭にみえる板材で、根太と考えられる。ただし、内側の窪み上端付近に一辺 3cm の方形の孔をあけている。

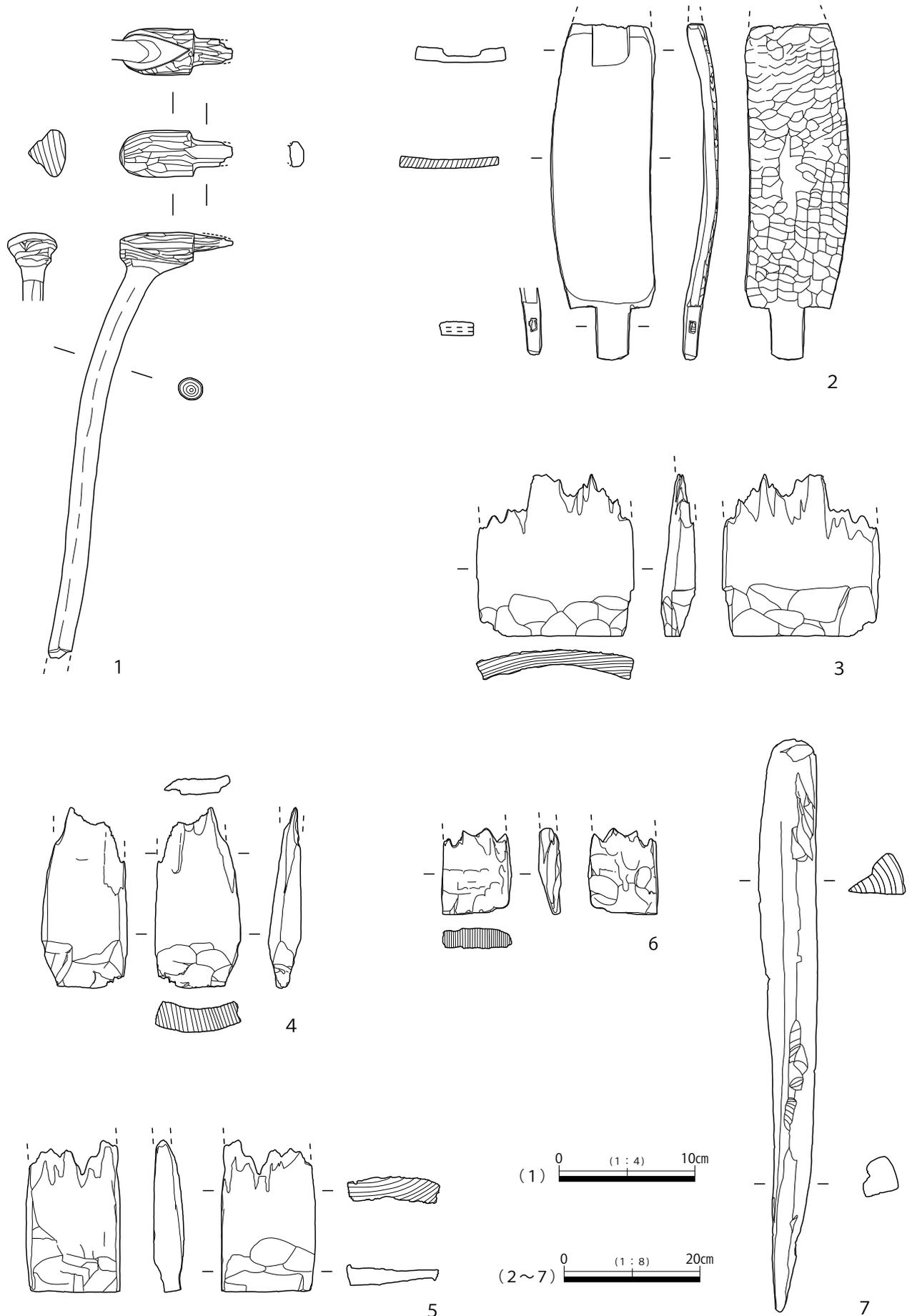
118 ~ 132 は、板敷遺構と共にみつかった台形枠から出土した材である。いずれも厚さ 3 cm 前後の断面形が隅丸方形の材を利用している。118 ~ 121 は両端を有頭状に加工している。長さは、79 ~ 246cm と差がある。122 ~ 128 は両端もしくは片端を斜めに切断したものである。123 は、端部が



第IV -5-50 図 第5区4落ち込み出土木器 (32)

斜めに切断されているが、もう片側の端部に細かい加工痕があり、他とは端部のつくりが異なる。125は材の中央部分に段差があり、それより下位は割れている。126は上半部が屈曲しており、下半部の先端も杭状に尖らせている。129は片側先端部をややふくらませるような形にしている。130は径3cmの芯去丸太材の両端を尖らせている杭である。4×1.2cmの方形の孔が穿たれている。131、132はもともと角材であったものが割れて、板状になっているものである。いずれも3cm前後の角材であったと考える。

これらの材の出土状況は、タテ材とヨコ材が組み合った形であり、材同士が重なったため、窪んだ箇所がいくつかみられ、その部分で折れているものもある。またこの窪みの中には、123、125、127のように緊縛用の紐と考えられる有機質が残存しているものもあった。



第IV-6-1图 第5区708沟出土木器

第6節 第3-1-3a層、第3-2a層下面遺構出土木器

第1項 708溝出土木器 [第IV -6-1 図、図版 32～33-1]

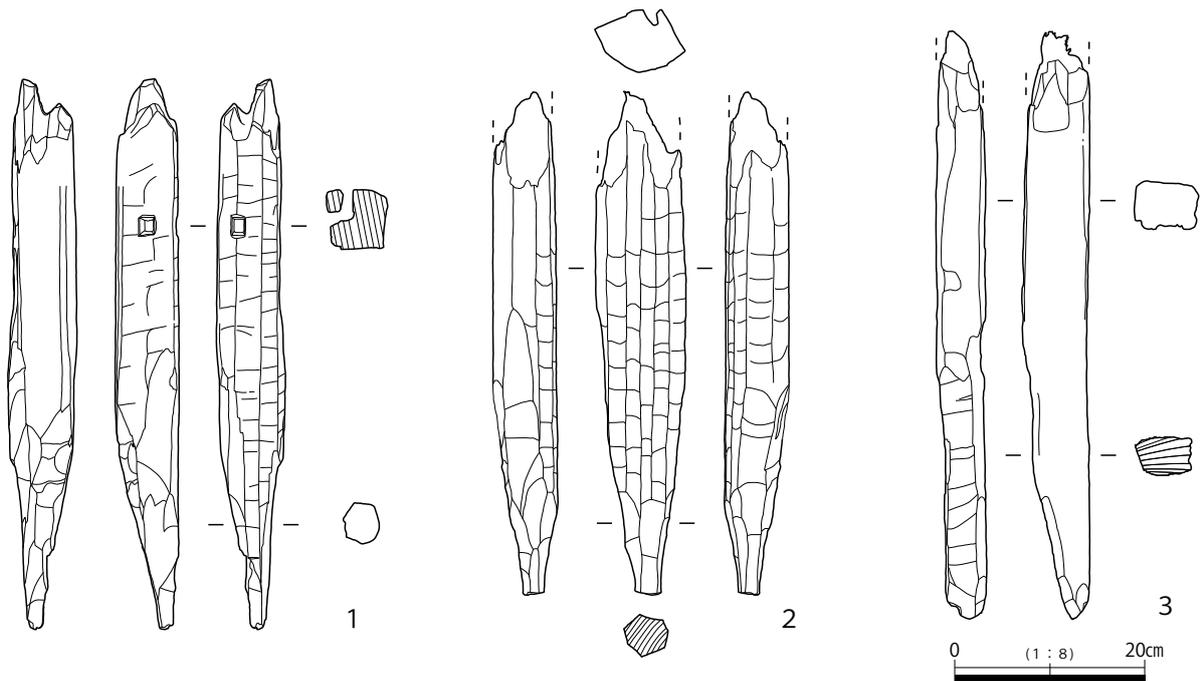
708溝は、5区北側で南西-北東方向に流れる、弥生時代後期～終末期の大型の溝群の一つであり、これらの溝群の中では、遺物の出土量が最も多い。埋没時期は出土土器から、弥生時代終末期と考えられるが、土器の中には、下層に帰属するものもあり、これら木器の中にも土器と同様に下層に帰属する可能性があるものも含まれる。

1は袋状鉄斧の膝柄である。一木の幹から枝部分を利用しており、斧台には細かい加工痕がみられる。装着部分の先端は一部欠損しているが、横斧用と思われる。斧との接合部分は、一部欠損しているが幅2cm、長さ3cm以上をはかる。樹種はカヤである。2は不明製品である。アカ取りのような形状をしている長さ50cm、幅14.8cm、厚さ2.3cmの板材である。柄と思われる部分の側縁を貫通する方形の孔があいている。先端部中央に、方形の深さ5cmほどの窪みがつくられている。3～6は立った状態で並んで出土している。先端部分のみの出土で全体は分からないが、幅10～24cmの板材の先端から5cmほどの部分の両面を加工して先端を尖らせており、側縁はほとんど加工していない。縦矢板と考える。7は放射状に分割したムクロジを使った杭である。

第2項 952溝出土木器 [第IV -6-2 図、図版 33-2]

952溝は、調査区北端で検出された遺構で、西側肩部周辺のみが残存していた。溝の法面で南北方向にのびる12本の杭による杭列がみつかり、その中の3本を実測している。

1～3はいずれも杭である。1、2はいずれも全面を丁寧に加工しており、大きさなどから柱材を転用したのと考えられる。1には断面L字状にぬける孔があげられている。3は角材を分割し、1側面だけを加工して先端を尖らせている。



第IV -6-2 図 第5区 952溝出土木器

第3項 861 ピット出土木器 [図版 33-3]

861 ピットは調査地北、4D-6a 区に位置する。周辺は土坑やピットが数多く検出されており、竪穴住居跡もみつまっている。ピット底面から礎板となる板材が2枚出土している。具体的な組み合わせは不明であるが、他にも住居跡が存在し、861 ピットはそれを構成する遺構の一つと考えられる。

取上No.7500 は、長さ19cm、幅11.1cm、厚さ3.4cmの柾目の板材である。樹種はケヤキである。取上No.7501 は、長さ23.7cm、幅15.8cm、7.7cmの板目の板材である。端部に斜めの切断痕が認められ、何らかの大型の材を分割、切断したものと考えられる。樹種はシイノキ属である。

第7節 第4a層下面遺構出土木器

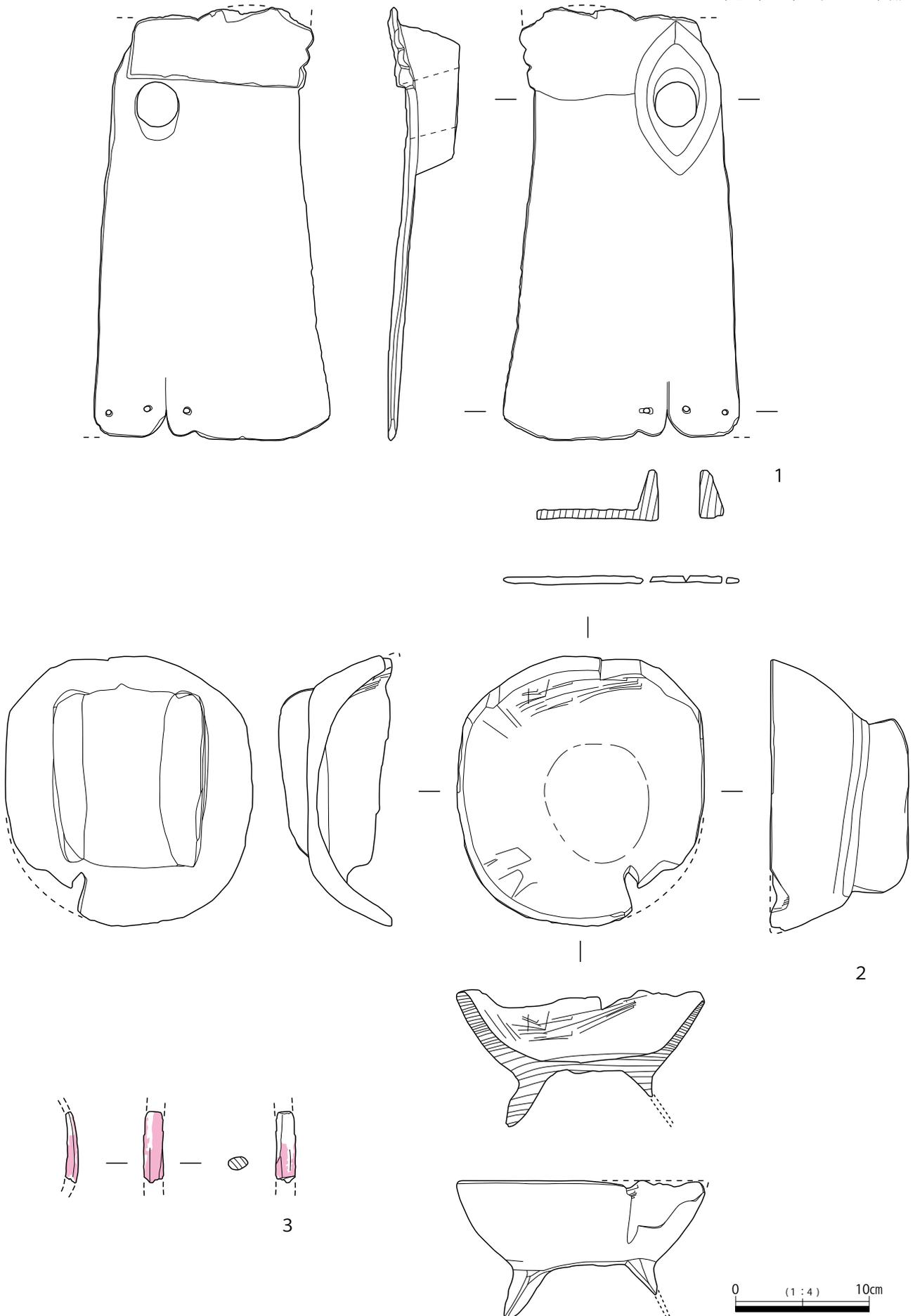
第1項 710 溝出土木器 [第IV -7 - 1 ~ 4 図、図版 34 ~ 39-2]

710 溝は5区北側で南西 - 北東方向に流れる、弥生時代開始期の土器が数多く出土した幅広の溝である。遺物は上層下部から中層上部にかけて集中して出土しており、木器のうち製品類は全て上層から出土している。また、この溝からは多量の木材も出土している。これらの木材は長さ1~3mほどのものがほとんどであり、明らかに分割されたと考えてよいものがある。また、樹皮や根、枝葉の類はほとんど出土していないことから、必要な大きさに分割したり、簡単な加工を施した木材の集積場であったと理解している。木材は710 溝全体にわたって出土しているが、ケヤキの大径木と949 構造物によって、1群~3群に分かれる。

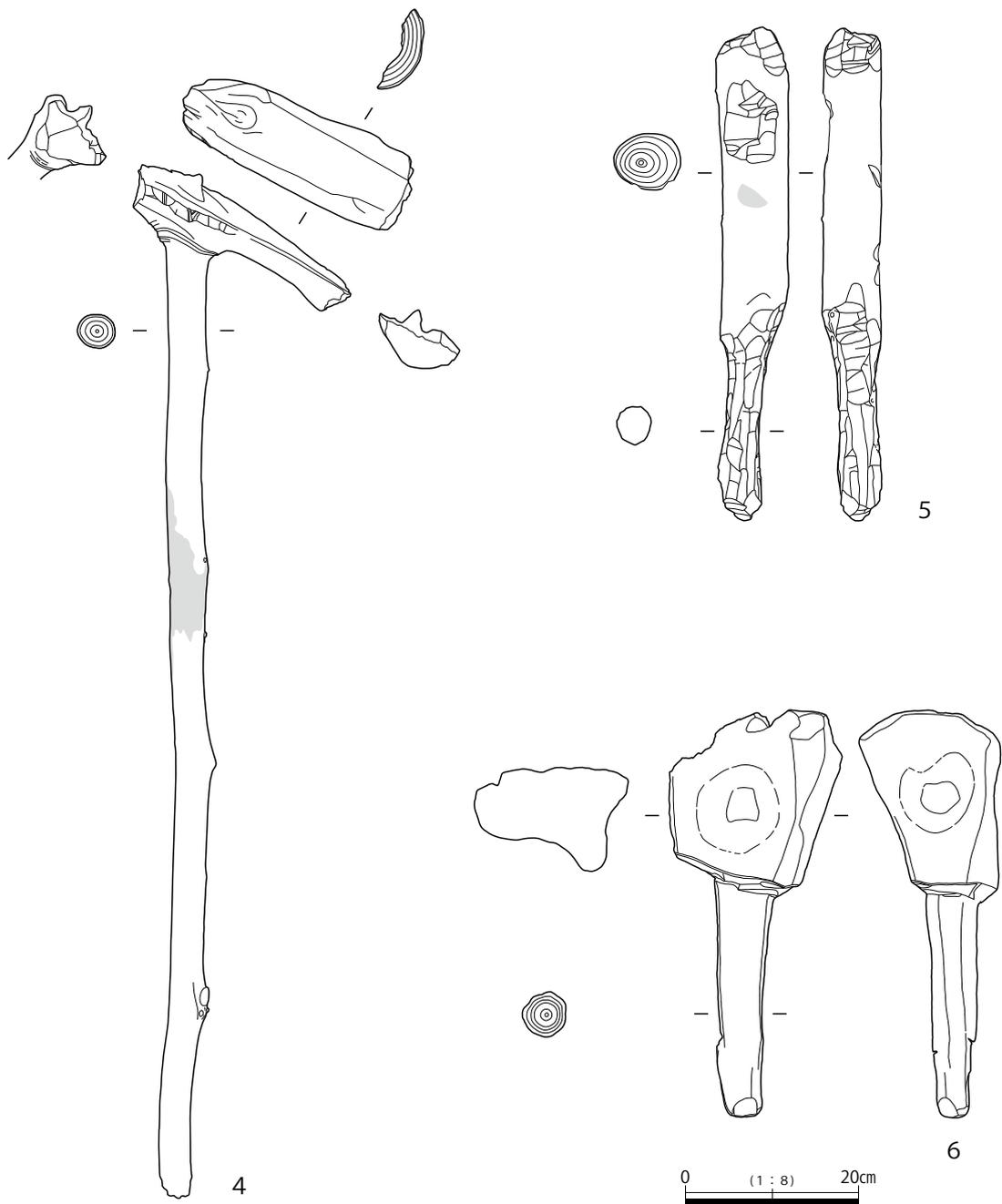
1は直柄平鋏の鋏先である。全体の3分の2ほどが残存している。隆起は紡錘形で、高くつくりだされ、柄孔は円形である。側縁には装飾のためか、連続した抉りが認められる。上端部は所々で欠損しているが、中央が窪むタイプと考える。裏面には泥除け装着用の溝状の抉りが認められる。刃先部では3箇所径5mmほどの小さな孔が認められる。これは、刃先が縦方向に割れるのを防ぐために紐を通して補修した痕跡だろう。全長32.7cm、下端幅17.7cm、柄部分の厚さ3.8cm、刃先部厚5mmである。

2は二脚盤である。破損部分が多いが、復元すると、径20cm、高さ10cmほどの大きさであったと考える。横木取りで、脚は厚さ1.5cm、高さは4cmほどで外側に広がっている。3は全面赤色塗彩された木器である。大きさや形態から飾り弓の一部と考えられる。4は斧膝柄の未成品である。一木の幹から枝部分を利用しており、柄部分には、樹皮が残存している。斧台部分は長さ28cm、幅10cm、柄の部分は長さ110cm、径4cmとかなり大きい。これはまだ未加工であるためと考えられる一方で、打製石斧を取り付ける鋏柄の可能性もある。5~7は掛矢である。5は芯持丸太を使って、握り部分を加工しているが、段状に形成されていない。使用痕跡がみられる。6は一木の幹から枝部分を利用しており、握り部分との境に丁寧な加工が認められる。表面と側面に使用痕跡と思われる窪みがある。7は木の幹が二股に分かれる部分を使用した大型の掛矢である。握り部分は丁寧な加工がなされており、明瞭な段差がある。使用痕跡は認められない。

8は芯持丸太を使った杭である。先端を全面加工して尖らせている。9は板材の片側側縁のみを加工した縦矢板である。10は芯持材で先端を尖らせている。ヤスや木鋸の可能性もある。11は径6cm、厚さ3cmほどの円形の木器である。軽い木材(スギ)であり浮子の可能性がある。12は放射状に分割された棒状の木製品である。先端部分は欠損しているが、丁寧な加工を施している。



第IV-7-1图 第5区710沟出土木器(1)

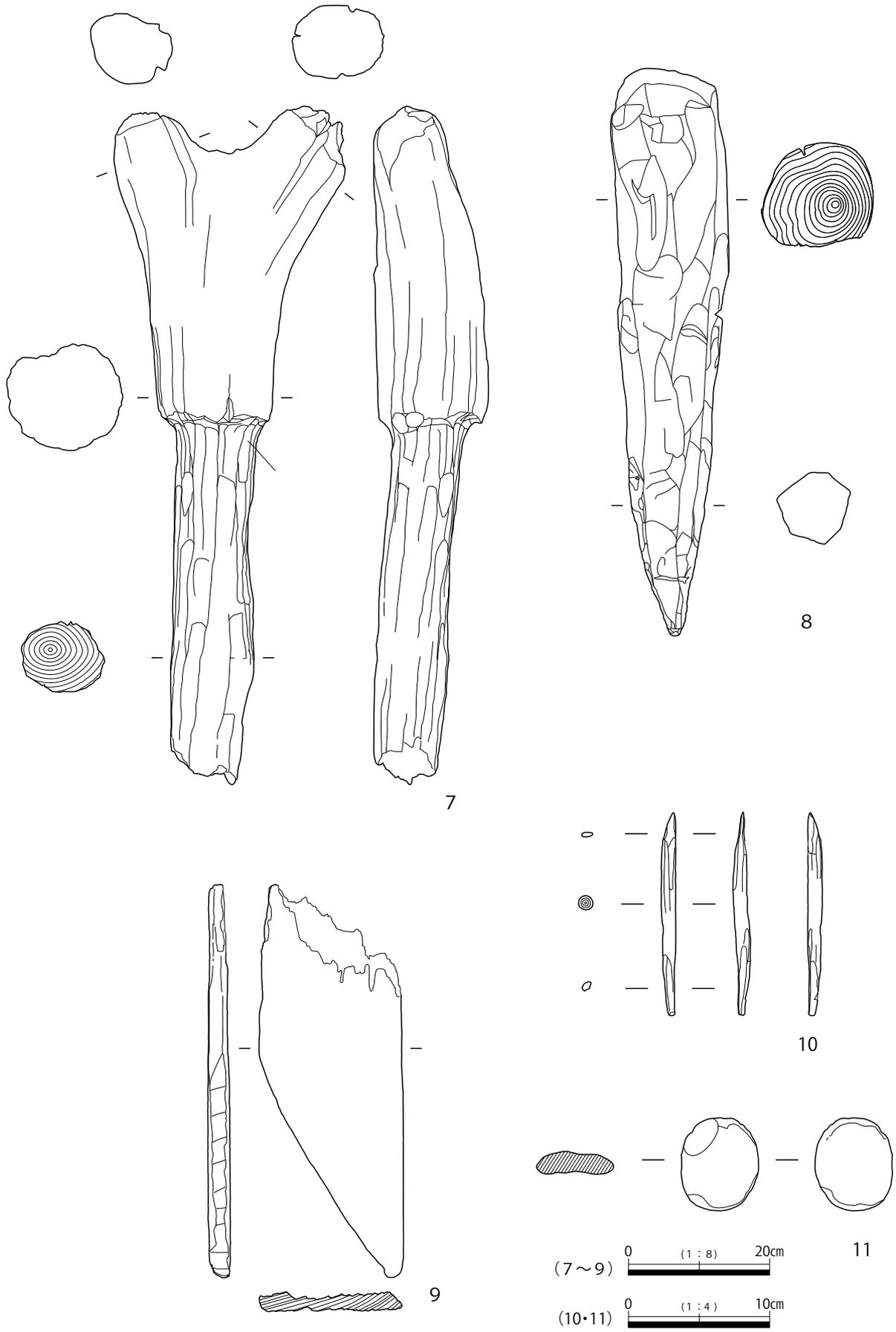


第IV-7-2図 第5区710溝出土木器(2)

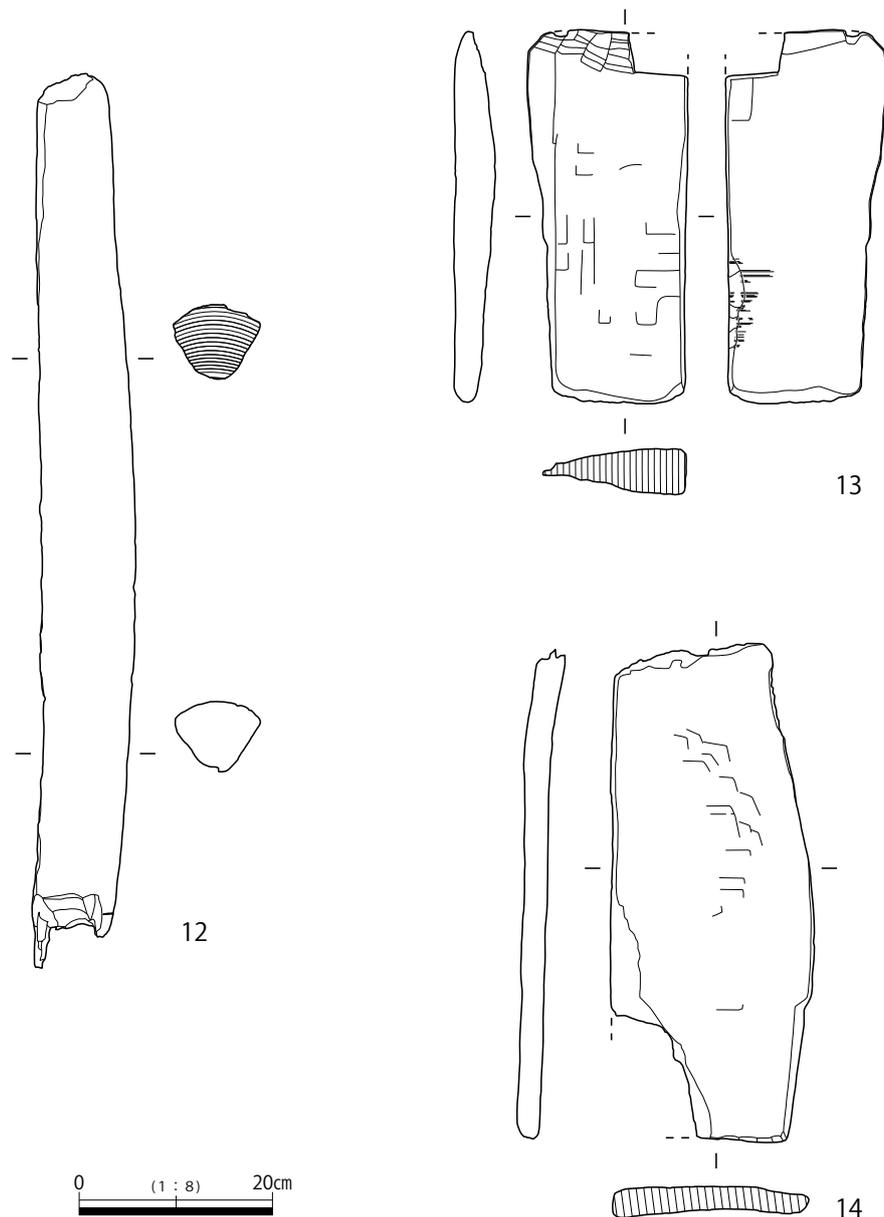
13、14は共にアカガシ亜属の柁目板である。いずれも表面にはハツリの痕、端に切断した際についてと考えられる加工痕が認められるので、放射状分割した後に板材として成形したものとする。また、13には刃物で連続して切ったと推定する長さ1～3cmほどの痕跡がある。

先述したように710溝は、木材の集積場であり、400点以上の木材が出土している。これらは、現地で法量の測定、樹皮の有無、木取り等の観察を行い、一部を切断しサンプルとして持ち帰っている。ここでは、この内、分割材として考えられるものについて紹介する[図版37-3～39-2]。

取上No.7669は、2群上層出土である。元の法量は、長さ320cm、径23cmをはかり、断面は扁平な円形で、樹皮はない。芯をもつ分割材であり、年輪の状況から丸太を3つ程度に平行分割した材の真ん中の部分と考えられる。樹種はクリである。取上No.7670は、2群上層出土である。元の法量は、



第IV-7-3图 第5区710沟出土木器(3)



第IV-7-4 図 第5区710溝出土木器（4）

長さ173cm、径25cmをはかり、断面は半円状の分割材で、樹皮はない。年輪の状況から、芯をもつ、4つ程度に平行分割した材の一つと考えている。樹種はカツラである。取上No.7675は2群上層出土である。元の法量は、長さ420cm、径22cmをはかり、断面はやや扁平な円形で一部切断していると思われる。樹皮はなく、芯もないが、年輪の状況からちょうど3等分に平行分割した真ん中の材に形態が近い。樹種はオニグルミである。取上No.7688は、2群上層出土である。元の法量は、長さ87cm、径22cmをはかる。断面は扁平な円形で割材と考えられる。樹皮はなく、年輪の状況から、1/4～1/3程度に放射状分割した材と考えられる。一部に焦げ跡もある。樹種はカツラである。取上No.7845は1群上層出土である。この資料はそのまま取り上げており、長さ47cm、径14cmをはかる、樹皮はなく、芯も確認できていない。辺材部分ではないが、丸太材の縁辺を平行分割した材の残片であろうか。樹種はカヤである。取上No.8627は2群中層出土である。元の法量は、長さ410cm、径54cmである。断面は半円形で樹皮が存在する。芯は存在していないが、縦割りで半分程度に分割した材とみられる。

樹種はムクロジである。

また、710 溝から出土した木材についての様相は、財団法人鳥取県教育文化財団編 2013『本高弓ノ木遺跡（5区）I 第1分冊』（以下『本弓I』）で詳しく述べているが、そこでは触れられなかった樹種との関係について述べておきたい。

710 溝出土木材は、断面形や年輪の状況から、分割材と芯持丸太、製品の3つに分類できる。この内、『本弓I』で挙げた各種材と樹種の関係を示したものが、表IV -1～2である。ただし、第V章の中原報告との数値は異なっている。これは時間的制約から、出土資料全点を観察、分類出来なかったためである。このため、特にスギ材に関しては、その多くが観察、分類できていない結果となっているが、一応の傾向を述べることはできる。

まず分割材についてであるが、縦割り分割材では、トチノキ（11点）が最も多く、次いでカエデ属（10点）、ムクノキ（10点）、クリ（8点）と続く。放射状分割材では、アカガシ亜属、カツラ、ケヤキが1点ずつ、不明のものでは、ヤマグワ（5点）、ムクロジ（4点）、カエデ属、ケヤキ、クリ、ムクノキ、カツラ（各3点）が多い。第V章の中原報告で述べられている710 溝全体の傾向とよく似ている。

板材では、不明なものも加えて考えると、板目ではスギ、柾目ではアカガシ亜属が多いようである。このアカガシ亜属の柾目板は、弥生時代開始期以降、農具に利用されることが多いが、710 溝出土資料全体の中ではわずかな量である。

芯持丸太では、カエデ属（37点）とヤマグワ（31点）が突出しており、これも第V章の中原報告で述べられている710 溝全体の傾向と似ている。次いで、ムクロジ（19点）、ケヤキ（18点）、クリ（15点）と続く。

出土位置（1群～3群）による分類では、1群では、カエデ属（17点）、ヤマグワ（14点）、ムクロジ（10点）ケヤキ、トチノキ（各9点）が多い。2群では、スギ（34点）、カエデ属（31点）、ヤマグワ（29点）が多く、1群と様相が異なる。次いでクリ（23点）、ムクロジ（17点）と続く。3群は、カエデ属（15点）、スギ（11点）、ヤマグワ（9点）が多く、その次にムクノキ（8点）、ケヤキ（7点）、アカガシ亜属（6点）がある。また、3群に関しては、『本弓I』内で、木材のサイズが、直径または幅が0.2 m以下と0.4 m前後の2種に揃えられている可能性を指摘している。前者ではヤマグワ（4点）、カエデ、ケヤキ（各3点）が多く、後者ではアカガシ亜属（4点）、ムクノキ（2点）が多い。710 溝内のアカガシ亜属全体の出土量は9点と少ないが、その内6点が3群から出土し、その内4点が幅0.4 m前後に揃えられている点は興味深い。ただし、いずれも芯持丸太か縦割りの分割材である。

710 溝出土木材の特徴としては、既に『本弓I』内で述べているが、分割材のほとんどが丸太の外縁部を剥ぎ取るように3つないし2つに分割されたものであり、弥生時代の農具生産で多くみられる、アカガシ亜属の放射状分割材や柾目板の出土はごくわずかであることが挙げられる。このような状況は、710 溝とほぼ同時期の木材集積が認められた和歌山県立野遺跡の状況と類似しており（川崎雅史 2012「すさみ町立野遺跡の発掘調査」『近畿自動車道南伸に伴う発掘調査の成果』公益財団法人和歌山県埋蔵文化財センター）、縄文～弥生移行期における列島社会での木器生産のあり方を考える上で注目してよいと考える。

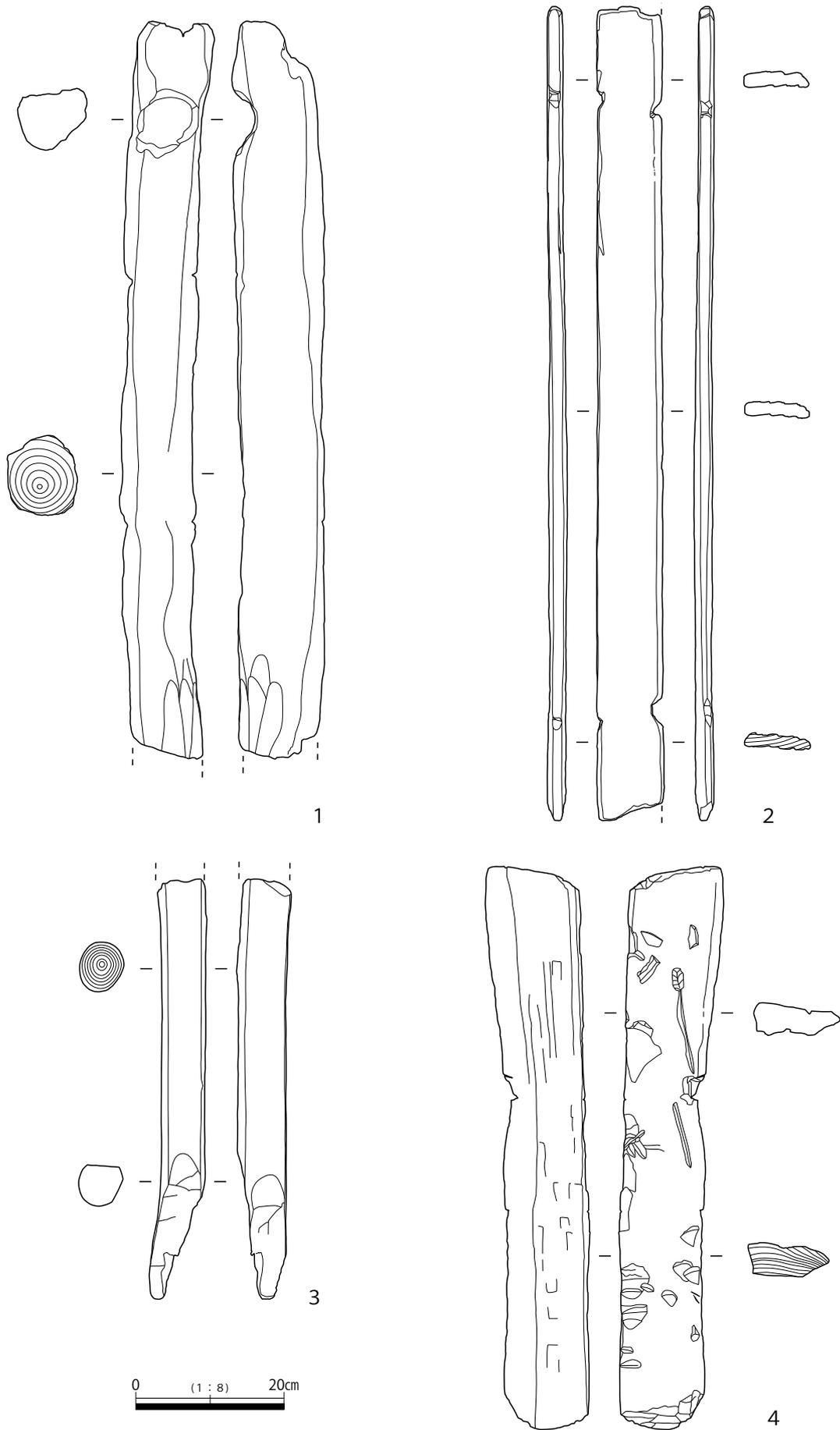
710 溝内の多くの分割された木材は特定の樹種が突出しているわけではなく、大きさもそろって

表IV -1 710 溝出土木材の樹種と木取り

	分割材			芯持丸太	分割・芯持丸太不明	製品						未分類	合計
	縦割り	放射状	不明			杭(丸太)	杭(割材)	板(板目)	板(柃目)	板(不明)	部材?		
カエデ属	10		3	37	2	3					1	7	63
ヤマグワ	6		5	31	3	1						6	52
スギ	4		2	1	1		1	2		2	4	34	51
ムクロジ	7		4	19	2								32
ケヤキ	7	1	3	18								2	31
クリ	8		3	15		2				1		1	30
ムクノキ	10		3	5	2	2	1	1				2	26
トチノキ	11		1	8									20
カツラ	6	1	3	7								1	18
ヤナギ属	5			7	2	2						1	17
ヤブツバキ	4		1	5	2	1		1				1	15
オニグルミ	5		1	6		1							13
エノキ	6		1	2	1								10
カヤ	2		1	1		3						2	9
アカガシ亜属	3	1	1	1	1				2				9
イヌマキ			1	1							1	4	7
コナラ節	3			3								1	7
ニワトコ				5									5
アカメガシワ				5									5
ヤマウルシ				2								1	3
ハンノキ				1								1	2
シイノキ属	1		1										2
ヒノキ	1											1	2
タブノキ				1								1	2
モミ属											1		1
クスギ節				1									1
ハルニレ				1									1
クマノミズキ			1										1
イボタノキ					1								1
カキノキ												1	1
ノリウツギ				1									1
不明	2			3		1							6
合計	101	3	35	187	17	16	2	4	2	3	7	67	444
	139			34									

表IV -2 710 溝出土木材の出土位置別樹種構成

	カエデ属	ヤマグワ	スギ	ムクロジ	ケヤキ	クリ	ムクノキ	トチノキ	カツラ	ヤナギ属	ヤブツバキ	オニグルミ	エノキ	カヤ	アカガシ亜属	イヌマキ	コナラ節	ニワトコ	アカメガシワ	ヤマウルシ	ハンノキ	シイノキ属	タブノキ	ヒノキ	モミ属	クスギ節	ハルニレ	クマノミズキ	サルナシ	イボタノキ	カキノキ	ノリウツギ	不明	合計
1群	17	14	6	10	9	6	4	9	2	8	4	4	4	4	3	2	2		2		1		1	1	1	1		1					2	118
2群	31	29	34	17	15	23	14	10	13	7	8	9	5	3		2	4	4	2	1		1	1	1			1			1	1	4	241	
3群	15	9	11	5	7	1	8	1	3	2	3		1	2	6	3	1	1	1	2	1	1								1			85	



第IV -7-5 图 第5区 949 构造物出土木器

るわけではないので、特定の木器製作のための施設ではなく、様々な木器の製作ができるように、周辺域の樹木を伐採し、荒い初期段階の分割を行って、貯木していたものと考えるのが妥当だろう。

ただし、スギ材については未分類のものが多く、そのほとんどが板材と考えられるので、これらについての検討を行った上で再評価する必要がある。

第2項 949 構造物出土木器 [第IV -7-5 図、図版 39-3]

949 構造物は710 溝内の、ちょうど釣山裾部に710 溝がぶつかり、走行方向が北へと変わる場所で、人頭大の礫を積み上げた土堤状の高まりと、木材が組み合う構造物や杭列で形成されている。水田等のための堰のような構造と考えているが、周辺で水田遺構は確認できなかった。さらに、949 構造物には先述した集積木材も含まれていることから、こうした集積場の水量を調整する役割があったと考えている。

1 は構造物を組み合わせる部材と考えられる。芯持丸太材の端部に径9cm、深さ3cmほどの窪みがある。樹種はヤナギ属である。2 は両側縁に抉りをもつ板状の木製品である。抉りはほぼ左右対称にいられてある。抉り間は82～84cmである。3 は芯持丸太材の先端を2面加工して尖らせている杭である。4 は表面にハツリ痕が認められる板目材である。また、ハツリ痕のある面の裏側でも刃物の痕跡や溝状の加工痕が多くある。端部には切断のための加工痕も認められる。樹種はアカガシ亜属である。

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種 からみた古植生とその利用

中原 計

1 樹種同定の方法と結果

(1) 試料

今回樹種同定を行った試料は、鳥取市本高弓ノ木遺跡から出土した古墳時代前期中葉および弥生時代開始期の木質遺物である。古墳時代前期中葉の試料は、主に4落ち込みに敷設された木製構造物の構築部材である。また、弥生時代開始期の試料は、710溝内に貯木された状態で検出された木材群と溝内構築物の構築材である。

(2) 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を徒手により作成し、ガムクロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作成した。作成したプレパラートを光学顕微鏡（Nikon ECLIPSE E200）で観察、同定した。

(3) 結果

同定できた樹種は針葉樹7種、広葉樹66種であった。各種類の主な解剖学的特徴は表V-1（針葉樹）、表V-2～7（広葉樹）に示した。また、個別の樹種同定結果については、表V-11～13を参照いただきたい。なお、この樹種同定結果には、筆者が同定したもの以外に、株式会社古環境研究所に委託された樹種同定結果を含む。

2 古墳時代前期の遺跡周辺の森林植生とその利用

(1) 周辺の古植生

本高弓ノ木遺跡の古墳時代前期の試料のうち、針葉樹の中でも割合の多いスギについては掘立柱建物の建築材の転用と考えられるものが多く、芯持ち丸太材がみられない。このことから、スギは集落近隣の植生を反映している可能性が低い。スギ以外の樹種については、ほぼすべてが芯持ち丸木材であることから、木製構造物を敷設するために近隣で伐採されて利用されたものと考えられる。そこで、スギ以外の樹種から周辺の植生について考えていく。

同定された樹種は、生育環境から概ね3つのグループに分けることができる。まず、シイノキ属、ヤブツバキ、タブノキ属をはじめアカガシ亜属やサカキなどの常緑広葉樹は照葉樹林を構成する樹種である。次に、ヤナギ属、エノキ、ヤマグワやハンノキ属などは湿地や水辺、河川沿いに生育し、河畔林や湿地林を形成する。最後に、マツ属、コナラ節、ヌルデ、アカメガシワ、ニワトコ、タラノキなどは日当たりのよい場所に生育し、林縁部や二次林によく見られる樹種である。

これらのことから、遺跡周辺の釣山などの丘陵地には、照葉樹林が発達し、その中にカヤなどの針葉樹やクリなど一部の落葉広葉樹が混在している状況であった。丘陵地の麓部分の林縁部には、ヌルデ、アカメガシワ、ニワトコなどがあり、平地には、ヤナギ属、ハンノキ属、ケヤキ、エノキ、ヤマグワなどが河畔林や湿地林を形成していた。また、マツ属やクヌギ節、コナラ節などが平地に二次林

表V-1 出土木材の解剖学的特徴（針葉樹）

<p>カヤ (<i>Torreya nucifera</i> Sieb.et Zucc イチイ科)</p> <p>垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は狭く年輪界は比較的不明瞭である。仮道管壁に2本が対になったらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はヒノキ型で、1分野に普通4個存在する。放射組織は単列で、1～30細胞高である。</p>
<p>イヌマキ (<i>Podocarpus macrophyllus</i> D.Don マキ科)</p> <p>垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、年輪界がやや不明瞭である。樹脂細胞が年輪の中にはほぼ平等に散在する。放射組織はすべて放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個存在する。放射組織は単列で、1～20細胞高である。</p>
<p>モミ属 (<i>Abies</i> マツ科)</p> <p>垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。仮道管は肥厚が著しくて接線方向に小さく、年輪界は明瞭。放射柔細胞の壁は厚く、じゅず状末端壁を有する。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個存在する。放射組織は単列で細胞高は比較的高い。</p>
<p>ニヨウマツ (マツ属複雑管束亜属) (<i>Pinus</i> subgen.<i>Diploxylo</i> マツ科)</p> <p>垂直・水平樹脂道を持つ針葉樹材。早材から晩材への移行は急で、晩材幅は広い。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管からなり、放射仮道管の内壁は鋸歯状に突出している。分野壁孔は窓状である。放射組織は単列で1～15細胞高である。水平樹脂道を含んだ紡錘形放射組織がみられる。</p>
<p>ゴヨウマツ (マツ属単維管束亜属) (<i>Pinus parviflora</i> Sieb.et Zucc マツ科)</p> <p>垂直・水平樹脂道を持つ針葉樹材。早材から晩材への移行はやや緩やかで、晩材部の幅は比較的狭い。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管からなり、放射仮道管の内壁は平滑である。分野壁孔は窓状である。放射組織は単列で1～10細胞高である。水平樹脂道を含んだ紡錘形放射組織がみられる。</p>
<p>スギ (<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ科)</p> <p>垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材の幅が比較的広く、年輪界は明瞭である。樹脂細胞が晩材部に接線状に散在している。放射組織はすべて放射柔細胞からできており、分野壁孔はスギ型で、1分野に2個存在する。放射組織は単列で多くは10細胞高以下である。</p>
<p>ヒノキ (<i>Chamaecyparis obtusa</i> Sieb.et Zucc ヒノキ科)</p> <p>垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が晩材部に接線状に散在している。放射組織はすべて放射柔細胞からできており、分野壁孔はヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列で、1～15細胞高である。</p>

を形成していた可能性も指摘できる。

(2) 木製構造物における木材利用

本高弓ノ木遺跡の4落ち込みから検出された木製構造物に利用されている木材は、ヤブツバキが最も多く、スギ、シイノキ属、タブノキ属と続く。ただし、この木製構造物は、土石流等により埋没するたびに増築が行われており、それらの累積の結果である。構築された順序は、概ね明らかにされており、その順序ごとの樹種構成を比較することで、木製構造物構築における木材利用のあり方を具体的に復元したい。ただし、ヤブツバキについて利用の多いスギについては、ほぼすべてが転用材であることから、別に検討する。

木製構造物の構築段階とそれぞれの樹種構成を表V-8にまとめた。それを見ると、まず、最も古い段階（ステージ1）では、シイノキ属が最も多く、その次にヤナギ属が多い。次の段階（ステージ2）でもシイノキ属は最も多く利用されている。アカガシ亜属、コナラ節、ヤナギ属、タブノキ属がそれに次いで多い。ヤブツバキの利用も見られるが、未だ少量にとどまっている。ステージ3になると、ヤブツバキの利用が一時的に多くなり、次いで、ヤナギ属が利用される。それとともに、これまで主体であったシイノキ属は、利用が減少している。ステージ4～5では、ヤブツバキ、シイノキ属に偏る傾向はみとめられず、タブノキ属、ヤナギ属、コナラ節などの利用がみられる。

ステージ6以降は、ヤブツバキが最も多く利用されるようになり、タブノキ属、マツ属複雑管束亜属、コナラ節、ヤナギ属などの利用も継続してみられる。また、シイノキ属も少量ながら利用がみと

表V-2 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹1）

オニグルミ (<i>Juglans mandshurica</i> Maxim. subsp. <i>sieboldiana</i> Kitamura クルミ科)
散孔材。直径200 μ m前後の比較的大形の道管が単独ないし2、3個放射方向に複合して散在。年輪外境で径を減じる傾向がある。道管は単穿孔を有し、内腔にチロースが存在する。軸方向柔細胞は1列で接線方向に網状につながるほか、ターミナル状、散在状となる。放射組織は同性で1-4列。特に3列以上のものが目立ち、高さはおおむね0.5mm以下。
ヤナギ属 (<i>Salix</i> ヤナギ科)
散孔材。道管の直径は100 μ m前後で、単独ないし2、3個が放射状ないし斜線状に複合する。道管は単穿孔を有する。年輪界に1~2列のターミナル状柔組織がみられる。道管放射組織間壁孔は大きいふるい状となる。放射組織は単列異性で高さは0.5mm以下である。
ハンノキ (<i>Alnus japonica</i> Steud. カバノキ科)
散孔材。道管の直径は70~80 μ mで、単独ないし2~8個が放射状ないし塊状に複合する。道管は階段壁孔を有する。軸方向柔細胞は短接線状ないし散在状。道管放射柔細胞間壁孔はふるい状を呈する。放射組織は単列同性で、高さは0.5mm以下、集合放射組織がみられる。
クリ (<i>Catanea crenata</i> Sieb. et Zucc. ブナ科)
環孔材。年輪のはじめに極めて大きい道管が1~3列に並び、そこから漸次径を減じ、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、道管内腔にチロースが存在する。放射組織は同性で、単列である。
クスギ節 (<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> ブナ科)
環孔材。孔圏道管は1~数列で、直径は非常に大きい。孔圏外の小道管は単独で壁が厚く、放射方向に配列する。道管は単穿孔で、内腔にはチロースが存在する。軸方向柔細胞は1~3列で接線状に並ぶ。道管放射柔細胞間壁孔は柵状を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。
コナラ節 (<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> ブナ科)
環孔材。孔圏道管は1~3列で、直径は非常に大きい。孔圏外の小道管は薄壁で角張っており、放射状ないし火炎状に分布する。道管は単穿孔で、内腔にはチロースが存在する。軸方向柔細胞は接線状ないし網状となり、内部に結晶がみられる。道管放射柔細胞間壁孔は大型で円形ないし楕円形を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。
アカガシ亜属 (<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> ブナ科)
放射孔材。道管は年輪界に関係なく、単独で放射方向に並ぶ。道管は単穿孔を有する。軸方向柔細胞は1~3列で接線状に一年輪内に何本も並ぶ。軸方向柔細胞及び放射柔細胞に結晶が存在する。道管放射組織間壁孔は大型の柵状を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。
シイノキ属 (<i>Castanopsis</i> ブナ科)
環孔性の放射孔材。年輪の始めに大型の道管が接線方向に不連続に並ぶ。道管は放射方向に漸次径を減じて、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管は単穿孔を有する。軸方向柔細胞は1~3列となり、一年輪内に何層も接線上に並ぶ。放射組織は単列同性である。
ハルニレ (<i>Ulmus davidiana</i> Planchon var. <i>japonica</i> Nakai ニレ科)
環孔材。孔圏道管は1~3列となり、直径は極めて大きい。孔圏外では小道管が多数集合して接線状、斜線状に配列する。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は周囲状、ターミナル状に配列し、縦に鎖状につながった結晶細胞を持つ。道管放射組織間壁孔はやや大型で疎らなふるい状となる。放射組織は同性で1~6列、高さは1mm以下である。
ケヤキ (<i>Zelkova serrata</i> Makino ニレ科)
環孔材。年輪の始めに直径の大きい道管が通常1列に並ぶ。孔圏外では小道管が多数集合して接線状、斜線状、花綫状に連なる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔はやや大型のふるい状となる。放射組織は同性ないし異性Ⅲ型で、1~8列、高さは1mm以内。上下縁辺には大型の結晶細胞がみられる。
エノキ (<i>Celtis sinensis</i> Persoon ニレ科)
環孔材。孔圏道管は大きく、通常多列となる。孔圏外の小道管は集合し、斜線状、接線状になる。孔圏から孔圏外への移行部には比較的直径の大きい道管が存在する。道管は単穿孔を有し、内腔にチロースがみられる。放射組織は異性ⅡとⅢ型で1~2列のものと8~15列のものがある。幅の広い放射組織にはさや細胞がみられる。
ムクノキ (<i>Aphananthe aspera</i> Planch. ニレ科)
散孔材。道管は中庸で、単独ないし2~3個放射方向に複合して平等に分布する。道管は単穿孔を有する。軸方向柔組織は連合翼状、帯状。放射組織は異性ⅡとⅢ型で1~6列、高さは1mm以下、放射柔細胞に結晶がみられる。
ヤマグワ (<i>Morus australis</i> Poiret クワ科)
環孔材。孔圏道管は1~5列で、直径は大きい。孔圏害の小道間は2~6個が斜線状、接線状、集塊状に不規則に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、内腔にはチロースがみられる。軸細胞柔細胞は年輪始めで集団をなし、周囲柔細胞が発達する。道管放射組織間壁孔はやや大きくレンズ状となる。放射組織は異性で1~6列、高さは1mm以下である。
カジノキ (<i>Broussonetia papyrifera</i> l'Herit. et Vent. クワ科)
環孔材。道管の直径は250 μ mで徐々に減ずる。孔圏外の小道管は2-10個複合する。道管は単穿孔を有し、内腔にはチロースが存在する。小道管にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は周囲状か1-3列のターミナル状となる。道管放射組織間壁孔は小型のレンズ状を呈する。放射組織は異性ⅠとⅢ型で、1-4列となり、高さは1mm以下でときに1mmを越える。

表V-3 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹2）

イヌビワ (<i>Ficus erecta</i> Thunberg クワ科)
散孔材。道管の大きさは中庸で100-300 μ mとなり、単独ときに2-3個放射方向に複合して平等に分布する。道管は単穿孔を有し、内腔にはチロースがみられる。道管放射組織間壁孔はレンズ状となる。軸方向柔組織は幅の広い帯状で接線方向に幾層にも長く連なる。道管放射組織間壁孔は大形の柵状、レンズ状、スリット状、階段状となる。放射組織は同性ないし異性で1-6列、高さは1mm以下、ときに1mm以上。軸方向柔細胞および放射柔細胞に結晶がみられる。
タブノキ (<i>Machilus thunbergii</i> Sieb. et Zucc クスノキ科)
散孔材。道管の大きさは中庸で、単独ないし2-4個が主に放射方向に複合して平等に分布する。道管は壁が厚く、単穿孔を有する。道管内壁にはらせん肥厚がみられ、内腔にはチロースがみられる。周囲柔細胞は顕著で、油細胞を含む。道管放射組織間壁孔はレンズ状、ふるい状となる。放射組織は異性Ⅲ型で、幅は1-3列、高さは0.5mm以下である。放射組織の直立細胞の一部は油細胞となる。
カツラ (<i>Cercidiphyllum</i> Sieb. et Zucc. カツラ科)
散孔材。道管は薄壁で角ばっており、直径は50-70 μ mで多数分布する。道管は階段穿孔を有する。道管に平板状のチロースがみられる。道管側壁に階段壁孔がみられる。道管放射組織間壁孔は対列状ないしは階段状となる。放射組織は異性で、幅は1、2列、単列のもののは1-10細胞高、2列のものは単列部と2列の部分が数回重なる場合もあって高さ1mm以下。
サルナシ (<i>Actinidia rufa</i> Planchon ex Miq. マタタビ科)
環孔材。道管は直径50-450 μ mであるが、100 μ m前後のもの400 μ m前後のものが多い。孔圏はおおむね単列。道管は単穿孔を有し、側壁には階段壁孔および対列壁孔がみられる。道管内腔には平板状チロースが存在する。道管にはらせん肥厚がみられ、柢目面で見ると道管周囲には不規則な形状をした柔細胞がみられる。道管放射組織間壁孔はふるい状となる。軸方向柔組織は散在状、短接線状、周囲状となる。放射組織は異性で、幅は1-6列、高さは2mm以上。ただし、多列部はおおむね1mm以下で、単列部が長い。
ヤブツバキ (<i>Camellia japonica</i> L. ツバキ科)
散孔材。道管は年輪始めでは50 μ m前後で、年輪外境では30 μ mと非常に小さい。道管は階段穿孔を有し、繊維は厚壁で、らせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は多く、散在状、短接線状に配列する。放射組織は異性で、幅は1-3、高さは1mm以下である。放射柔細胞にはしばしば大型の結晶が存在する。
サカキ (<i>Cleyera japonica</i> Thunb. ツバキ科)
散孔材。極めて小さい道管がほぼ単独、ときに2-4個複合して平等に分布する。道管は階段穿孔を有し、内壁にらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は不顕著ないし短接線状。道管放射組織間壁孔はふるい状、対列状となる。放射組織は異性で単列、高さは1mm以下である。放射柔細胞は厚壁で、大型の直立細胞を有する。
ヒサカキ (<i>Eurya japonica</i> Thunberg ツバキ科)
散孔材。極めて小さい道管がほぼ単独、ときに2-4個複合して平等に分布する。道管は階段穿孔を有し、内壁にらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は散在状、短接線状に配列する。道管放射組織間壁孔は対列状となる。放射組織は異性で幅は1-4列、高さは1mm以下である。
ミツバウツギ (<i>staphylea bumalda</i> DC. ミツバウツギ科)
散孔材。直径70 μ m以下の道管がほぼ単独、ときに2-4個不規則に複合する。道管は階段穿孔を有する。道管側壁に交互壁孔。軸方向柔細胞は散在する。道管放射組織間壁孔は中型のふるい状でまばらに分布する。放射組織は異性ⅡおよびⅢ型で1-8列となり、高さは1mm以下。
ノリウツギ (<i>Hydrangea paniculata</i> Sieb. et Zucc. ユキノシタ科)
散孔材。道管の直径は50-70 μ mとなり、単独ないし2-4個複合して平等に分布する。道管は階段穿孔を有する。道管には平板状のチロースが存在し、側壁に階段壁孔を有する。軸方向柔細胞は少ない。道管放射組織間壁孔は顕著な階段状となる。放射組織は異性で、幅は1-2列、ときに3列となり、高さは2mm以下で、直立細胞からなる単列翼部はきわめて長い。
ウツギ (<i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc. ユキノシタ科)
散孔材。年輪の境界は細かい波状となる。道管の直径は50 μ m以下で、ほとんど単独ないし2、3個がほぼ接線方向に複合して平等に分布する。道管は階段穿孔を有する。軸方向柔細胞は少ない。道管放射組織間壁孔はきわめて小さくかつ多い。繊維にらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で1-6列、高さはきわめて高く、さや細胞が顕著である。
ヤマザクラ (<i>Prunus jamasakura</i> Sieb. ex Koidz.バラ科)
散孔材。小径の道管が単独あるいは放射状ないし斜線状に複合し、平等に分布するが、年輪の内境に沿ってやや密度が高い。道管は単穿孔を有し、内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、1-5列となり、高さは1mm以下である。放射柔細胞には結晶細胞が存在する。
モモ (<i>Prunus persica</i> Batsch.バラ科)
散孔材。道管は直径50 μ m以下で、単独ないし放射方向に2-5個が複合して一様に分布する。年輪内境では径が大きく70-120 μ mとなり、環孔状を呈する。道管は単穿孔で内壁にらせん肥厚を有する。道管放射組織間壁孔は小さくやや多い。放射組織は異性で1-6列、高さは1mm程度、部分的にさや細胞がみられる。
ユクノキ (<i>Cladrastis sikokiana</i> Makino. マメ科)
環孔材。孔圏道管は直径200 μ mで疎らに並ぶ。孔圏外道管は単独ないし2-7個複合してほぼ平等に分布するが、年輪外境でやや少なく、直径も小さい。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔組織は顕著な周囲状、翼状、ターミナル状の配列を示し、ときには接線方向に連なることがある。軸方向柔細胞には結晶が存在する。道管放射組織間壁孔は小さく多い。放射組織は同性で1-6列となり、高さは1mm以下。

表V-4 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹3）

イヌエンジュ (<i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim. subsp. <i>buengeri</i> Kitamura マメ科)
環孔材。孔圏は幅が広く、孔圏道管の直径は200 μ m前後とやや大きい。孔圏外の小道管は集団をなして接線状ないし斜線状に複合し、年輪界では帯状となる。道管は単穿孔を有する。小道管は層階状に配列し、内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞も層階状構造をなし、幅の広いターミナル状、周囲状および翼状の柔組織を形成する。放射組織はほぼ同性、ときに異性で1-8列で大部分は6-8列となり、高さは1mm以下。放射組織にさや細胞がみられる。
フジ (<i>Wisteria floribunda</i> DC. マメ科)
環孔材。孔圏道管は200 μ m以上で、ときに350 μ mに達する。孔圏外の道管は小さく塊状で多数分布する。材内師部がある。道管は単穿孔を有し、小道管にはらせん肥厚が存在する。小道管と軸方向柔細胞は層階状に配列する。軸方向柔細胞には多室結晶細胞が多数みられる。放射組織は同性で1~10列、高さは通常1mm以下である。
イヌザンショウ (<i>Fagara mantchurica</i> Honda ミカン科)
環孔材。孔圏道管は直径100-150 μ mで、孔圏外に向かって径が徐々に減ずる。孔圏外道管は直径20-50 μ mで壁がやや厚く、単独で散在する。孔圏外道管側壁には交互壁孔が存在するが、内孔口が相互につながってらせん状の裂目となる。道管は単穿孔を有する。放射組織はほぼ同性で1-4列となり、高さは1mm以下。放射柔細胞にも結晶が見られる。ピスフレックが存在する。
カラスザンショウ (<i>Fagara ailanthoides</i> Engler ミカン科)
散孔材。道管は主に単独で存在するがときに放射方向に2個複合する。道管径は100-150 μ mである。道管は単穿孔で、側壁には交互壁孔が存在するが、内孔口が相互につながってらせん状の裂目となる。道管に着色物質がみられる。道管放射組織間壁孔は小さく交互状に多数並ぶ。軸方向柔細胞は1-4列のターミナル状にならび、結晶を含むことがある。放射組織はほぼ同性で1-6列となり、高さは1mm以下。ピスフレックが存在する。
ニガキ (<i>Picrasma quassioides</i> Benn. ニガキ科)
環孔材。孔圏道管は直径200 μ mで3-5列となり、配列はやや疎らとなる。孔圏外の小道管は非常に小さくかつ壁が厚く、ほとんど単独で分布する。道管は単穿孔を有する。軸方向柔細胞は晩材部において複数個の小道管を包み込んで塊状、波状ないし幅の広い帯状に配列する。放射組織はほとんど同性で1-4(6)列となり、高さは1mm以下。軸方向柔細胞および放射柔細胞に結晶がみられる。ピスフレックが存在する。
センダン (<i>Melia azedarach</i> L. var. <i>subtripinnata</i> Miquel センダン科)
環孔材。孔圏道管は300-400 μ m。孔圏幅は広く、2-3列ときに8列以上となる。孔圏道管の周囲に小道管が多数分布する。孔圏外の小道管は単独ないし2-3個複合するものが混在するが年輪外境では小道管が集団状に複合する。道管は単穿孔を有し、側壁には交互壁孔がみられる。道管の内壁にはらせん肥厚がみられ、内腔に着色物質が存在する。軸方向柔組織は周囲状、翼状となり年輪外境では小道管を包み、1-10列の帯状に配列し、結晶がみられる。道管放射組織間壁孔は小さく多い。放射組織は同性ないし異性で1-6列となり、高さは1mm以下。
アカメガシワ (<i>Mallotus japonicus</i> Mueller-Arg. トウダイグサ科)
環孔材。孔圏道管は250 μ mで、放射方向に2~5個複合する。孔圏外の小道管は軸方向柔細胞をはさんで数個が放射状に複合する。道管は単穿孔を有し、側壁には交互壁孔を有する。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状に分布し、内部に結晶がみられる。道管放射組織間壁孔は小さく多い。放射組織は単列異性で、概ね1mm以下である。
シラキ (<i>Sapium japonicum</i> Pax et Hoffm. トウダイグサ科)
散孔材。道管は直径50-100 μ mで、単独ないし2-5個放射方向に複合して平等に分布する。道管は単穿孔を有し、壁は厚い。軸方向柔細胞は散在状および疎らな周囲状に配列し、多重結晶細胞を有する。道管放射組織間壁孔は小さくやや多い。放射組織は単列異性で、高さは2mm以下。ピスフレックが認められる。
ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> L. ウルシ科)
環孔材。道管の直径は100~200 μ mで、孔圏外に向かって徐々に大きさを減じる。孔圏部の道管は単独あるいは2~4個複合し、孔圏外では接線方向あるいは斜線方向に短く連なって配列する。道管は単穿孔を有し、小道管にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は周囲状。道管放射組織間壁孔はふるい状ないしレンズ状。放射組織は異性Ⅲ型で1~4列、高さは1mm以下である。
ヤマウルシ (<i>Rhus trichocarpa</i> Miquel ウルシ科)
環孔材。孔圏道管の幅は5~6列、孔圏外の小道管は非常に小さく、ほぼ単独で、ときに4~5個複合して分布する。道管は単穿孔を有し、道管側壁に交互壁孔、内腔にはチロースがみられる。小道管の側壁にはらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔は大型で、ふるい状ないしレンズ状を呈し、単壁孔となる。軸方向柔細胞は周囲状。放射組織は異性Ⅲ型で1~2列、高さは1mm以下。放射柔細胞に結晶がみられる。
ハゼノキ (<i>Rhus succedanea</i> L. ウルシ科)
散孔材。年輪界はやや不明瞭。大きい道管は直径70-150 μ mで、ほぼ単独であるが、3-6個放射方向に複合した小さい道管がところどころに分布する。道管は単穿孔を有し、壁はやや厚い。道管内腔にチロースがみられる。隔壁木繊維が存在する。道管放射組織間壁孔は大型でしばしば棚状ないしレンズ状となり、単壁孔。放射組織は異性Ⅲ型で1-2列となり、高さは0.5mm以下となる。放射組織に結晶が存在する。
ウルシ (<i>Rhus verniciflua</i> Stokes ウルシ科)
環孔材。孔圏道管は多列(5-8列)で、孔圏外へ移行するにつれて直径を減ずる。孔圏外の小道管は均等に配列するが、年輪界付近はやや群状に複合する傾向がある。道管は単穿孔を有する。小道管にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は1列のターミナル状ないし周囲状となる。放射組織は異性で通常1-3列、高さは1mm以下となる。放射組織の縁辺の細胞は直立し、しばしば結晶を有する。

表V-5 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹4）

ヤマハゼ (<i>Rhus sylvestris</i> Sieb. et Zucc. ウルシ科)
散孔材。道管の直径は30-150 μ mの範囲に分布するが、通常100 μ mの道管が単独ないし2-10個複合して、きわめて疎らな1-2列の孔圏様配列を示す。年輪の外境では道管の分布・直径とも減少する。道管は単穿孔を有し、内腔にチロースをもつ。軸方向柔細胞は2-4層のターミナル状の他に周囲状および散在状。道管放射組織間壁孔は中型から大型でふるい状ないしレンズ状となる。放射組織は異性で1-2列、高さは0.5mm以下となる。放射柔細胞に結晶が認められる。ピスフレックが存在する。
カエデ属 (<i>Acer</i> L. カエデ科)
散孔材。道管の直径は50～120 μ mで、単独ないし2～3個放射方向に複合する。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は接線状に不規則に配列し、多室結晶細胞となる。道管放射組織間壁孔は中型のふるい状。放射組織は同性で1～4列、高さはほとんどが1mm以下である。
トチノキ (<i>Aesculus turbinata</i> Blume トチノキ科)
散孔材。道管は単独あるいは2～4個放射方向に複合する。道管の大きさ、分布数とも年輪の中央部で大きく、年輪界付近では比較的小さい。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅でターミナル状に配列する。道管は単穿孔を有し、側壁には交互壁孔がみられる。道管放射組織間壁孔は中型のふるい状で有縁となる。軸方向柔細胞は1～2列のターミナル状に配列する。放射組織は単列同性で、高さは0.5mm以下で層階状配列を示す。
ムクロジ (<i>Sapindus mukorossi</i> Gaertn. ムクロジ科)
環孔材。孔圏道管は2～3列で、孔圏外の小道管は単独のもの、2～3個放射方向に複合するものからなる。年輪界付近では小道管が多数塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、道管側壁に交互壁孔、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は孔圏に近い部分では周囲状ないし翼状を示すが、年輪外境では連合翼状から帯状となり、結晶を有する。道管放射組織間壁孔は小型のふるい状で、有縁。放射組織は同性で1～3列、高さは1mm以下。
モチノキ (<i>Ilex integra</i> Thunb. モチノキ科)
散孔材。道管は50 μ m以下で分布も比較的少ない。単独ないし2-10個が放射方向あるいは塊状に複合する。道管は階段穿孔である。道管側壁に対列壁孔。道管および木繊維の内壁には水平のらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状に配列し、結晶を含む細胞がみられる。道管放射組織間壁孔は小型のふるい状となる。放射組織は異性ⅡおよびⅢ型で1-8列、高さはしばしば1mmを越える。放射柔細胞に大型の結晶細胞が存在する。
ソヨゴ (<i>Ilex rotunda</i> Thunb. モチノキ科)
散孔材。直径50 μ m以下の道管が単独ないし2-10個余り塊状ないし放射方向に複合する。道管は階段穿孔を有する。道管側壁に対列壁孔。道管ならびに木繊維には水平のらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔はきわめて小さくふるい状ないし対列状となる。放射組織は異性ⅡおよびⅢ型で1-5列、高さは1mm以下となる。放射組織に結晶細胞が存在する。年輪界は波打つ。
ゴンズイ (<i>Euscaphis japonica</i> Kanitz ミツバウツギ科)
散孔材。道管の直径は40-100 μ mで単独ないし2-4個複合して均等に分布する。道管は年輪の始めて分布が疎となり、直径が年輪中央部で大きく、年輪の外境で小さくなる。道管は階段穿孔を有する。道管内壁にはかすかにらせん肥厚が存在する。道管放射組織間壁孔は中型の対列状。軸方向柔細胞は不完全な周囲状であり顕著ではない。放射組織は異性Ⅱ型で1-10列以上に達し、高さは通常1mm以下であるが、しばしば1mmを越える。放射組織にさや細胞がみられるが顕著でない。
ツゲ (<i>Buxus microphylla</i> Sieb. et Zucc. var. <i>japonica</i> Rehd. et Wils. ツゲ科)
散孔材。直径30-40 μ mの道管が多数均等に分布する。道管は階段穿孔を有する。道管の壁は厚い。軸方向柔細胞は多く、散在状に分布する。木繊維の壁は厚く、内腔はきわめて狭い。道管放射組織間壁孔はふるい状となり、きわめて小さくて多く、単壁孔となる。放射組織は異性ⅠないしⅡ型で、通常2列ときに3列、高さは1mm以下となる。放射組織がときに上下に2-3個連なる。
ケンボナシ (<i>Hovenia dulcis</i> Thunb. クロウメモドキ科)
環孔材。孔圏道管は200～300 μ m、1～3列でやや疎らに配列し、孔圏外に向かって次第に大きさを減じる。孔圏外的小道管は2～5個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有する。軸細胞柔細胞は顕著な周囲状である。道管放射組織間壁孔は小さくて多い。放射組織は異性Ⅲ型で1～6列、高さはほぼ0.5mm以下となる。
イイギリ (<i>Idesia polycarpa</i> Maxim. イイギリ科)
散孔材。道管は直径100 μ m以下で、単独のもの以外に2-10個放射方向に不規則に複合するが、ときに10個以上複合することがある。年輪の外境で急に大きさを減じる。道管は単穿孔を有し、側壁には交互壁孔がみられる。軸方向柔細胞は少ない。道管放射組織間壁孔はやや大きい中型のふるい状で単壁孔となる。放射組織は異性Ⅱ型で1-4列、高さは1mm以下となる。
クマノミズキ (<i>Cornus macrophylla</i> Wallich ミズキ科)
散孔材。年輪の境界がしばしば波状を呈する。道管の直径は100 μ mで、単独のものが多く、2～4個が放射方向、接線方向などに複合するものもみられる。道管は階段穿孔を有する。軸方向柔細胞は散在状、短接線状などに配列する。道管放射組織間壁孔はやや大きくて少なく、対列状となる。放射組織は異性で、5～6列、高さはほぼ1mm以下である。
ミズキ (<i>Connus controversa</i> Hemsl. ミズキ科)
散孔材。年輪界は波打つ。道管は直径ほぼ50-120 μ mで、単独ないし2-4個複合して均等に分布する。年輪の中央部で直径が大きくなり、年輪の外境で急に大きさが減じる。道管は階段穿孔を有する。道管側壁に交互壁孔。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状に配列する。道管放射組織間壁孔は小さくふるい状で多い。放射組織は異性Ⅲ型で1-4列、高さは1mm以下となる。

表V-6 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹5）

アオキ (<i>Aucuba japonica</i> Thunb. ミズキ科)
散孔材。直径30 μ m以下の道管がほぼ単独、ないし2-4個複合して分布する。道管は階段穿孔を有する。道管は側壁に交互壁孔がみられ、内壁にらせん肥厚を有する。軸方向柔細胞は散在する。繊維状仮道管および木繊維にらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔は中型でやや楕円形のふるい状となる。放射組織は直立細胞と方形細胞からなる同性で1-6列となり、高さはときに10mmとなる。さや細胞がみられる。
タカノツメ (<i>Evodiopanax innovans</i> Nakai ウコギ科)
半環孔材。孔圏には直径100 μ mの道管が連続せずに疎らに1層あって、単独または接線方向に2個接続する。道管は孔圏外でやや急に径を減じ、50 μ m以下となる。孔圏外では単独のものほかに、年輪の内境では主に放射方向で、年輪の外境に向かうにつれて斜線方向、接線方向に2-8個連続する。いずれも単穿孔を有する。軸方向柔細胞は1列のターミナル状および散在状に配列する。道管放射組織間壁孔はやや大型のふるい状。放射組織は異性Ⅲ型で1-3(4)列、高さは0.5mm以下となる。
タラノキ (<i>Aralia elata</i> Seemann ウコギ科)
環孔材。孔圏道管の直径は150~200 μ mで4~5列、孔圏外小道管は30~50 μ mで2~3列をなし接線方向に帯状に長くつながる。道管は単穿孔を有する。道管放射組織間壁孔はやや大きいふるい状。放射組織は異性で1~6列、高さは1mm以下となる。
リョウブ (<i>Clethra barbinervis</i> Sieb. et Zucc. リョウブ科)
散孔材。道管の直径は50-100 μ mで、単独でみられ年輪中央部に多く分布する。道管は階段穿孔を有する。道管側壁には対列状および階段状の壁孔がみられる。道管内壁にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状に配列する。道管放射組織間壁孔はきわめて多くやや対列状。放射組織は異性Ⅰ型で1-5列、高さはおおむね1mm以下。
ヤマツツジ (<i>Rhododendron obtusum</i> Planchon var. <i>kaempferi</i> Wilson ツツジ科)
散孔材。道管はほぼ単独で分布し、直径は50 μ m以下で、年輪の中央部でやや大きくなる傾向がある。道管は階段穿孔を有する。道管尾部にらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔は階段状ないし対列状で小さく多い。放射組織は異性Ⅰ型およびⅢ型で1-5列、高さは0.5mm以下で、多列部は長い単列翼部を有する。単列放射組織は直立細胞のみからなる。
ネジキ (<i>Lyonia ovalifolia</i> drude subsp. <i>neziki</i> Hara ツツジ科)
散孔材。直径50 μ m前後の道管が単独ないし2-3個複合して平等に散在する。年輪の内境で道管は分布数・直径とも最大で、外側に向かって徐々に大きさを減じ、年輪外境で直径20 μ m前後の道管が2-数個接線方向に並ぶ傾向がみられ、半環孔性を呈する。道管は階段穿孔を有する。道管放射組織間壁孔はきわめて小さく交互状ないし対列状。軸方向柔細胞は少ない。放射組織は異性Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ型で1-3(4)列となり、多列部は5-20細胞高で直立細胞の長い単列翼部を有し、高さは0.5mm以下。
シャシャンボ (<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb. ツツジ科)
散孔材。道管が単独あるいは2~3個複合して年輪内に均等に分布する。道管は階段穿孔で、階段数は10以下、道管内壁には水平のらせん肥厚がみられる。道管放射組織間壁孔は階段状ないし対列状となる。放射組織は異性で単列のものと5~8列のものがある。
タイミンタチバナ (<i>Myrsine seguinii</i> Lev. ガンコウラン科)
散孔材。年輪界は不明瞭。直径50 μ mの道管が単独ないし2-3個複合して均等に分布する。分布密度は余り多くない。道管は単穿孔を有する。道管側壁および道管・放射組織間にはきわめて多数の小さな壁孔がみられる。軸方向柔細胞は散在状および周囲状に配列する。放射組織は異性でしばしば10列以上となり、高さはしばしば50mm以上となる。
カキノキ (<i>Diospyros kaki</i> Thunb. カキノキ科)
散孔材。道管は単独ないし2~3個放射方向に複合し、疎らに分布する。道管壁は非常に厚い。道管は単穿孔を有し、側壁の壁孔は交互状となる。道管放射組織間壁孔は小さく対列状。軸方向柔細胞は顕著な周囲状および接線状で、結晶を有する多室柔細胞を含む。放射組織は異性で1~2列で、高さは0.5mm以下。放射組織は板目面で層階状配列を示す。
エゴノキ (<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc. エゴノキ科)
散孔材。道管は単独あるいは2~10個放射状、斜線状、小塊状に数個複合して平等に分布する。道管は薄壁であるが、年輪後半では小径で厚壁の道管が2~数個複合する。道管は階段穿孔を有し、道管側壁に交互壁孔がみられる。軸方向柔細胞は晩材部で1~2列の接線状配列を示す。道管放射組織間壁孔はきわめて小さく多い。放射組織は異性Ⅱ型で1~4列で高さは1mm以下。
ハイノキ (<i>Symplocos myrtaea</i> Sieb. et Zucc. ハイノキ科)
散孔材。道管の直径は50~60 μ m以下である。道管は階段穿孔を有し、階段数は通常50以下である。道管放射組織間壁孔は対列壁孔や階段壁孔がみられ、縦一列に並ぶ。放射組織は異性Ⅰ、Ⅱ型で、1~4列、高さは1mm以下。しばしば複数の多列放射組織が直列細胞の単列部を介して連結する。ピスフレックスが存在する。
シオジ (<i>Fraxinus spaethiana</i> Lingelsh. モクセイ科)
環孔材。孔圏部道管は大きく、1~3列であり、孔圏外で道管は急速に大きさを減じ、孔圏外道管は単独、あるいは2~3個放射方向に複合したものが散在する。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1~3列であるが、多くは2列で、10細胞高前後のものが多い。
イボタノキ (<i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc. モクセイ科)
環孔材。道管は散孔状を呈するが、年輪界付近では大きめの道管が1列並んでみられる。道管は単穿孔を有し、内壁には粗いらせん肥厚がみられる。繊維状仮道管にもらせん肥厚が存在する。道管放射組織間壁孔はやや大きく疎ら。放射組織は異性Ⅱ、Ⅲ型で1~2列、高さは1mm以下。放射組織に長方形の小さい結晶が多数みられる。

表V -7 出土木材の解剖学的特徴（広葉樹6）

クサギ (<i>Clerodendron trichotomum</i> Thumb. クマツヅラ科)
環孔材。孔圏道管は多列で直径 200-250 μ m となり、孔圏外に向かって徐々に大きさを減じる。道管はほぼ単独であるが、ときに 2-3 個複合することもある。小道管の壁は厚い。小道管は散在状ないしやや接線状に分布する。道管は単穿孔を有し、内腔にチロースがみられる。軸方向柔細胞は顕著でイニシアル状ないし周囲状となり、年輪の外境に近づくとつれて翼状から連合翼状となる。道管放射組織間壁孔は小さく多い。放射組織は異性であるが、同性の多列放射組織も多くみられる。放射組織の幅は通常 1-5 列であるがまれに 8 列となり、高さは 1mm 以下。
ニワトコ (<i>Sambucus racemosa</i> L. subsp. <i>sieboldiana</i> Hara スイカズラ科)
散孔材。道管は 50-100 μ m で、2-10 個あるいはそれ以上が放射状、斜線状、団塊状など不規則に複合するが、斜線状に複合するものが目立つ。道管はほとんど単穿孔であるが、階段穿孔をも有し、側壁には交互壁孔がみられる。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状に配列する。道管放射組織間壁孔はやや大きく数は少ない。放射組織は異性 III 型で 1-6 列、高さは 0.5mm 以下。かなりの放射組織にさや細胞がみられ、放射組織を不完全にとり囲む。

められる。この状況は、もっとも新しい段階（ステージ 12）まで変化しない。

増築が行われる中で、利用に大きな変化がみとめられる樹種は、ヤブツバキ、シイノキ属、ヤナギ属である。ヤブツバキの利用は、初期はそれほど多くなかったが、ステージ 3 以降増加し、ステージ 6 以降では、どの段階においても最も多く利用されている樹種となる。シイノキ属は、ステージ 1・2 では、最も多く利用されていたが、ステージ 3 以降は利用が減少する。ヤナギ属も同様に、ステージ 3 以降利用が減少している。これらのことから、ヤブツバキの増加とシイノキ属、ヤナギ属の減少は同時期に起こっていることが指摘できる。ただし、すべてが連動した動きであるとは言い切れない。ヤブツバキ、シイノキ属はともに丘陵上を中心として分布している樹種であり、木材を獲得した場所が重なっている。それらに対して、ヤナギ属は平地の河畔林の構成要素である。そのため、前二者の動きは関連性があり、木材の選択が関係している可能性が高い。すなわち、当初はシイノキ属を選択的に利用していたが、数の減少に伴い、ヤブツバキが選択対象に変わったと考えられる。ヤナギ属については、木材の選択というよりも、木製構造物を設置する場所近辺に生えていたものが伐採、利用された結果である可能性が高い。

樹種構成と前項で復元した植生の分布と照らし合わせてみると、まず、木製構造物を敷設する場所周辺に生えていたヤナギ属と丘陵上のシイノキ属やタブノキ属、アカガシ亜属などを伐採し、構造物を構築する。丘陵上の照葉樹林の中からは、シイノキ属が選択的に利用されていたが、数が少なくなると、代わりにヤブツバキが選択されるようになる。その他の樹種については、平地、丘陵上など生育環境に偏りはみられず、様々な場所から木材が調達されていたといえる。

ただし、スギ材の利用のあり方からは別の側面もうかがえる。木製構造物に使用されているスギ材は、前項でもふれたようにほぼすべてが転用材である。木製品の転用は、時代を問わず普遍的に行われている。そのため、転用されるものがスギ材のみであったわけではなく、様々な木材を転用していた可能性が高い。木製構造物に利用されている材の木取りは、基本的に芯持ち丸太材であるので、製材加工された木製品の転用ではない。芯持ち丸太材を用いるものとしては、堅穴住居の建築材が挙げられる。山陰地方では、シイノキ属を中心に、堅穴住居によく利用されている（馬路 2006）。これらのことから、木製構造物に使われているシイノキ属などの一部は、堅穴住居用建築材の転用であった可能性も指摘できる。

3 弥生時代開始期の遺跡周辺の森林植生とその利用

(1) 周辺の古植生

弥生時代開始期に710溝に貯木された木材や、710溝内に設けられた水利施設949構造物から出土した木材について、同定できた樹種は、全体的に落葉広葉樹が多い(表V-9・10)。その中で、大きな割合を占めているのは、湿潤な環境に生育する種類のものである。オニグルミ、ヤナギ属、ケヤキ、ムクノキ、ヤマグワ、カエデ属、トチノキ、カツラ、ムクロジなどがそれにあたる。アカガシ亜属やヤブツバキなど常緑広葉樹もみとめられるが、落葉広葉樹と比較して少量にとどまっている。

樹種構成からみると、当該期の遺跡周辺の丘陵地には、クリやトチノキ、カエデ属などの落葉広葉樹とアカガシ亜属やタブノキ属、ヤブツバキ、サカキなどの常緑広葉樹が混在していた状況がうかがえる。丘陵地と平地部の境の林縁部には、アカメガシワやニワトコ、タラノキが生育しており、平地部の水路沿いにはオニグルミ、ヤナギ属、エノキ、ケヤキ、カツラなどが生育していたと考えられる。

(2) 貯木施設・水利施設における木材利用

710溝内に貯木された木材には、スギを中心とした針葉樹とカエデ属、ヤマグワ、ムクロジ、トチノキ、クリ、ケヤキなどの広葉樹がある(表V-9)。これらがどのような木製品に加工されるために貯木されていたかは、製品の出土がほとんどなかったために、明らかではない。しかし、同時期の水利施設が見つかっており、木材利用の一端をうかがうことができる。

710溝内に設けられた949構造物には、カエデ属が最も多く利用されており、その他ヤマグワ、ヤブツバキ、エノキ、ヤナギ属、カツラなどが使われている。水利施設の樹種構成(表V-10)は、貯木施設内の木材のものと概ね一致するが、カエデ属が突出して多い。そのため、カエデ属が選択的に利用されていたと考えられる。水利施設を構築するための木材の多くは、カエデ属を含め、ヤマグワ、エノキ、ヤナギ属、カツラなど河畔林を構成していた樹種が多く、平地部や林縁部から獲得されたものに偏っている傾向がある。

4 遺跡周辺の古植生変化

本高弓ノ木遺跡からは、ほぼ同じ場所から時代の異なる木材群が出土したことにより、古植生の変化を追うことができる。弥生時代開始期には、丘陵上に落葉広葉樹林が発達し、その中に常緑広葉樹が混在していた。丘陵地と平地部の境の林縁部には、アカメガシワやニワトコ、タラノキが生育しており、河畔林として、オニグルミ、ヤナギ属、エノキ、ケヤキ、カツラなどが生育していた。

一方、古墳時代前期中葉では、丘陵地には照葉樹林が発達し、その中に針葉樹や落葉広葉樹が混在していた。丘陵地の麓部分の林縁部には、ヌルデ、アカメガシワ、ニワトコなどがあり、平地には、ヤナギ属、ハンノキ属、ケヤキ、エノキ、ヤマグワなどが河畔林や湿地林を形成していた。

二つの時期での最も大きな違いは、落葉広葉樹林を構成するトチノキや河畔林を構成するオニグルミ、ハルニレ、カツラ、カエデ属といった樹種がほぼみられなくなることである。その一方で、照葉樹林を構成するシイノキ属、タブノキ属などが増加している。オニグルミやトチノキ、ハルニレ、カツラは日本列島の様々なところで見ることができ、北に行くほど分布が多いことから、比較的冷涼な気候を好む樹種である。それに対して、タブノキ属などは照葉樹林の構成要素であり、暖かい気候を好む。そのため、利用樹種の変化の要因としては、人々の選択する木材の傾向の変化ではなく、

表V-8 木製構造物木材の樹種構成 (段階別)

構築段階 (ステージ)	1		2			3			4			5		6								
	番号 など	25	29	22	25	28	22	25	27	北 側 石 積 み 下 部	22	26	板 敷 遺 構	23	24	18 下 部	19	20	21	3	3 上 部	3 下 部
樹種																						
カヤ				4	1	2		2		2			3	2			8	3		1	2	
イヌガヤ																			1		1	
イヌマキ				3				1				2										
ニヨウマツ				4				2	1					1				1				
ゴヨウマツ		2		3				1					5	1			1					
スギ	3	5		53	6	14		60	2	8	5	39	11	7	1		22	8	7	1	8	
ヒノキ				1		1															1	
ヤナギ属		9		16	4	6		38	2	11	4			2	1	2	1	2	1			
ハンノキ					1			3	2	1			9	8			5	1		3		
クリ	2	4		10	4	2		5	2	1			5	7			3	1			1	
クスギ節											1						2				1	
コナラ節	1	4		18	2	2		8	3		1		10	4			24	7			13	
アカガシ亜属		4		23		6		11	1				1	1			1	2				
シイノキ属		11	1	45	4	7		19		1	3			2			1	2	1		1	
ツブラジイ																					1	
ケヤキ				3	1	1		4	2								3	5				
エノキ	1	1		5	1	7		3	4				4	1			2	1	1		1	
ムクノキ					1						1					1					1	
ヤマグワ		1		8	2	2	1	4			3						2	3	1		1	
イヌビワ																	2					
タブノキ		4		13	2	2		9	9		3	2	15			1	4	13	1		5	
シロダモ属																					1	
ヤブツバキ		3		9	4	16		52	5	1	3		10	1	2	2	86	61	8	1	20	
サカキ		6		4		4		5			3			1								
ヒサカキ																						
ミツバウツギ								2			1											
ウツギ																	2					
ヤマザクラ				3				1														
モモ														1								
ユクノキ										3												
イヌザンショウ				2																		
カラスザンショウ												1										
ニガキ				1									1									
センダン				1																		
アカメガシワ				3									2			1		1				
シラキ				2				2	1												1	
ヌルデ				3		2		2	1				1				1	2			1	
ヤマウルシ				1		2									1		6				1	
ヤマハゼ													1									
ウルシ				1									3									
ハゼノキ				1							1			1								
カエデ属				1		1					1											
トチノキ																						
ムクロジ				2	3	1		1								1						
モチノキ		4		4																		
ソヨゴ													1									
ゴズイ				1																		
ツゲ						1																
ケンボナシ						1							1									
クマノミズキ		2		9	2	1		2									1					
ミズキ											1											
タカノツメ						1																
タラノキ																	2				1	
リョウブ						1																
ヤマツツジ				3				1					1									
ネジキ								1														
シャシャンボ		1				1																
カキノキ								1												1		
エゴノキ		4		1				2				1									1	
ハイノキ								1														
イボタノキ				2		1																
クサギ																						
ニワトコ																	3	4				
アワブキ																						
ユズリハ属																						
不明樹種	1	2		5				2				1	1							1		

(注) 数値は同定された点数 筆者同定分以外の樹種も含む。空マスは出土なし

表V-9 710 溝出土木材の樹種構成

樹種	点数	樹種	点数
カエデ属	63	ニワトコ	5
スギ	51	アカメガシワ	5
ヤマグワ	52	ヤマウルシ	3
ムクロジ	32	ハンノキ	2
ケヤキ	31	シイノキ属	2
クリ	30	タブノキ	2
ムクノキ	26	ヒノキ	2
トチノキ	20	モミ属	1
カツラ	18	クスギ節	1
ヤナギ属	17	ハルニレ	1
ヤブツバキ	15	クマノミズキ	1
オニグルミ	13	イボタノキ	1
エノキ	10	カキノキ	1
カヤ	9	ノリウツギ	1
アカガシ亜属	9	不明広葉樹	6
イヌマキ	7		
コナラ節	7		

表V-10 949 構造物出土木材の樹種構成

樹種	点数	樹種	点数
カエデ属	116	ニワトコ	4
ヤマグワ	36	ハンノキ	4
ヤブツバキ	27	サカキ	2
エノキ	25	イヌマキ	2
ヤナギ属	23	ヒノキ	2
スギ	21	オニグルミ	2
カツラ	22	ハルニレ	2
アカガシ亜属	15	エゴノキ	2
ムクノキ	14	クサギ	2
トチノキ	12	ヌルデ	1
ムクロジ	9	アオキ	1
ヤマウルシ	8	イイギリ	1
カヤ	8	タラノキ	1
シイノキ属	8	フジ属	1
タブノキ	8	サルナシ	1
ケヤキ	7	シラキ	1
イヌザンショウ	6	シャシャンボ	1
アカメガシワ	6	不明	7
クリ	5		

気候の変化に伴う植生自体の変化の可能性が高い。

シイノキ属やタブノキ属は、現在の鳥取平野の照葉樹林の中でもよく見ることのできる樹種である。つまり、古墳時代前期ごろは現在と同じような気候であったと考えられる。それに対して弥生時代開始期には、現在よりもやや冷涼な気候であったことがうかがえる。

5 結語

本高弓ノ木遺跡から出土した木質遺物について、樹種同定を行い、考察を行った。それにより、次のようなことが明らかとなった。

古墳時代前期中葉には、丘陵部には照葉樹林を主体とした森林があり、平地にはヤナギ属などからなる河畔林が存在していた。そのような森林植生の中から、木製構造物の構築には、ヤブツバキ、シイノキ属、タブノキ属などの常緑広葉樹がよく利用されていた。

弥生時代開始期には、丘陵部には落葉広葉樹を主体とした森林が広がり、平地には、オニグルミやカエデ属などからなる河畔林が存在していた。そこから、カエデ属、ヤマグワ、クリなどが貯木され、水利施設と考えられる949構造物にはカエデ属が主に利用されていた。

本高弓ノ木遺跡での分析結果と筆者がこれまで携わってきた大阪の河内平野の事例と比較すると、大阪府池島・福万寺遺跡から検出された弥生時代の堰には、どの時期のものもアカガシ亜属が主体を占めていた(中原2008)。それに対して、本高弓ノ木遺跡ではシイノキ属、ヤブツバキ、カエデ属の利用が目立つ結果となった。このことは、周辺植生の違いが大きな要因と考えられるが、当該期の人々の木材についての考え方の違いが反映している。

また、池島・福万寺遺跡では、ヤナギ属などあまり木材として優良ではないものは、手近に存在しているにもかかわらず、積極的に選択されたとは言えない状況がうかがえた。それに対して、本高弓ノ木遺跡の人々は、木材選択において、初期段階のみではあるが、選択性よりも入手しやすさを優先することもあった。このことも、木材に対する考え方の差が反映しているといえる。

杭材や水利施設の構築材など雑多な木材については、これまで周辺植生の手がかりになり、木材資

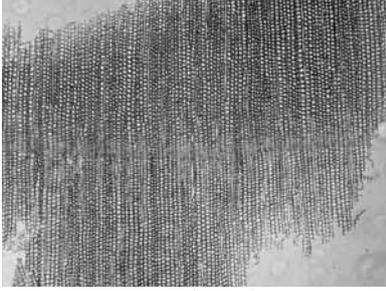
源の利用の在り方も具体的に復元できることは指摘してきた。本高弓ノ木遺跡の分析からは、それらに加えて、植生の変化から気候の変化をとらえることができた。また、今回の分析でみられたように、それぞれの地域における人々の木材に対する考え方も反映していることが示された。ただし、残念ながら今回は、材径や年輪数についてまで検討することができなかった。資料はまだ保管されており、今後機会を改めて検討することにしたい。今後も、これらの雑多な木質遺物について分析が進めば、これらの事柄がより詳細に復元できるようになると考えている。

参考文献

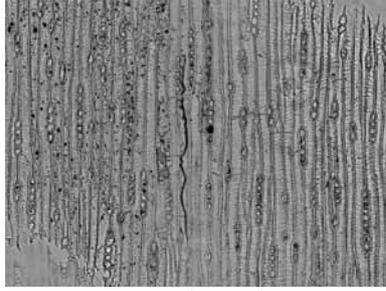
- 伊東隆夫 1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』第31号 京都大学木材研究所
伊東隆夫 1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』第32号 京都大学木材研究所
伊東隆夫 1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』第33号 京都大学木材研究所
伊東隆夫 1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』第34号 京都大学木材研究所
伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』第35号 京都大学木材研究所
島地謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』地球社
島地謙・伊東隆夫（編）1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
中原計 2008「樹種同定からみた池島・福万寺遺跡の古植生とその利用」『池島・福万寺遺跡6』財団法人大阪府文化財センター
林昭三 1991『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
馬路晃洋 2006「妻木晩田遺跡の自然環境と人々の関わり」『第7回弥生文化シンポジウム倭人の生きた環境－山陰弥生時代の人と自然環境－』鳥取県教育委員会

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

カヤ (*Torreya nucifera* Sieb.et Zucc イチイ科)



木口 (× 40)

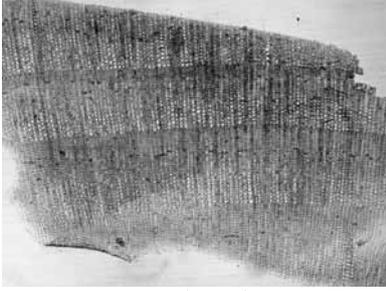


柁目 (× 100)

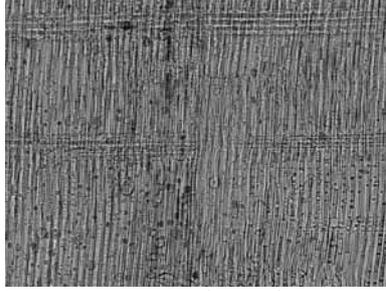


板目 (× 100)

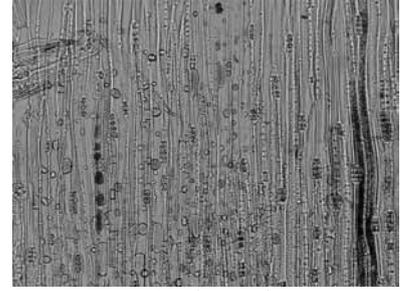
イヌマキ (*Podocarpus macrophyllus* D.Don マキ科)



木口 (× 40)

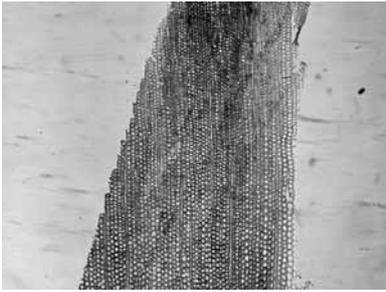


柁目 (× 100)

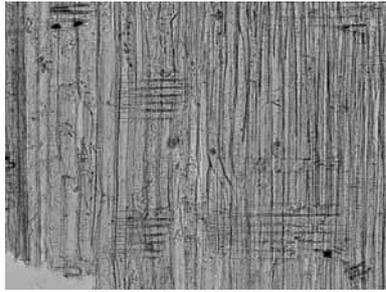


板目 (× 100)

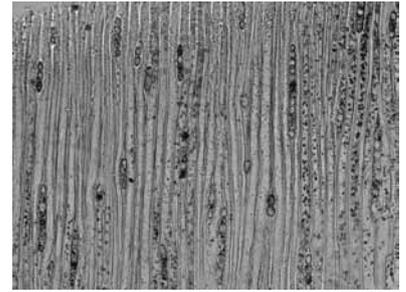
モミ属 (*Abies* マツ科)



木口 (× 40)

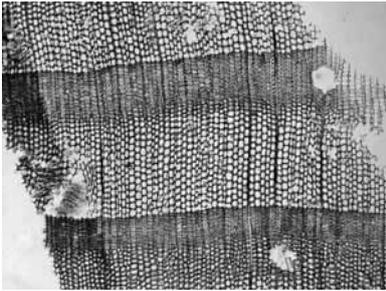


柁目 (× 100)

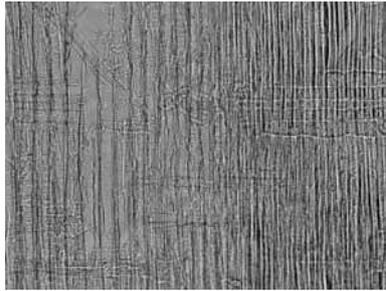


板目 (× 100)

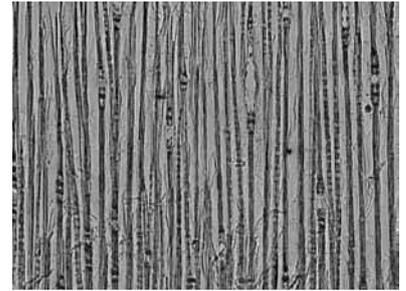
ニヨウマツ (マツ属複維管束亜属) (*Pinus* subgen.*Diploxylo*n マツ科)



木口 (× 40)

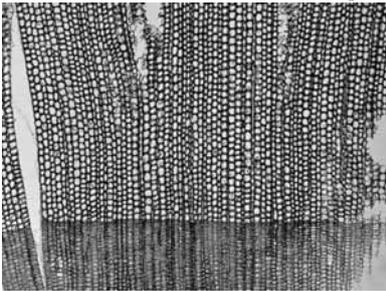


柁目 (× 100)

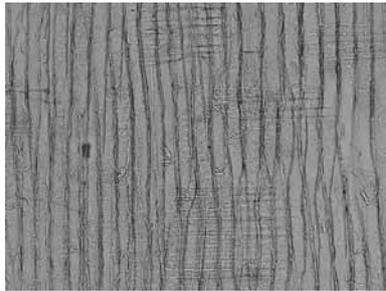


板目 (× 100)

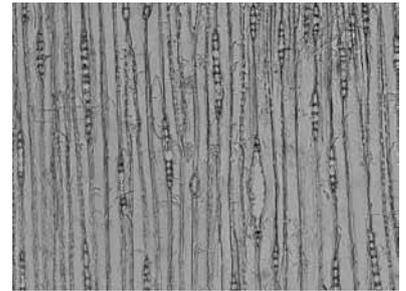
ゴヨウマツ (マツ属単維管束亜属) (*Pinus parviflora* Sieb.et Zucc マツ科)



木口 (× 40)



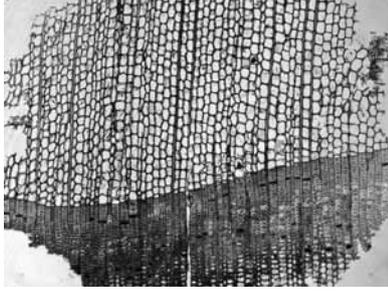
柁目 (× 100)



板目 (× 100)

図V-1 顕微鏡写真(1)

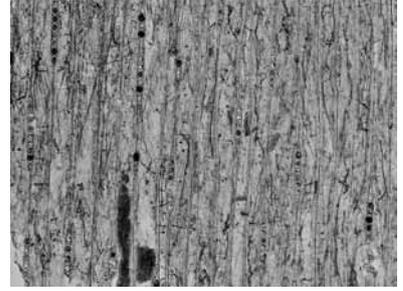
スギ (*Cryptomeria japonica* D.Don スギ科)



木口 (× 40)

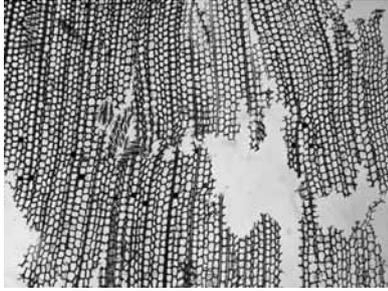


柁目 (× 100)

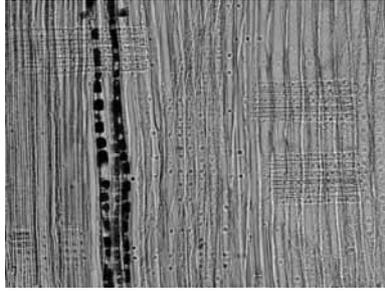


板目 (× 100)

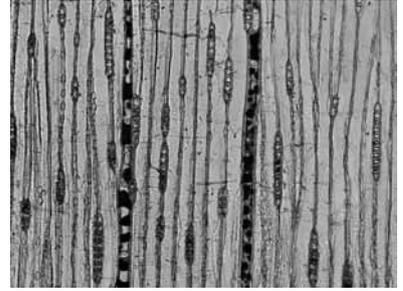
ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* Sieb.et Zucc ヒノキ科)



木口 (× 40)

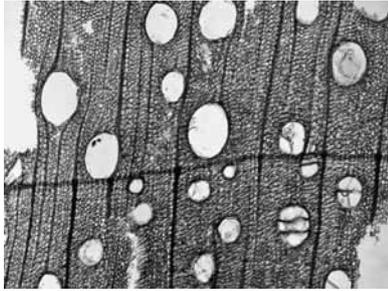


柁目 (× 100)

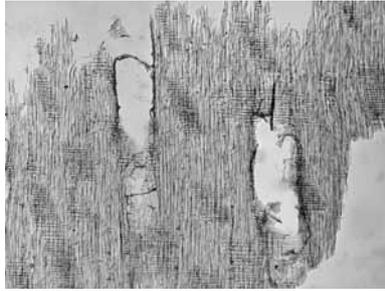


板目 (× 100)

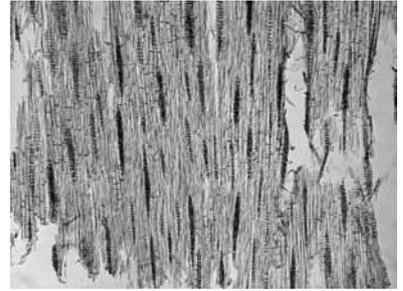
オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim.subsp.sieboldiana Kitamra クルミ科)



木口 (× 40)

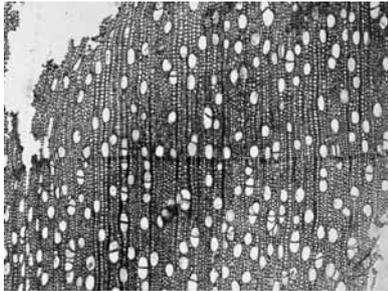


柁目 (× 40)

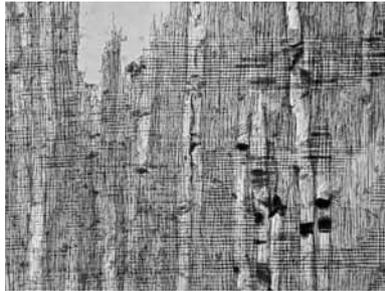


板目 (× 40)

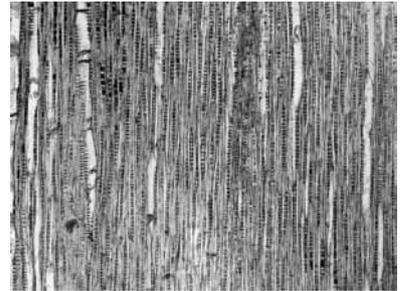
ヤナギ属 (*Salix* ヤナギ科)



木口 (× 40)

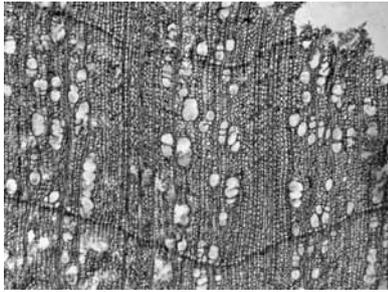


柁目 (× 40)

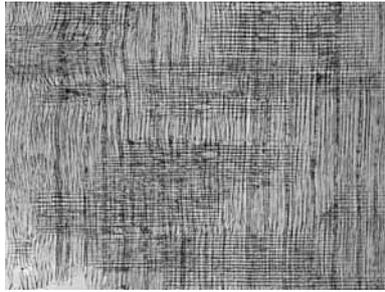


板目 (× 40)

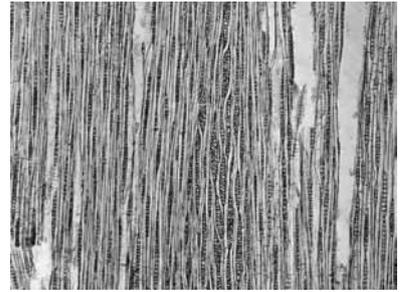
ハンノキ (*Alnus japonica* Steud. カバノキ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

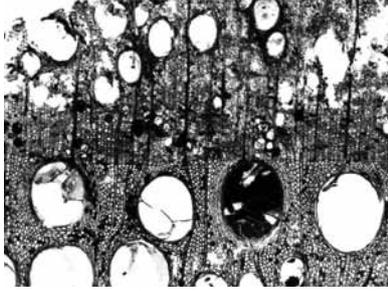


板目 (× 40)

図V-2 顕微鏡写真(2)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

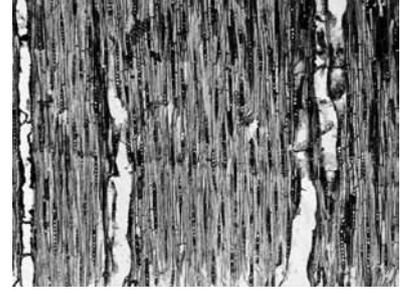
クリ (*Catanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科)



木口 (× 40)

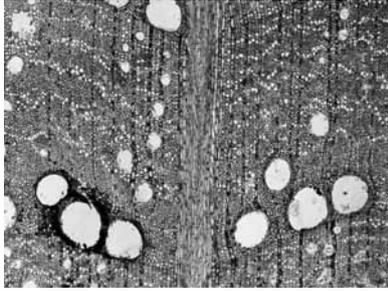


柁目 (× 40)

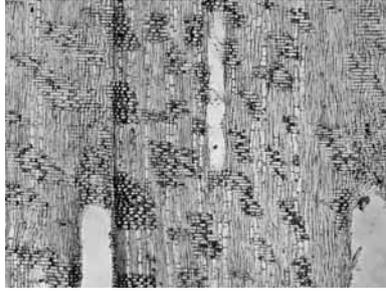


板目 (× 40)

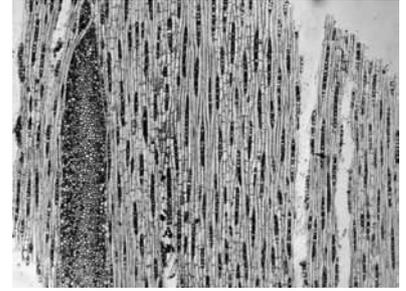
クヌギ節 (*Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科)



木口 (× 40)

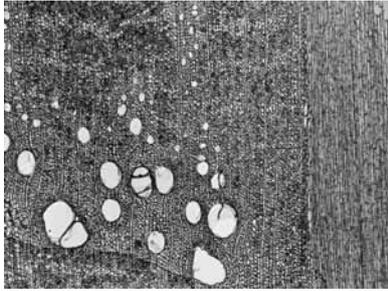


柁目 (× 40)

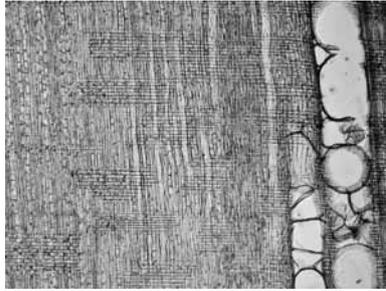


板目 (× 40)

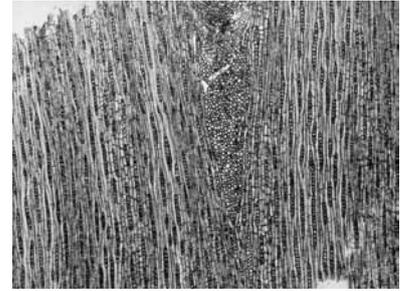
コナラ節 (*Quercus* sect. *Prinus* ブナ科)



木口 (× 40)

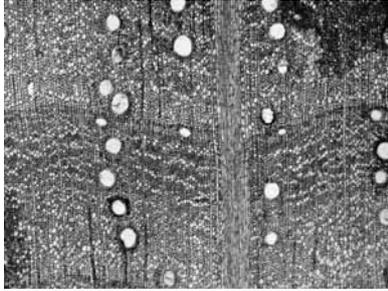


柁目 (× 40)

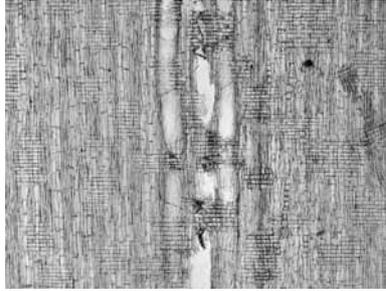


板目 (× 40)

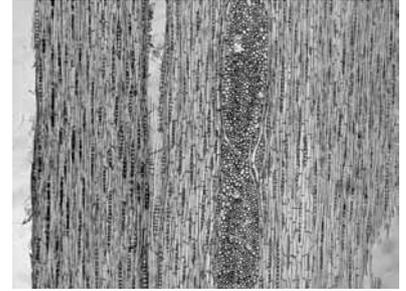
アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科)



木口 (× 40)

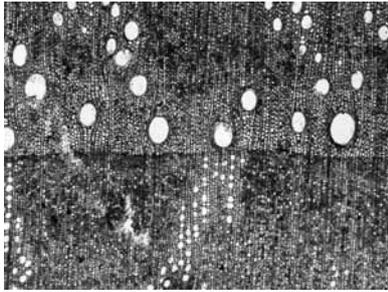


柁目 (× 40)

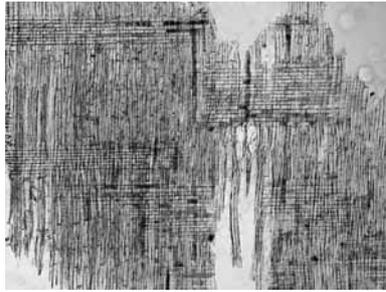


板目 (× 40)

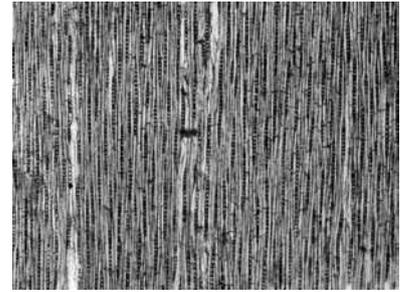
シイノキ属 (*Castanopsis* ブナ科)



木口 (× 40)



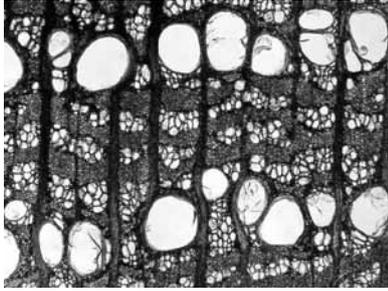
柁目 (× 40)



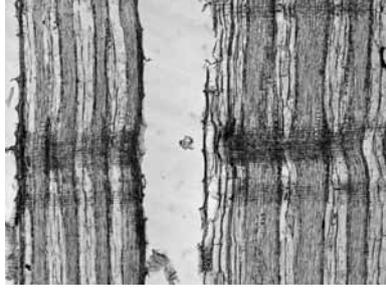
板目 (× 40)

図V-3 顕微鏡写真(3)

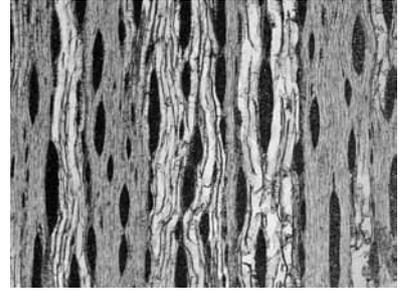
ハルニレ (*Ulmus davidiana* Planchon var. *japonica* Nakai ニレ科)



木口 (× 40)

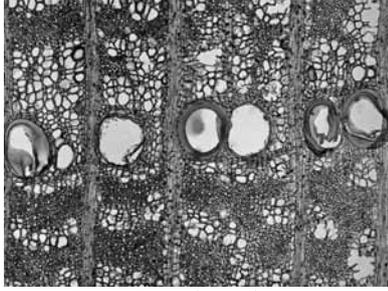


柁目 (× 40)

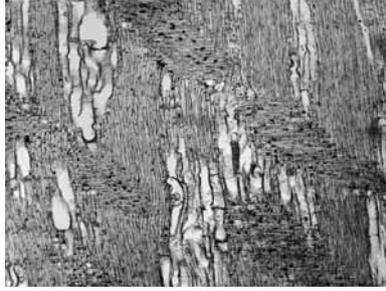


板目 (× 40)

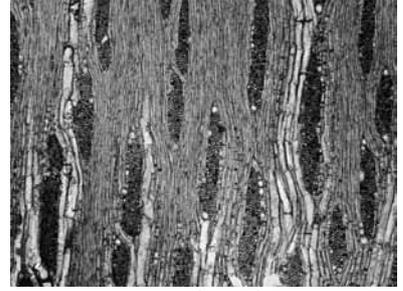
ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino ニレ科)



木口 (× 40)

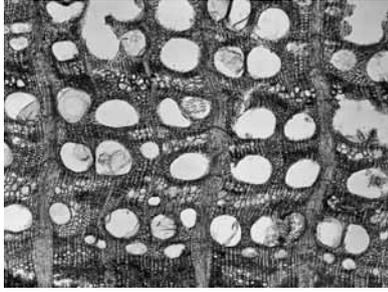


柁目 (× 40)

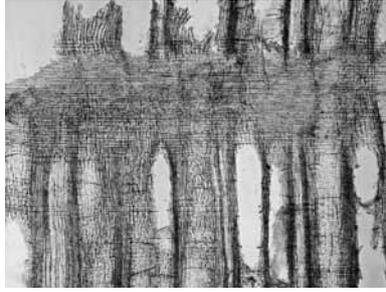


板目 (× 40)

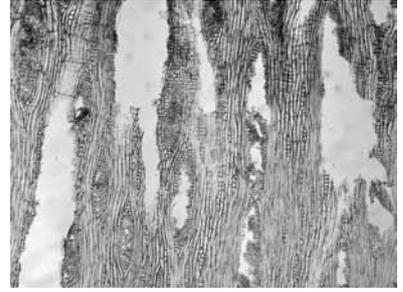
エノキ (*Celtis sinensis* Persoon ニレ科)



木口 (× 40)

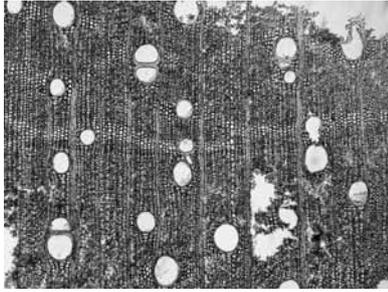


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

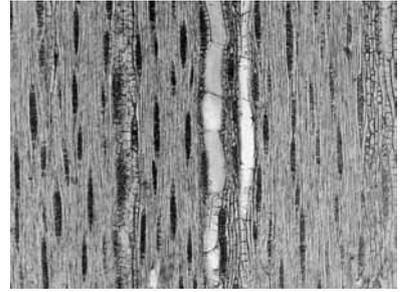
ムクノキ (*Aphananthe aspera* Planch ニレ科)



木口 (× 40)

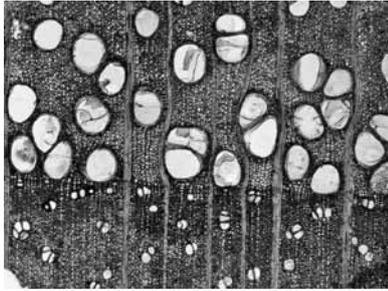


柁目 (× 40)

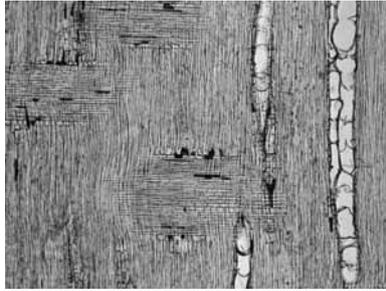


板目 (× 40)

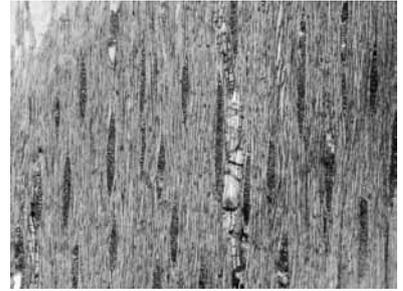
ヤマグワ (*Morus australis* Poiret クワ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

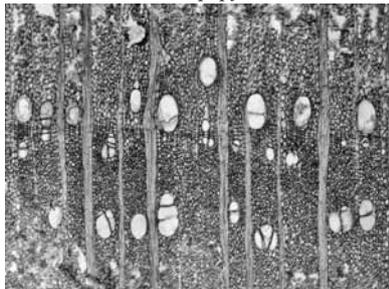


板目 (× 40)

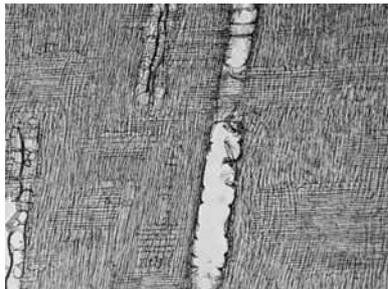
図V -4 顕微鏡写真 (4)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

カジノキ (*Broussonetia papyrifera* l'Herit. et Vent. クワ科)



木口 (× 40)

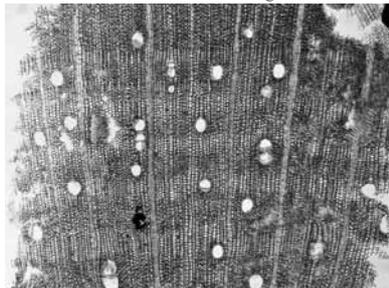


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

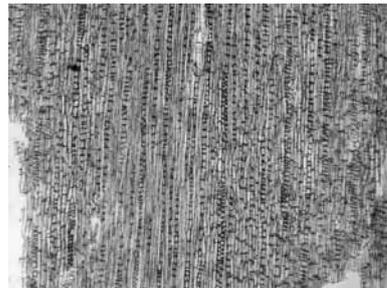
イヌビワ (*Ficus erecta* Thunberg クワ科)



木口 (× 40)

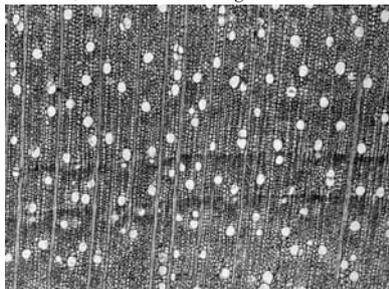


柁目 (× 40)

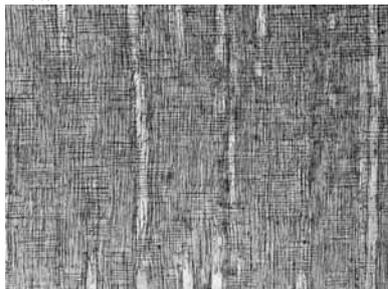


板目 (× 40)

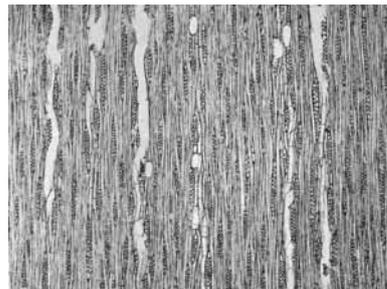
タブノキ (*Machilus thunbergii* Sieb. et Zucc. クスノギ科)



木口 (× 40)

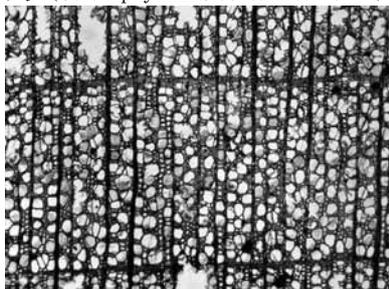


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

カツラ (*Cercidiphyllum* Sieb. et Zucc. カツラ科)



木口 (× 40)

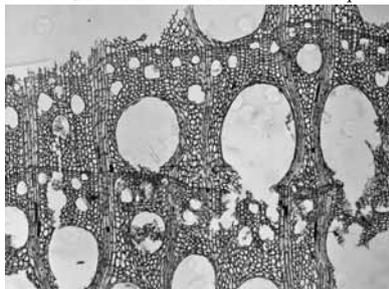


柁目 (× 40)

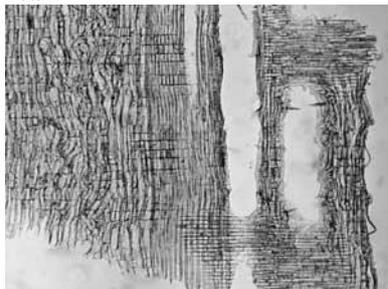


板目 (× 40)

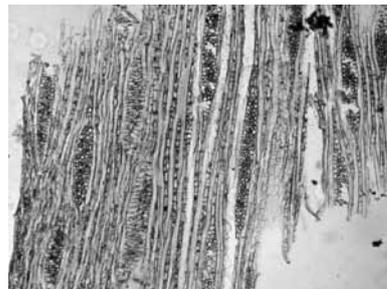
サルナシ (*Actinidia rufa* Planchon ex Miq. マタタビ科)



木口 (× 40)



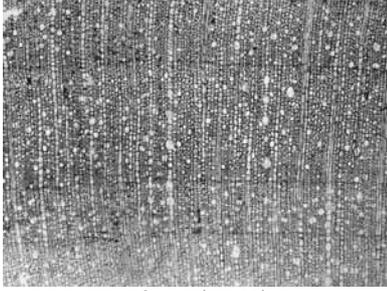
柁目 (× 40)



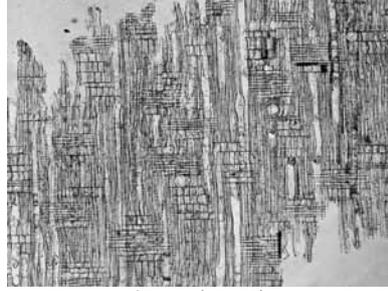
板目 (× 40)

図V -5 顕微鏡写真 (5)

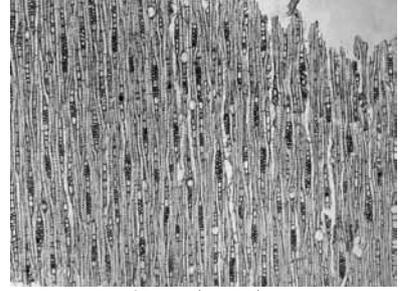
ヤブツバキ (*Camellia japonica* L. ツバキ科)



木口 (× 40)

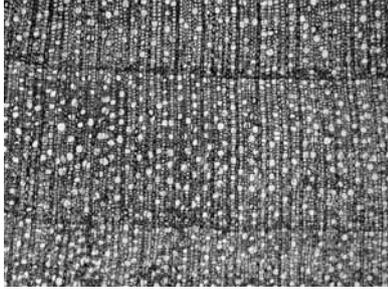


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

サカキ (*Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科)



木口 (× 40)

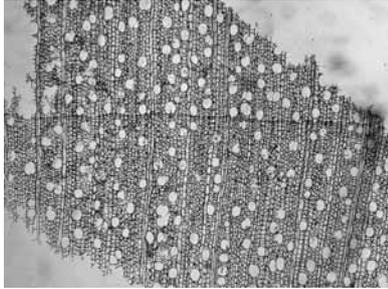


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

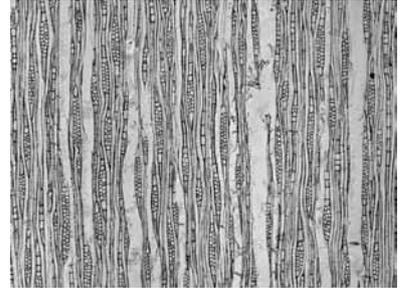
ヒサカキ (*Eurya japonica* Thunberg ツバキ科)



木口 (× 40)

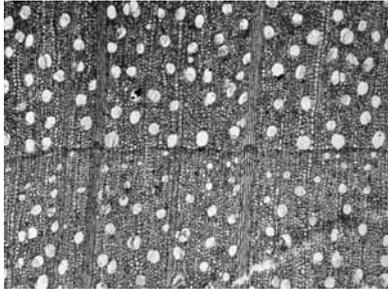


柁目 (× 40)

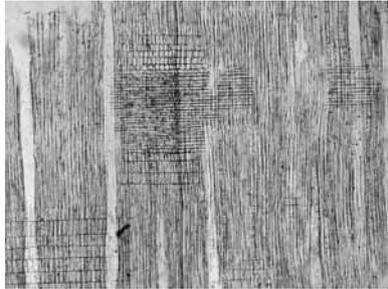


板目 (× 40)

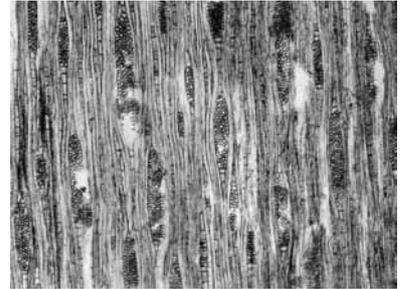
ミツバウツギ (*staphylea bumalda* DC. ミツバウツギ科)



木口 (× 40)

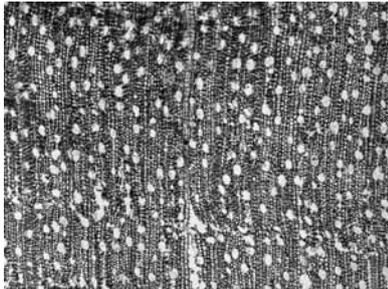


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

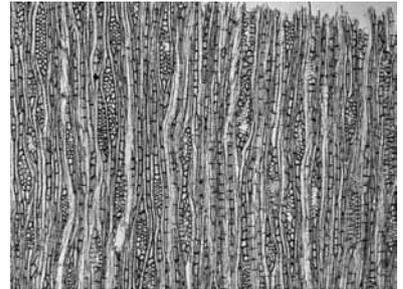
ノリウツギ (*Hydrangea paniculata* Sieb. et Zucc. ヌキノシタ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

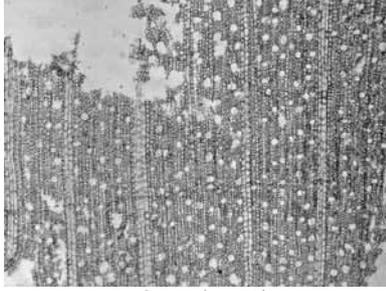


板目 (× 40)

図V -6 顕微鏡写真 (6)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

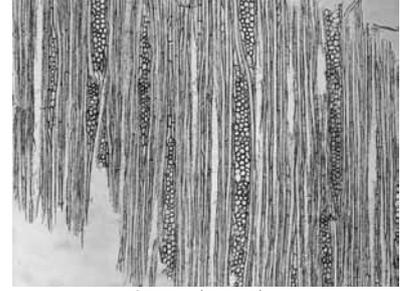
ウツギ (*Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科)



木口 (× 40)

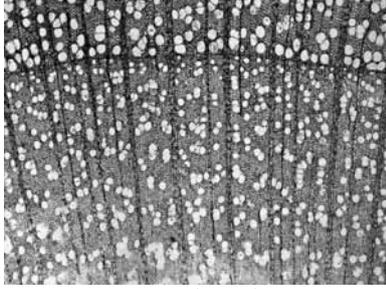


柁目 (× 40)

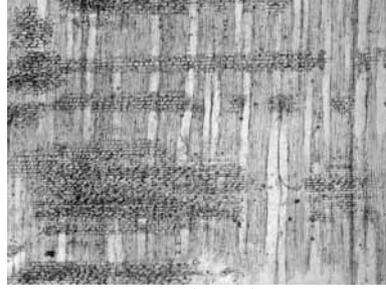


板目 (× 40)

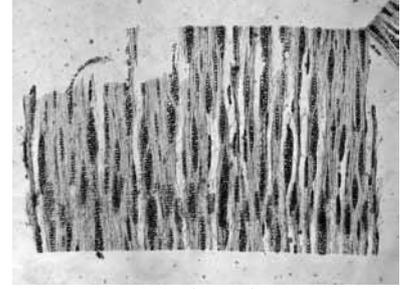
ヤマザクラ (*Prunus jamasakura* Sieb.ex Koidz バラ科)



木口 (× 40)

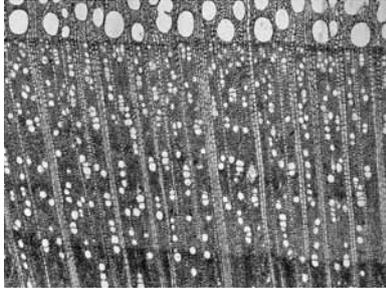


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

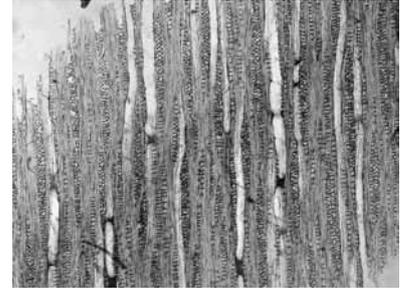
モモ (*Prunus persica* Batsch バラ科)



木口 (× 40)

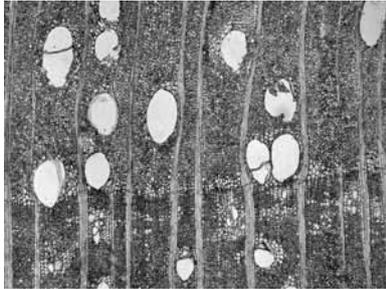


柁目 (× 40)

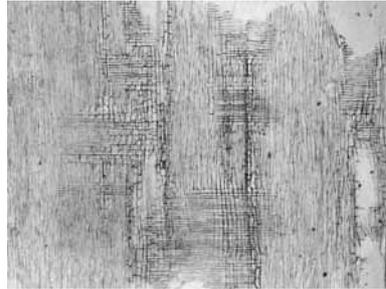


板目 (× 40)

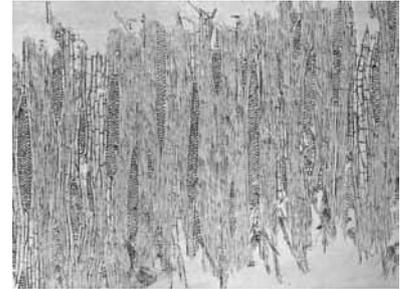
ユクノキ (*Cladrastis sikokiana* Makino マメ科)



木口 (× 40)

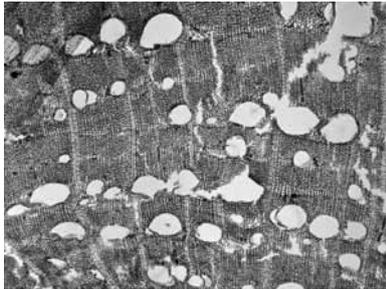


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

イヌエンジュ (*Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. subsp. buergeri Kitamura マメ科)



木口 (× 40)



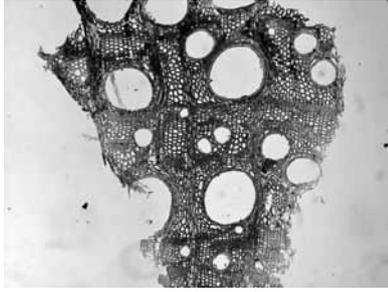
柁目 (× 40)



板目 (× 40)

図V-7 顕微鏡写真(7)

フジ (*Wisteria floribunda* DC. マメ科)



木口 (× 40)

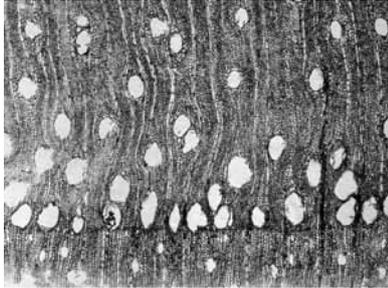


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

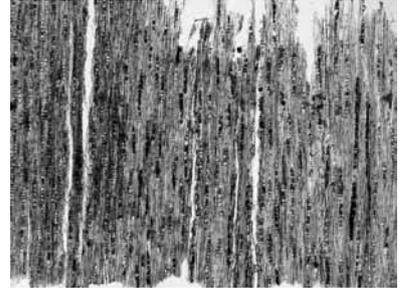
イヌザンショウ (*Fagora mantchurica* Honda ミカン科)



木口 (× 40)

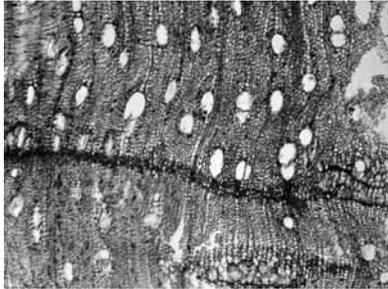


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

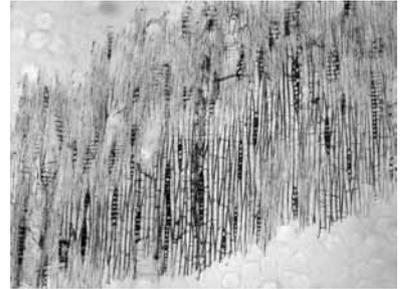
カラスザンショウ (*Fagora ailanthoides* Engler ミカン科)



木口 (× 40)

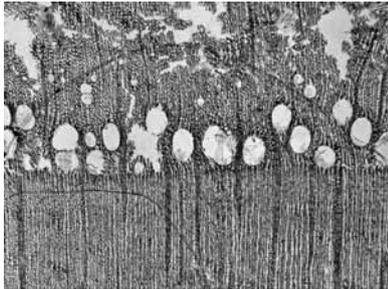


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

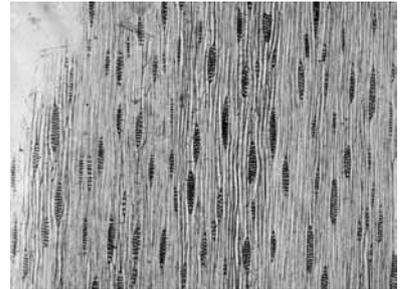
ニガキ (*Picrasma quassioides* Benn. ニガキ科)



木口 (× 40)

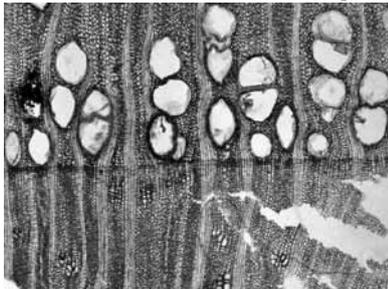


柁目 (× 40)

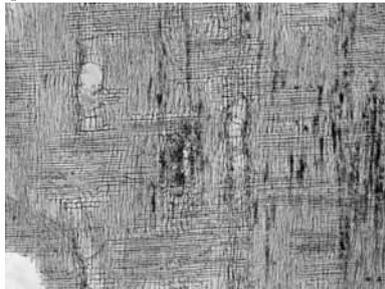


板目 (× 40)

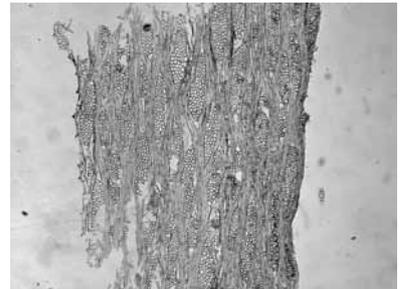
センダン (*Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel センダン科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

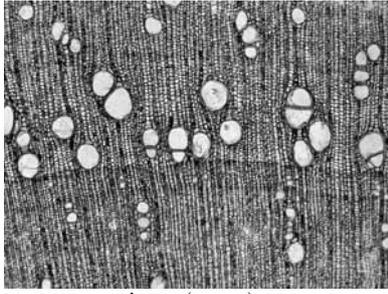


板目 (× 40)

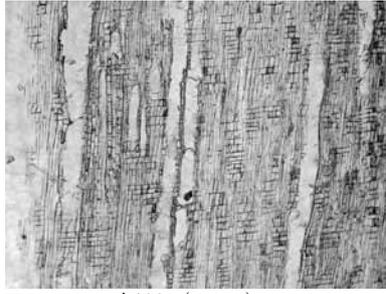
図V-8 顕微鏡写真(8)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

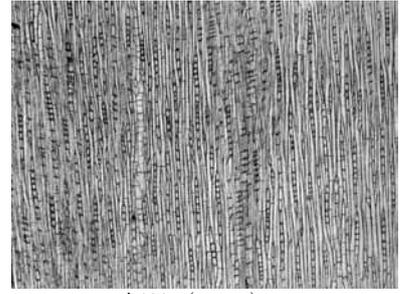
アカメガシワ (*Mallotus japonicus* Mueller-Arg. トウダイグサ科)



木口 (× 40)

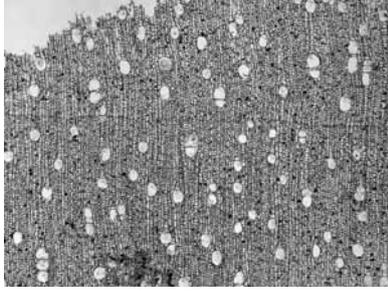


柁目 (× 40)

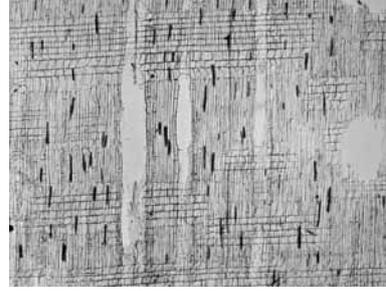


板目 (× 40)

シラキ (*Sapium japonicum* Pax et Hoffm. トウダイグサ科)



木口 (× 40)

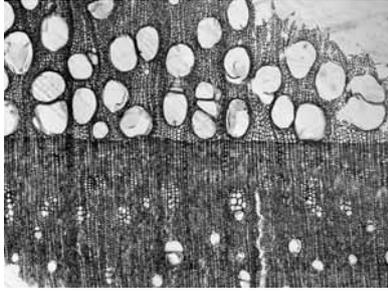


柁目 (× 40)

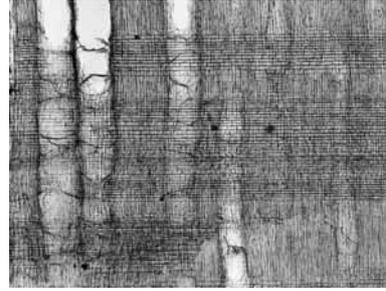


板目 (× 40)

ヌルデ (*Rhus javanica* L. ウルシ科)



木口 (× 40)

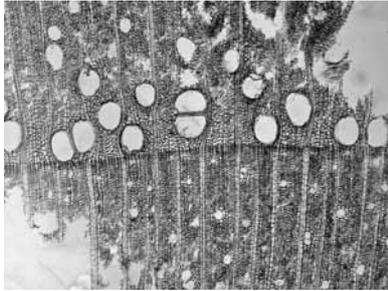


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

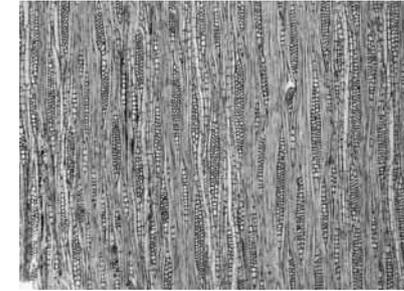
ヤマウルシ (*Rhus trichocarpa* Miquel ウルシ科)



木口 (× 40)

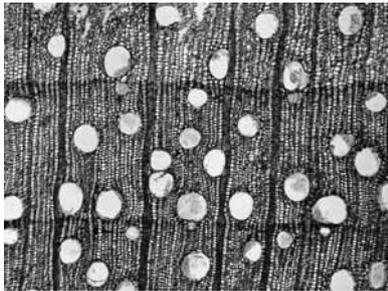


柁目 (× 40)

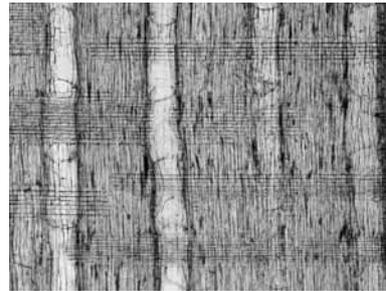


板目 (× 40)

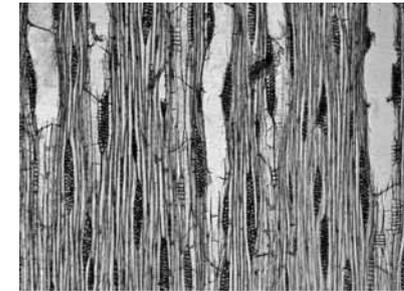
ハゼノキ (*Rhus succedanea* L. ウルシ科)



木口 (× 40)



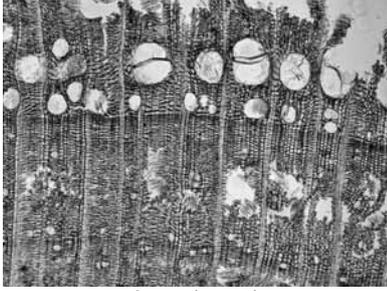
柁目 (× 40)



板目 (× 40)

図V-9 顕微鏡写真 (9)

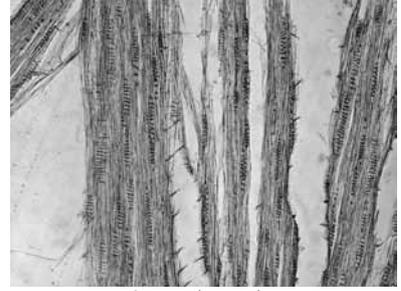
ウルシ (*Rhus verniciflua* Stokes ウルシ科)



木口 (× 40)

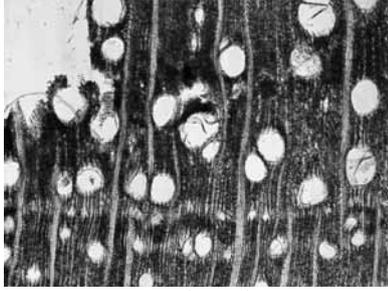


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

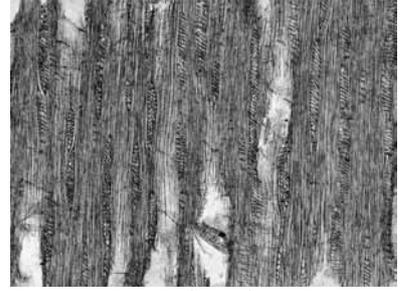
ヤマハゼ (*Rhus sylvestris* Sieb. et Zucc. ウルシ科)



木口 (× 40)

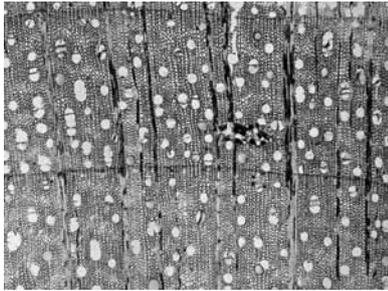


柁目 (× 40)

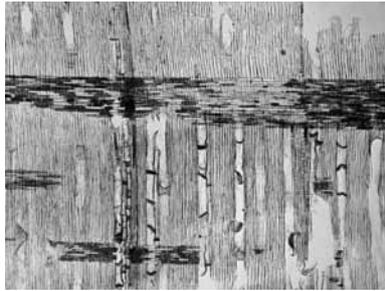


板目 (× 40)

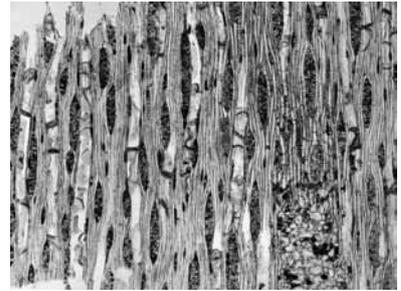
カエデ属 (*Acer* L. カエデ科)



木口 (× 40)

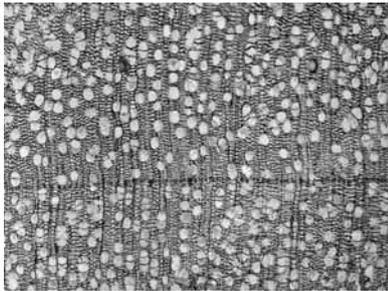


柁目 (× 40)

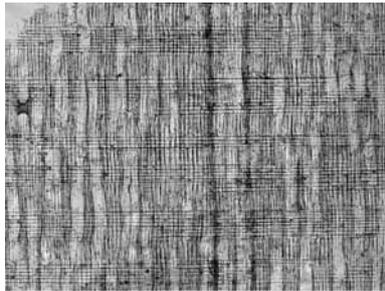


板目 (× 40)

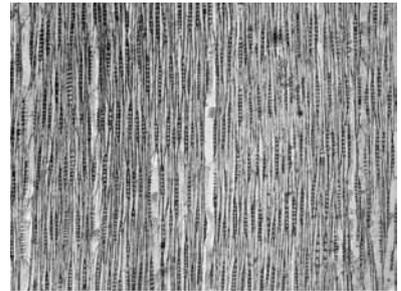
トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume トチノキ科)



木口 (× 40)

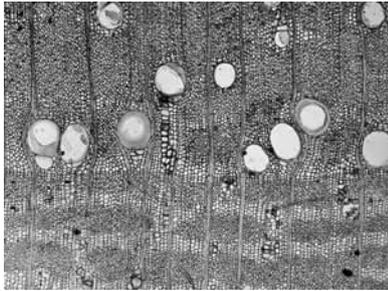


柁目 (× 40)

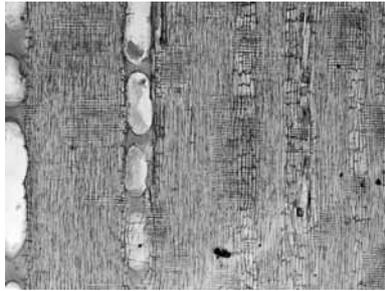


板目 (× 40)

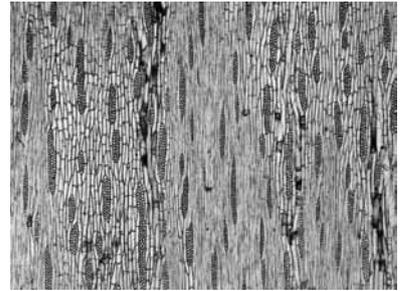
ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

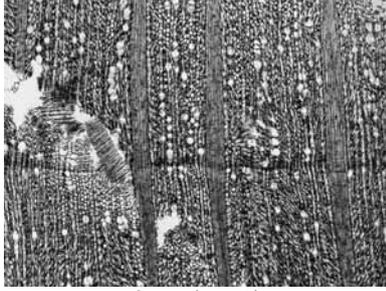


板目 (× 40)

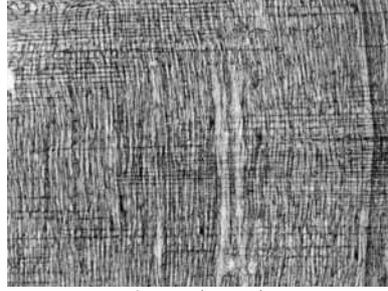
図V -10 顕微鏡写真 (10)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

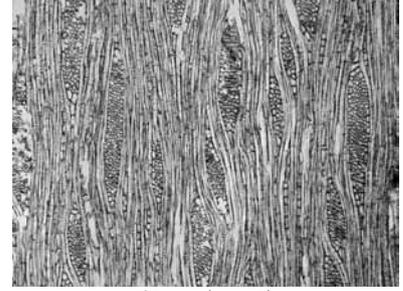
モチノキ (*Ilex integra* Thunb. モチノキ科)



木口 (× 40)

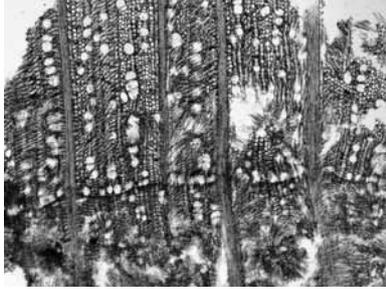


柁目 (× 40)

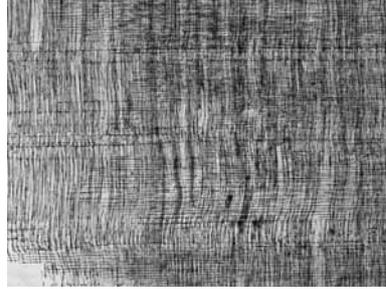


板目 (× 40)

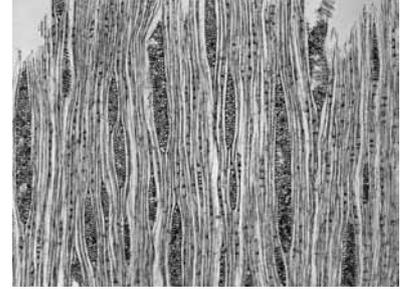
ソヨゴ (*Ilex rotunda* Thunb. モチノキ科)



木口 (× 40)

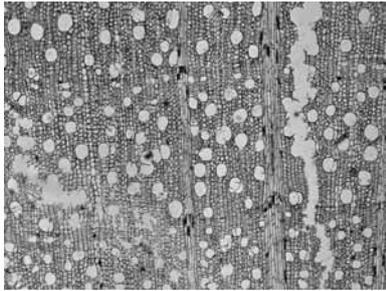


柁目 (× 40)

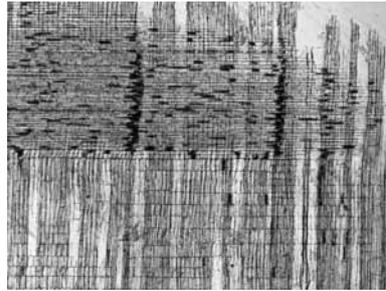


板目 (× 40)

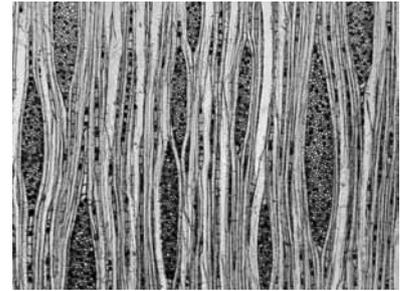
ゴンズイ (*Euscaphis japonica* Kanitz ミツバウツギ科)



木口 (× 40)

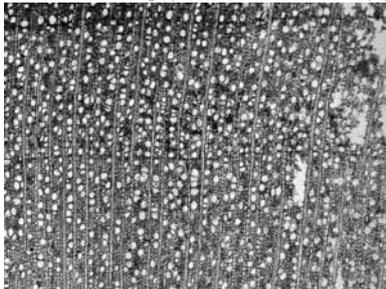


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

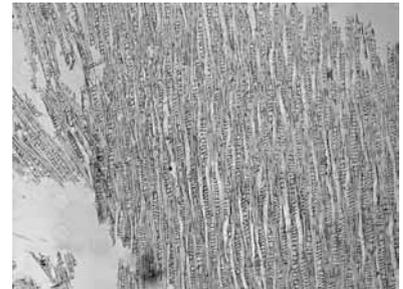
ツゲ (*Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* Rehd. et Wils. ツゲ科)



木口 (× 40)

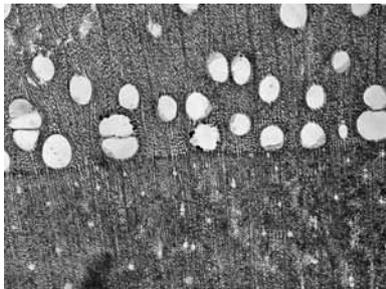


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

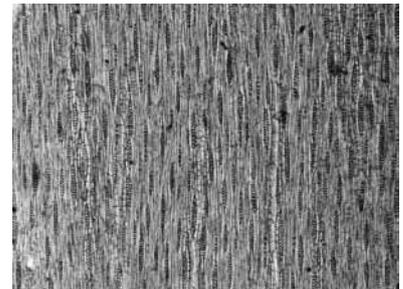
ケンボナシ (*Hovenia dulcis* Thunb. クロウメモドキ科)



木口 (× 40)



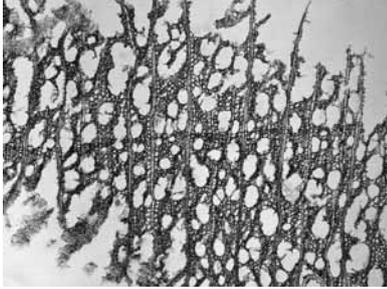
柁目 (× 40)



板目 (× 40)

図V-11 顕微鏡写真 (11)

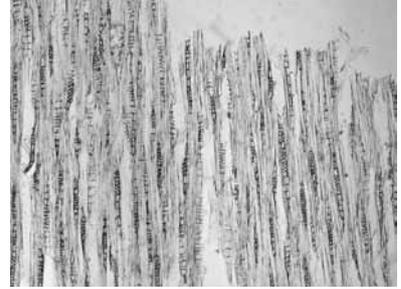
イイギリ (*Idesia polycarpa* Maxim. イイギリ科)



木口 (× 40)

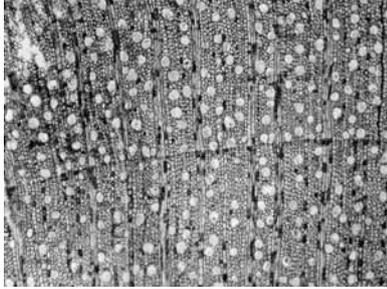


柁目 (× 40)

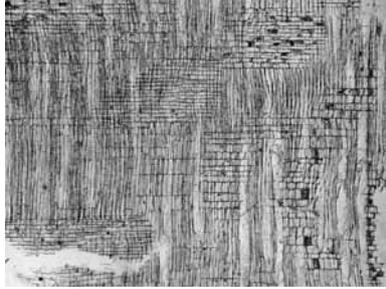


板目 (× 40)

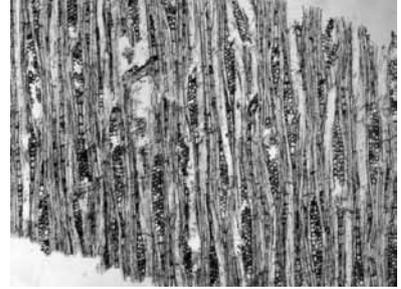
クマノミズキ (*Cornus macrophylla* Wallich ミズキ科)



木口 (× 40)

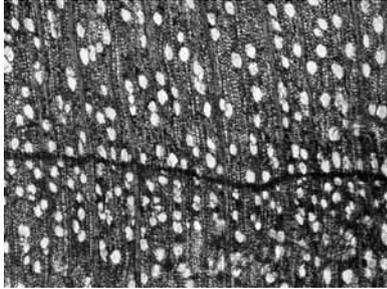


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

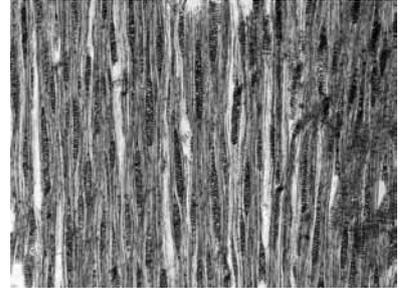
ミズキ (*Connus controversa* Hemsl ミズキ科)



木口 (× 40)

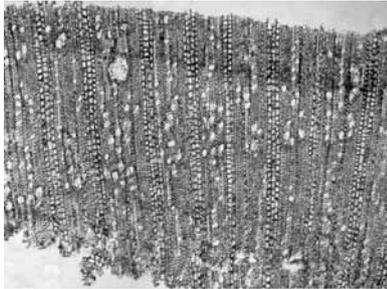


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

アオキ (*Aucuba japonica* Thunb. ミズキ科)



木口 (× 40)

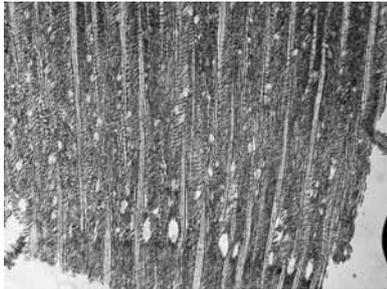


柁目 (× 40)

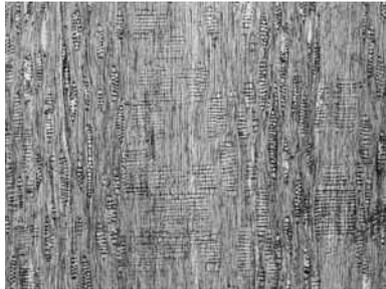


板目 (× 40)

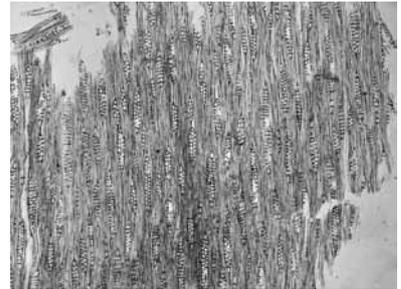
タカノツメ (*Evodiopanax innovans* Nakai ウコギ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

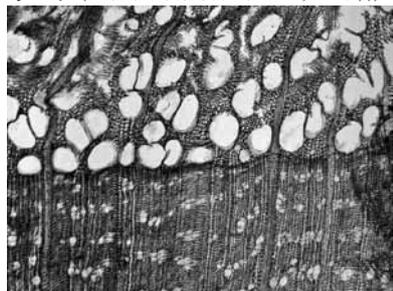


板目 (× 40)

図V -12 顕微鏡写真 (12)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

タラノキ (*Aralia elata* Seemann ウコギ科)



木口 (×40)

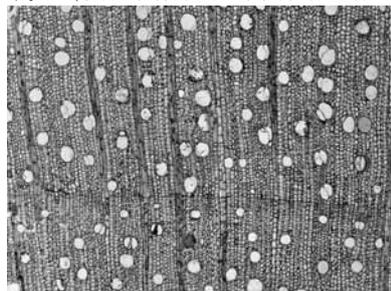


柁目 (×40)

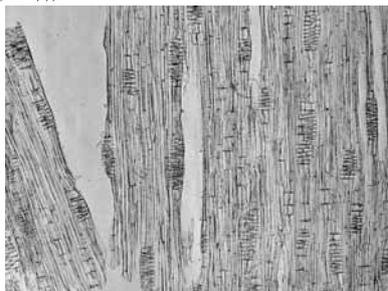


板目 (×40)

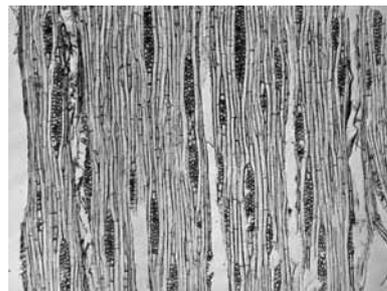
リョウブ (*Clethra barbinervis* Sieb. et Zucc. リョウブ科)



木口 (×40)

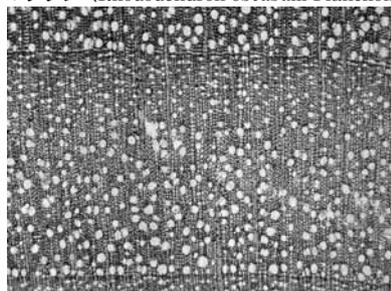


柁目 (×40)



板目 (×40)

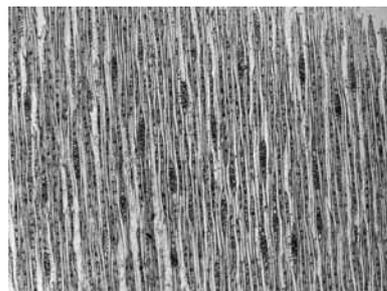
ヤマツツジ (*Rhododendron obtusum* Planchon var. *kaempferi* Wilson ツツジ科)



木口 (×40)

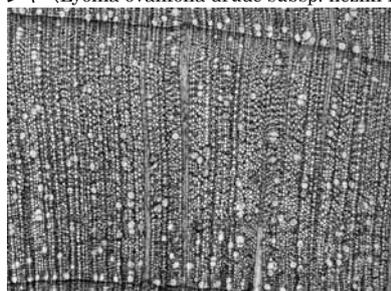


柁目 (×40)



板目 (×40)

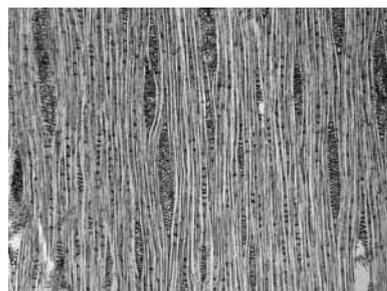
ネジキ (*Lyonia ovalifolia* drude subsp. *neziki* Hara ツツジ科)



木口 (×40)

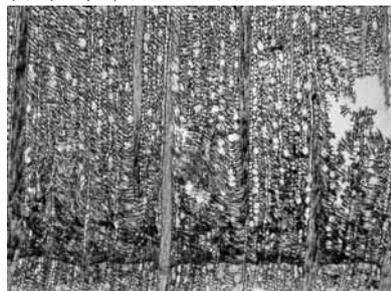


柁目 (×40)



板目 (×40)

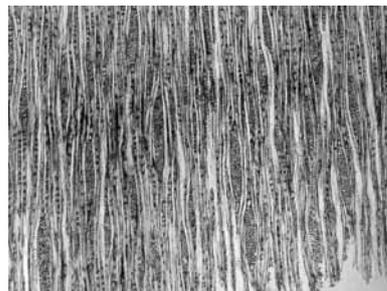
シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunb. ツツジ科)



木口 (×40)



柁目 (×40)



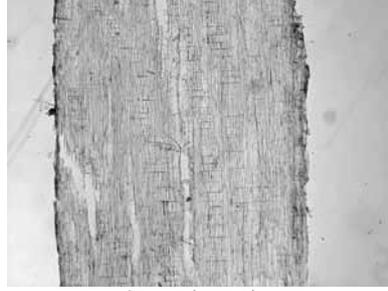
板目 (×40)

図V-13 顕微鏡写真 (13)

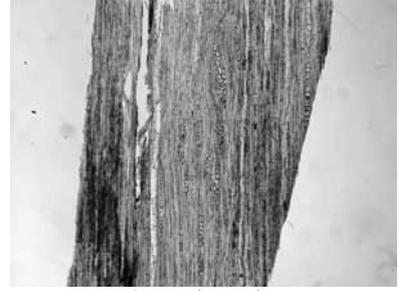
タイミンタチバナ (*Myrsine seguinii* Lev. ガンコウラン科)



木口 (× 40)

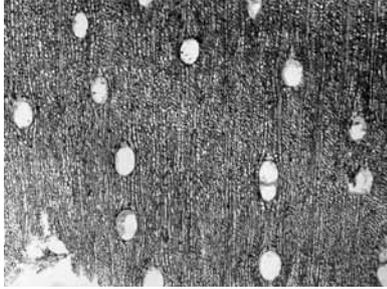


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

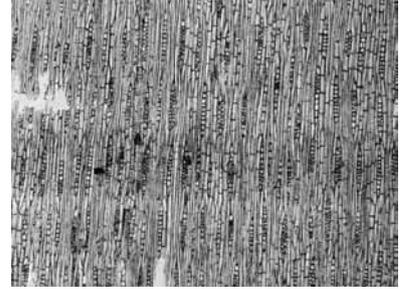
カキノキ (*Diospyros kaki* Thunb. カキノキ科)



木口 (× 40)

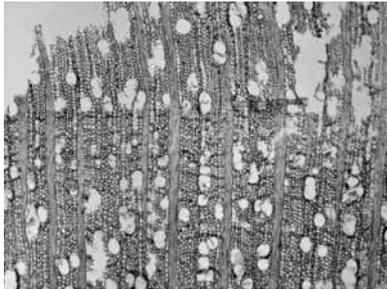


柁目 (× 40)

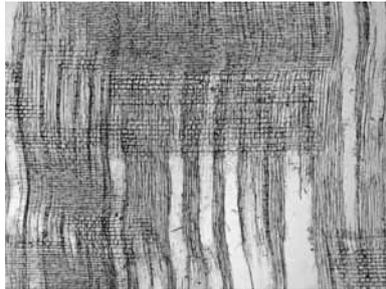


板目 (× 40)

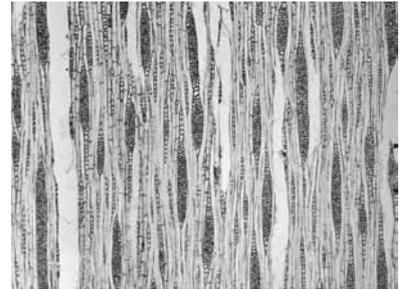
エゴノキ (*Styrax japonica* Sieb.et Zucc エゴノキ科)



木口 (× 40)

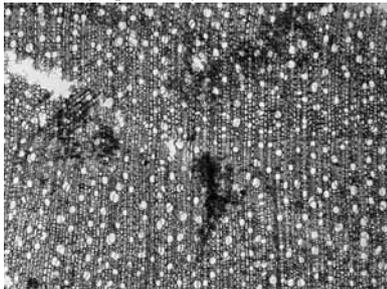


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

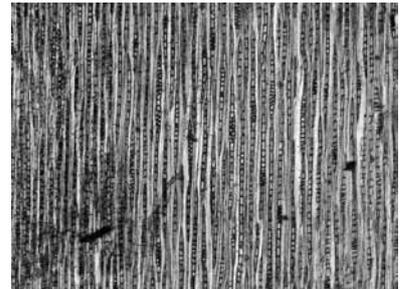
ハイノキ (*Symplocos myrtacea* Sieb.et Zucc. ハイノキ科)



木口 (× 40)

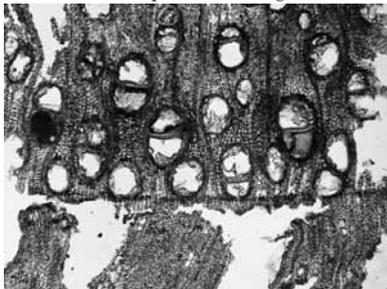


柁目 (× 40)

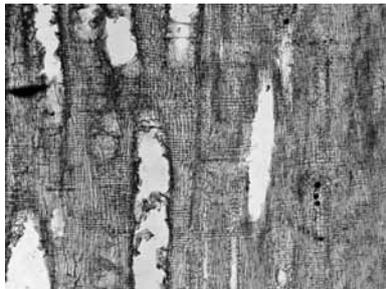


板目 (× 40)

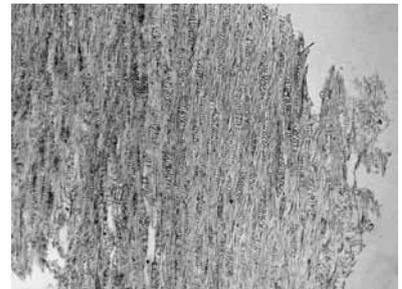
シオジ (*Fraxinus spaethiana* Lingelsh. モクセイ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)

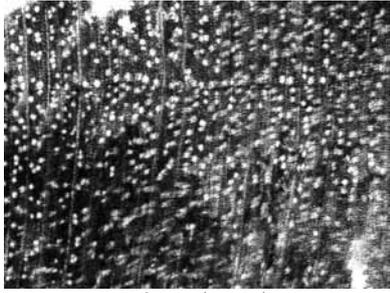


板目 (× 40)

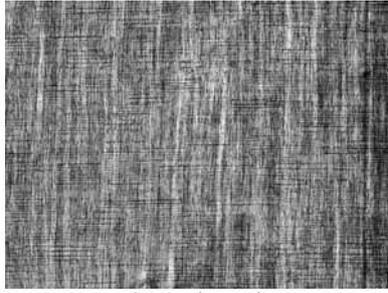
図V -14 顕微鏡写真 (14)

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

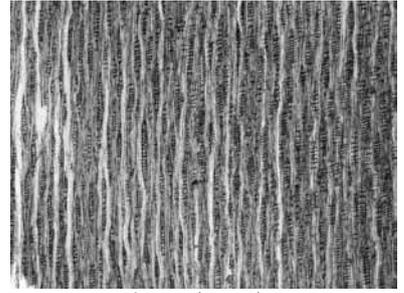
イボタノキ (*Ligustrum obtusifolium* Sieb.et Zucc. モクセイ科)



木口 (× 40)

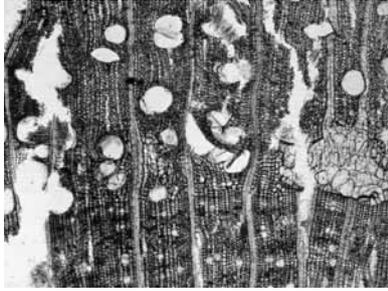


柁目 (× 40)



板目 (× 40)

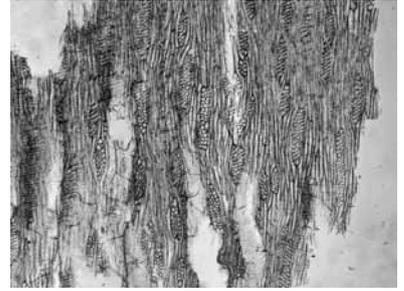
クサギ (*Clerodendron trichotomum* Thumb. クマツヅラ科)



木口 (× 40)

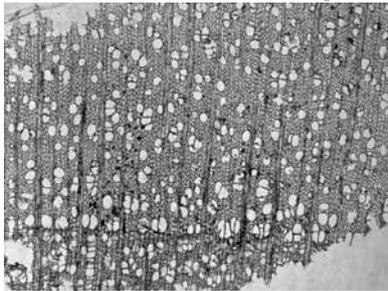


柁目 (× 40)

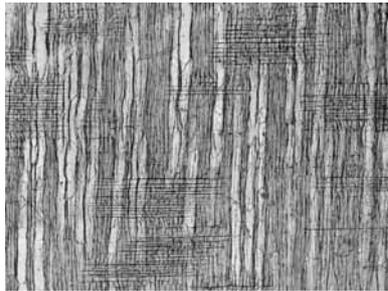


板目 (× 40)

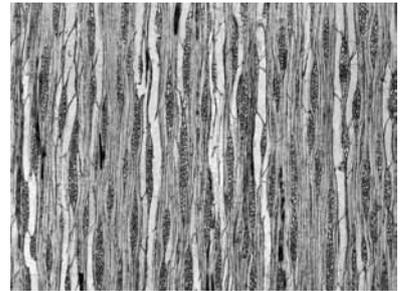
ニワトコ (*Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* Hara スイカズラ科)



木口 (× 40)



柁目 (× 40)



板目 (× 40)

図V-15 顕微鏡写真 (15)

表V-11 4 落ち込み出土木材一覧

() 内の数値は欠損して残存している分量。複数分量があるものは分割しているものそれぞれの分量を示す

ステージ	構造物No	取上 No	杭No	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
1	25	5719	木 042	260	18	無	角材	厚 8mm。	スギ
1	25	5720	杭 147	440	90	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
1	25	5735	材 Y	200	74	無	板材	穿孔列有り。	スギ
1	25	5737	杭 157	(929)	48	有	芯持丸太	西側調査区内残欠。東端新欠	散孔材 (不明)
1	25	5752	材 Z	425	95	無	板材	厚 13mm。	スギ
1	25	5756	横木 2 A	(1045)	39	有	芯持丸太	北端新欠。	コナラ節
1	25	5775	縦木 M	1385	110	有	芯持丸太		クリ
1	25	5782	縦木 K	(1112) (410)	125 68	有	芯持丸太	支保工 1。東端調査区内残欠。最大径は二股でない部分で計測。2つに分割	エノキ
1	29	5736	縦木 A	1285 457	115 98	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測 2つに分割	サカキ
1	29	5738	材 A	282	36	無	板材	圭頭状の先端部	スギ
1	29	5740	材 B	248	136	無	板材	円形の板材。表面炭化。	スギ
1	29	5742	横木 A	3421	100	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
1	29	5743	材 C	542	179	無	板材		スギ
1	29	5745	杭 001	1069	54	有	芯持丸太		ヤブツバキ
1	29	5746	杭 002	1143	44	有	芯持丸太		シイノキ属
1	29	5748	杭 003	624	35	有	芯持丸太	西端新欠	シイノキ属
1	29	5749	横木 B	689	68	有	芯持丸太		クマノミズキ
1	29	5750	横木 C	1098	62	有	芯持丸太		シャシャンボ
1	29	5751	横木 D	490	45	有	芯持丸太		アカガシ亜属
1	29	5753	横木 E	(2350)	100	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。内部炭化。	シイノキ属
1	29	5754	横木 F	(1238)	129	有	芯持丸太	北端付近ほぞ穴あり。	シイノキ属
1	29	5755	横木 G	1392	32	有	芯持丸太		サカキ
1	29	5757	横木 H	1072	81	有	芯持丸太		シイノキ属
1	29	5758	杭 004	1183	49	有	芯持丸太		シイノキ属
1	29	5759	横木 I	(1514)	98	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	サカキ
1	29	5760	杭 005	2005	47	有	芯持丸太		コナラ節
1	29	5761	杭 006	1350	67	無	板材	厚 14mm。	スギ
1	29	5763	杭 007	1115	49	有	芯持丸太		コナラ節
1	29	5764	杭 008	940	53	有	芯持丸太		エゴノキ
1	29	5765	杭 009	1280	64	有	芯持丸太		シイノキ属
1	29	5766	杭 010	(726)	72	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤナギ属
1	29	5767	杭 011	(913)	50	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	コナラ節
1	29	5768	杭 012	640	41	有	芯持丸太		モチノキ
1	29	5769	杭 013	810	39	有	芯持丸太		モチノキ
1	29	5770	杭 014	(712) (616)	54 45	有	芯持丸太	北端調査区内残欠。2つに分割	シイノキ属
1	29	5771	杭 015	(715) (90)	54 30	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。内部炭化。2つに分割	クリ
1	29	5772	杭 016	(352) (250)	35 50	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。2つに分割	ヤナギ属
1	29	5773	杭 017	(795)	44	有	芯持丸太	南端新欠。	サカキ
1	29	5774	杭 018	(1438)	61	有	芯持丸太	西端新欠。	エゴノキ
1	29	5777	横木 J	(847) (231)	47 45	有 無	芯持丸太	南端調査区内残欠。2つに分割	シイノキ属
1	29	5778	杭 019	(926)	54	有	芯持丸太	北端新欠。	ヤナギ属
1	29	5779	横木 K	(620) (479)	49 44	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。両端新欠。2つに分割	ヤナギ属
1	29	5780	杭 020	(820)	40	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
1	29	5781	杭 021	(912)	37	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤナギ属
1	29	5783	杭 022	(1026)	42	有	芯持丸太	西端新欠。	アカガシ亜属
1	29	5784	杭 023	(757)	55	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
1	29	5785	杭 024	1491	51	有	芯持丸太		ヤブツバキ
1	29	5786	杭 025	(1109)	34	有	芯持丸太	西端新欠。	アカガシ亜属
1	29	5798	横木 L	(2850)	95	有	芯持丸太	南端調査区残欠。	ゴヨウマツ
1	29	5799	横木 M	(812)	80	有	芯持丸太	内部炭化。南端調査区残欠。	クリ
1	29	5800	縦木 B	699	98	有	芯持丸太		タブノキ
1	29	5801	横木 N	(1471)	96	有	芯持丸太	内部炭化。南端調査区残欠。	シイノキ属
1	29	5804	杭 027	(398)	93	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
1	29	5805	杭 028	(1345)	42	有	芯持丸太	東端新欠。	クマノミズキ
1	29	5806	杭 029	(1045)	78	有	芯持丸太		モチノキ
1	29	5807	材 D	291	36	無	不明	圭頭状の先端部。	スギ
1	29	5808	杭 030	502	50	無	丸太		モチノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
1	29	5809	杭 031	1520	100	無	丸太		エゴノキ
1	29	5810	杭 032	1095	52	無	丸太		サカキ
1	29	5811	杭 033	732	45	無	芯持丸太		散孔材 (不明)
1	29	5812	縦木 C	(1650)	145	無	丸太	東端新欠。内部炭化。	クリ
1	29	5813	杭 034	(620)	35	有	芯持丸太	南端新欠。	サカキ
1	29	5814	杭 035	1095	60	有	芯持丸太		エゴノキ
1	29	5815	杭 036	1716	75	有	芯持丸太		シイノキ属
1	29	5816	杭 037	926	58	有	芯持丸太		ヤナギ属
1	29	5817	杭 038	859	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
1	29	5818	杭 039	(687)	40	有	芯持丸太	北端新欠。	アカガシ亜属
1	29	5819	杭 040	1180	57	有	芯持丸太		コナラ節
1	29	5821	杭 041	955	55	有	芯持丸太		タブノキ
1	29	5822	杭 042	1440	109	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。	ヤマグワ
1	29	5823	杭 043	1722	183	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤナギ属
1	29	5824	杭 044	571	47	有	芯持丸太		エノキ
1	29	5825	杭 045	1525	125	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤナギ属
1	29	5826	杭 046	1712	92	有	芯持丸太		ゴヨウマツ
2	22	4916	横木 H	(3027)	120	有	芯持丸太	北端調査区内残欠。内部炭化	シイノキ属
2	25	5436	杭 001	(802)	38	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤブツバキ
2	25	5437	杭 002	801	50	無	角材	厚 25mm。	スギ
2	25	5438	杭 003	(611)	38	有	芯持丸太	西端新欠。	イボタノキ
2	25	5439	杭 004	(957)	40	有	芯持丸太	両端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5440	杭 005	1789	65	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5441	杭 006	1441	35	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5442	杭 007	1270	56	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	25	5443	杭 008	(1118)	52	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
2	25	5444	板 003	1438	185	無	板材	厚 12mm。	スギ
2	25	5445	杭 009	(1234)	56	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化。	シイノキ属
2	25	5446	板 001	660	135	無	板材	厚 16mm。	スギ
2	25	5447	板 005	1250	282	無	板材	厚 14mm。	スギ
2	25	5448	板 006	1455	252	無	板材	厚 10mm。	スギ
2	25	5449	板 004	(1203)	213	無	板材	厚 15mm。西端付近ほぞ穴あり	スギ
2	25	5450	板 002	976	172	無	板材	厚 8mm。	スギ
2	25	5451	板 007	(715)	139	無	板材	厚 12mm。西端新欠。	スギ
2	25	5452	杭 010	(1090)	36	有	芯持丸太	東端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5453	杭 011	1889	56	有	芯持丸太		ヤマツツジ
2	25	5454	杭 012	1380	59	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	25	5455	杭 013	(712)	44	有	芯持丸太	西端新欠。	クマノミズキ
2	25	5456	杭 014	(1049)	52	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測東端新欠。	ヤブツバキ
2	25	5457	杭 015	940	58	無	転用材	西端加工あり。	スギ
2	25	5458	横木 E	2381	98	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5459	材 A	(445)	55	無	角材	厚 55mm。東端新欠。	スギ
2	25	5460	杭 016	(1173)	32	有	芯持丸太	西端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5461	杭 017	(1016)	33	有	芯持丸太	東端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5462	杭 018	874	27	有	芯持丸太		モチノキ
2	25	5463	横木 F	3031	96	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5464	杭 019	1019	58	有	芯持丸太		サカキ
2	25	5465	杭 020	2296	109	有	芯持丸太		カヤ
2	25	5466	杭 021	2609	82	有	芯持丸太		ヒノキ
2	25	5467	杭 022	(1754)	79	有	芯持丸太	東端新欠。	シイノキ属
2	25	5468	杭 023	2600	80	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5469	杭 024	(1950)	56	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤマウルシ
2	25	5470	杭 025	2158	148	有	芯持丸太		スギ
2	25	5471	杭 026	2489	98	無	角材	厚 41mm。	スギ
2	25	5472	杭 027	2143	91	無	角材	厚 46mm。	スギ
2	25	5474	杭 029	1922	98	無	角材	厚 43mm。	スギ
2	25	5475	杭 030	1856	57	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5476	横木 G	2095	98	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5477	杭 031	(835)	80	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤナギ属
2	25	5478	杭 032	1419	107	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	25	5479	杭 033	967	55	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5480	杭 034	629	53	有	芯持丸太		イヌザンショウ
2	25	5481	杭 035	444	56	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5482	材 B	380	123	無	不明		不明
2	25	5483	杭 036	924	80	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	25	5484	材 C	473	24	無	転用材	厚 14mm。北端加工あり。	スギ
2	25	5485	杭 037	1672	56	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5486	縦木 A	(692)	66	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。	ヤマグワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
2	25	5487	杭 038	(1145)	50	有	芯持丸太	両端新欠。	シイノキ属
2	25	5488	杭 039	(1130)	57	有	芯持丸太	東端新欠。	ニガキ
2	25	5489	杭 040	1721	85	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5490	縦木 B	(633) (172) (444)	72 76 78	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。3つに分割	ヤナギ属
2	25	5491	杭 041	1011	64	有	芯持丸太		シラキ
2	25	5492	杭 042	840	50	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	25	5493	杭 043	1058	99	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	25	5494	杭 044	(435)	70	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤマグワ
2	25	5495	材 D	933	35	無	角材	厚 22mm。	スギ
2	25	5515	横木 I	3700	130	有	芯持丸太		ニヨウマツ
2	25	5516	横木 H	1140	62	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5517	杭 045	790	48	有	芯持丸太	東端新欠。	ムクロジ
2	25	5518	横木 C	5100	154	有	芯持丸太		イヌマキ
2	25	5519	横木 B	3120	150	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5520	杭 046	1372 (592)	100 50	有	芯持丸太	2つに分割	ヤナギ属
2	25	5521	横木 A	5180	181	有	芯持丸太		スギ
2	25	5522	木 001	1304	146	無	丸太	部分的に面取り。 厚 115mm。	ゴヨウマツ
2	25	5523	材 E	452	30	無	転用材	両端加工あり。 厚 13mm。	スギ
2	25	5524	縦木 C	(870)	117	有	芯持丸太	西端新欠。	エノキ
2	25	5525	木 002	470	24	無	板材	厚 8mm。	スギ
2	25	5526	木 003	800	25	無	角材	厚 15mm。	スギ
2	25	5527	木 004	(612)	35	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤブツバキ
2	25	5528	木 005	(683)	75	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤマザクラ
2	25	5529	木 006	(455)	32	有	芯持丸太	南端新欠。	スギ
2	25	5530	木 007	402	129	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	25	5531	木 008	(528)	81	有	芯持丸太	北端新欠。	シイノキ属
2	25	5532	木 009	(368)	102	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。東 端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5533	木 010	414	24	無	角材	厚 15mm。	スギ
2	25	5534	木 011	(551)	70	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤナギ属
2	25	5535	木 012	(311)	68	無	板材	厚 15mm。北端新欠。	スギ
2	25	5536	木 013	(496)	40	有	芯持丸太	南端新欠。	スギ
2	25	5537	木 014	(882)	52	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
2	25	5538	木 015	(1166)	63	有	芯持丸太	東端新欠。	ゴヨウマツ
2	25	5539	木 016	752	79	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5540	木 017	520	59	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	25	5541	木 018	(430)	57	有	芯持丸太	両端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5543	木 019	(840)	267	無	転用材	表面を浅く削る。 厚 35mm。	スギ
2	25	5544	杭 047	(1165)	77	有	芯持丸太	東端新欠。	タブノキ
2	25	5545	木 020	2220	106	有	芯持丸太		イヌマキ
2	25	5546	杭 048	(937)	75	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
2	25	5547	杭 049	(1452)	92	有	芯持丸太	西端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5548	木 021	(455)	83	有	芯持丸太	西端新欠。	シイノキ属
2	25	5549	木 022	519	41	有	芯持丸太		ニヨウマツ
2	25	5550	材 F	455	27	無	転用材	両端加工あり。	スギ
2	25	5551	材 G	455	25	無	転用材	両端加工あり。	スギ
2	25	5552	杭 050	2602	58	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	25	5553	木 023	747	50	無	角材	厚 31mm。	スギ
2	25	5554	木 024	478	35	無	板材	厚 9mm。	スギ
2	25	5555	木 025	(887)	58	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
2	25	5556	木 026	(445)	38	有	芯持丸太	両端新欠。	コナラ節
2	25	5557	木 027	1705	110	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ゴンズイ
2	25	5558	木 028	681	93	無	板材	厚 21mm。	スギ
2	25	5559	木 029	(141)	24	無	板材	厚 8mm。東端新欠。	スギ
2	25	5560	木 030	(1340)	71	有	芯持丸太	両端新欠。	シイノキ属
2	25	5561	横木 J	1981	97	有	芯持丸太		カヤ
2	25	5562	横木 K	1272	103	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5563	杭 051	1140	91	有	芯持丸太		エノキ
2	25	5564	横木 N	1561	72	有	芯持丸太		スギ
2	25	5565	横木 L	1183	90	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	25	5566	杭 052	(629)	55	有	芯持丸太	南端新欠。	シイノキ属
2	25	5567	横木 M	4350	150	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
2	25	5568	材 H	375	47	無	板材	厚 18mm。	スギ
2	25	5569	杭 053	(795)	43	有	芯持丸太	南端新欠。内部炭化。	シイノキ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
2	25	5570	木 031	1041	66	有	芯持丸太		エノキ
2	25	5571	木 032	1024	74	有	芯持丸太		ウルシ
2	25	5572	木 033	749	98	無	板材	厚 12mm。	スギ
2	25	5573	杭 054	2651	113	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	25	5574	杭 055	(539)	32	有	芯持丸太	西端新欠。	散孔材 (不明)
2	25	5575	杭 056	915	33	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	25	5576	杭 057	1104	52	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5577	杭 058	1506	64	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ケヤキ
2	25	5578	杭 059	(741)	67	有	芯持丸太	両端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5579	木 034	400	113	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	25	5580	木 035	(600)	97	有	芯持丸太	西端新欠。	サカキ
2	25	5581	杭 060	1723	135	有	芯持丸太	支保工 2。最大径は二股でない部分で計測。	クマノミズキ
2	25	5582	材 I	(500)	27	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤナギ属
2	25	5583	材 J	178	122	無	板材	厚 55mm。	スギ
2	25	5584	杭 061	(1584)	171	有	芯持丸太	東端 105 × 76 の方形穿孔あり。西端新欠。	センダン
2	25	5585	杭 062	(1416)	71	有	芯持丸太	両端新欠。	ケヤキ
2	25	5586	杭 063	1096	62	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5587	杭 064	1271	51	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5588	杭 065	(1007)	120	有	芯持丸太	西端新欠。	カエデ属
2	25	5589	杭 066	(1140)	47	無	角材	厚 30mm。西端新欠。東端加工あり。	スギ
2	25	5590	材 K	458	26	無	転用材	両端加工あり。 厚 15mm。	スギ
2	25	5591	杭 067	(880)	80	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。最大径は二股でない部分で計測。	ムクロジ
2	25	5592	杭 068	943	42	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	アカメガシワ
2	25	5593	横木 D	2381	74	有	芯持丸太	根太?	イヌマキ
2	25	5594	杭 069	862	31	有	芯持丸太		アカメガシワ
2	25	5595	杭 070	(812)	55	有	芯持丸太	両端新欠。	シイノキ属
2	25	5596	杭 071	(914)	48	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤマツツジ
2	25	5597	横木 O	(1345)	118	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。南端新欠。	タブノキ
2	25	5598	縦木 D	2014	105	有	芯持丸太	支保工 2	カヤ
2	25	5599	杭 072	1600	82	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤマグワ
2	25	5600	材 L	408	35	無	角材	厚 20mm。	スギ
2	25	5601	杭 073	1188	61	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5602	杭 074	2263	96	有	芯持丸太		ケヤキ
2	25	5603	横木 P	(2176)	205	無	板材	厚 78mm。東端調査区内残欠。	スギ
2	25	5604	杭 075	780	82	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	25	5605	横木 Q	2418 (1596)	140 153	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	ゴヨウマツ
2	25	5606	材 M	455	25	無	転用材	両端加工あり。 厚 15mm。	スギ
2	25	5607	材 N	1250	30	無	角材	厚 20mm。	スギ
2	25	5608	杭 076	1198 500	53 34	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	25	5609	材 O	598	26	無	転用材	両端加工あり。 厚 27mm。	スギ
2	25	5610	材 P	272	70	無	木製品	腰掛脚部	スギ
2	25	5611	横木 R	(2112)	65	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	シイノキ属
2	25	5612	杭 077	2152	42	有	芯持丸太		カヤ
2	25	5613	杭 078	(845)	47	有	芯持丸太	東端新欠。	タブノキ
2	25	5614	杭 079	1177	50	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5615	杭 080	1229	50	有	芯持丸太		アカメガシワ
2	25	5616	杭 081	642	85	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5617	杭 082	(906)	45	有	芯持丸太	両端新欠。東側 10cm 欠損。	アカガシ亜属
2	25	5618	杭 083	(1155)	45	有	芯持丸太	西端新欠。	シイノキ属
2	25	5619	杭 084	(936)	47	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。	ヤブツバキ
2	25	5620	横木 S	(1440)	59	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	ニヨウマツ
2	25	5621	杭 085	(1130) 425	45 32	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。	ヤマツツジ
2	25	5622	杭 086	1790	50	有	芯持丸太		ケンボナシ
2	25	5623	杭 087	1335	55	有	芯持丸太		イヌザンショウ
2	25	5624	横木 T	(1597)	142	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。内部炭化。	クリ
2	25	5625	杭 088	924	40	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5626	横木 U	4210	134	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
2	25	5627	杭 089	448	83	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5628	杭 090	1312	135	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤマザクラ
2	25	5629	杭 091	(792)	70	有	芯持丸太	東端新欠。	モチノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
2	25	5630	杭 092	(588) 1071	60 55	有	芯持丸太	両端新欠。西端調査区内残欠。	コナラ節
2	25	5631	杭 093	(775) (1639)	60 55	無 有	角材 芯持丸太	西端調査区内残欠。	サカキ
2	25	5632	杭 094	(181) (762)	52 55	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。	シイノキ属
2	25	5633	杭 095	(395)	53	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。	アカガシ亜属
2	25	5634	杭 096	740	57	有	芯持丸太		エノキ
2	25	5635	材 Q	469	102	無	板材	厚 17mm。	スギ
2	25	5636	杭 097	725	40	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5637	杭 098	907	51	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5638	杭 099	1086	55	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5639	杭 100	879	36	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5640	杭 101	519	61	有	芯持丸太	東端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5641	材 R	412	86	有	芯持丸太	厚 31mm。	スギ
2	25	5642	材 S	447	60	無	板材	東端加工あり。 厚 10mm。	スギ
2	25	5643	木 036	(777)	61	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤナギ属
2	25	5644	木 037	1117	41	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5645	木 038	1699	160	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5646	木 039	(722)	57	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
2	25	5647	杭 102	1040	102	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5648	木 040	(1244)	50	有	芯持丸太	両端新欠。	コナラ節
2	25	5649	杭 103	(835)	70	有	芯持丸太	東端新欠。	シイノキ属
2	25	5650	杭 104	(578)	47	有	芯持丸太	西端新欠。	シラキ
2	25	5651	杭 105	(860)	38	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
2	25	5652	杭 106	830	32	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5653	杭 107	(982)	41	有	芯持丸太	西端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5654	縦木 E	(1679)	84	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
2	25	5655	杭 108	1262	51	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5656	杭 109	1515	45	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5657	杭 110	1240	46	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5658	杭 111	1353	34	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5659	杭 112	(1167)	40	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
2	25	5660	杭 113	1331	38	有	芯持丸太		ヤマザクラ
2	25	5661	杭 114	(800)	52	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
2	25	5662	杭 115	(875)	45	有	芯持丸太	西端新欠。	イボタノキ
2	25	5663	杭 116	(1066)	33	有	芯持丸太	両端新欠。	コナラ節
2	25	5664	杭 117	(1179)	40	有	芯持丸太	東端新欠。	アカガシ亜属
2	25	5665	杭 118	1231	47	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5666	杭 119	1080	30	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5667	杭 120	1076	43	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5668	杭 121	(639)	32	有	芯持丸太	東端新欠。	シイノキ属
2	25	5669	杭 122	427	45	有	芯持丸太		ヌルデ
2	25	5670	材 T	284	30	無	不明	厚 10mm。圭頭状の先端部	スギ
2	25	5686	杭 123	1698	70	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	エゴノキ
2	25	5687	杭 124	(1714)	47	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化。	クリ
2	25	5688	杭 125	(1940)	56	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。	シイノキ属
2	25	5689	杭 126	442	35	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5690	杭 127	(209) 1005	46 54	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。	コナラ節
2	25	5691	杭 128	899	50	有	芯持丸太		クスノキ科(不明)
2	25	5692	杭 129	1938	75	有	芯持丸太	内部炭化。	コナラ節
2	25	5693	杭 130	1430	50	有	芯持丸太	内部炭化。	アカガシ亜属
2	25	5694	横木 V	3890	113	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
2	25	5695	杭 131	(448)	57	有	芯持丸太	西端新欠。	シイノキ属
2	25	5696	杭 132	464	50	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5697	杭 133	(1068)	47	有	芯持丸太	両端新欠。	ハゼノキ
2	25	5698	杭 134	1231	60	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5699	杭 135	1227	64	有	芯持丸太		サカキ
2	25	5700	杭 136	1330	40	有	芯持丸太		タブノキ
2	25	5701	杭 137	1286	25	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5702	杭 138	(734)	64	有	芯持丸太	西端新欠。	モチノキ
2	25	5703	杭 139	569	35	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5704	杭 140	821	50	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5705	杭 141	1215	30	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5706	材 U	302	22	無	不明	厚 11mm。圭頭状の先端部	スギ
2	25	5707	杭 142	920	51	有	芯持丸太		シイノキ属
2	25	5708	杭 143	988	47	有	芯持丸太		モチノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
2	25	5709	縦木 F	(442) 2005	60 80	有	芯持丸太	東端調査区内残欠。	スルデ
2	25	5710	横木 X	(813)	75	有	芯持丸太	北端加工あり。南端調査区内残欠。	広葉樹 (不明)
2	25	5711	杭 144	1406	45	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5712	材 V	470	51	無	板材	厚 7mm。	スギ
2	25	5713	杭 145	(1810)	57	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
2	25	5714	木 041	2070	50	有	芯持丸太		アカガシ亜属
2	25	5715	杭 146	1474	45	有	芯持丸太		散孔材 (不明)
2	25	5716	横木 W	5600	155	有	芯持丸太	南端削り出しによる肥厚	ニヨウマツ
2	25	5717	材 W	435	59	無	板材	厚 9mm。	スギ
2	25	5718	材 X	685	20	無	角材	厚 15mm。	スギ
2	25	5721	杭 148	(881)	49	有	芯持丸太	南端新欠。	エノキ
2	25	5722	杭 149	1680	118	有	芯持丸太	支保工 1。東側新欠。	クリ
2	25	5723	縦木 G	(395)	58	有	芯持丸太	西端新欠。	スルデ
2	25	5724	杭 150	1944	90	有	芯持丸太	支保工 4。最大径は二股でない部分で計測。	シイノキ属
2	25	5725	杭 151	1276	87	有	芯持丸太	支保工 3。最大径は二股でない部分で計測。	クリ
2	25	5726	木 043	(806)	58	有	芯持丸太	北端新欠。最大径は二股でない部分で計測。	ヤマグワ
2	25	5727	杭 152	2044	45	有	芯持丸太		コナラ節
2	25	5728	杭 153	(809)	47	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
2	25	5729	杭 154	(696)	48	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤナギ属
2	25	5730	縦木 H	1232	80	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
2	25	5731	木 044	694	50	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	25	5732	杭 155	958	45	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5733	杭 156	(1003)	49	有	芯持丸太	西端新欠。内部炭化。	クリ
2	25	5734	木 045	(775)	60	無	角材		スギ
2	25	5739	横木 Y	1076	56	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	25	5741	縦木 I	771	75	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
2	25	5744	横木 Z	1932	72	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	25	5747	縦木 J	1872	118	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
2	25	5802	縦木 N	(837)	133	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	25	5820	縦木 L	1168	50	有	芯持丸太	支保工 3。	タブノキ
2	25	5835	横木 2B	2275	153	無	転用材	柱の転用。 厚 84mm。	スギ
2	28	5393	木 001	1575	90	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
2	28	5394	木 002	1716	57	有	芯持丸太		シイノキ属
2	28	5395	木 003	529	104	無	板材	厚 15mm。	スギ
2	28	5396	木 004	434	133	無	板材	厚 11mm。	スギ
2	28	5397	木 005	544	107	有	芯持丸太		ムクロジ
2	28	5398	木 006	(1126)	50	有	芯持丸太	西端新欠	シイノキ属
2	28	5399	木 007	678	265	無	転用材	厚 35mm。中央部に 225 × 170 の方形穿孔あり	スギ
2	28	5400	木 008	545	136	有	芯持丸太		タブノキ
2	28	5401	木 009	(1520)	58	有	芯持丸太	西端新欠。	コナラ節
2	28	5402	木 010	(771)	166	有	芯持丸太	両端新欠。	ムクロジ
2	28	5403	木 011	(1480)	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	28	5404	木 012	485	29	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	28	5405	木 013	1715	151	有	芯持丸太		カヤ
2	28	5406	木 014	1534	62	有	芯持丸太		コナラ節
2	28	5407	木 015	2340	79	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	28	5409	木 016	2402	105	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
2	28	5410	木 017	(860) (1559)	376 340	有	芯持丸太	南端調査区内残欠。	ムクロジ
2	28	5411	木 018	1473	83	有	芯持丸太		ヤブツバキ
2	28	5412	木 019	1227	80	有	芯持丸太		ハンノキ
2	28	5413	木 020	1259	65	有	芯持丸太	内部炭化。	クリ
2	28	5414	木 021	1095	170	有	分割材	内部炭化。丸太半割	クリ
2	28	5415	木 022	1016	117	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	28	5416	木 023	(558)	82	無	板材	西端新欠。 厚 12mm。	スギ
2	28	5420	木 024	(1250)	62	有	芯持丸太	南端新欠。	イヌビワ
2	28	5421	木 025	1274	145	有	芯持丸太		ヤマグワ
2	28	5422	木 026	(1058)	72	有	芯持丸太	南端新欠。	タブノキ
2	28	5423	木 027	1104	72	有	芯持丸太		エノキ
2	28	5424	木 028	930	115	有	芯持丸太		ムクロジ
2	28	5425	木 029	1089	126	有	芯持丸太		ヤナギ属
2	28	5426	木 030	(664)	45	有	芯持丸太	両端新欠。	クリ
2	28	5427	木 031	1780	131	有	芯持丸太		ヤナギ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
2	28	5428	木 032	885	60	有	芯持丸太		クマノミズキ
2	28	5429	木 033	546	30	有	転用材	厚 15mm。	スギ
2	28	5430	木 034	487	48	有	芯持丸太		ケヤキ
2	28	5431	木 035	605	47	有	芯持丸太		シノキ属
2	28	5432	木 036	(397)	94	無	角材	東端新欠。	スギ
2	28	5433	木 037	(530)	52	有	芯持丸太	東端新欠。	クマノミズキ
2	28	5434	木 038	503	94	無	板材	厚 40mm。	クリ
2	28	5435	木 039	445	34	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
3	22	4662	材 C	(970)	102	無	転用材	西端新欠。 厚 8mm	スギ
3	22	4666	材 D	(945)	50	無	転用材	西端新欠	スギ
3	22	4706	杭 024	1268	42	有	芯持丸太		カヤ
3	22	4708	横木 D	(588) (6040)	65 138	有	芯持丸太	北端調査区内残欠 南端刳搔	ヤナギ属
3	22	4710	杭 023	1483	98	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	4712	杭 025	1006	118	無	転用材	西端ほぞ穴有り	スギ
3	22	4718	横木 C	3051	107	有	芯持丸太		ヌルデ
3	22	4723	杭 026	(718)	50	有	芯持丸太	東端新欠	シャシャンボ
3	22	4730	材 E	792	67	無	転用材	東端加工有り。 厚 24mm	スギ
3	22	4731	材 F	(751)	52	無	角材	東端新欠	スギ
3	22	4732	材 G	335	26	無	転用材	火きりうす	スギ
3	22	4734	杭 027	(1801)	44	有	芯持丸太	西端新欠	カヤ
3	22	4739	杭 028	(1205)	46	有	芯持丸太	西端新欠	アカガシ亜属
3	22	4740	杭 029	705	48	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4759	杭 030	(1165)	60	有	芯持丸太	東端新欠	エノキ
3	22	4760	杭 031	(1077)	65	有	芯持丸太	西端新欠	シノキ属
3	22	4762	杭 032	1194	76	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	エノキ
3	22	4763	杭 034	2209	68	有	芯持丸太	西端新欠	クマノミズキ
3	22	4765	杭 036	(777)	76	有	芯持丸太	西端新欠	ムクロジ
3	22	4766	杭 037	(880)	34	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
3	22	4767	杭 038	1445	51	有	芯持丸太		ヤマウルシ
3	22	4768	材 H	(1165) (1065)	91 154	無	転用材	厚 50mm	スギ
3	22	4769	横木 E	(1818) (2642)	145 102	有	芯持丸太	北端セクション内残欠	ケヤキ
3	22	4770	杭 041	1351	86	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	4771	杭 042	1182	30	有	芯持丸太		エノキ
3	22	4772	杭 043	660	91	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	4773	杭 044	847	48	有	芯持丸太	西端新欠	アカガシ亜属
3	22	4774	杭 045	598	49	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4775	横木 F	(961)	60	有	芯持丸太	北端新欠	タブノキ
3	22	4776	杭 046	(1416)	155	無	転用材	東端新欠	スギ
3	22	4777	杭 047	985	44	有	芯持丸太	内部炭化	シノキ属
3	22	4778	杭 049	1142	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4779	杭 052	1178	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4780	杭 048	1443	45	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
3	22	4782	杭 053	760	38	有	芯持丸太		リョウブ
3	22	4783	杭 055	1200	82	有	芯持丸太		ヤマグワ
3	22	4785	杭 056	(1036)	43	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
3	22	4786	杭 054	975	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4787	杭 057	763	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4788	杭 060	(511)	34	有	芯持丸太	西端新欠	アカガシ亜属
3	22	4789	杭 035	1642	47	有	芯持丸太		サカキ
3	22	4790	杭 058	1158	45	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	22	4791	杭 050	1540	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4792	杭 039	2473	45	有	芯持丸太		クリ
3	22	4793	杭 061	1102	55	有	芯持丸太		エノキ
3	22	4794	杭 059	1480	50	有	芯持丸太		エノキ
3	22	4795	杭 062	624	39	有	芯持丸太		サカキ
3	22	4796	横木 M	1241	115	有	芯持丸太		ヤマグワ
3	22	4797	材 I	750	20	無	転用材	厚 8mm	スギ
3	22	4798	杭 063	1607	61	有	芯持丸太		サカキ
3	22	4799	杭 064	472	30	有	芯持丸太		ヌルデ
3	22	4842	横木 K	2087	64	有	芯持丸太		コナラ節
3	22	4843	横木 L	1942 1257	103 72	有	芯持丸太	北端調査区内残欠	エノキ
3	22	4844	杭 065	2240	57	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4845	杭 066	1671	50	有	芯持丸太		アカガシ亜属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
3	22	4846	横木 G	2558 (1573)	105 101	有	芯持丸太	北端セクション内残欠	シイノキ属
3	22	4848	杭 067	1821	137	有	芯持丸太	東端加工有り。内部炭化	クリ
3	22	4851	杭 040	1476	64	有	芯持丸太		サカキ
3	22	4853	杭 033	1540	82	有	丸太		スギ
3	22	4860	杭 076	1074	74	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	4861	横木 J	2086	44	無	転用材	厚 25mm	スギ
3	22	4862	杭 068	1124	37	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4863	杭 069	1269	47	有	芯持丸太		カエデ属
3	22	4864	杭 070	676	48	無	転用材	厚 16mm	スギ
3	22	4867	杭 071	(1006)	37	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
3	22	4868	杭 072	1251	37	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	22	4869	杭 073	(1443)	41	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	22	4870	杭 075	(853)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ツゲ
3	22	4871	杭 074	(1042)	29	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
3	22	4873	杭 078	(743)	61	有	芯持丸太	西端新欠	ケンボナシ
3	22	4874	杭 077	415	33	有	芯持丸太		タカノツメ
3	22	4875	杭 080	1077	105	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っている。内部炭化	シイノキ属
3	22	4876	杭 079	1346	80	有	芯持丸太		シイノキ属
3	22	4881	杭 081	360	50	無	角材	東端新欠	スギ
3	22	4890	杭 082	956	46	有	芯持丸太		ヒノキ
3	22	4891	杭 083	1043	46	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	4893	杭 085	(1939)	66	有	芯持丸太	西端新欠	エノキ
3	22	4894	杭 084	1731	46	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測内部炭化	ヤブツバキ
3	22	4897	杭 086	1507	45	有	芯持丸太		タブノキ
3	22	4905	杭 087	(2136)	106	無	転用材	東端新欠。 厚 20mm	スギ
3	22	4906	杭 089	1894	55	有	芯持丸太		イボタノキ
3	22	4913	杭 088	(1340)	61	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
3	22	4919	横木 I	2266	74	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	22	4920	横木 N	2186	74	有	芯持丸太		シイノキ属
3	22	4926	杭 051	883	80	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	22	5238	杭 090	(895)	42	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	25	5473	杭 028	955	98	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤマグワ
3	27	5048	縦木 A	1555	92	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5049	杭 001	1098	120	有	芯持丸太	西端付近加工あり	ケヤキ
3	27	5050	杭 002	(811)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5051	杭 003	(429)	65	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測 東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5052	杭 004	(1193)	62	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
3	27	5053	杭 005	1290	36	有	芯持丸太		シイノキ属
3	27	5054	杭 006	1239	80	有	芯持丸太		クマノミズキ
3	27	5057	杭 007	(582)	40	有	芯持丸太	西端新欠。最大径は二股でない部分 で計測。内部炭化	シイノキ属
3	27	5058	材 A	255	25	無	転用材	火きりうす。 厚 5mm。	スギ
3	27	5060	杭 008	(359)	43	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
3	27	5061	杭 009	(956)	45	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
3	27	5062	杭 010	928	43	有	角材		スギ
3	27	5064	材 B	960	102	無	転用材	厚 10mm。	スギ
3	27	5066	杭 011	1330	64	有	芯持丸太	西端 C	ヤブツバキ
3	27	5067	杭 012	794	43	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5070	杭 013	(882)	58	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
3	27	5100	杭 014	(1722)	64	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5101	杭 015	1784	92	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5102	横木 C	2077	100	無	転用材	南端ほぞ穴有り	スギ
3	27	5103	杭 016	1621	78	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5104	杭 017	(1955)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5105	杭 018	(2073)	55	有	芯持丸太	東端新欠	ハイノキ
3	27	5106	杭 019	2196	64	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5109	杭 020	1960	63	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5110	杭 025	(838)	67	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5111	杭 021	(1232)	57	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
3	27	5112	杭 022	1419	60	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5113	杭 023	(1491)	71	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5114	杭 026	1613	95	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5115	杭 024	1606	80	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5116	杭 027	(1681)	71	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
3	27	5117	杭 028	(2078)	90	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5118	杭 029	(1102)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5119	杭 030	1696	58	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5120	杭 031	(1018)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5121	横木 F	(1044)	53	有	芯持丸太	北端新欠	ヤブツバキ
3	27	5122	杭 032	(969)	51	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5125	材 C	(490)	40	無	板材	両端新欠	スギ
3	27	5126	杭 034	1641	75	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5127	杭 033	1875	120	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
3	27	5128	横木 D	3403	122	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5129	杭 035	(1401)	128	有	芯持丸太	東端新欠。二股でない部分で計測	ヤナギ属
3	27	5130	材 D	500	25	無	板材		スギ
3	27	5131	材 E	344	31	無	板材		カヤ
3	27	5132	横木 B	(771)	108	有	芯持丸太	南端新欠	ニヨウマツ
3	27	5133	縦木 B	(1266)	85	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
3	27	5134	横木 G	(1603)	111	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。内部炭化。	シイノキ属
3	27	5135	横木 H	3557	124	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5136	杭 036	1031	104	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	シイノキ属
3	27	5137	杭 037	(1242)	101	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化	ヤナギ属
3	27	5139	板 1	(320)	109	無	板材	東端新欠。 厚 7mm。	スギ
3	27	5140	板 2	(1273)	183	無	板材	両端新欠。西端ほぞ穴あり。 厚 6mm。	スギ
3	27	5141	板 3	1075	143	無	板材	厚 10mm。	スギ
3	27	5142	板 4	1481	123	無	板材	西端加工あり。 厚 14mm。	スギ
3	27	5143	板 5	1717	145	無	板材	西端加工あり。 厚 10mm。	スギ
3	27	5144	板 6	836	135	無	板材	厚 7mm。	スギ
3	27	5145	板 7	1053	136	無	板材	厚 10mm。	スギ
3	27	5146	材 F	937	130	無	板材	厚 12mm。	スギ
3	27	5147	板 8	1487	289	無	板材	厚 16mm。	スギ
3	27	5148	板 9	1542	160	無	板材	厚 11mm。	スギ
3	27	5149	杭 038	1335	102	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5151	板 10	1277	191	無	板材	北側中央に加工あり。 厚 6mm。	スギ
3	27	5152	板 11	1088	224	無	板材	西端加工あり。 厚 20mm。	スギ
3	27	5153	板 12	389	78	無	板材	厚 14mm。	スギ
3	27	5154	板 13	907	123	無	板材	厚 15mm。	スギ
3	27	5155	板 14	1068	121	無	板材	厚 10mm。	スギ
3	27	5156	板 15	(1495)	211	無	板材	東端新欠。 厚 15mm。	スギ
3	27	5157	板 16	1445	159	無	板材	厚 18mm。	スギ
3	27	5158	杭 039	1545	48	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5159	杭 040	(1508)	46	有	芯持丸太	両端新欠。	アカガシ亜属
3	27	5160	杭 041	1728	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5161	杭 042	(1000)	65	有	芯持丸太	東端新欠	カキノキ
3	27	5162	材 G	274	100	有	板材	厚 13mm。	スギ
3	27	5163	杭 043	(702)	60	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤナギ属
3	27	5164	杭 044	1384	70	有	芯持丸太		混合 (不明)
3	27	5165	材 H	475	133	無	板材	厚 5mm。	スギ
3	27	5166	杭 045	594	68	有	放射状分 割材		広葉樹 (不明)
3	27	5167	杭 046	(1775)	74	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
3	27	5168	杭 047	(712)	42	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5169	杭 048	1475	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5170	杭 049	(440)	84	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤナギ属
3	27	5171	杭 050	(953)	52	有	芯持丸太	西端新欠。	シイノキ属
3	27	5172	杭 051	1008	102	有	芯持丸太		ヤマダワ
3	27	5173	材 I	550	48	無	板材	厚 8mm。	スギ
3	27	5174	材 J	(722)	66	無	転用材	南端新欠。	スギ
3	27	5175	杭 052	(429)	59	有	芯持丸太	両端新欠	スギ
3	27	5176	材 K	482	55	無	板材	厚 7mm。	スギ
3	27	5177	材 L	390	80	無	板材	厚 20mm。	スギ
3	27	5178	材 M	349	55	無	板材	中央部加工あり	スギ
3	27	5179	杭 053	(1341)	69	有	芯持丸太	東端新欠	エゴノキ
3	27	5180	杭 054	1771	67	有	芯持丸太		ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
3	27	5181	杭 055	1387	63	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5182	杭 056	(1704)	62	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5183	材 N	466	46	無	板材	厚 21mm。	スギ
3	27	5184	横木 J	897	61	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5185	材 O	(972)	100	無	板材	厚 10mm。	スギ
3	27	5186	横木 I	5560	128	有	芯持丸太		シイノキ属
3	27	5187	杭 057	2101	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5188	杭 058	(1257)	73	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5189	杭 059	(388)	32	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
3	27	5190	横木 A	4552	177	有	芯持丸太	北端部削り掻き	ニヨウマツ
3	27	5193	杭 060	1655	52	有	芯持丸太		クマノミズキ
3	27	5194	杭 061	1206	66	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5195	杭 062	1856	50	有	芯持丸太		シイノキ属
3	27	5196	杭 063	545	66	有	芯持丸太		コナラ節
3	27	5197	杭 064	(1336)	70	有	芯持丸太	両端新欠。	シイノキ属
3	27	5198	杭 065	864	40	有	芯持丸太		コナラ節
3	27	5199	杭 066	(1462)	70	有	芯持丸太	両端新欠。内部炭化。	シイノキ属
3	27	5202	杭 067	(1352)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5203	杭 068	956	44	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5205	横木 K	1470	49	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5206	横木 L	687	127	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5214	横木 M	(1516)	66	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5215	杭 069	(862)	56	有	芯持丸太	東端新欠。	シイノキ属
3	27	5216	杭 070	(786)	30	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5217	杭 071	1537	54	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5218	杭 072	1402	70	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5219	横木 N	(1580)	52	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5220	杭 073	1231	30	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5222	材 P	(330)	29	無	転用材	厚 16mm。	スギ
3	27	5223	杭 074	614	34	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5224	杭 075	(1491)	52	有	芯持丸太	西端新欠。	シラキ
3	27	5225	杭 076	1103	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5226	杭 077	(2457)	92	有	芯持丸太	中央西側 50cm 欠損。	シイノキ属
3	27	5227	材 Q	710	21	無	転用材	厚 18mm。	スギ
3	27	5229	杭 078	(861)	89	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
3	27	5230	杭 079	(1698)	45	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5231	杭 080	1572	52	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5232	杭 081	(1086)	120	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤナギ属
3	27	5233	杭 082	(807)	32	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5234	杭 083	(1549)	40	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5235	杭 084	(1258)	40	有	芯持丸太	西端新欠。内部炭化。	ヤナギ属
3	27	5236	杭 085	(1520)	42	有	芯持丸太	西端新欠。	ミツバウツギ
3	27	5237	横木 O	780	71	有	芯持丸太		ミツバウツギ
3	27	5239	杭 086	1533	117	有	芯持丸太		ヤマグワ
3	27	5240	杭 087	(1188)	75	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5241	杭 088	(1946)	57	有	芯持丸太	東端新欠	ヤマツツジ
3	27	5242	材 R	458	107	無	板材	厚 15mm。	スギ
3	27	5243	横木 Q	1869	135	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
3	27	5244	横木 P	1788	61	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5245	杭 090	(1545)	50	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5246	杭 089	(1743)	47	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5247	杭 091	2038	149	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5248	杭 092	2093	188	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5249	杭 093	(1815)	197	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
3	27	5250	材 S	461	47	無	板材	厚 9mm。	スギ
3	27	5251	杭 094	801	36	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5252	材 T	430	91	無	板材	厚 35mm。	スギ
3	27	5253	材 U	(529)	61	無	板材	厚 15mm。	スギ
3	27	5254	杭 095	991	57	有	芯持丸太		サカキ
3	27	5255	杭 096	708	36	有	芯持丸太		サカキ
3	27	5256	杭 097	1191	38	有	芯持丸太		タブノキ
3	27	5257	杭 098	2300	115	無	転用材	厚 57mm。	スギ
3	27	5258	横木 R	4122	124	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	27	5259	材 V	854	52	無	転用材	西端加工あり。 厚 13mm。	スギ
3	27	5260	横木 S	1863	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5261	杭 099	(1570) (201)	95 70	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤナギ属
3	27	5262	杭 100	(1571)	85	有	芯持丸太	東端付近 20cm 欠損	タブノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
3	27	5263	杭 101	(1572)	45	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
3	27	5264	杭 102	(1122)	74	有	芯持丸太	東端新欠	ゴヨウマツ
3	27	5265	横木 U	5154	113	有	芯持丸太	内部炭化。	シイノキ属
3	27	5266	横木 T	2730	133	有	芯持丸太		エノキ
3	27	5267	杭 103	1484	60	有	芯持丸太		サカキ
3	27	5268	縦木 C	683	120	有	芯持丸太		ヌルデ
3	27	5269	杭 104	(877)	87	有	芯持丸太	両端新欠。内部炭化。	クリ
3	27	5270	杭 105	840	78	有	芯持丸太	内部炭化。 厚 15mm。	クリ
3	27	5271	材 W	515	26	無	転用材		スギ
3	27	5294	杭 106	1075	49	有	芯持丸太		シイノキ属
3	27	5295	杭 107	569	68	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5296	杭 108	1534	108	有	芯持丸太		タブノキ
3	27	5297	杭 109	(741)	40	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
3	27	5298	横木 V	(744)	128	有	芯持丸太	南端新欠。	タブノキ
3	27	5299	杭 110	(560)	50	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5300	杭 111	(952)	41	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
3	27	5301	杭 112	1580	149	有	芯持丸太		タブノキ
3	27	5302	杭 113	965	67	有	芯持丸太		ケヤキ
3	27	5303	杭 114	(1706)	66	有	芯持丸太	西端及び中央 5cm 欠損。	シイノキ属
3	27	5304	材 X	461	54	無	板材	厚 9mm。	スギ
3	27	5305	杭 115	(1467)	50	有	芯持丸太	西端新欠。内部炭化。	クリ
3	27	5306	杭 116	(886)	45	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5308	杭 117	(506)	47	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5311	杭 118	604	57	有	芯持丸太		ハンノキ
3	27	5312	杭 119	1127	51	有	芯持丸太		タブノキ
3	27	5313	杭 120	1472	74	有	芯持丸太		ヤナギ属
3	27	5314	縦木 D	445	34	無	角材	厚 29mm	スギ
3	27	5315	杭 121	1022	42	有	芯持丸太		ネジキ
3	27	5316	杭 122	(442)	57	有	芯持丸太	両端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5317	杭 123	(652)	118	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
3	27	5318	板 17	1980	340	無	板材	厚 25mm。西端加工あり	スギ
3	27	5319	板 18	1494	190	無	板材	厚 15mm。	スギ
3	27	5320	材 Z	795	41	無	板材	厚 14mm。	スギ
3	27	5324	杭 124	(842)	66	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
3	27	5325	杭 125	(1293)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5330	材 Y	(413)	100	無	板材	厚 12mm。西端加工あり	スギ
3	27	5333	杭 126	1450	170	有	芯持丸太	最大径二股でない部分で取っている	シイノキ属
3	27	5336	材 2A	(484)	16	無	不明	両端新欠	カヤ
3	27	5337	杭 127	(814) (451)	53 50	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。内部炭化。2分 割	アカガシ亜属
3	27	5339	縦木 E	(809)	70	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
3	27	5343	材 2B	422	151	無	木製品?	厚 26mm。台脚部? 東端付近ほぞ穴 有。	スギ
3	27	5344	杭 128	(1356)	144	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
3	27	5348	材 2C	1333	205	無	板材	厚 22mm。東端付近ほぞ穴有	スギ
3	27	5349	杭 129	870	65	有	芯持丸太		サカキ
3	27	5350	杭 130	(987)	69	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
3	27	5351	杭 131	(927)	62	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
3	27	5352	材 2D	269	85	無	板材	厚 12mm。西端加工有。	スギ
3	27	5353	杭 132	2212	100	無	丸太		ヤブツバキ
3	27	5354	杭 133	736	100	有	芯持丸太		ハンノキ
3	27	5355	杭 125	(1293)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ヤマグワ
3	27	5355	縦木 F	2129	312	有	芯持丸太		ヤマグワ
3	27	5356	縦木 G	(1743)	105	有	芯持丸太	西端新欠。	ケヤキ
3	27	5357	杭 134	(565)	50	有	芯持丸太	西端新欠。	エノキ
3	27	5358	材 2E	405	100	無	板材	厚 11mm。	スギ
3	27	5359	杭 135	(700)	32	有	芯持丸太	東端新欠。	ケヤキ
3	27	5360	杭 136	(623)	65	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5361	杭 137	667	45	有	芯持丸太		ムクロジ
3	27	5362	杭 138	1032	64	有	芯持丸太		ヌルデ
3	27	5363	縦木 H	(1016)	118	有	芯持丸太	西端新欠。	ハンノキ
3	27	5364	杭 139	(940)	44	有	芯持丸太	東端新欠。	エゴノキ
3	27	5365	材 2F	565	77	無	板材	厚 16mm。	イヌマキ
3	27	5366	材 2G	509	39	無	板材	厚 6mm。	スギ
3	27	5367	杭 140	713	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	27	5369	杭 141	1360	105	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤナギ属
3	27	5370	材 2H	363	110	無	板材	厚 30mm。	スギ
3	27	5371	杭 142	1134	65	有	芯持丸太		ヤマザクラ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
3	27	5372	杭 143	711	56	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5373	杭 144	740	58	有	芯持丸太		タブノキ
3	27	5374	杭 145	1077	56	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ケヤキ
3	27	5375	杭 146	(717)	55	有	芯持丸太	西端新欠。	サカキ
3	27	5376	杭 147	(885)	40	有	芯持丸太	両端新欠。内部炭化。	クリ
3	27	5377	縦木 I	(1523) (294)	168 86	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	シイノキ属
3	27	5378	縦木 J	(944) (498)	142 148	有	芯持丸太	東端調査区内残欠 2分割	アカガシ亜属
3	27	5379	材 2I	1700	34	無	角材	厚 10mm。	スギ
3	27	5381	杭 148	624	50	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5382	杭 149	(1030)	56	有	芯持丸太	東端新欠。	シラキ
3	27	5383	杭 150	1408	42	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤブツバキ
3	27	5384	縦木 K	(1184)	83	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤマグワ
3	27	5385	材 2J	546	29	無	角材	厚 20mm。	スギ
3	27	5386	杭 151	982	70	有	芯持丸太		コナラ節
3	27	5387	杭 152	790	91	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	シイノキ属
3	27	5388	材 2K	568	105	無	板材	厚 10mm。	スギ
3	27	5389	板 19	2461	226	無	板材	厚 55mm。	スギ
3	27	5390	材 2L	600	130	無	板材	厚 19mm。	スギ
3	27	5391	杭 153	796	90	有	芯持丸太		エノキ
3	27	5417	杭 154	595	37	無	角材		スギ
3	27	5418	杭 155	(778)	65	有	芯持丸太	東端新欠。	タブノキ
3	27	5419	縦木 L	(1560)	134	有	芯持丸太	東端新欠。	アカガシ亜属
3	北側石積み下部	5081	杭 001	700	84	有	芯持丸太		タブノキ
3	北側石積み下部	5082	杭 002	782	58	有	芯持丸太		タブノキ
3	北側石積み下部	5088	杭 004	(585)	50	無	角材	東端新欠。 厚 28mm	スギ
3	北側石積み下部	5089	杭 003	935	65	有	芯持丸太		アカガシ亜属
3	北側石積み下部	5107	杭 005	(1606)	75	有	芯持丸太	両端新欠。最大径は二股でない部分 で計測。	エノキ
3	北側石積み下部	5191	杭 006	(443)	50	有	芯持丸太	東端新欠。	シラキ
3	北側石積み下部	5192	杭 007	(937)	50	有	芯持丸太	東端新欠。	エノキ
3	北側石積み下部	5200	杭 008	(375)	56	有	芯持丸太	両端新欠。	タブノキ
3	北側石積み下部	5201	杭 009	(299)	44	有	芯持丸太	両端新欠。	タブノキ
3	北側石積み下部	5204	杭 010	(796)	43	有	芯持丸太	両端新欠。	コナラ節
3	北側石積み下部	5207	杭 011	(487)	111	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
3	北側石積み下部	5208	杭 012	(1241)	149	有	芯持丸太	西端新欠。	タブノキ
3	北側石積み下部	5209	杭 013	(545)	99	有	芯持丸太	西端新欠。	ヤナギ属
3	北側石積み下部	5210	杭 014	(370)	68	有	芯持丸太	南端新欠。	ヤブツバキ
3	北側石積み下部	5211	杭 015	(1363)	70	有	芯持丸太	東端新欠。	コナラ節
3	北側石積み下部	5212	杭 016	(701)	82	有	芯持丸太	東端新欠。	ヤナギ属
3	北側石積み下部	5213	杭 017	364	46	有	芯持丸太		タブノキ
3	北側石積み下部	5221	杭 018	(1080)	58	有	芯持丸太	両端新欠。	エノキ
3	北側石積み下部	5321	杭 019	(674)	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	北側石積み下部	5322	杭 020	791	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	北側石積み下部	5323	杭 021	(600)	84	有	芯持丸太		エノキ
3	北側石積み下部	5326	杭 022	(643)	73	有	芯持丸太	西端新欠。	ケヤキ
3	北側石積み下部	5327	杭 023	(522)	58	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
3	北側石積み下部	5329	杭 024	(801)	103	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
3	北側石積み下部	5331	杭 025	1133	112	有	芯持丸太		ケヤキ
3	北側石積み下部	5332	杭 026	(1494)	66	有	芯持丸太	東端新欠	スルデ
3	北側石積み下部	5334	杭 027	(1178)	96	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化	クリ
3	北側石積み下部	5335	杭 028	(1235)	48	有	芯持丸太	両端新欠。内部炭化	クリ
3	北側石積み下部	5338	材 A	677	170	無	転用材	厚 80mm。	スギ
3	北側石積み下部	5340	杭 030	(1430)	69	有	芯持丸太	東端新欠	ハンノキ
3	北側石積み下部	5341	杭 029	(1059)	56	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
3	北側石積み下部	5342	材 B	403	125	無	転用材	柱材下部	ニヨウマツ
3	北側石積み下部	5345	杭 031	1042	80	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
3	北側石積み下部	5346	杭 032	890	82	有	芯持丸太		ヤブツバキ
3	北側石積み下部	5347	杭 033	1165	102	有	芯持丸太		ハンノキ
4	22	4617	材 A	(584)	65	無	板材	南端新欠	スギ
4	22	4618	杭 001	(2379)	40	無	転用材	東端新欠。西端加工有り	スギ
4	22	4632	杭 002	1521	58	有	芯持丸太		クリ
4	22	4633	杭 006	(1213)	55	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
4	22	4634	杭 008	(802)	56	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
4	22	4635	杭 009	672	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
4	22	4636	杭 005	(1102)	67	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
4	22	4637	杭 007	1025	88	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4638	杭 010	(595)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
4	22	4639	杭 011	(416)	54	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
4	22	4640	杭 012	542	54	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4652	横木 A	(1997) (1496)	106 45	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4653	材 B	712	11	無	角材	約 20 本の棒状の角材を一括取り上げ。 厚 7mm	スギ
4	22	4660	杭 013	(1052)	45	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4669	杭 016	705	150	無	転用材	西端ほぞ穴有り	スギ
4	22	4671	杭 015	(768)	88	無	転用材	西端新欠	スギ
4	22	4673	杭 014	(556)	53	無	角材	東端新欠	スギ
4	22	4675	杭 018	1223	106	有	芯持丸太		スギ
4	22	4677	杭 017	679	112	無	転用材	両端新欠	スギ
4	22	4679	杭 019	620	69	有	芯持丸太		ユクノキ
4	22	4680	杭 020	1677	65	有	芯持丸太		カヤ
4	22	4695	杭 021	1921	100	有	放射状分 割材		ユクノキ
4	22	4698	杭 022	1587	91	有	放射状分 割材		ユクノキ
4	22	4700	杭 003	1595	75	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4701	杭 004	1114	72	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	22	4717	横木 B	(2404) (1070)	108 135	有	芯持丸太	北端セクション内残欠	シイノキ属
4	22	4781	縦木 A	(534)	85	有	芯持丸太		ハンノキ
4	22	5124	縦木 B	(1349) (198)	102 120	有	芯持丸太	東側調査区内残欠。最大径は二股で ない部分で取っている。	カヤ
4	26	5055	杭 001	1310	48	有	芯持丸太		ミツバウツギ
4	26	5056	杭 002	1371	53	有	芯持丸太		ヤブツバキ
4	26	5059	杭 003	2003	52	有	芯持丸太		タブノキ
4	26	5063	材 A	549	139	無	板材		スギ
4	26	5065	杭 004	2374	53	有	芯持丸太	内部炭化	シイノキ属
4	26	5068	杭 005	1871	62	有	芯持丸太		タブノキ
4	26	5069	杭 006	1480	48	有	放射状分 割材	内部炭化	シイノキ属
4	26	5071	杭 007	1429	45	有	芯持丸太		タブノキ
4	26	5072	杭 008	2107	52	有	芯持丸太		コナラ節
4	26	5073	横木 C	(1625)	55	有	芯持丸太	中間部欠損 (40cm)。両端新欠。	ヤマグワ
4	26	5074	横木 A	(2496)	70	有	芯持丸太	南端付近欠損。(30cm)	シイノキ属
4	26	5075	杭 012	(2868)	75	有	芯持丸太	東端新欠	ミズキ
4	26	5076	材 B	1660	75	有	転用材	厚 60mm	スギ
4	26	5077	杭 010	1530	100	有	角材		スギ
4	26	5078	杭 013	3085	75	有	芯持丸太	西端加工あり	サカキ
4	26	5079	杭 014	(508)	45	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	26	5080	杭 015	3180	78	有	芯持丸太		クヌギ節
4	26	5083	杭 016	(1607)	67	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
4	26	5084	杭 017	1386	80	有	芯持丸太		ヤマグワ
4	26	5085	杭 018	1736	59	有	芯持丸太		ヤブツバキ
4	26	5086	杭 019	1795	61	有	芯持丸太	東端加工あり	カエデ属
4	26	5087	杭 020	3288	60	有	芯持丸太	西端加工あり	サカキ
4	26	5090	杭 021	2984	166	無	転用材	両端ほぞ穴あり。 厚 50mm	スギ
4	26	5091	材 C	832	106	無	板材	厚 38mm	スギ
4	26	5092	杭 022	1807	56	有	芯持丸太		ハゼノキ
4	26	5093	杭 023	1734	75	有	放射状分 割材	東端加工あり。 厚 60mm	ヤマグワ
4	26	5094	杭 024	2972	62	有	芯持丸太		サカキ
4	26	5095	杭 025	1707	102	有	放射状分 割材	厚 51mm。西端加工あり。ほぞ穴あり。	ムクノキ
4	26	5096	横木 D	5117	172	有	芯持丸太		ヤナギ属
4	26	5097	杭 026	(1356)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
4	26	5098	杭 027	(1426)	68	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
4	板敷	5018	板 1	1760	180	有	丸太	厚 7mm	スギ
4	板敷	5019	板 2	1394	140	無	板材	厚 8mm	スギ
4	板敷	5020	板 3	1565	140	無	板材	厚 42mm。東端ほぞ穴有り	スギ
4	板敷	5021	丸木 1	1270	47	無	板材		タブノキ
4	板敷	5022	丸木 2	1185	65	有	芯持丸太		タブノキ
4	板敷	5023	板 4	338	97	無	板材	厚 6mm	スギ
4	板敷	5024	板 5	510	75	無	板材	厚 20mm	スギ
4	板敷	5026	板 6	2804	77	無	板材	厚 15mm	スギ
4	板敷	5027	丸木 3	1547	58	有	芯持丸太		エゴノキ
4	板敷	5028	丸木 4	(1472)	46	有	芯持丸太		カラスザンショウ
4	板敷	5030	材 1	1173	38	無	転用材	厚 17mm	スギ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
4	板敷	5031	板 13	2400	138	無	転用材	厚 13mm。東端に穿孔。中央にほぞ 穴有り	スギ
4	板敷	5032	板 14	2512	100	無	板材	厚 10mm	スギ
4	板敷	5033	板 15	278	78	無	板材	厚 25mm	スギ
4	板敷	5034	板 10	(2689)	140	無	転用材	厚 11mm。西端新欠。東端穿孔あり。 中央西端付近ほぞ穴あり。	スギ
4	板敷	5035	板 11	2491	128	無	板材	厚 14mm	スギ
4	板敷	5036	板 12	2390	140	無	板材	厚 15mm。西端に穿孔。中央付近に ほぞ穴有り	スギ
4	板敷	5037	板 9	3003	211	無	転用材	厚 19mm。両端中央にほぞ穴有り。	スギ
4	板敷	5038	板 8	3130	153	無	転用材	厚 12mm	スギ
4	板敷	5039	板 7	(2092)	110	無	転用材	厚 15mm。東端新欠	スギ
4	板敷	5040	丸木 5	2526	70	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	散孔材 (不明)
4	板敷	5041	板 16	3065	142	無	転用材	厚 10mm	スギ
4	板敷	5042	板 17	2916	64	無	転用材	厚 9mm	スギ
4	板敷上台形	4951	横 1	2410	30	無	転用材	厚 10mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4952	横 2	1850	28	無	転用材	厚 10mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4953	横 3	1240	30	無	転用材	厚 8mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4954	横 4	792	28	無	転用材	厚 20mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4955	縦 1	981	30	無	転用材	厚 22mm。	スギ
4	板敷上台形	4956	縦 5	641	21	無	転用材	厚 10mm。	スギ
4	板敷上台形	4957	縦 2	1438	39	無	転用材	厚 26mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4958	縦 3	1400	34	無	転用材	厚 25mm。	スギ
4	板敷上台形	4960	横 5	470	42	無	転用材	厚 16mm。	スギ
4	板敷上台形	4961	縦 4	917	30	無	転用材	厚 17mm。	スギ
4	板敷上台形	4962	横 6	635	29	無	転用材	厚 17mm。南端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4963	横 7	425	29	無	転用材	厚 23mm。	スギ
4	板敷上台形	4964	横 8	403	30	無	転用材	厚 10mm。	スギ
4	板敷上台形	4965	横 9	914	31	無	転用材	厚 15mm。	スギ
4	板敷上台形	4966	横 10	1198	28	無	転用材	厚 25mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4967	横 11	1743	26	無	転用材	厚 20mm。両端加工あり	スギ
4	板敷上台形	4968	横 12	2142	20	無	転用材	厚 10mm。	スギ
4	板敷上台形	4969	横 13	2462	30	無	転用材	厚 16mm。	スギ
4	板敷上台形	4970	横 14	672	25	無	転用材	厚 12mm。	スギ
4	板敷上台形	4971	横 15	1180	23	無	転用材	厚 10mm。	スギ
4	板敷上台形	4972	丸太 1	1626	212	無	放射状分割		スギ
5	23	4764	材 A	291	20	無	転用材		スギ
5	23	4800	杭 001	(682)	46	有	芯持丸太	東端新欠	ハンノキ
5	23	4801	杭 003	(943)	27	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
5	23	4802	杭 002	968	43	有	芯持丸太		スルダ
5	23	4803	杭 009	1190	48	有	芯持丸太		ヤマツツジ
5	23	4804	杭 011	(1321)	46	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
5	23	4805	杭 006	1106	41	有	芯持丸太		ケンボナシ
5	23	4806	杭 007	876	28	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
5	23	4807	杭 005	1556	40	有	芯持丸太		カヤ
5	23	4808	杭 004	1321	52	有	芯持丸太		クリ
5	23	4809	杭 008	1122	33	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4810	杭 013	1225	39	有	芯持丸太		ハンノキ
5	23	4811	杭 014	1298	50	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4812	杭 026	1607	50	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
5	23	4813	杭 029	(1098)	45	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
5	23	4814	杭 038	733	59	有	芯持丸太		コナラ節
5	23	4815	杭 040	1346	63	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4816	杭 041	(1327)	58	有	芯持丸太	西端新欠。内部炭化	コナラ節
5	23	4817	杭 037	(1166)	52	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
5	23	4818	杭 035	1307	59	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4819	杭 023	842	83	有	芯持丸太		ヤブツバキ
5	23	4820	杭 012	1683	63	有	芯持丸太		カヤ
5	23	4821	杭 016	(1359)	60	有	芯持丸太	西端新欠	ハンノキ
5	23	4822	杭 015	(1444)	63	有	芯持丸太	西端新欠	ハンノキ
5	23	4823	杭 017	(982) (405)	105 104	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	クリ
5	23	4824	杭 018	(831)	37	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
5	23	4825	杭 019	(922)	55	有	芯持丸太	両端新欠	ハンノキ
5	23	4826	杭 021	(1940)	92	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
5	23	4827	杭 025	(2083)	84	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ゴヨウマツ
5	23	4828	杭 027	(1795)	55	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
5	23	4829	杭 028	(1408)	90	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ハンノキ
5	23	4830	杭 042	(764)	46	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
5	23	4831	杭 030	(1334)	91	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	エノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
5	23	4832	杭 031	(1490)	71	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ウルシ
5	23	4833	杭 032	(1406)	65	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
5	23	4834	杭 033	1525	72	有	芯持丸太		ゴヨウマツ
5	23	4835	杭 034	1221	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
5	23	4836	横木 A	850	36	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4837	横木 B	740	43	有	芯持丸太		ヤブツバキ
5	23	4838	杭 043	1257	80	有	芯持丸太		ヤマハゼ
5	23	4839	杭 024	(1867)	90	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	コナラ節
5	23	4840	杭 045	(1012)	76	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ハンノキ
5	23	4841	杭 044	1075	40	有	芯持丸太		コナラ節
5	23	4847	杭 010	1414	60	有	芯持丸太		コナラ節
5	23	4852	横木 C	3123	134	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4855	材 B	(428)	48	無	角材	西端新欠	スギ
5	23	4856	杭 022	1365	60	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
5	23	4857	杭 046	1032	65	有	芯持丸太		ウルシ
5	23	4858	杭 036	1363	64	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4877	杭 020	1313	58	有	芯持丸太		ヤブツバキ
5	23	4878	杭 047	(991)	43	無	角材	西端調査区内残欠。 厚 50mm	スギ
5	23	4879	杭 048	1806	60	無	転用材	厚 34mm	スギ
5	23	4880	杭 049	(891)	83	有	芯持丸太	西端新欠	ハンノキ
5	23	4883	杭 050	(726)	73	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
5	23	4884	杭 051	1246	76	有	芯持丸太	西端新欠。内部炭化	クリ
5	23	4886	杭 052	(1325)	95	無	板材	東端新欠。 厚 7mm	スギ
5	23	4887	杭 053	(1327)	109	無	板材	東端新欠。	スギ
5	23	4892	杭 056	(1339)	119	有	丸太	西端調査区内残欠	スギ
5	23	4895	横木 F	(4404) (828)	150 98	有	芯持丸太	南端調査区内残欠	エノキ
5	23	4896	横木 D	2789	136	有	芯持丸太	南端加工有り	不明
5	23	4901	杭 057	832	64	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4902	杭 058	(1053)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
5	23	4903	杭 039	(874)	66	有	芯持丸太	両端新欠	アカメガシワ
5	23	4904	杭 059	(937)	55	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ゴヨウマツ
5	23	4909	横木 E	3660	110	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っている。	タブノキ
5	23	4910	杭 060	(1334)	102	有	芯持丸太		ソヨゴ
5	23	4911	杭 061	(1341)	109	無	丸太	東端加工有り。	イヌマキ
5	23	4912	杭 062	(1383)	47	無	角材	東端新欠	スギ
5	23	4914	杭 064	714	59	有	芯持丸太		ニガキ
5	23	4915	杭 065	(452)	44	有	芯持丸太	両端新欠	ハンノキ
5	23	4917	杭 066	(553)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
5	23	4918	杭 063	1054	77	有	芯持丸太		アカガシ亜属
5	23	4922	横木 G	3291	132	有	芯持丸太	北端加工有り	ゴヨウマツ
5	23	4923	横木 H	2548	135	有	芯持丸太		ゴヨウマツ
5	23	4941	縦木 A	868	93	無	転用材	北端部加工有り。根太	イヌマキ
5	23	4976	杭 067	1400	88	有	芯持丸太		ウルシ
5	23	4977	杭 069	(636)	64	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	コナラ節
5	23	4978	杭 068	(1866)	117	有	芯持丸太	西端調査区内残欠 内部炭化	クリ
5	23	4979	杭 070	(1338) (220)	94 126	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
5	23	4980	材 C	219	22	無	板材	厚 4mm。	スギ
5	23	4981	杭 071	(1265)	80	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	エノキ
5	23	4982	杭 072	1031	70	有	芯持丸太		タブノキ
5	23	4983	杭 073	1263	67	無	転用材	厚 55mm。西端ほぞ穴あり	スギ
5	23	4986	材 D	324	18	無	転用材	厚 4mm。	スギ
5	23	5017	杭 055	(1205)	58	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	エノキ
5	23	5025	杭 074	(581)	41	有	芯持丸太	東端新欠	アカメガシワ
5	23	5047	杭 075	1376	113	有	芯持丸太		カヤ
5	24	4784	横木 A	1064	46	無	角材		スギ
5	24	4849	杭 001	1409	50	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
5	24	4850	杭 002	(940)	44	有	芯持丸太	南端新欠	ヤナギ属
5	24	4854	杭 003	1126	74	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
5	24	4859	杭 004	1651	59	有	芯持丸太		サカキ
5	24	4865	杭 006	1449	76	有	芯持丸太		クリ
5	24	4866	杭 005	1501	94	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
5	24	4872	杭 007	1576	58	有	芯持丸太		ハンノキ
5	24	4882	杭 008	1435	56	有	芯持丸太		モモ
5	24	4885	杭 009	1569	80	有	芯持丸太		ハンノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
5	24	4888	横木 B	(3316) 4583	150 191	有	丸太	北端調査区内残欠 先端部剝搔 面取り	ゴヨウマツ
5	24	4889	杭 018	1615	52	無	角材	23 杭 54 から変更	スギ
5	24	4900	杭 010	(1532)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ハンノキ
5	24	4921	横木 C	(1412) (2960)	93 151	有	芯持丸太	北端調査区内残欠	ニヨウマツ
5	24	4927	杭 011	2018	62	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
5	24	4928	杭 012	1591	61	有	芯持丸太		ハンノキ
5	24	4929	杭 013	1763	67	有	芯持丸太		ハンノキ
5	24	4931	杭 014	1922	80	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
5	24	4935	杭 015	1931	74	有	芯持丸太		ハンノキ
5	24	4938	杭 016	(1903)	99	有	芯持丸太	西端新欠	ハンノキ
5	24	4939	杭 017	1522	60	有	芯持丸太		コナラ節
5	24	4943	材 A	(347)	37	無	板材	内部炭化	スギ
5	24	4944	杭 019	1305	59	無	角材		スギ
5	24	4945	杭 020	1556	56	有	芯持丸太		カヤ
5	24	4946	杭 021	(522)	55	無	角材	西端新欠	スギ
5	24	4947	杭 022	(1250)	78	有	芯持丸太	両端新欠	ハンノキ
5	24	4948	横木 E	1597	100	有	芯持丸太	北端加工有り。	アカガシ亜属
5	24	4949	杭 023	1441	97	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	クリ
5	24	4959	材 B	587	115	無	板材	厚 17mm。	スギ
5	24	4973	杭 024	(683)	40	有	芯持丸太	西端新欠	エノキ
5	24	4974	杭 025	925	73	有	芯持丸太		コナラ節
5	24	4975	杭 026	(963)	55	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
5	24	4984	杭 027	1245	95	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
5	24	4985	縦木 A	(730) (712) 600	95 102 115	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ハゼノキ
5	24	5029	杭 30	1459	112	有	芯持丸太		カヤ
5	24	5043	杭 29	1422	117	有	芯持丸太	内部炭化	クリ
5	24	5044	杭 28	1300	87	有	芯持丸太	内部炭化	シイノキ属
5	24	5045	材 C	881	23	無	角材	厚 21mm	スギ
5	24	5123	縦木 B	(875) (865)	125 139	有	芯持丸太	東側調査区内残欠。最大径は二股で ない部分で取っている。内部炭化	クリ
5	24	5150	縦木 C	2167	145	有	芯持丸太		シイノキ属
6	3	1867	杭 1	580	50	有	芯持丸太		ヤナギ属
6	3	1868	杭 2	1,020	70	有	放射状 分割材?		スギ
6	3	1869	杭 3	360	50	有	芯持丸太	表面炭化	ヤブツバキ
6	3	2050	杭 4	1,000	100	有	放射状分 割材		スギ
6	3	2051	杭 5	1,420	180	一部有	板 (転用)		混合 (不明)
6	3	2052	杭 6	720	65	無	転用材	根太?	スギ
6	3	2053	杭 7	840	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2054	杭 8	310	70	一部有	不明		スギ
6	3	2055	杭 9	300	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2056	杭 10	430	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2057	杭 11	230	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2058	杭 13	440	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2059	杭 14	950	50	一部有	芯持丸太		シイノキ属
6	3	2060	杭 15	1,440	130	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	2061	横木 A	1,660	130	無	丸太		ヤマグワ
6	3	2062	横木 B	2460 (558)	130	無	分割材	丸太半割 ベルト部で切斷、残り現場	スギ
6	3	2063	横木 C	2550 (1560)	90 82	無	板 (転用材?)	ベルト部で切斷、残り現場	スギ
6	3	2064	杭 12	420	40	一部有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3	3017	材 A	(140)	99	無	板材	両端新欠	スギ
6	3	3058	横木 D	(1365) (1515)	176 150	有	芯持丸太	北側・セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ)	イヌガヤ
6	3	3059	横木 E	(1,383)	105	有	芯持丸太	南端新欠	タブノキ
6	3	3060	横木 F	(647)	95	有	芯持丸太	両端新欠	エノキ
6	19	4374	杭 002	(890)	58	有	芯持丸太	東端新欠	アカメガシワ
6	19	4375	杭 003	(1015)	50	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
6	19	4376	横木 C	3370	83	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	19	4377	杭 004	(800) (576)	59 51	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	19	4378	杭 005	1447	40	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
6	19	4379	横木 B	(920)	36	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ムクノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	19	4380	杭 001	(619) 150 (455) (181)	46 46 55 54	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ムクロジ
6	19	4381	横木 A	3183	100	有	芯持丸太		タブノキ
6	20	1846	縦木 J				転用材	両端輪雑込	スギ
6	20	4395	杭 001	855	49	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4396	杭 002	746	55	無	角材		スギ
6	20	4397	杭 003	(1070)	50	無	角材	両端新欠	スギ
6	20	4398	杭 004	866	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4399	杭 007	605	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4400	横木 A	1445	38	無	角材		スギ
6	20	4401	杭 008	(822)	54	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4402	杭 020	(338)	40	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4403	杭 006	745	30	有	芯持丸太		ケヤキ
6	20	4404	杭 005	491	39	有	放射状分割		スギ
6	20	4405	杭 009	(1358)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4406	杭 010	(758)	59	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
6	20	4407	杭 013	(1091)	74	有	芯持丸太	東端新欠	エノキ
6	20	4408	杭 011	580	43	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4410	杭 012	769	69	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	20	4411	杭 016	1054	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4412	杭 014	802	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4417	杭 021	920	51	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4418	横木 B	3555	147	有	丸太	北端一部欠。 厚 61mm	スギ
6	20	4420	横木 C	4170	90	無	板材	南端新欠。 厚 40mm	スギ
6	20	4421	杭 023	673	35	無	板材		ヤブツバキ
6	20	4422	杭 024	(382)	36	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4423	杭 022	394	34	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4424	杭 026	1555	35	有	芯持丸太		カヤ
6	20	4425	杭 017	724	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4426	杭 025	333	36	有	芯持丸太		ウツギ
6	20	4427	杭 015	(465)	43	有	芯持丸太	東端新欠	アカガシ亜属
6	20	4428	杭 018	(1330)	69	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
6	20	4429	杭 030	1199	36	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
6	20	4430	杭 029	637	28	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4431	杭 031	540	26	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4434	杭 027	(570)	36	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
6	20	4435	縦木 A	996	85	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	カヤ
6	20	4436	杭 028	(585)	34	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4437	杭 019	718	65	有	芯持丸太		クヌギ節
6	20	4438	横木 D	(2805) (1004)	109 82	有	芯持丸太	南側セクション内残欠。内部炭化	コナラ節
6	20	4439	材 A	870	28	無	転用材		スギ
6	20	4440	材 B	276	80	無	転用材	北端にはぞ穴有り	スギ
6	20	4441	杭 053	590	47	有	芯持丸太		クマノミズキ
6	20	4442	杭 052	1144	98	有	芯持丸太		エノキ
6	20	4443	杭 054	506	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4444	杭 050	(1333)	74	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4445	杭 051	(1161)	42	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4446	杭 055	(953)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4447	杭 056	(395)	41	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4448	杭 049	1322	90	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4449	杭 058	998	53	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	20	4450	杭 059	(1021)	85	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4451	杭 060	395	52	有	芯持丸太		タブノキ
6	20	4452	杭 061	814	45	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4453	杭 032	709	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4476	杭 034	(560)	26	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4477	杭 033	1189	94	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4478	杭 036	(1323)	60	無	角材	東端新欠	スギ
6	20	4480	杭 035	(410)	76	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4481	杭 048	(594)	71	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4482	杭 039	822	26	無	角材		スギ
6	20	4483	杭 042	625	100	有	芯持丸太		ヌルデ
6	20	4484	杭 037	(1305)	62	有	芯持丸太	西端新欠	ケヤキ
6	20	4485	杭 040	(312)	28	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	20	4486	杭 069	1265	44	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4487	杭 071	(1187)	59	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	20	4488	杭 046	(1158)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ウツギ
6	20	4489	杭 038	1343	66	無	角材		スギ
6	20	4490	杭 077	927	35	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4491	杭 078	(691)	38	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	20	4492	杭 070	(1413)	63	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4493	杭 079	1108	41	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4494	杭 080	1089	60	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4495	杭 047	1100	45	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
6	20	4496	杭 043	1186	76	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤブツバキ
6	20	4497	杭 062	(421)	66	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	ヤブツバキ
6	20	4498	杭 063	(1307) (440)	54 54	有	芯持丸太	西端切断。調査区内残欠。	ヤブツバキ
6	20	4499	横木 J	1319	75	無	角材	西端切断。調査区内残欠。	スギ
6	20	4500	杭 067	370	70	無	角材	両端新欠	スギ
6	20	4501	杭 041	1450	43	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4502	横木 K	672	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4503	杭 081	1260	39	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4504	杭 066	(394)	52	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4505	杭 064	(1048) (465)	40 44	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4506	杭 065	(1191) (372)	54 49	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4507	杭 099	1274	53	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4508	杭 068	(440)	52	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4509	杭 100	1153	44	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	イヌビワ
6	20	4510	杭 104	(1095)	41	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4511	杭 103	(1189)	65	無	角材	東端新欠	スギ
6	20	4512	杭 095	1345	55	有	芯持丸太		不明
6	20	4513	杭 102	(850)	50	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
6	20	4514	杭 083	(346)	62	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4515	杭 084	1802	74	無	角材		スギ
6	20	4516	杭 095	1001	34	有	芯持丸太	調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4517	横木 L	1953	87	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4518	杭 109	(301)	75	有	芯持丸太	両端新欠	カヤ
6	20	4519	杭 082	809	64	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4520	杭 093	(1270)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4521	杭 112	(558)	49	有	芯持丸太	西端新欠	不明
6	20	4522	杭 086	(1532) (172)	73 25	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	20	4523	杭 085	(1460)	59	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。西 端調査区内残欠	ケヤキ
6	20	4524	杭 110	1456	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4525	杭 111	(1104)	50	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4526	杭 089	1351	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4527	材 C	(476)	22	無	板材	両端新欠	スギ
6	20	4528	杭 101	1346	53	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	20	4529	杭 116	1279	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4530	杭 117	1361	61	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4531	杭 118	1142	41	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4532	杭 115	485	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4533	杭 114	1260 246	56 47	有	芯持丸太		クヌギ節
6	20	4534	杭 098	1423	62	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	20	4535	杭 120	1125	53	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4536	杭 119	(1158) (248)	40 36	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤマウルシ
6	20	4537	杭 121	(1121) (509)	40 50	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4538	杭 091	(857)	45	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4539	杭 122	(532) (332)	61 70	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	20	4540	材 D	474	37	無	板材		スギ
6	20	4541	杭 113	1179	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4542	杭 087	1452	71	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
6	20	4543	杭 097	(1298) (196)	38 45	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
6	20	4544	杭 094	(1258) (242)	77 70	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	20	4545	杭 123	(1026) (392)	34 38	有	芯持丸太	両端新欠	ニワトコ
6	20	4546	杭 096	1175	52	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4548	杭 124	(927) (301)	63 51	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	20	4551	杭 092	1245	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4552	杭 107	982	50	有	芯持丸太		イヌビワ
6	20	4553	杭 108	(704) (495)	69 77	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4554	杭 045	(716) (302)	50 52	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	20	4556	杭 106	(1316)	46	無	角材	東端新欠	スギ
6	20	4561	杭 105	1202	52	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	20	4571	杭 090	2053	128	無	転用材		スギ
6	20	4573	杭 112	568	88	無	転用材		スギ
6	20	4580	横木 E	(1362) (1608)	105 92	有	芯持丸太	南側調査区内残欠	コナラ節
6	20	4581	杭 088	1286	73	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4584	縦木 B	(2308)	103	有	芯持丸太	西端新欠	カヤ
6	20	4588	横木 G	1927	198	有	芯持丸太	北端調査区内残欠	ハンノキ
6	20	4591	横木 M	3420	95	有	芯持丸太	北端ほぞ穴有り	カヤ
6	20	4592	杭 074	(1151)	63	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4593	杭 075	(1002)	38	有	芯持丸太	両端新欠	ニワトコ
6	20	4594	横木 N	1441	98	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	20	4595	横木 F	3608	161	有	芯持丸太		ハンノキ
6	20	4596	杭 073	(562)	34	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4597	杭 072	(1077)	67	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
6	20	4598	杭 057	721	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4599	杭 135	1578	65	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4600	杭 129	725	75	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤマグワ
6	20	4601	杭 130	1451	56	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	20	4602	杭 128	1607	70	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4603	杭 127	1433	72	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4604	杭 126	(1422)	59	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4605	杭 131	1244	65	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4607	杭 132	1212	71	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	20	4610	杭 125	(1500)	69	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4611	杭 134	(1349)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤマウルシ
6	20	4612	横木 H	(3402)	75	有	芯持丸太	4745 と南接する同一の横木。	タラノキ
6	20	4613	杭 076	(933)	44	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
6	20	4614	横木 I	1489	91	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	20	4615	材 E	(460)	20	無	転用材	西端新欠	スギ
6	20	4616	杭 136	443	31	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4619	杭 137	(508)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ゴヨウマツ
6	20	4620	杭 133	697	43	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4622	杭 138	1125	44	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4623	縦木 C	315	49	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4628	縦木 D	(952) (673) 542	75 85 93	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っている	ヤブツバキ
6	20	4629	縦木 E	(900)	163	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
6	20	4663	縦木 F	1422	101	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4703	杭 139	1089	56	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4704	杭 044	910	46	有	芯持丸太		ニワトコ
6	20	4705	杭 140	1267	60	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4707	杭 141	1050	51	有	芯持丸太		コナラ節
6	20	4709	横木 G	2125	183	有	芯持丸太	以前取り上げたもののサンプル有り。 長さ合計 4052mm 北端加工有り。	ハンノキ
6	20	4714	杭 142	1305	70	有	芯持丸太		ヤマグワ
6	20	4741	横木 P	762	23	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4742	杭 143	(1231)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	20	4743	杭 144	1300	40	有	芯持丸太		クリ
6	20	4744	横木 Q	1284	50	有	芯持丸太	内部炭化	シイノキ属
6	20	4745	横木 H	(1409)	72	有	芯持丸太		タラノキ
6	20	4749	杭 146	912	62	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っている。	カヤ
6	20	4750	杭 145	1239	56	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	20	4898	杭 148	1265	38	有	芯持丸太		ハンノキ
6	20	4899	杭 147	(1157)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ハンノキ
6	20	4907	杭 149	953	49	有	芯持丸太		クリ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	20	4908	杭 150	(1150)	46	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	20	4942	縦木 H	549	64	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	クリ
6	20	4950	縦木 I	(388)	92	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	21	4547	材 A	741	62	無	板材		スギ
6	21	4549	縦木 B	(611)	100	有	芯持丸太	西端新欠	ニフトコ
6	21	4555	材 C	545	26	無	転用材		スギ
6	21	4557	杭 040	(939)	68	無	角材	西端新欠	スギ
6	21	4558	杭 016	1086	70	有	芯持丸太		カヤ
6	21	4559	杭 025	(650)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4560	杭 020	(862)	51	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
6	21	4562	杭 031	1161	51	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4563	杭 021	(743)	70	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化。	シイノキ属
6	21	4564	杭 026	(910)	91	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4565	杭 011	734	81	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4566	杭 010	1106	60	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	21	4567	杭 033	825	41	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4568	杭 039	(706)	39	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4569	縦木 C	1003	80	有	芯持丸太		ケヤキ
6	21	4570	杭 001	(765)	66	有	芯持丸太	東端新欠。内部炭化。	コナラ節
6	21	4572	杭 046	1166	61	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4574	杭 043	1130	76	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4575	横木 C	2016	115	有	芯持丸太		スギ
6	21	4576	杭 045	785	40	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4577	杭 041	2405	80	無	転用材		スギ
6	21	4578	杭 042	(1510) (298)	90 69	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	21	4579	杭 032	766	45	有	芯持丸太		アカガシ亜属
6	21	4582	杭 035	817	66	有	芯持丸太		アカガシ亜属
6	21	4583	杭 047	2392	128	無	転用材		スギ
6	21	4585	杭 034	(1541)	55	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4586	杭 037	(884)	42	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4587	杭 048	(1182)	50	有	芯持丸太	両端新欠	ヤマグワ
6	21	4589	横木 B	1410	44	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4590	杭 036	846	81	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4606	杭 028	1948	55	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4608	杭 029	1611	102	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4609	杭 027	(1836)	52	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4626	杭 030	941	59	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4631	杭 049	1794	47	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4641	杭 051	(1940)	60	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4643	杭 053	(1604)	53	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
6	21	4644	杭 052	(1862)	78	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤマグワ
6	21	4645	杭 054	(1696)	68	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
6	21	4646	杭 055	(1598)	69	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4647	杭 056	(1825)	77	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
6	21	4648	杭 057	1047	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4649	杭 058	580	35	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4650	杭 059	1696	50	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4651	杭 060	(1860)	82	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4654	杭 061	1083	43	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4655	杭 062	(415)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4656	杭 063	(1403)	67	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	エノキ
6	21	4657	杭 044	(1857)	102	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。西端調査区内残欠	ケヤキ
6	21	4658	杭 064	(1735)	90	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
6	21	4659	杭 065	(1698)	62	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4661	杭 066	(1555)	73	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ケヤキ
6	21	4664	杭 067	1361	69	有	芯持丸太		ヌルデ
6	21	4665	杭 068	(1611)	82	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4667	杭 069	586	44	有	芯持丸太		ハンノキ
6	21	4668	杭 070	1430	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4670	杭 071	(1706)	52	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4672	杭 072	(1293)	44	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	タブノキ
6	21	4674	杭 073	(1949)	80	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4676	杭 074	1572	68	有	芯持丸太		カヤ
6	21	4678	杭 022	(2010)	113	有	芯持丸太	西端調査区内残欠。内部炭化	コナラ節
6	21	4681	横木 D	2763	65	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4682	横木 A	5172	142	有	芯持丸太	昨年度木構 12 の横木 F から変更。内部炭化	クリ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	21	4683	杭 075	(1494)	82	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	21	4684	杭 076	801	63	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4685	杭 077	(1061)	78	有	芯持丸太	東端新欠	ヌルデ
6	21	4686	材 B	1940	119	無	転用材		スギ
6	21	4687	杭 078	1148	58	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4688	杭 079	1316	50	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
6	21	4689	杭 080	1233	42	有	芯持丸太		ニワトコ
6	21	4690	杭 050	1289	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4691	杭 081	1366	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4692	杭 082	842	45	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4693	杭 083	1261	72	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
6	21	4694	縦木 D	895	157	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4696	杭 084	1010	35	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4697	杭 085	1093	51	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4699	杭 086	1027	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4702	杭 002	746	63	有	芯持丸太		アカメガシワ
6	21	4711	横木 E	1307 (2982) (940)	152 139 90	有	芯持丸太	南端加工有り	ニヨウマツ
6	21	4715	杭 003	(912)	66	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4716	杭 004	696	79	有	芯持丸太		ケヤキ
6	21	4719	杭 087	874	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4720	杭 005	396	74	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
6	21	4721	杭 088	1180	94	有	芯持丸太		ニワトコ
6	21	4722	杭 089	1226	53	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4724	杭 017	(1475)	95	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ケヤキ
6	21	4725	杭 019	1004	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4726	杭 015	1068	71	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4727	杭 090	1110	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4728	杭 007	1099	58	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4729	杭 008	1221	56	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4733	杭 092	1190	51	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4735	杭 018	(1279)	65	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	21	4736	杭 023	830	71	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4737	杭 091	1034	38	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4738	杭 094	924	61	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4746	杭 093	1010	30	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4747	杭 095	1020	51	有	芯持丸太		コナラ節
6	21	4748	杭 096	927	47	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4751	杭 098	1022	50	有	芯持丸太		タブノキ
6	21	4752	杭 097	1298	35	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4753	杭 009	(1170)	55	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4754	杭 024	1039	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4755	杭 038	(876)	67	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	21	4756	杭 014	(1230)	63	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
6	21	4757	杭 012	695	37	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	4758	杭 013	1109	51	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	21	4761	杭 006	1237	60	有	芯持丸太		カヤ
6	21	4930	縦木 E	(735)	17	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4932	縦木 G	(825)	118	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
6	21	4933	縦木 F	(682)	105	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマグワ
6	21	4934	縦木 I	(510)	98	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4936	杭 99	(461)	45	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	21	4937	杭 100	(347)	45	無	不明	両端新欠	ニワトコ
6	21	5046	縦木 H	970	100	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	21	5328	縦木 J	3734	110	有	角材		スギ
6	18 下部	4409	杭 001	(661)	49	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
6	18 下部	4414	杭 004	(475)	41	有	芯持丸太	西側調査区内残存欠	ヤマウルシ
6	18 下部	4415	杭 003	(883) (288)	62 60	有	芯持丸太	西側調査区内残存欠	ヤブツバキ
6	18 下部	4416	杭 002	(881)	45	有	芯持丸太	西側調査区内残存欠	ヤブツバキ
6	18 下部	4550	杭 005	(555)	41	有	芯持丸太	西端新欠	スギ
6	3 下部	3184	杭 1	(1,400)	42	有	芯持丸太	両端新欠	クヌギ節
6	3 下部	3185	杭 2	(1,037)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3 下部	3186	杭 3	(970)	80	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	3 下部	3187	杭 4	368	78	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3 下部	3188	杭 5	(1,253)	70	有	放射状分割	東端新欠	スギ
6	3 下部	3189	杭 6	(1,163)	53	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	3 下部	3190	杭 7	(1,478)	60	有	芯持丸太	東端新欠	イヌガヤ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	3下部	3191	杭 8	(1,254)	58	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3192	杭 9	(1,500)	86	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3193	杭 10	(1,331)	52	有	芯持丸太	両端新欠	シイノキ属
6	3下部	3194	杭 11	(1,225)	58	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
6	3下部	3195	杭 12	(1,480)	83	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3196	杭 13	(2,175)	98	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
6	3下部	3197	杭 14	(1,900)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3198	杭 15	(1,525)	47	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	3下部	3199	杭 16	2,555	103	有	芯持丸太		タブノキ
6	3下部	3200	杭 17	(1,323)	57	有	芯持丸太	両端新欠	ツブラジイ
6	3下部	3201	杭 20	(2,445)	105	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
6	3下部	3202	杭 21	(547)	38	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3203	杭 22	(2,365)	120	有	芯持丸太	両端新欠。切断（資料の東部分を取り上げ） 残欠（資料の西部分 長 127mm）取り上げ（091214）	シラキ
6	3下部	3204	杭 23	(1,690)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3205	杭 40	(1,045)	53	無	転用材	両端新欠	スギ
6	3下部	3206	杭 47	(618)	35	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3207	杭 41	(668)	22	無	転用材	両端新欠	スギ
6	3下部	3208	杭 45	(1,173)	35	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
6	3下部	3209	杭 46	(1,255)	35	有	芯持丸太	両端新欠	シロダモ属
6	3下部	3210	杭 32	(1,698)	83	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
6	3下部	3211	杭 34	(1,428)	60	無	転用材	東端新欠	スギ
6	3下部	3212	杭 35	(1,148)	50	有	芯持丸太	両端新欠	シロダモ属
6	3下部	3213	杭 31	(1,987)	75	有	芯持丸太	東端新欠。切断（資料の東部分を取り上げ） 残欠（資料の西部分 長 469mm）取り上げ（091214）	ヤブツバキ
6	3下部	3214	杭 44	(1,275)	35	有	芯持丸太	両端新欠	ムクノキ
6	3下部	3215	杭 43	(960)	35	無	転用材	西端新欠	スギ
6	3下部	3216	杭 42	(760)	40	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3217	杭 29	(1,888)	48	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
6	3下部	3218	杭 27	(1,848)	53	有	芯持丸太	両端新欠。切断（資料の東部分を取り上げ） 残欠（資料の西部分 長 215mm）取り上げ（091214）	タリ
6	3下部	3219	杭 28	(1,843)	90	有	芯持丸太	切断（資料の東部分を取り上げ） 残欠（資料の西部分 長 165mm）取り上げ（091214）	シロダモ属
6	3下部	3220	杭 36	(1,660)	58	無	転用材	東端新欠	スギ
6	3下部	3221	杭 39	965	25	無	転用材		スギ
6	3下部	3222	杭 37	(1,388)	75	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3223	杭 38	(670)	57	有	芯持丸太	東端新欠 切断（資料の東部分を取り上げ）	ヤブツバキ
6	3下部	3224	杭 33	(2,030)	58	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3225	杭 24	2,025	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3下部	3226	杭 25	(2,005)	73	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3227	横木 C	(1,480)	103	有	芯持丸太	西端新欠	エゴノキ
6	3下部	3228	横木 A	(4075) 472	21 119	有	芯持丸太	切断（資料の中央部分を取り上げ） 南部分の方が細くなっている	コナラ節
6	3下部	3229	杭 19	(733)	88	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	3下部	3230	杭 18	(1,928)	78	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	3231	杭 48	(1,760)	73	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	3下部	3232	杭 26	(1,839)	95	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	3下部	3233	横木 D	(620)	68	無	転用材	北端新欠	スギ
6	3下部	3234	杭 30	(1,328)	82	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	3下部	3235	縦木 B	(1395) (110)	103 109	有	芯持丸太	西端新欠 切断（資料の西部分を取り上げ）	エノキ
6	3下部	3236	横木 B	(4130) (395)	155 132	有	芯持丸太	切断（資料の中央部分を取り上げ）	ヒノキ
6	3下部	4469	杭 050	1,180	70	有	芯持丸太		カヤ
6	3下部	4470	杭 051	990	45	有	芯持丸太		コナラ節
6	3下部	4471	杭 052	1,004	39	有	芯持丸太		コナラ節
6	3下部	4472	杭 053	(866)	63	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
6	3下部	4473	杭 054	1,088	82	有	芯持丸太		タラノキ
6	3下部	4474	杭 055	(656)	70	有	芯持丸太	西端新欠	ヤマウルシ
6	3下部	4475	杭 056	871	74	有	芯持丸太		ヌルデ
6	3下部	4479	縦木 C	(1248) (425)	70 75	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	ヤブツバキ
6	3下部	4624	縦木 D	(697)	52	有	芯持丸太	西端新欠	カヤ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
6	3下部	4625	縦木 E	732	69	有	芯持丸太		ヤブツバキ
6	3下部	4627	杭 57	(1093)	111	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3下部	4642	縦木 A	(1125) (712) (625)	49 90 147	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	ヤマグワ
6	3上部	4464	杭 016	(609)	57	無	角材	東端新欠	スギ
6	3上部	4465	杭 019	468	44	有	芯持丸太		カキノキ
6	3上部	4466	杭 017	(941)	64	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
6	3上部	4467	杭 018	710	38	有	芯持丸太		ハンノキ
6	3上部	4468	杭 020	460	35	有	芯持丸太	東端新欠	ハンノキ
6	3上部	4621	縦木 A	566	66	有	芯持丸太		カヤ
6	3上部	4630	縦木 B	1735	95	有	芯持丸太		ハンノキ
7	13	4243	杭 005	(960)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
7	13	4244	杭 004	1,416	75	有	芯持丸太		エノキ
7	13	4245	杭 003	(1,265)	82	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4246	杭 002	(663)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4247	杭 001	474	57	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
7	13	4249	横木 A	2,858	80	無	転用材		スギ
7	13	4265	杭 006	1,699	65	有	芯持丸太		カヤ
7	13	4266	材 A	560	20	無	角材		スギ
7	13	4267	杭 007	1,149	80	有	芯持丸太	両端新欠	ムクノキ
7	13	4268	杭 008	(1,450)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4269	杭 009	(902)	57	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4270	杭 010	(454)	112	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
7	13	4271	杭 011	(850)	93	有	芯持丸太	両端新欠	エノキ
7	13	4272	杭 012	950	40	有	芯持丸太		ヤマウルシ
7	13	4273	杭 013	1,250	40	有	芯持丸太		タラノキ
7	13	4274	杭 015	(1,148)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4275	杭 014	(1,295)	62	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
7	13	4276	杭 016	(939)	43	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4277	杭 017	(1,025)	66	有	芯持丸太	西端新欠	ヌルデ
7	13	4278	杭 018	540	40	有	芯持丸太		ヤナギ属
7	13	4279	杭 019	(901)	57	無	角材	東端新欠	スギ
7	13	4280	杭 020	1,033	45	有	芯持丸太		カヤ
7	13	4281	杭 021	(815)	91	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4282	杭 022	800	35	有	芯持丸太		カヤ
7	13	4283	杭 023	776	47	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
7	13	4284	材 B	(503)	20	無	角材	両端新欠	スギ
7	13	4285	横木 C	740	46	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4286	横木 D	(712)	48	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	13	4287	横木 E	(636)	55	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	13	4288	杭 026	963	50	有	芯持丸太		ヌルデ
7	13	4289	杭 025	(1,028)	60	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
7	13	4290	杭 024	857	54	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4292	杭 027	(1,051)	70	有	芯持丸太	両端新欠	タラノキ
7	13	4293	杭 028	1,609	75	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4294	杭 029	1,046	80	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
7	13	4296	杭 030	(1,774)	53	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
7	13	4308	杭 031	(1557)	66	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	13	4309	杭 032	(2136)	72	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
7	13	4310	杭 033	(1289)	83	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4311	杭 034	951	68	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4312	材 C	(372)	26	無	板材	西端新欠	スギ
7	13	4313	横木 B	4058	110	無	転用材	南端加工有り	ムクノキ
7	13	4322	杭 035	(1158)	89	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
7	13	4323	杭 036	(720)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	13	4324	杭 037	(414)	70	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
7	13	4325	杭 038	(465)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属
7	13	4326	縦木 A	(680) (1174)	74 86	有	芯持丸太	南側調査区内残欠。内部炭化	コナラ節
7	13	4327	杭 040	(662)	43	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
7	13	4328	杭 039	1883	107	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4329	杭 042	696	71	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	タブノキ
7	13	4330	杭 041	1643	71	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	13	4335	材 D	420	32	無	板材		スギ
7	13	4356	横木 F	2326	49	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	タブノキ
7	13	4364	杭 043	(1958)	60	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	ヤブツバキ
7	13	4365	杭 044	(1621)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	13	4366	杭 045	1,327	65	有	芯持丸太		ムクロジ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
7	13	4367	材 E	(245)	134	有	丸太	東端新欠	スギ
7	13	4370	縦木 B	(756)	42	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	17	4258	杭 001	(1630)	53	無	角材	両端新欠西端にほぞ穴有り	スギ
7	17	4259	杭 002	(1091)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	17	4260	杭 003	(500)	65	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
7	17	4261	杭 004	987	50	有	芯持丸太		ヒサカキ
7	17	4262	杭 005	(770)	56	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
7	17	4263	杭 006	(866)	110	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
7	17	4264	杭 007	(681)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	17	4295	材 A	417	99	無	木製品	一部欠損	スギ
7	17	4393	縦木 A	(1503)	207	有	芯持丸太	西端新欠	カヤ
7	17	4394	縦木 B	(459)	58	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	ヤブツバキ
7	18	4291	材 A	(1,308)	78	無	角材	東端新欠	スギ
7	18	4297	杭 006	1,156	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	18	4298	杭 002	1,046	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	18	4299	杭 008	2,637	64	有	芯持丸太		カヤ
7	18	4300	杭 007	(1,695)	45	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	18	4301	杭 009	(1,216)	57	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属
7	18	4302	杭 005	(1,638)	65	有	芯持丸太	西端新欠	ニワトコ
7	18	4303	杭 010	1,950	40	有	芯持丸太	両端新欠	カヤ
7	18	4304	杭 001	(2,285)	83	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	18	4305	杭 003	(2,441)	96	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4306	杭 004	2,295	62	有	芯持丸太		ヤマグワ
7	18	4307	材 B	260	100	無	板材		スギ
7	18	4314	杭 011	(650)	50	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
7	18	4315	杭 012	(1,115)	43	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4316	杭 013	(1,284)	50	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4317	杭 015	(988)	40	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4318	杭 014	(860)	35	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4331	縦木 B	957	103	無	板材		スギ
7	18	4332	縦木 A	(683) (540)	91	有	芯持丸太	東側切断。調査区内残欠。	タブノキ
7	18	4333	横木 A	(3,680)	108	有	芯持丸太	間 40cm 欠損	ヤブツバキ
7	18	4334	横木 B	3,279	142	無	芯持丸太		カヤ
7	18	4336	横木 C	1,952	123	有	芯持丸太		タブノキ
7	18	4357	杭 016	(1,759)	67	有	芯持丸太	西端切断	ヤブツバキ
7	18	4358	杭 017	(2,506)	70	有	芯持丸太	西端切断	エノキ
7	18	4359	杭 018	(1,765)	62	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測。	カヤ
7	18	4360	杭 019	1,328	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
7	18	4361	材 C	653	21	無	角材		スギ
7	18	4368	杭 024	(340)	61	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
7	18	4382	杭 025	(1,175)	52	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4383	杭 027	(1,271)	51	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4384	杭 026	(1,312)	52	有	芯持丸太	北端新欠	エノキ
7	18	4385	杭 020	(896)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
7	18	4386	杭 021	(1,160)	80	有	芯持丸太	調査区内残欠。両端新欠	ケヤキ
7	18	4387	杭 022	(550) (512)	83 90	有	芯持丸太	西端調査区内残欠	エノキ
7	18	4388	杭 023	(820)	60	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
7	18	4389	杭 028	(1,142)	81	無	転用材	西端調査区内残欠	スギ
7	18	4392	横木 D	1,856	61	有	芯持丸太		タブノキ
7	18	4413	縦木 C	736	71	有	芯持丸太	西端新欠	タブノキ
8	2	3049	杭 1	(675)	14	無	板材	両端新欠	スギ
8	2	3050	杭 2	(415)	50	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	2	3051	杭 3	(448)	73	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
8	2	3052	杭 4	(716)	49	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
8	2	3053	杭 5	(649)	34	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
8	2	3054	杭 6	(463)	38	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	2	3055	杭 7	(798)	44	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
8	2	3056	杭 8	(1,155)	77	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	2	3057	杭 9	(1,264)	47	有	芯持丸太	東端新欠	イヌガヤ
8	2	4014	横木 A	(1,460)	90	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	9	4180	杭 025	2,230	44	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	9	4181	杭 026	1,110	54	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	9	4209	横木 I	(1,309)	91	有	芯持丸太	北端新欠	タブノキ
8	10	4001	杭 001	720	101	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
8	10	4002	杭 003	(1,210)	60	有	芯持丸太	X=-57.550 ラインセクション内残欠	タブノキ
8	10	4003	杭 004	930	90	有	芯持丸太		ヤマグワ
8	10	4004	杭 005	1,210	60	有	芯持丸太		タブノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
8	10	4005	杭 007	2,225	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4006	杭 008	(1,790)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	10	4007	杭 006	1,400	190	有	芯持丸太		タブノキ
8	10	4008	杭 009	1,250	69	有	芯持丸太		タブノキ
8	10	4009	杭 010	(1,575)	55	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
8	10	4010	杭 011	1,310	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4011	杭 012	(965)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	10	4012	杭 013	(1,240)	60	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
8	10	4013	杭 002	(850) 1163	71 89	有	芯持丸太		エノキ
8	10	4015	横木 A	2,240	120	有	芯持丸太	北端 X=-57,550 ラインセクション内 残欠	タブノキ
8	10	4055	杭 017	990	60	有	芯持丸太		スギ
8	10	4056	杭 016	970	40	有	芯持丸太		カヤ
8	10	4057	杭 015	1,020	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4058	杭 014	(1,510)	100	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測 東端新欠	タブノキ
8	10	4059	縦木 A	870	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4060	杭 018	1,907	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4117	横木 B	5,955	134	有	芯持丸太		ムクノキ
8	10	4190	杭 002						エノキ
8	10	4223	横木 C	4,572	175	有	芯持丸太		カヤ
8	10	4224	杭 023	898	77	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っ ている。	エノキ
8	10	4225	杭 019	(128)	65	有	芯持丸太	調査区内残欠。西端切断	カエデ属
8	10	4226	杭 020	960	46	有	芯持丸太	調査区内残欠。西端切断	コナラ節
8	10	4227	杭 022	300	75	有	芯持丸太	調査区内残欠。西端切断	ヤブツバキ
8	10	4228	杭 024	888	79	有	芯持丸太		ヤブツバキ
8	10	4229	杭 021	(1,419)	501	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
8	10	4251	杭 028	(1,149)	60	無	角材	東端新欠	スギ
8	10	4252	杭 027	(1,170)	50	無	角材	東端新欠	スギ
8	10	4253	杭 025	(638)	43	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
8	10	4254	杭 029	(1,085)	96	無	角材	東端新欠	スギ
8	10	4255	杭 026	(542) 330	45 50	有	芯持丸太	調査区内残欠。西端切断西端は残る。	ヤブツバキ
8	10	4256	横木 D	(3,805)	315	無	転用材	中央端にほぞ穴有り。北端ほぞ穴有 り	スギ
8	10	4319	杭 031	929	70	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
8	10	4320	杭 032	(494)	58	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
8	10	4321	縦木 B	(1,354)	79	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
8	10	4362	縦木 C	(1,301) (419)	99	有	芯持丸太	東端調査区内残欠	カヤ
8	10	4363	杭 030	(1,405)	72	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
8	10	4369	縦木 D	(528) (311)	66 95	有	芯持丸太	東側調査区内残欠。二股部分	エノキ
9	9	3044	横木 A	(1,180) 3,945	90 93	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠 8-横木Iと同一。8横木Iは欠番。	ケヤキ
9	9	3045	杭 001	(577)	128	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠	エノキ
9	9	3046	杭 002	(403)	98	有	芯持丸太	東端新欠	ケヤキ
9	9	3047	材 A	(958)	18	無	板材	南端新欠	スギ
9	9	3048	材 B	(1,379)	204	無	板材 (転用材)	東端新欠 ほぞ穴あり	スギ
9	9	3061	杭 003	(747)	50	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	9	3062	杭 007	(1,260)	60	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
9	9	3063	横木 C	(1,085) (2,314)	128 130	無	板材	セクション内に残存部あり (資料の 南部分を取り上げ) 8-横木Jと同一。	スギ
9	9	3064	杭 004	(644)	57	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	9	3065	杭 005	(395)	35	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
9	9	3066	杭 006	(799)	80	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
9	9	3067	杭 008	(1,223)	44	有	芯持丸太	西端新欠	クリ
9	9	3068	杭 009	(897)	67	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	9	3069	杭 010	(646)	37	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
9	9	3070	横木 B	(2,420) (325)	127 125	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の 南部分を取り上げ) 南端新欠	スギ
9	9	3071	杭 011	(950)	107	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
9	9	3072	横木D	(1618) 2360	140 163	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり(資料の南部分を取り上げ)	エノキ
9	9	4161	杭 012	(966)	32	有	芯持丸太	南端新欠	ヤブツバキ
9	9	4162	杭 013	(500)	65	有	芯持丸太	南端新欠	ケヤキ
9	9	4163	杭 014	2,540	97	無	角材		スギ
9	9	4164	杭 015	2,295	56	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
9	9	4165	杭 016	2,240	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4166	杭 018	2,237	112	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4167	杭 017	2,114	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4168	杭 019	1,606	92	有	芯持丸太		ヤナギ属
9	9	4169	横木 E	840	69	有	芯持丸太		エノキ
9	9	4170	横木 F	(1,010)	80	有	芯持丸太	北端新欠	ヤブツバキ
9	9	4171	横木 G	1,660	138	無	転用材	南端ほぞ穴有り	スギ
9	9	4173	杭 022	967	45	有	芯持丸太		コナラ節
9	9	4174	杭 023	(315)	34	有	芯持丸太	西端新欠	アカメガシワ
9	9	4176	横木 H	3,830	75	無	転用材	北端ほぞ穴有り	スギ
9	9	4177	杭 021	1,393	54	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4178	杭 020	1,720	45	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4179	杭 024	1,054	53	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4182	杭 027	530	55	有	芯持丸太		タブノキ
9	9	4183	杭 028	(1,157)	37	有	芯持丸太	西端新欠	クリ
9	9	4184	杭 029	(1,239)	46	有	芯持丸太	西端新欠、内部炭化	シイノキ属
9	9	4187	縦木 A	(846)	74	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	9	4193	杭 a	1,368	87	有	芯持丸太		タブノキ
9	9	4194	杭 b	899	77	有	芯持丸太		エノキ
9	9	4195	杭 c	758	74	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	9	4219	縦木 B	(1,483)	76	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	9	4220	縦木 C	2,130 131	142 143	有	芯持丸太	北端新欠	ヤブツバキ
9	9	4221	縦木 D	1256	133	有	芯持丸太	⑧-縦木 L と同一	ヌルデ
9	9	4222	縦木 E	471 (909)	129 162	有	芯持丸太	⑧-縦木 M と同一	ヤブツバキ
9	15	4016	杭 001	460	50	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
9	15	4017	杭 002	(550)	90	有	芯持丸太	東端新欠	アカメガシワ
9	15	4018	杭 003	(670)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
9	15	4019	材 B	790	110	無	角材	北端新欠	スギ
9	15	4020	材 A	540	70	無	角材	中央部穿孔有り	スギ
9	15	4021	杭 004	(850)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4022	杭 005	520	40	有	芯持丸太		シイノキ属
9	15	4023	杭 006	(900)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4024	杭 007	(830)	136	有	芯持丸太	東端新欠	エノキ
9	15	4025	杭 009	1,320	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4026	杭 008	640	35	有	芯持丸太	二股に分かれる両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4027	杭 013	1,115	50	有	芯持丸太		カヤ
9	15	4028	杭 014	(1,200)	75	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4029	杭 010	1,306	80	有	芯持丸太		コナラ節
9	15	4030	杭 016	(1,201)	50	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
9	15	4031	杭 017	(502)	(38)	無	角材	西端新欠	スギ
9	15	4032	杭 018	(1,445)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤマグワ
9	15	4033	杭 019	(300)	35	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4034	杭 020	(920)	100	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
9	15	4035	杭 021	(1,340)	50	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4036	杭 022	(490)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ケヤキ
9	15	4037	杭 023	(538)	42	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4038	杭 024	400	60	有	芯持丸太		タブノキ
9	15	4039	杭 025	1,090	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4040	杭 026	(560)	90	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4041	縦木 A	1,140	75	有	芯持丸太		カヤ
9	15	4042	杭 027	(610)	80	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
9	15	4043	杭 028	750	72	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4050	杭 011	(1,370)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4051	杭 012	1,230	67	有	芯持丸太		タブノキ
9	15	4052	杭 015	1,810	85	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4061	杭 029	(320)	50	有	芯持丸太	両端新欠	シイノキ属
9	15	4062	杭 030	560	70	有	芯持丸太		シイノキ属
9	15	4063	杭 031	740	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4064	杭 032	(440)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4065	杭 033	890	50	有	芯持丸太		エノキ
9	15	4066	杭 034	1,040	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
9	15	4067	杭 035	740	80	有	芯持丸太	両端新欠	カヤ
9	15	4068	杭 036	(1,480)	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4069	杭 037	(460)	30	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4070	杭 038	(990)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4071	杭 039	760	40	有	芯持丸太		ヤマウルシ
9	15	4072	杭 040	880	35	有	芯持丸太		ヤマザクラ
9	15	4073	杭 041	490	30	有	芯持丸太		ヤマザクラ
9	15	4074	杭 042	(700)	70	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
9	15	4075	杭 043	744	72	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4076	杭 045	(1,180)	86	有	芯持丸太	東端新欠	クリ
9	15	4077	杭 044	1,190	50	有	芯持丸太		ヌルデ
9	15	4078	杭 047	1,320	10	有	分割材	丸太半割	ヤブツバキ
9	15	4079	杭 050	2,050	60	無	転用材	西端ほぞ穴有り	スギ
9	15	4080	杭 052	916	60	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
9	15	4081	杭 054	950	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4082	杭 055	1,120	46	有	芯持丸太		タブノキ
9	15	4083	杭 056	1,920	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4084	杭 057	1,547	140	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤナギ属
9	15	4086	杭 058	(1,783)	67	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4087	杭 060	2,048	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4089	杭 059	(2,140)	95	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4096	杭 061	(1,620)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4103	杭 062	(2,135)	111	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
9	15	4104	杭 048	(2,190)	138	有	芯持丸太	西端は二股で両端加工	ケヤキ
9	15	4105	杭 063	1,510	68	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4107	杭 046	1,609	61	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4108	杭 051	1,510	43	有	芯持丸太	東端新欠	クサギ
9	15	4109	杭 049	(1,516)	68	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
9	15	4110	杭 053	699	55	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	15	4111	杭 064	1,370	67	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4129	杭 065	940	60	無	転用材	西端に加工有り。	コナラ節
9	15	4130	杭 066	1,404	50	有	芯持丸太		コナラ節
9	15	4131	杭 067	1,708	50	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4132	杭 068	(1,245)	45	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	15	4133	杭 069	1,473	53	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4134	杭 070	1,679	50	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
9	15	4135	杭 071	1,806	52	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4160	横木 A	4780	109	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4189	杭 072	(1534)	78	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で取っている	ヤブツバキ
9	15	4191	杭 073	1404	75	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4192	杭 074	1494	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4198	横木 B	3860	135	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4199	横木 C	3373	113	有	芯持丸太		ヌルデ
9	15	4200	杭 075	(1414)	48	有	芯持丸太	西端新欠	カヤ
9	15	4201	杭 076	1333	25	有	芯持丸太		ニワトコ
9	15	4202	杭 077	(1128)	34	有	芯持丸太	東端新欠	ニワトコ
9	15	4203	杭 078	2143	67	有	芯持丸太		クリ
9	15	4204	杭 079	1445	58	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4205	杭 082	1574	36	有	芯持丸太		ヤブツバキ
9	15	4206	杭 083	(789)	35	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	15	4207	杭 084	1545	42	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4208	杭 085	895	60	有	芯持丸太		タブノキ
9	15	4210	杭 080	2225	110	有	芯持丸太		カヤ
9	15	4211	杭 081	1630	105	有	芯持丸太	内部炭化	コナラ節
9	15	4212	杭 086	(735)	49	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4213	杭 087	(401)	28	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
9	15	4214	杭 088	(383)	27	有	芯持丸太	両端新欠	シイノキ属
9	15	4215	杭 089	(545)	26	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属
9	15	4216	杭 090	(660)	74	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
9	15	4217	杭 091	(904)	34	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
9	15	4218	杭 092	(762)	31	有	芯持丸太	両端新欠内部炭化	シイノキ属
9	15	4230	杭 094	1,396	64	有	芯持丸太		カヤ
9	15	4231	杭 095	(1,190)	49	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
9	15	4232	杭 093	685	40	有	芯持丸太	西端新欠	コナラ節
9	15	4233	杭 096	(755)	40	有	芯持丸太	両端新欠内部炭化	シイノキ属
9	15	4234	杭 097	(1,145)	40	無	角材	両端新欠	スギ
9	15	4235	横木 D	3,340	70	有	芯持丸太		エノキ
9	15	4236	杭 098	(1,105)	60	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
9	15	4237	杭 099	(1,251)	106	有	芯持丸太	西端付近に加工有り。東端新欠	コナラ節
9	15	4238	杭 100	(1,054)	64	有	芯持丸太	東端新欠 内部炭化	クリ
9	15	4239	横木 F	1,145	60	有	芯持丸太	横木 F・G は同一木材をカットして使用している可能性大。	エノキ
9	15	4240	横木 G	3,940	132	有	芯持丸太	横木 F・G は同一木材をカットして使用している可能性大。	ムクノキ
9	15	4241	横木 E	1,156	90	有	芯持丸太	横木 E・H は同一木材をカットして使用している可能性大。	エノキ
9	15	4242	横木 H	3,924	128	有	芯持丸太		エノキ
9	15	4248	杭 101	(1,610)	88	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	タブノキ
9	15	4250	縦木 B	(750)	94	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
9	16	4148	杭 001	1156 (969)	100 129	有	芯持丸太		エノキ
9	16	4149	杭 002	(975) (1167)	79 70	有	芯持丸太	西端切断。調査区内残欠。	クリ
9	16	4150	杭 003	(390)	75	無	芯持丸太	西端切断。調査区内残欠。	クリ
9	16	4151	杭 004	(880)	65	無	丸太	西端切断。調査区内残欠。	ヤブツバキ
9	16	4152	杭 006	(370)	40	無	丸太	西端切断。調査区内残欠。	コナラ節
9	16	4153	杭 005	(375)	40	無	丸太	西端切断。調査区内残欠。	クリ
10	8	3150	横木 K	(1,065)	68	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
10	8	3155	横木 L	(2,078)	93	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
10	8	3158	杭 015	(895)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ニワトコ
10	8	3159	杭 016	(1,050)	51	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
10	8	3160	横木 C	(3,741)	138	有	芯持丸太	西端新欠	イヌガヤ
10	8	3165	縦木 J	(1848) (914)	96 100	有	芯持丸太	西端新欠 切断 (資料の西部分を取り上げ)	ヤブツバキ
10	8	3237	材 B	640	129	無	転用材		ヤブツバキ
10	8	3238	横木 G	(1,629)	132	有	芯持丸太	北端新欠	イヌガヤ
10	8	3246	材 C	(470)	100	有	加工材?	両端新欠	スギ
10	8	4044	杭 017	(370)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	8	4045	杭 018	510	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
10	8	4046	杭 019	(370)	70	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属
10	8	4047	杭 020	620	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	8	4053	杭 033	650	80	有	芯持丸太		カヤ
10	8	4054	杭 034	620	60	有	芯持丸太		サカキ
10	8	4257	縦木 K	(140)	142	無	丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3073	杭 2	(495)	65	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
10	11	3074	杭 3	(443)	35	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
10	11	3075	杭 1	(417)	78	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3076	杭 4	(613)	43	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3077	杭 6	(653)	65	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3078	杭 7	(394)	82	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3079	杭 11	(630)	46	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
10	11	3080	杭 10	(314)	40	有	芯持丸太	両端新欠	クリ
10	11	3081	杭 12	(847)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3085	杭 5	(810)	77	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
10	11	3087	杭 13	(631)	52	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3092	横木 C	(2,310)	10	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3093	横木 A	(3,757)	80	有	芯持丸太	南端新欠 切断 (資料の北部分を取り上げ) 残欠 (資料の南部分 長 1312mm) 取り上げ (091210)	ニヨウマツ
10	11	3097	杭 8	(1,038)	67	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3098	横木 D	(2,040)	85	有	芯持丸太	加工痕有り 両端新欠	ヤナギ属
10	11	3099	杭 9	(1,083)	68	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3100	縦木 A	(1,395)	108	有	芯持丸太	両端新欠	ニワトコ
10	11	3101	杭 15	(1,160)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3102	杭 14	(690)	55	有	芯持丸太	東端新欠	シロダモ属
10	11	3105	杭 17	(1,510)	68	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3106	杭 18	(895)	43	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3107	杭 20	(965)	55	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3108	材 A	(373)	27	無	板材	両端新欠 厚 10mm	スギ
10	11	3109	材 B	(297)	27	無	板材	両端新欠 厚 5mm	スギ
10	11	3110	材 C	(553)	28	無	板材	両端新欠 厚 5mm	スギ
10	11	3111	杭 16	(610)	55	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3112	杭 21	(808)	87	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
10	11	3113	杭 19	(735)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3114	杭 22	542	53	有	芯持丸太	東端加工か?	タブノキ
10	11	3115	縦木C	(1,361)	98	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
10	11	3116	横木B	(3,745)	112	有	芯持丸太	北端新欠 建築部材か、3分割して取上げ	アカメガシワ
10	11	3127	材D	(265)	27	無	板材	両端新欠	スギ
10	11	3134	杭 24	(1,040)	81	有	芯持丸太	両端新欠	ハンノキ
10	11	3239	横木E	(550)	45	有	芯持丸太	両端新欠	シイノキ属
10	11	3240	横木F	(890)	44	有	芯持丸太	両端新欠	サカキ
10	11	3241	横木G	(1,618)	90	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
10	11	3242	杭 26	(1,145)	77	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
10	11	3243	杭 27	(865)	44	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3244	材E	(622)	94	無	転用材?	両端新欠	スギ
10	11	3245	杭 28	(905)	65	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3247	杭 30	(785)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3248	杭 31	(1,205)	95	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
10	11	3249	杭 29	(1,398)	59	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
10	11	3250	杭 32	1,322	62	有	芯持丸太		ヤブツバキ
10	11	3251	杭 33	1,570	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
10	11	3252	杭 25	(1,680)	80	有	芯持丸太	東端新欠	イヌガヤ
10	11	3253	杭 34	(1,540)	105	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
10	11	3254	杭 35	(1,380)	53	無	転用材	東端新欠	スギ
10	11	3258	横木H	(1,166)	60	有	芯持丸太	北端新欠	ヤブツバキ
10	12	3082	縦木A	(1,681)	49	有	芯持丸太	両端新欠	ヤマグワ
10	12	3083	杭 1	(877)	33	無	角材	両端新欠	スギ
10	12	3084	横木A	(1,723)	71	有	分割材	両端新欠 丸太半割	不明
10	12	3086	杭 2	(857)	53	無	角材	東端新欠	スギ
10	12	3088	縦木B	(1,405)	132	有	芯持丸太	両端新欠、表面炭化	スギ
10	12	3089	横木C	(1,279)	59	有	芯持丸太	両端新欠	ヤマグワ
10	12	3090	縦木C	(2,560)	143	有	芯持丸太	両端新欠 表面~中心まで炭化	クリ
10	12	3091	横木B	(1,559)	79	有	芯持丸太	南端新欠	イヌガヤ
10	12	3135	横木E	(2,917)	182	有	芯持丸太	両端新欠 西端近くにえぐりあり	ヤマザクラ
10	12	3136	横木D	(1,603)	189	有	芯持丸太		ヤマグワ
11	1	3042	横木F	(939) (1,010) (2,314)	110 106 105	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠	サカキ
11	1	3043	横木G	(1,685) 160	143 155	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠	ケンボナシ
11	1	4113	杭 038	820	80	有	芯持丸太	最大径は二股でない部分で計測	ヤブツバキ
11	1	4114	杭 039	900	65	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4118	杭 037	588	57	有	芯持丸太		サカキ
11	1	4119	杭 040	959	62	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	1	4120	杭 043	(755)	55	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	1	4121	杭 044	750	55	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4122	杭 042	840	60	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4123	杭 041	(842)	35	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	1	4124	杭 046	760	38	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4125	杭 047	(1,150)	40	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	1	4126	杭 045	712	47	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4136	杭 048	(750)	80	有	転用材	東端新欠	シイノキ属
11	1	4137	杭 049	(720)	90	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
11	1	4138	杭 050	(740)	40	有	芯持丸太	東端新欠	カヤ
11	1	4139	杭 051	675	45	有	芯持丸太		クサギ
11	1	4140	杭 053	(705)	102	有	芯持丸太		ヤブツバキ
11	1	4141	杭 058	(731)	46	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
11	1	4142	杭 052	851	47	有	芯持丸太		ニヨウマツ
11	1	4143	杭 054	729	80	有	芯持丸太		ヒサカキ
11	1	4144	杭 055	(754)	60	有	芯持丸太	西端新欠	ヌルデ
11	1	4145	杭 056	841	102	有	芯持丸太		ニワトコ
11	1	4146	杭 057	1,250	60	有	芯持丸太		ニヨウマツ
11	1	4156	縦木 A	1,150	109	無	丸太		ヤブツバキ
11	1	4159	杭 060	1,400	92	無	転用材		イボタノキ
11	7	2235	杭 1	(151)	40	有	芯持丸太	東端新欠	アカガシ亜属
11	7	2236	杭 2	367	38	有	芯持丸太		ニヨウマツ
11	7	2238	杭 3	(498)	62	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
11	7	2239	杭 4	(53)	52	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
11	7	2240	杭 5	(261)	33	有	芯持丸太	両端新欠	アカガシ亜属
11	7	3000	杭 6	(712)	83	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	7	3001	杭 7	(743)	45	有	芯持丸太	両端新欠	アカガシ亜属
11	7	3002	杭 8	(661)	46	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
11	7	3003	杭 9	(1,042)	53	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
11	7	3004	杭 11	(1,178)	48	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
11	7	3005	杭 10	(1,110)	53	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
11	7	3006	横木 B	(722)	59	有	芯持丸太	両端新欠	タブノキ
11	7	3007	杭 14	(938)	68	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	7	3008	杭 12	(470)	65	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
11	7	3009	杭 13	(1,088)	50	有	芯持丸太	両端新欠	ヌルデ
11	7	3010	杭 15	(1,145)	62	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
11	7	3011	杭 16	(954)	49	有	芯持丸太	東端新欠 西端 2 又に分かれる	ヤブツバキ
11	7	3012	杭 17	(1,030)	52	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
11	7	3013	杭 18	(1,336)	52	有	芯持丸太	東端新欠	サカキ
11	7	3095	縦木 A	(1,633)	115	有	芯持丸太	西端新欠 切断 (資料の西部分を取上げ) 残欠 (資料の東部分 長 340mm) 取り上げ (091209)	ヤブツバキ
11	7	3096	横木 A	(2,095)	90	無	丸太	両端新欠	ツブラジイ
11	7	3103	縦木 B	(1,236)	102	無	丸太	西端新欠 切断 (資料の西部分を取り上げ) 残欠 (資料の東部分 長 693mm) 取り上げ (091209)	ヤブツバキ
11	7	3104	横木 C	3,172	112	無	芯持丸太	切断 (資料の北部分を取り上げ) ほ ぞ穴? あり 残欠 (資料の南部分 長 1628mm) 取り上げ (091209) 残欠部 南端近くにもほぞ穴あり	ニヨウマツ
11	7	3149	横木 D	(1,666)	113	有	芯持丸太	北端新欠	イヌガヤ
11	8	3014	縦木 A	(1,979)	188	有	芯持丸太	西端新欠	ヤナギ属
11	8	3015	縦木 D	(1,268)	110	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
11	8	3094	横木 A	(4,710)	115	有	芯持丸太	北端新欠 切断 (資料の北部分を取り上げ) 残欠 (資料の南部分 長 1312mm) 取り上げ (091209) 南部分にもほぞ穴あり	ヒノキ
11	8	3131	横木 F	(2,367)	86	有	芯持丸太	北端新欠	ニヨウマツ
11	8	3141	縦木 N	(1,629)	61	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	8	3142	杭 004	(1,599)	96	有	芯持丸太	東端新欠 表面~中心まで炭化 切断 (資料の東部分を取り上げ)	クリ
11	8	3143	杭 005	(1,222)	54	有	芯持丸太	東端新欠 切断 (資料の東部分を取り上げ)	シイノキ属
11	8	3145	杭 006	(1,542)	102	無	転用材	東端新欠 切断 (資料の東部分を取り上げ)	アカガシ亜属
11	8	3146	杭 007	(785)	59	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	8	3147	杭 008	(777)	63	有	芯持丸太	両端新欠	サカキ
11	8	3151	縦木 C	(2,768)	137	有	芯持丸太	西端新欠	クリ
11	8	3152	杭 011	(1,479)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
11	8	3153	杭 012	1,601	79	有	転用材		ニワトコ
11	8	3154	杭 013	(1,694)	89	有	転用材	東端新欠	シイノキ属
11	8	3156	縦木 B	(2,021)	163	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
11	8	3157	縦木 F	(1,234)	125	有	芯持丸太	北端新欠 切断 (資料の北西部分を取り上げ) 残欠 (資料の南東部分 長 305mm) 取り上げ (091210)	ヤブツバキ
11	8	3161	縦木 H	(1,654)	212	有	芯持丸太	西端新欠	エノキ
11	8	3162	縦木 G	(1,157)	148	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
11	8	3163	杭 021	(1,567)	53	有	芯持丸太	東端新欠 転用材?	ヤナギ属
11	8	3166	杭 014	(1,329)	83	有	芯持丸太	東端新欠 切断 (資料の西部分を取り上げ)	ケヤキ
11	8	3167	杭 023	(1,339)	52	有	芯持丸太	両端新欠	ケヤキ
11	8	3168	杭 024	(1,557)	66	有	芯持丸太	両端新欠	ニワトコ
11	8	3171	横木 M	(3,293)	106	有	芯持丸太	北端新欠	コナラ節
11	8	3172	横木 N	(3,870)	120	有	芯持丸太	両端新欠 表面~中心まで炭化	コナラ節
11	8	3174	杭 022	(1,302)	61	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
11	8	3176	杭 027	(1,041)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
11	8	3177	杭 025	(841)	114	有	芯持丸太	両端新欠	ヤマグワ
11	8	3178	杭 026	(939)	55	有	芯持丸太	東端新欠 表面炭化	サカキ
11	8	3180	杭 028	(918)	76	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
11	8	3181	杭 029	572	42	有	芯持丸太		ヤマグワ
11	8	3182	杭 030	(425)	32	有	芯持丸太	両端新欠	クサギ
11	8	3183	杭 031	(1,144)	54	有	芯持丸太	両端新欠	アカガシ亜属
11	8	3255	横木O	(2,000)	70	無	転用材	切断 (資料の北部分を取り上げ)	アカガシ亜属
11	8	3256	横木P	(2,410) 410	61 52	無	転用材	切断 (資料の北部分を取り上げ)	ニヨウマツ
11	8	3257	横木R	(2,950) (417)	120	無	転用材	北端近くにほぞ穴あり。 切断 (資料の北部分を取り上げ)	スギ
11	8	4048	縦木I	(970) (250)	110 115	有	芯持丸太	調査区内残欠	ヤナギ属
11	8	4128	杭 035	496	85	有	芯持丸太	東端新欠	ミズキ
11	8	4147	杭 032	980	70	有	転用材	西端加工有り。	ヤブツバキ
12	1	1905	杭 001	520	65	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	1	1906	杭 002	650	56	有	芯持丸太		タブノキ
12	1	1907	杭 007	520	50	有	芯持丸太		タブノキ
12	1	1953	杭 003	(880)	40	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	1	1956	杭 004	370	40	有	芯持丸太		ハゼノキ
12	1	1957	杭 005	(755)	54	有	芯持丸太		サカキ
12	1	1958	杭 006	(422)	62	有	芯持丸太		ニヨウマツ
12	1	1959	杭 008	(647)	50	有	芯持丸太		アカガシ亜属
12	1	3016	杭 009	(643)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	1	3018	杭 010	(856)	47	有	芯持丸太	東端新欠	シイノキ属
12	1	3019	杭 011	(808)	72	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	1	3020	杭 012	(873)	53	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
12	1	3021	杭 013	(932)	60	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3022	杭 014	(1,082)	70	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
12	1	3023	杭 016	(902)	50	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3024	杭 017	(682)	53	有	芯持丸太	両端新欠	エノキ
12	1	3025	杭 018	(565)	44	有	芯持丸太	東端新欠 垂木か	カラスザンショウ
12	1	3026	杭 019	(616)	92	有	芯持丸太	東端新欠	エノキ
12	1	3027	杭 024	(1,245)	72	有	芯持丸太	東端新欠 切断	ニヨウマツ
12	1	3028	杭 025	(1,362)	52	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3029	杭 027	(1,407)	62	有	芯持丸太	両端新欠	ニヨウマツ
12	1	3030	横木D	(1,958) (1,060)	193 116	有	芯持丸太	北端新欠	エノキ
12	1	3031	杭 020	(1,057)	80	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	1	3032	杭 021	(1,285)	53	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	1	3033	杭 022	(786)	105	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3034	杭 015	(655)	45	有	芯持丸太	両端新欠	ハゼノキ
12	1	3035	杭 023	(857)	53	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3036	杭 026	(1,268)	87	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
12	1	3037	横木B	(3,085)	97	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠	ニヨウマツ
12	1	3038	杭 029	(1,023)	63	有	芯持丸太	両端新欠	ヤナギ属
12	1	3039	杭 030	(850)	48	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	1	3040	横木A	(1,553)	70	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
12	1	3041	横木E	(865) (798) (880)	80 82 72	有	芯持丸太	セクション内に残存部あり (資料の南部分を取り上げ) 南端新欠	クリ
12	1	4090	杭 028	(1,179)	61	有	芯持丸太	調査区外残欠	ヤブツバキ
12	1	4091	杭 031	(899)	57	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
12	1	4092	杭 032	1,034	60	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	1	4093	杭 034	1,090	59	有	芯持丸太	調査区外残欠	ゴヨウマツ
12	1	4097	杭 033	815	65	有	芯持丸太	東端新欠両端加工か	タブノキ
12	1	4098	杭 035	976	107	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
12	1	4099	杭 061	(1,551)	86	有	芯持丸太	調査区外残欠	ヤナギ属
12	1	4100	杭 036	1,129	70	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	1	4112	横木H	815	90	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	4	2149	横木A	(1,810)	160	有	芯持丸太	両端新欠	エノキ
12	4	2172	杭 2	(855)	55	無	転用材	板状	スギ
12	4	2173	横木B	(1,210)	69	有	丸太		スギ
12	4	2174	杭 5	(1,092)	95	無	転用材	角材	不明

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
12	5	2176	杭 1	(786)	92	有	芯持丸太	西端新欠。 残欠(資料の西部分 No2218) 長 175mm 取り上げ (091130)	ヤブツバキ
12	5	2177	杭 7	(748)	102	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2178	杭 6	(939)	59	有	芯持丸太		ニヨウマツ
12	5	2179	杭 10	(667)	73	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2180	杭 9	(842)	69	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2181	杭 8	(473)	34	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
12	5	2182	杭 11	(532)	85	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2183	杭 12	(812)	72	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2184	杭 13	512	72	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	5	2185	杭 14	(765)	65	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
12	5	2186	杭 15	(1,037)	71	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
12	5	2187	杭 16	1,030	75	有	芯持丸太	東端わずかに新欠	シイノキ属
12	5	2188	杭 17	(1,127)	93	有	芯持丸太		タブノキ
12	5	2189	杭 18	(1,057)	48	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
12	5	2190	杭 19	(1,415)	93	無	角材	東端新欠	スギ
12	5	2191	杭 20	(945)	63	有	芯持丸太	東端新欠	ニヨウマツ
12	5	2192	杭 2	(1,122)	57	有	芯持丸太	東端新欠	ヤマグワ
12	5	2193	杭 3	(561)	41	有	芯持丸太	南端新欠	クサギ
12	5	2194	杭 4	(879)	54	無	角材	東端新欠 垂木か	スギ
12	5	2195	杭 5						不明
12	5	2196	横木 A	(1,140)	97	有	芯持丸太	北端新欠	クリ
12	5	2208	杭 21	(1,215)	80	有	芯持丸太	東端新欠	クリ
12	5	2209	杭 22	(1,215)	113	有	芯持丸太	東側が三又に分かれる	ヤブツバキ
12	5	2210	杭 23	(1,245)	80	有	芯持丸太	東端 欠	コナラ節
12	5	2211	杭 24	(981)	77	有	芯持丸太	垂木か	ヤナギ属
12	5	2212	杭 25	(1,533)	67	有	芯持丸太	東端新欠	イヌガヤ
12	5	2213	杭 26	962	60	有	芯持丸太	垂木	サカキ
12	5	2214	杭 27	(517)	75	有	芯持丸太	東端新欠	タブノキ
12	5	2215	横木 D	3,745	83	無	丸太		スギ
12	5	2216	横木 C	(3,485) (280)	228 134	有	芯持丸太	セクション部に残存部あり(資料の 北部分を取り上げ) 南端上面にくい込みあり	ヤナギ属
12	5	2219	横木 B	(2,252)	108	有	芯持丸太	南端新欠	エノキ
12	5	3117	杭 31	(935)	91	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	5	3118	杭 28	(605)	149	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	5	3120	材 A	(844) (221)	45 62	無	角材	北西端新欠 切断(資料の北西部分を取り上げ)	スギ
12	5	3121	杭 30	(1,007)	70	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
12	5	3122	杭 29	(751)	103	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2175	杭 13	(968)	65	有	芯持丸太		ヤブツバキ
12	6	2220	杭 1	(712)	148	無	板材	両端新欠	スギ
12	6	2221	杭 2	(218)	55	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2222	杭 3	(946)	93	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2223	杭 4	(748)	53	有	芯持丸太	両端新欠	コナラ節
12	6	2224	杭 5	(1,231)	125	有	芯持丸太	東端新欠	アカガシ亜属
12	6	2225	杭 6	(768)	57	無	丸太	東端新欠	シイノキ属
12	6	2226	杭 7	(1,291)	54	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	6	2227	杭 8	(1,271)	76	有	芯持丸太	東端新欠	コナラ節
12	6	2228	杭 9	(558)	62	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
12	6	2229	杭 10	(1,352)	129	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2230	杭 11	(1,642)	95	無	丸太	両端新欠	ヒノキ
12	6	2231	杭 12	(1,212)	112	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2232	横木 A	(2,372)	113	有	芯持丸太	北端新欠	エゴノキ
12	6	2233	杭 14	(1,098)	110	有	芯持丸太	東端新欠	アワブキ
12	6	2234	杭 15	(1,076)	78	有	芯持丸太	東端新欠	ヤブツバキ
12	6	2237	杭 16	(769)	58	無	芯持丸太	東端新欠	イヌガヤ
12	8	3119	材 A	(629)	30	無	棒材	両端新欠	スギ
12	8	3124	杭 002	(1,082)	72	有	芯持丸太	東端新欠	ヤナギ属
12	8	3125	杭 001	(694)	85	有	芯持丸太	東端新欠	トチノキ
12	8	3126	横木 D	(2,512)	89	有	芯持丸太	両端新欠 加工品 垂木か	シイノキ属
12	8	3128	杭 003	(1,158)	91	有	芯持丸太	切断(資料の東部分を取り上げ) 東端新欠	ユズリハ属
12	8	3138	杭 009	(600)	41	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

ステージ	構造物No.	取上 No.	杭No.	長さ (mm)	最大径・ 幅 (mm)	樹皮	加工	備考	樹種
12	8	3139	杭 010	(379)	45	有	芯持丸太	両端新欠	クサギ
12	8	3140	横木 E	(1,807)	85	有	芯持丸太	北端新欠 南端近くえぐり痕あり。 転用材か	シイノキ属
12	8	3179	横木 Q	(764) (1,270)	99 95	有	芯持丸太	表面炭化 切断 (資料の北部分を取り上げ)	ヤブツバキ
12	14	3129	杭 1	(807)	89	有	芯持丸太	東端新欠 切断 (資料の東部分を取り上げ)	ヤブツバキ
12	14	3130	杭 2	(1,230)	62	有	芯持丸太	両端新欠	ヤブツバキ
12	14	3132	杭 8	(858)	162	有	芯持丸太	東端新欠 切断 (資料の東部分を取り上げ)	アワブキ
12	14	3133	杭 6	(1,098)	102	有	芯持丸太	西端新欠	ヤブツバキ
12	14	3137	杭 5	(1,160)	118	有	芯持丸太	切断 (資料の東部分を取り上げ)	ヤブツバキ
12	14	3144	杭 7	(1,189)	125	有	芯持丸太	切断 (資料の東部分を取り上げ)	タブノキ
12	14	3148	杭 10	(1,511)	185	有	芯持丸太	北東端新欠 切断 (資料の北東部分を取り上げ)	ヤナギ属
12	14	3169	杭 9	(1,432)	102	有	芯持丸太	南端新欠 切断 (資料の南部分を取り上げ)	イヌガヤ
12	14	3170	杭 4	(1,477)	155	有	芯持丸太	東端新欠 (資料の東部分を取り上げ)	アカメガシワ
12	14	3175	杭 3	(575)	75	有	芯持丸太	東端新欠 表面～中心まで炭化	コナラ節
12	14	4102	杭 11	(1,026)	80	有	芯持丸太		ヤブツバキ

第V -12 表 710 溝出土木材一覧

出土位置	取上 No	層位	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
1群	6792	上					○			×	×	×	×	西トレンチ下層出土、芯持丸太	芯持丸太	ヤナギ属
1群	6793	上						○		×	○?	×		西トレンチ下層出土、板目、3分の1程度	縦割り	カエデ属
1群	6797	上						○		×	○?	×	×	西トレンチ下層出土、板目、3分の1~2分の1	縦割り	ヒノキ
1群	7299	上						○		×		×	×	芯含む1/2以下残存、自然に割れたもの?	分割不明	ヤブツバキ
1群	7536															スギ
1群	7542															樹皮
1群	7555	上					○?			×	×	×	×	芯寄り	芯持丸太	ムクロジ
1群	7556	上					○?			×	○?	×	×	新しい欠損があるが、元は芯持丸太と思われる。外側がやや面をなすが人為かは不明。	芯持丸太	ムクロジ
1群	7650	上					○			×	×	×	×	芯持丸太。外側磨減	芯持丸太	カツラ
1群	7651	上					○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
1群	7654	上					○			×	×	×	×	芯持丸太、芯寄るのは水流で磨減か?	芯持丸太	カエデ属
1群	7655	上	6.7	0.62	○		○			×	○?	×	×	枝部分半	芯持丸太	
1群	7656	上					○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
1群	7657	上	4.07	0.21		○	○			×	×	×	×	流水等による磨減か	芯持丸太	ケヤキ
1群	7658	上						○		×	×	×	×	芯持ち、分割、外縁部なし?	縦割り	エノキ
1群	7659	上	0.75	0.33		○		○		×	○?	×	×	芯無、周辺部のみ	縦割り	ヤナギ属
1群	7660	上	2.1	0.13		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	クリ
1群	7661	上	2.6	0.12		○	○			×	×	○	×	被熱	芯持丸太	クスギ節
1群	7662	上	11	1.05		○	○			×	○	×	×		芯持丸太	ケヤキ
1群	7763	上					○?			×	×	×	×	芯持丸太?水流で磨減か	芯持丸太	コナラ節
1群	7766	上														カヤ
1群	7832	上	0.9	0.13		○		○?	○	×	○?	×	×	一部断面角状、年輪切れる	分割不明	ムクロジ
1群	7833	上	1	0.23		○		○		×	○?	×	○?	一部断面割、分割部分は3分の1ほどが残存	縦割り	カツラ
1群	7834	上	1.91	0.2		○	○			○	×	×	×	部分的に樹皮残存、腐食芯抜け、元は芯持丸太	芯持丸太	ハンノキ属
1群	7835	上	0.39	0.15		○		○		×	×	×	×	トレンチで根元欠損。分割か?同じような厚みで割れているので人為的な可能性	分割不明	ムクノキ
1群	7836	上	0.7	0.16		○		○		×	○?	×	×	2分の1程度残	縦割り	オニグルミ
1群	7844	上	0.4	0.1		○		○		○	○?	×	×	芯無	分割不明	クマノミズキ
1群	7845	上	0.47	0.14		○		○		×	×	×	×	割ったもの。分割後の加工は特になし	分割不明	カヤ
1群	7846	上	0.74	0.19		○		○		×	○?	×	×	芯持ち、3分の1ほど残存か、外面は水流により磨減。	縦割り	ヤナギ属
1群	7847	上	0.95	0.17		○		○		×	○?	×	×	芯持ち、3分の2ほど残存	縦割り	ヤブツバキ
1群	7848	上	1.16	0.08		○	○			○	×	×	×	芯持丸太、枝部分	芯持丸太	クリ
1群	7849	上	0.56	0.1		○		○		×	○?	×	×	芯無	分割不明	ヤマグワ
1群	7850	上	2.15	0.36		○		○		×	○?	×	×	芯無、分割	縦割り	トチノキ
1群	7851	上	1.57	0.09		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、周囲の傷は新しい欠損か	芯持丸太	クリ
1群	7852	上	1.85	0.26	○		○			×	×	×	×	根株?腐食による芯抜け	芯持丸太	ムクロジ
1群	7853	上	0.58	0.11		○		○		×	○?	×	×	部材?割材か。芯が残存していない可能性。先端が丸くなるのは加工か?	部材?	スギ
1群	7854	上	1.44	0.11		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
1群	7855	上	1.26	0.18		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、外側は新しい欠損	芯持丸太	カエデ属
1群	7856	上	1.3	0.13		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、磨減により芯が寄る。水流?	芯持丸太	アカメガシワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
1群	7857	上	0.89	0.13		○	○			×	×	×	×	芯持ち、2分の1～3分の1ほど残存。元々は丸太が腐食等で半分程度になっている？	芯持丸太	ヤマグワ
1群	7858	上	0.47	0.16		○		○		×	×	×	×	芯無、3分の1程度残存。	縦割り	トチノキ
1群	7859	上	1.67	0.15		○		○		×	×	×	×	芯ざりざりある？	縦割り	ヤブツバキ
1群	7860	上	0.51	0.2		○		○		×	×	×	×	取り去られている部分あり。人為的かは不明	縦割り	コナラ節
1群	7862	中														樹皮
1群	7886	上	1.79	0.11		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	クリ
1群	7887	上	1.47	0.08		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ヤマグワ
1群	7933	上	2.48	0.11		○	○			○	×	×	×	半分ほどが割れる。芯寄り。片減りしてる感じ	芯持丸太	ヤマグワ
1群	7935	上	1.96	0.08		○	○			○	×	×	×	樹皮一部残存、芯持丸太	芯持丸太	イヌマキ
1群	7977	中														サルノコシカケ
1群	8132	上	5.1	0.26		○		○		×	○?	×	×	割っている？内側に面あり。外側の抉れは水流か	分割不明	ヤマグワ
1群	8133	上	1.74	0.2		○	○			×	○?	×	×	一部水流で抉られた部分あり。加工というより磨減と枝抜け？	芯持丸太	クリ
1群	8134	上	4.17	0.09		○	○			○	×	×	×		芯持丸太	カエデ属
1群	8137	上	0.68	0.18		○	○	?		×	○?	×	×	加工痕？新しい傷の可能性あり	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8138	上					○			×	○	×	×	芯持丸太	杭丸太	カヤ
1群	8139	上	0.9	0.12		○		○		×	×	×	×	芯無、分割後の周辺部	縦割り	ヤマグワ
1群	8140	上														イヌマキ
1群	8141	上	0.32	0.08		○		○	○	×	○?	×	×	部材？棒状に加工、芯取材	部材？	スギ
1群	8142	上	0.32	0.08		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太。わずかに扁平になる(土圧?)	芯持丸太	トチノキ
1群	8143	上	0.83	0.11		○	○			○	×	×	×	下部平滑。切断面か？芯持ち	芯持丸太	エノキ
1群	8144	上	0.59	0.15		○		○		×	×	×	×		分割・丸太不明	エノキ
1群	8145	上	0.41	0.08		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、小孔は他植物の根が刺さった痕か	芯持丸太	カエデ属
1群	8146	上	1.01	0.13		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ヤナギ属
1群	8147	上	1.16	0.15		○		○		×	×	×	×	2分の1程度残	縦割り	ヤナギ属
1群	8148	上	1.41	0.26		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、周囲の面は磨減	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8149	上	0.65	0.13		○	○			○	×	×	×	芯持丸太、周囲磨減	芯持丸太	カエデ属
1群	8150	上	1.61	0.26		○		○		×	×	×	×	剥いだ辺材部分の可能性、芯無、割ってる？磨減と腐食？	縦割り	ヤナギ属
1群	8151	上	2.54	0.09		○	○			×	×	×	×	枝部分、芯抜け	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8152	上	1.94	0.2		○		○		×	○?	×	×	トレンチで根元欠損。2分の1程度残。	縦割り	ムクロジ
1群	8153	上	0.4	0.3		○		○		×	×	×	×	やや稜がつく？外縁の凹凸は自然のもの	分割不明	クリ
1群	8164	中						○		×	○?	×	×	割ったものを棒状に加工している可能性	部材？	モミ属
1群	8183	中														サルノコシカケ
1群	8187	中						○		×	○	×	×	桁目板	桁目板	アカガシ亜属
1群	8188	中						○		×	○	×	×	桁目板	桁目板	アカガシ亜属
1群	8268	上	2.1	0.09		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、やや細くなっているが自然か人為か不明	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8269	上	1.38	0.09		○		○		×	○?	×	×	芯無、分割	縦割り	トチノキ
1群	8270	上	2.47	0.12		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、一部分割？外縁部磨減あり	芯持丸太	ケヤキ
1群	8286	上	0.49	0.13		○		○		×	○?	×	×	部材？分割、芯無、角柱状になる？大径木の一部、放射状分割か？	放射状分割	ケヤキ
1群	8287	上	1.89	0.47		○		○		×	○?	○	×	表面のみ被熱	分割不明	トチノキ
1群	8288	上	1.94	0.17		○	○			○	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
1群	8289	上	1.56	0.11		○		○		×	○?	×	×	分割後丸くしている？	縦割り	不明
1群	8290	上	2.6	0.11		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ムクノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
1群	8344	上	1.47	0.2		○	○			○	○	×	○	根元欠損、芯持丸太、縄かけ？ 抉りあり	芯持丸太	ムクロジ
1群	8345	上	2.49	0.15		○	○			○	×	×	×		芯持丸太	カエデ属
1群	8358	上														スギ
1群	8398	上	5.2	0.31	○		○			×	○?	×	×	芯持ち、分割(2分の1程度)？ 芯の両側欠如、乾燥による劣化あり	縦割り	ムクノキ
1群	8399	上	3.54	0.19		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8400	上	5.5	0.18		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、やや面を持つが水流による磨滅の可能性	芯持丸太	カエデ属
1群	8401	上	3.46	0.32		○	○			×	○?	×	×	根元取上げ時に欠損、芯持丸太、やや磨滅？	芯持丸太	ムクロジ
1群	8452	上	5.07	0.2		○	○			×	○?	×	×	芯無、腐食で抜け？	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8453	上	0.38	0.16		○	○			×	○?	×	×	芯持ち、6分の1程度？両側なし	縦割り	カエデ属
1群	8454	上	2.92	0.14		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ヤナギ属
1群	8455	上	2.25	0.24		○	○			○	×	×	×	下部に樹皮残存、芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
1群	8456	上	1.2	0.23		○	○			×	○?	×	×	芯無	分割不明	ケヤキ
1群	8457	上	5.5	0.31		○	○			×	○	×	×	先端調査区外、枝打ち痕	芯持丸太	ケヤキ
1群	8461	上	1.86	0.14		○	○			×	×	×	×	構造物1 堅杭と絡む。杭周りがえぐれるのは打ち込みの影響？水流？、芯持丸太	芯持丸太	アカメガシワ
1群	8462	上	2.96	0.75		○	○			×	○?	×	×	芯無、縁辺部のみ残ったものが丸くなっている	縦割り	エノキ
1群	8467															カエデ属
1群	8468													構造物1		カエデ属
1群	8469	上	0.83	0.07		○	○			○	×	×	×	構造物1 芯持ち丸太 先端加工？	芯持丸太	ヤブツバキ
1群	8470															ムクノキ
1群	8471															タブノキ
1群	8489															樹皮
1群	8510	上	2.41	0.45	○		○			○	○?	×	×	下面に樹皮残存。腐食により芯抜け？辺材のみか	縦割り	ケヤキ
1群	8514	上	3.1	0.33		○	○			×	○?	×	×	調査区外へ延びる、芯寄り	芯持丸太	オニグルミ
1群	8515	上	1.77	0.32		○	○			×	×	×	×	芯無、周辺部	縦割り	トチノキ
1群	8516	上	5.15	0.29		○	○?			×	○?	×	×	芯腐食で抜け	芯持丸太	トチノキ
1群	8529	上	4	0.33		○	○?			×	○?	×	×	周辺部、半月状。芯無？芯腐食抜け？	縦割り	トチノキ
1群	8556	中	1.23	0.09		○	○			×	○	×	×	杭？柱？ 芯持ち	杭丸太	カヤ
1群	8558	中	2.38	0.23		○	○			×	○?	×	×	やや芯寄る。外側水流で磨滅	芯持丸太	オニグルミ
1群	8559	上	4.89	0.23		○	○			×	×	×	×	先端は割？調査区外へ延びる	芯持丸太	ムクロジ
1群	8560	上	1.51	0.31	○		○			×	○?	×	×	やや芯寄り、水流による磨滅？	芯持丸太	ケヤキ
1群	8561	上	18	1.3	○		○			×	○?	×	×		芯持丸太	ケヤキ
1群	8562	中	1.29	0.18		○	○			○	×	×	×	枝か。芯持丸太	芯持丸太	ムクロジ
1群	8570	上	2.57	0.32		○	○			×	×	×	×	芯無、外側が一部残存。	縦割り	ヤナギ属
1群	8571	上	1.97	0.57		○	○			×	×	×	×	径の大きな木の外側部分、割っただけで加工はほとんどなし	縦割り	アカガシ亜属
1群	8572	上	2.14	0.23		○	○			○	○	×	×	下面に樹皮残存、先端を細く加工	縦割り	トチノキ
1群	8573	中	1.088	0.025		○	○			×	○	×	×	割材(半割か?) 製品?	部材	スギ
1群	8591	中	1.73	0.16		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	オニグルミ
1群	8592	上	2.98	0.2		○	○			○	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ムクロジ
1群	8593	中	1.27	0.27		○	○?			×	×	×	×	自然の磨滅、人為的な加工なし	芯持丸太	ヤマグワ
1群	8597	中	5.8	0.16		○	○			○	×	×	×	一部断面割、先端は加工？芯持丸太。枝打ち？	芯持丸太	カエデ属
1群	8625	中														スギ
1群	8651	上														ヤマグワ
2群	7479															スギ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種	
					有	無	丸	割	角								
2群	7495															スギ	
2群	7530	上								×	○	×	×		分割・丸太不明	スギ	
2群	7531	上						○?		×	×	×	×	芯寄り、芯が斜めに通る	芯持丸太	ケヤキ	
2群	7532	上						○		×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ケヤキ	
2群	7533	上						○?		×	○?	×	×	表面に人為的な欠損	分割不明	ムクノキ	
2群	7534	上							○	×	○?	×	×	枝部分。芯を残し1/2ほど残存。加工?	縦割り	ヤブツバキ	
2群	7535	上							○	×	×	○	×	芯持丸太、加工は特にみられない。被熱あり	芯持丸太	ヤブツバキ	
2群	7537	上							○	×	×	×	×	芯持丸太。やや扁平。土圧による変形か	芯持丸太	ノリウツギ	
2群	7543	上							○	×	×	×	×	芯持丸太、腐食による芯抜け、加工なし。	芯持丸太	ヤマグワ	
2群	7652	上	0.93	0.13			○		○	×	○?	×	×	芯無	縦割り	コナラ節	
2群	7653	上							○	×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属	
2群	7663	上	1.76	0.2			○		○	×	○?	×	×	割った後に丸く整形?	縦割り	カヤ	
2群	7664	上	4.81	0.4			○		○?	×	○?	×	×	3分の2ほど残存か。磨滅? 人為的な分割?	縦割り	クリ	
2群	7665	上	1.82	0.2			○		○	×	×	×	×	芯より1/4~1/3ほど残存	縦割り	カツラ	
2群	7666	上	1.17	0.14			○	○		○	○?	×	×	下部に樹皮残存、芯持丸太	芯持丸太	カツラ	
2群	7667	上	0.74	0.29			○		○	×	○?	×	×		分割不明	カツラ	
2群	7668	上	1.86	0.21			○		○	○	×	×	×	下部平滑。切断面? 枝部分上部にはつったような痕あり、芯持ち	芯持丸太	ヤマグワ	
2群	7669	上	3.2	0.23			○		○	×	○?	×	○?	縦に3つに割った中心部分、部分的に割っていない場所もあるか	縦割り	クリ	
2群	7670	上	1.73	0.25			○		○?	×	×	×	×	4分の1ほどに割っている、芯残存、古そうな傷あり	縦割り	カツラ	
2群	7671	上	3.6	0.36			○	○		×	×	×	×	一部断面割、芯部分空洞	芯持丸太	ヤマグワ	
2群	7672	上	3.43	0.27			○		○	×	○?	×	×	芯持ち、3分の1ほど残存か。	縦割り	カエデ属	
2群	7674	上	0.63	0.26			○		○	×	×	×	×		分割不明	ヤマグワ	
2群	7675	上	4.2	0.22			○		○	○	×	○?	×	○?	縦に3つに割った中心部分	縦割り	オニグルミ
2群	7676	上							○	×	?	×	×	板材か	板不明	スギ	
2群	7677	上	2.28	0.28			○		○	○	×	○?	×	根元比熱? 芯無(新しい欠損による?)、外側の抉れは自然のもの。	分割不明	カツラ	
2群	7678	上	2.41	0.3			○		○?	×	×	×	×	芯腐食抜け	縦割り	ヤマグワ	
2群	7679	上	1.9	0.1			○	○		×	○?	×	×	芯持丸太、外側磨滅	芯持丸太	ヤマウルシ	
2群	7681	上	3.45	0.53			○		○	×	○?	×	×	外側一部残存、大部分が欠如	縦割り	ムクノキ	
2群	7682	上	2.99	0.14			○		○	×	×	×	×	二股に分かれた枝部分、芯持丸太。周囲の傷は新しい可能性	芯持丸太	カツラ	
2群	7683	上	0.84	0.18			○		○	×	×	○	×	表面弱い炭化、芯無	縦割り	カツラ	
2群	7684	上	3.72	0.29			○		○	×	×	×	×	腐食で欠ける。割っている?	縦割り	カツラ	
2群	7686	上	7.1	0.47			○	○		×	○?	×	×		芯持丸太	ムクロジ	
2群	7687	上	1.46	0.22			○		○	×	○?	×	×	芯やや寄る	縦割り	トチノキ	
2群	7688	上	0.87	0.22			○		○	×	×	○	×	放射状分割? 割られてる部分(木の内側)が被熱、芯持ち、4分の1~3分の1残存	放射状分割	カツラ	
2群	7689	上	0.75	0.18			○	○		○	○	×	×	端部伐採もしくは加工痕	芯持丸太	ヤナギ属	
2群	7690	上	1.65	0.13			○		○	○	×	×	×	芯無、分割、外側のみ	縦割り	ムクロジ	
2群	7691	上	1.92	0.15			○	○		×	○?	×	×	外側わずかに欠損、磨滅? 一部分割か	芯持丸太	ムクロジ	
2群	7693	上	8.9	0.28			○		○	×	○?	×	○?	芯寄る	縦割り	カツラ	
2群	7694	上	4.15	0.31			○		○	×	×	×	×	分割? 磨滅? 表面は乾燥によるヒビ割れ	縦割り	トチノキ	
2群	7695	上							○	×	×	×	×	芯無、3分の1ほど残存	縦割り	ムクノキ	
2群	7696	上	1.11	0.19			○	○		×	×	×	×	トレンチで一部切断、芯持丸太、乾燥によるヒビワレ?	芯持丸太	クリ	

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
2群	7697	上	44	0.5		○	○			×	○?	×	×	芯寄る	芯持丸太	カエデ属
2群	7699	上	2.17	0.11		○	○			×	○?	×	×	外側加工痕?	芯持丸太	ヤマグワ
2群	7700	上	1.7	0.13		○		○		×	○?	×	×	分割後に丸く整形?	縦割り	カエデ属
2群	7701	上	2.76	0.28		○		○		×	×	×	×		分割不明	シイノキ属
2群	7702	上	1.52	0.16		○	○			×	×	×	×	トレンチで根元欠損、芯持丸太、凹凸は磨滅	芯持丸太	オニグルミ
2群	7703	上	1.28	0.13		○		○		×	○?	×	×	1/4程度に分割か	縦割り	カエデ属
2群	7704	上	2.67	0.12		○		○		×	×	×	×	芯が寄る。半分ほど欠	縦割り	ヤマグワ
2群	7705	上	6.3	0.45		○		○		×	○?	×	×	芯やや寄り	縦割り	トチノキ
2群	7706	上	1.25	0.26		○		○		×	×	×	×	芯無、外側のみ、腐食により割れている?	縦割り	クリ
2群	7707	上	1.58	0.18		○		○		○	○?	×	×	加工ではなく磨滅の可能性	芯持丸太	カエデ属
2群	7708	上	2.48	0.28		○		○	○	×	×	×	×	芯ほぼ中心、両端分割後の中心部か?	縦割り	ムクノキ
2群	7709	上	11.1	0.59	○			○		×	○?	×	×	年輪が切れるが分割?磨滅?	縦割り	ムクロジ
2群	7718	上														スギ
2群	7728	上														スギ
2群	7729	上														スギ
2群	7730	上														スギ
2群	7731	上														スギ
2群	7733	上														スギ
2群	7764	上	0.74	0.065		○		○		×	○	×	×	割材 芯無	杭割材	スギ
2群	7765	上	0.655	0.043		○		○?		×	○	×	×	芯持ち(寄り)年輪される?磨滅か?	杭丸太	カエデ属
2群	7797	上	2.04	0.24		○	○			×	×	×	×	丸太、芯抜け	芯持丸太	ヤマグワ
2群	7798	上														スギ
2群	7799	上	1.17	0.03		○		○	○	×	○	×	×	材?角状に加工	部材	イヌマキ
2群	7800	上	3.08	0.12		○		○	○	×	×	×	×	1/3ほど残存	縦割り	カヤ
2群	7803	上														ヤマグワ
2群	7805	上	0.78	0.105		○		○		×	×	×	×	芯無割材	縦割り	スギ
2群	7806	上	2.11	0.25		○		○		×	○?	×	×	辺材のみ	縦割り	ムクノキ
2群	7816	上														ヤマグワ
2群	7838	上	4.12	0.24		○	○			×	○?	×	×	節あたりで割れる。枝打ち?一部削っている可能性	芯持丸太	カエデ属
2群	7839	上	2.97	0.12		○	○?			×	×	×	×	周辺部の年輪が一部切れる。水流による磨滅か。割った可能性もあり。	芯持丸太	ニワトコ
2群	7840	上	1.13	0.22		○	○			○	×	×	×		芯持丸太	クリ
2群	7841	上	1.37	0.11		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、外側の面になった部分は新しい欠損もしくは水流による磨滅	芯持丸太	ムクノキ
2群	7842	上	1.03	0.19		○		○		×	×	×	×	割った後に丸く整形?	縦割り	エノキ
2群	7843	上	0.72	0.18		○	○			×	×	×	×	トレンチで根元欠損	芯持丸太	ムクノキ
2群	7885	上	1.55	0.1		○		○?		×	○?	×	×	芯が寄る。分割か磨滅か不明	分割・丸太不明	ヤマグワ
2群	7888	上	1.54	0.31		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	エノキ
2群	7889	上	1.49	0.22		○	○			×	×	×	×	外縁部乾燥割れ	芯持丸太	ヤマグワ
2群	7890	上	2.07	0.09		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	カエデ属
2群	7891	上	1.14	0.1		○		○		×	×	×	×	芯無、径10~15cmの木の2分の1ほど。腐食による抜け?	縦割り	ヤマグワ
2群	7892	上	1.85	0.11		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
2群	7893	上	1.61	0.08		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、外周の傷は新しいものか	芯持丸太	ムクロジ
2群	7894	上	1.6	0.1		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、先端は割れか	芯持丸太	カエデ属
2群	7895	上	0.585	0.047		○		○		×	○	×	×	割材 分割痕跡明確	杭割材	ムクノキ
2群	7896	上	0.64	0.065		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 磨滅 芯寄り	杭丸太	カエデ属
2群	7902	上	0.27	0.16		○		○		○	×	×	×	樹皮剥片、自然に剥落したもの	樹皮	樹皮
2群	7903	上	1.235	0.053		○		○		×	○	×	×	割材 芯無 周辺	縦割り	ヤマグワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
2群	7924	上					○			×	×	×	×	芯持丸太、水流により磨滅	芯持丸太	カツラ
2群	7925	上	2.02	0.87		○		○		×	○?	×	×	根株	分割不明	オニグルミ
2群	7926	上	1.34	0.2		○	○		○	×	○?	×	×	先端角状。芯持丸太	芯持丸太	コナラ節
2群	7927	上	0.37	0.33		○		○	○	×	○?	×	×	角材状にしている?古い(?) 切断面あり	縦割り	ケヤキ
2群	7928	上	0.59	0.32		○		○		×	○?	×	×	一部水流で磨滅か	分割不明	ムクロジ
2群	7929	上	1.6	0.08		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	ハルニレ
2群	7930	上	0.4	0.28		○	○			×	○?	×	×	根株?	芯持丸太	カツラ
2群	7931	上	0.66	0.14		○	○			○	×	×	×	特に下部に樹皮残存	芯持丸太	ヤナギ属
2群	7932	上	1.58	0.19		○		○		×	○	×	×	一部樹皮あり?分割、芯持ち	縦割り	ヤマグワ
2群	7936	上	0.65	0.13		○		○		×	○?	×	×	部材?縁辺部のみ。面はあるが加工痕がはっきりしない。割っただけで未加工の状態か	縦割り	ムクノキ
2群	7937	上	1.25	0.13		○	○			×	○?	○	×	先端加工?芯寄り。一部面をつくるが人為かは不明。被熱	芯持丸太	クリ
2群	7938	上	0.92	0.04		○	○			○	×	×	×	樹皮一部残存、芯持丸太、枝部分	芯持丸太	クリ
2群	7939	上	1.82	0.14		○	○			×	○	×	×	一部角状	芯持丸太	オニグルミ
2群	7940	上	0.55	0.05		○		○		×	○?	×	×	製品?縁辺部のみ。腐食?抉り状の部分は枝の抜け跡の可能性	縦割り	ムクロジ
2群	7941	上	0.94	0.11		○		○		×	○?	×	×	芯持ち、3分の1ほど残存	縦割り	クリ
2群	7942	上	0.3	0.16		○		○		×	○?	×	×	芯無、4分の1ほど残存	縦割り	オニグルミ
2群	7943	上	0.81	0.07		○		○		×	×	×	×	芯無、3分の1ほど残存	縦割り	コナラ節
2群	7944	上	0.84	0.11		○		○		×	○?	×	×	芯無	縦割り	クリ
2群	7945	上	1.07	0.07		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	クリ
2群	7946	上	0.48	0.19		○		○		×	○	×	×	半月状の木取り。弧側が木の中心となる。分割後に整形か	縦割り	エノキ
2群	7947	上	0.46	0.22		○		○		×	○?	×	×	4分の1ほど残存	縦割り	エノキ
2群	7948	上	0.66	0.19		○		○		×	○	○	×	両端割ったり細くしている。4分の1程度残存。被熱	分割不明	クリ
2群	7949	上	0.68	0.22		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	クリ
2群	7950	上	0.59	0.14		○		○		×	○?	×	×	芯無、一部(3分の1以下)残存。水流での磨滅にしては丸い	縦割り	エノキ
2群	7951	上	0.56	0.12		○		○		○	×	×	×	枝部分?部分的に樹皮残存。芯抜け(腐った?)	分割不明	スギ
2群	7955	上						○		×	○?	×	×	板材	板不明	スギ
2群	7956	上	1.26	0.13		○	○			○	×	×	×	わずかに芯が寄る。水流による磨滅のためか	芯持丸太	ムクロジ
2群	7957	上	1.15	0.14		○		○		×	○?	×	○?	両側片除去、中央部のみ残存	縦割り	ムクロジ
2群	7958	上	0.7	0.16		○	○			×	×	×	×	一部炭化、被熱?	芯持丸太	クリ
2群	7959	上	0.63	0.12		○		○		×	○	×	×	芯無、加工痕は割った痕跡か?	縦割り	オニグルミ
2群	7960	上	0.62	0.08		○	○			×	○?	×	×	堅杭と絡む。先端杭状に加工?芯持丸太(一部腐食で欠損)	芯持丸太	クリ
2群	7996	上	7.09	0.22		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	ヤマグワ
2群	7997	上	1.5	0.08		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	ヤブツバキ
2群	7998	上	1.32	0.07		○	○			×	○?	×	×	枝部分、芯持丸太先端杭状に尖らせる?	芯持丸太	カエデ属
2群	7999	上	1.2	0.07		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	クリ
2群	8000	上	1.18	0.16	○		○			×	×	×	×	8002と同一個体のため一括、芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
2群	8001	上	2.29	0.1		○	○			×	×	×	×	枝部分?空洞は自然のものだが、その部分を利用しようとした可能性あり	芯持丸太	ニワトコ
2群	8003	上	1.31	0.13		○	○?			×	×	×	×	丸太。一部樹皮残る。部分的に抜けているのは腐食?	芯持丸太	オニグルミ
2群	8004	上	0.7	0.18		○		○		×	○?	×	×	根株?一部角状、分割	縦割り	トチノキ
2群	8135	上	2.5	0.1		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、周囲の面は磨滅	芯持丸太	コナラ節
2群	8136	上	2.04	0.06		○	○			○	×	×	×	芯持丸太、枝部分	芯持丸太	カエデ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
2群	8256	上	0.86	0.08		○	○			×	○	×	×	上・中層の境付近 芯持丸太、先端加工	芯持丸太	ヤブツバキ
2群	8257	上	1.24	0.09		○	○?			×	×	×	×	構造物? 堅杭が絡む。上・中層境付近、サンプル2分の1程度は腐食のためか?	縦割り	クリ
2群	8258	上	0.65	0.16		○	○			○	○	×	×	下側に樹皮残存、芯持丸太、丸太分割時?の面あり、加工痕?	芯持丸太	ヤナギ属
2群	8259	上	0.94	0.12		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、先細るのは元々の形状	芯持丸太	ムクノキ
2群	8260	上	1.49	0.08		○		○		×	○?	×	×	芯持ち、両側除去	縦割り	ムクノキ
2群	8261	上	1.85	0.1		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、枝?一部削れているが新しい?	芯持丸太	ニワトコ
2群	8262	上	1.82	0.1		○	○?			×	○	×	×	芯持ち、先端加工、反りのある部分斜めに切り落としている?	芯持丸太	ケヤキ
2群	8263	上	1.62	0.07		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	カエデ属
2群	8264	上	2.23	0.11		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、枝部分	芯持丸太	カエデ属
2群	8265	上	0.53	0.17		○		○		×	○?	×	×	芯無?、3分の1ほど残存か	縦割り	ケヤキ
2群	8266	上	3.4	0.1		○	○?			×	×	×	×	芯持丸太、一部分割?	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8267	上	0.52	0.14		○		○?		×	×	×	×	芯寄り? 外縁やや乾燥、分割?	分割・丸太不明	ヤブツバキ
2群	8291	上	0.51	0.09		○	○			○	×	×	×	一部樹皮残存、芯持丸太	芯持丸太	スギ
2群	8292	上	1.31	0.19		○	○?			×	×	×	×	3分の1~2分の1程度残存。人為的な分割か磨滅か不明	分割・丸太不明	ヤブツバキ
2群	8293	上	1.23	0.2		○		○		×	○?	×	×		分割不明	クリ
2群	8294	上	0.7	0.12		○		○?		×	×	×	×	芯寄り。縁辺部の一部が欠	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8295	上	0.47	0.09		○	○			×	×	×	×	枝部分、芯抜け	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8296	上	2.54	0.46		○		○?		○	○	×	×	一部樹皮残存? 板状のものは加工。丸太状のものは割れてはいるが人為か不明	分割不明	カエデ属
2群	8297	上	2.56	0.57		○		○		○	×	×	×	径の大きな木の外側部分、割っただけで加工はほとんどなし	縦割り	カエデ属
2群	8298	上	3.22	0.29		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	クリ
2群	8299	上														スギ
2群	8317	中	0.75	0.02		○	○			×	×	×	×	芯持ち 枝? 未加工?	芯持丸太	カヤ
2群	8341	上	1.5	0.25		○	○		○	○	×	×	×	下部に樹皮残存。へこむ部分はあるが人為的ではない。摩耗の可能性	芯持丸太	タブノキ
2群	8342	上	0.58	0.17		○		○		○	×	×	×	2分の1程度残	縦割り	オニグルミ
2群	8343	上	3.63	0.15		○		○?		×	×	×	×	芯持ち、周辺は分割か磨滅か不明	分割・丸太不明	ヤマグワ
2群	8365	上	2.37	0.22		○	○			○	×	×	×	トレンチで一部欠損	芯持丸太	カエデ属
2群	8366	上	1.08	0.22		○		○		○	×	×	×	一部樹皮残存、縁辺部のみ残存	縦割り	トチノキ
2群	8367	上	1.52	0.21		○		○		×	○?	×	×	径の大きな木の外側部分、割っただけで加工はほとんどなし	縦割り	クリ
2群	8368	中	1.15	0.27		○		○		×	○	×	○	縄かけか?	分割不明	カツラ
2群	8381	中	0.81	0.052		○		○	○	×	○	×	×	割材 芯無 板目	縦割り	スギ
2群	8382	中														スギ
2群	8383	中														スギ
2群	8402	上	4.2	0.15		○	○		○	×	×	×	×	芯持丸太	芯持丸太	アカメガシワ
2群	8403	上	6.22	0.18		○	○			×	○?	×	×	先端割、芯持ち、外縁部磨滅?	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8404	上	6.15	0.19		○	○			×	×	×	×	一部下部に樹皮残存、芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
2群	8405	上	3.44	0.21		○	○			○	×	×	×	腐食により芯抜け	芯持丸太	トチノキ
2群	8406	上	1.04	0.09		○	○		○	×	○?	×	×	根元欠損、腐食のため芯抜け	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8407	上	1.17	0.18		○		○		×	×	×	×	断面は掘削時に欠損か。芯無?	分割・丸太不明	ムクロジ
2群	8408	上	2.43	0.12		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	ヤマグワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
2群	8439	上	0.82	0.22		○		○		×	○	×	×	板	板目板	スギ
2群	8458	上	4.66	0.21		○	○			○	○?	×	×	芯持丸太、一部芯以外の場所で抜けあり	芯持丸太	ケヤキ
2群	8459	上	3.77	0.15		○	○?			×	○?	×	×	先端片方扁平。一部芯以外の場所で抜けあり	芯持丸太	ケヤキ
2群	8460	中	0.64	0.38		○		○		○	×	×	×		樹皮	樹皮
2群	8463															ヤマグワ
2群	8466															スギ
2群	8472	上	3.01	0.31		○	○?			×	○?	×	×	芯持丸太?、年輪が切れるが磨滅か	芯持丸太	ムクロジ
2群	8473	上	4.54	0.21		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、磨滅あり、辺材なし	芯持丸太	ムクロジ
2群	8474	上	4.4	0.15		○	○			×	○?	×	×	一部腐食で中心部抜け?割っている可能性もあるがやや不自然	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8475	上	3.26	0.41		○		○		×	×	×	×	芯持ち、両側なし、2分の1程度残存か	縦割り	ケヤキ
2群	8476	上	1.6	0.18		○		○		×	○?	○	×	2分の1強残存やや角状なのは磨滅も?被熱	縦割り	クリ
2群	8477	上	0.85	0.17		○		○		×	×	×	×	芯無、分割(2分の1程度)	縦割り	カエデ属
2群	8478	上	0.67	0.23		○		○		×	○?	×	×	枝分かれ部分、外側無し、分割?伐採後丸太の分割時?の面あり、加工痕は不明	分割・丸太不明	ムクロジ
2群	8480	上	1	0.054		○	○			×	○	×	×	芯持丸太	杭丸太	不明
2群	8481															スギ
2群	8492	上	0.49	0.052		○	○			×	×	×	×	構造物4 芯持丸太	杭丸太	ヤナギ属
2群	8493													構造物4		カエデ属
2群	8494															スギ
2群	8495	中														樹皮
2群	8511	中	6.88	0.31		○	○			○	×	×	×	片側先端の断面扁平。他部分芯持丸太	芯持丸太	トチノキ
2群	8512	上	5.01	0.38		○	○			○	×	×	×	下面に樹皮残存	芯持丸太	ヤナギ属
2群	8513	中	2.1	0.2		○	○			×	×	×	×	根あり。先端は割?芯持丸太	芯持丸太	カエデ属
2群	8517	上	1.485	0.055		○	○			×	○?	×	×	構造物3 芯持丸太 切りっぱなし?	芯持丸太	不明
2群	8518	上												構造物4		カエデ属
2群	8519	上												構造物4		カエデ属
2群	8520	上	0.705	0.042		○	○			×	○	×	×	構造物4 芯持丸太 根元の切れ込みは新たな切断か?	杭丸太	ヤブツバキ
2群	8521	中	1.48	0.06		○		○		×	○	×	×	杭?製品の可能性	分割不明	イヌマキ
2群	8522	上	0.62	0.06		○	○			×	○	×	×	芯持丸太	杭丸太	クリ
2群	8523	上	2.71	0.17		○	○			×	○?	×	×	構造物の横木?芯持丸太	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8524	上	0.83	0.08		○		○		×	○	×	×	構造物2 断面三角 芯無し	分割不明	ヤマグワ
2群	8525															クリ
2群	8526	上	0.573	0.06		○	○			×	○?	×	×	構造物2 芯持丸太	芯持丸太	不明
2群	8527	中	2.18	0.39		○		○		×	×	×	×		分割不明	ムクノキ
2群	8528	中								×	○	○	×	被熱	樹皮	樹皮
2群	8539	上						○		×	○	×	×	板状、未成品の可能性	板不明	クリ
2群	8540	上														カエデ属
2群	8541	上					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭	杭丸太	オニグルミ
2群	8555	下						○		×	○?	×	×	板材、磨滅で丸くなる	樹皮	樹皮
2群	8557	上						○		×	○?	×	×	割材、板目	板目板	ヤブツバキ
2群	8563	中	0.83	0.61		○				○	×	×	×	樹皮	樹皮	樹皮
2群	8564	中														サルノコシカケ
2群	8565	上	0.66	0.06						×	○	×	×	構造物5 芯持ち 一部加工杭?	分割・丸太不明	イボタノキ
2群	8566	上	0.63	0.05		○		○		×	○	×	×	構造物5 芯持ち 割材(1/3ほど)	杭丸太	ムクノキ
2群	8567	上	4	0.21		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	トチノキ
2群	8568	下						○		×	○?	×	×		樹皮	樹皮

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
2群	8569	中	0.78	0.047		○		○	○	×	○	×	×	芯無し 板材	板目板	スギ
2群	8574															ヒノキ
2群	8575	上														スギ
2群	8588	中	0.69	0.19		○		○		×	○?	×	×	全体が根、半分ほどに分割? 芯無かも	分割不明	カエデ属
2群	8589															スギ
2群	8590	中	0.665	0.11		○		○		×	○	×	×	芯無し 板材	板目板	ムクノキ
2群	8594	上														樹皮
2群	8595	上														スギ
2群	8596	中	1.13	0.01		○		○	○	×	○	×	×	製品 角棒状	部材?	スギ
2群	8598															スギ
2群	8599															スギ
2群	8600															スギ
2群	8601															スギ
2群	8606	上	2.29	0.18		○	○			×	○?	×	×	先端加工? 芯持丸太	芯持丸太	ムクロジ
2群	8607	上	3.61	0.22		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	トチノキ
2群	8608	上	3.83	0.38	○		○			○	×	×	×	下面に樹皮残存、芯持丸太	芯持丸太	ケヤキ
2群	8609	上	2.4	0.36		○		○?		×	○?	×	×	丸太?	芯持丸太	ヤマグワ
2群	8610	上	2.97	0.29		○	○			×	×	×	○?	4分の1程度残存	縦割り	カエデ属
2群	8611	上	3.41	0.14		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、外縁部一部乾燥により割れる	芯持丸太	トチノキ
2群	8626	上	7.2	0.25		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太、周辺磨滅?	芯持丸太	ニワトコ
2群	8627	中	4.1	0.54		○		○		○	×	×	×	根元未検出、半分ほどに割ったものを丸く整形? 写真か図面とったらどうか	縦割り	ムクロジ
2群	8628	中	6.51	0.37		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ケヤキ
2群	8629	上	3.33	0.23	○		○			○	○?	×	×	先端は切断部分が浸食を受けたものか。伐採後に加工の可能性あり	芯持丸太	ケヤキ
2群	8630	上						○		×	○	×	×	板状、辺材	縦割り	ケヤキ
2群	8634	上	1.12	0.43		○		○		○	×	×	×	木の瘤部分。芯材が抜けて辺材だけが残存か。これだけで何かに使うことはほとんどない為、必要ない部分を廃棄したものの可能性	縦割り	不明
2群	8635	上	3.12	0.6		○	○			○	×	×	×	一部樹皮残存	芯持丸太	ケヤキ
2群	8636															ケヤキ
2群	8711	中	5.2	0.42		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ムクロジ
2群	8712	中	6.1	0.25	○		○		○	×	×	×	×	先端割? 腐食? 芯腐食抜け、周辺の面は磨滅か	分割不明	ヤマグワ
2群	8719	中	3.75	0.26		○		○		×	○?	×	×	芯持ち、分割(2分の1程度)	縦割り	カエデ属
2群	8740	中	1.35	0.19		○		○		×	○	×	×	分割(2分の1程度)、先端は加工	縦割り	スギ
2群	8741	中	1.8	0.14		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	カエデ属
2群	8814	中	3.13	0.16		○	○			×	○?	×	×	一部細くなる部分あり。	芯持丸太	アカメガシワ
2群	8815	中								○						樹皮
2群	8816	中						○		×	○?	×	×	分割(4分の1~5分の1)丸太分割時?の面あり、側面の段、縦方向の割れ口は新しいが元々ついていた横方向の段で止まっている可能性	縦割り	ムクロジ
2群	8817	中													分割・丸太不明	ヤナギ属
2群	9239	中	0.52	0.067		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 摩滅強い	杭丸太	ヤナギ属
2群	9241	中	7.01	0.5		○		○		×	×	×	×	調査区外へ延びる	分割不明	ケヤキ
3群	8637															スギ
3群	8638															スギ
3群	8639															スギ
3群	8640															スギ
3群	8641															スギ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
3群	8700	上	3.71	0.41		○	○			×	×	×	×	芯寄り、一部乾燥によるヒビ割れ、一部分割ありか?	分割・丸太不明	アカガシ亜属
3群	8701	上	7.73	0.42	○		○	○		×	×	×	×	半分ほどは割? 腐食による抜け? 一部角柱状。芯持丸太、辺材が残る。	分割・丸太不明	ムクノキ
3群	8702	上	4.71	0.33		○		○		×	○?	×	×	芯無、周辺部	縦割り	アカガシ亜属
3群	8810	上	1.79	0.07		○	○			×	×	×	×	芯持丸太? 切った枝部分中身空洞(腐食?) 孔は枝跡か?	芯持丸太	ヤマグワ
3群	8811															カキノキ
3群	8971	中	2.12	0.13		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	カエデ属
3群	8972	上	1.05	0.07		○		○		×	○	×	×	部材?	部材?	カエデ属
3群	8973															スギ
3群	8974	上	0.58	0.07		○	○			×	×	×	×	芯持丸太、周辺は磨滅か	芯持丸太	ケヤキ
3群	8976	上	0.66	0.1		○		○		×	×	×	×	芯持ち? 3分の1ほど残存	縦割り	ムクノキ
3群	8977													杭		スギ
3群	8978	上	0.53	0.12		○		○		×	×	×	×	芯無、3分の1ほど残存	縦割り	スギ
3群	8979	上	0.75	0.26		○		○		×	○?	×	×	枝を落とした後の幹の一部分、段は自然のもの?	分割不明	ケヤキ
3群	8980	上	1.31	0.2		○		○		×	○	×	×		分割不明	ムクロジ
3群	8981	上	1.75	0.2		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	ヤマグワ
3群	8982	上	0.95	0.1		○	○			×	○?	×	×	穿孔ではなく枝が抜けた穴か。先端は加工。芯が寄るのは磨滅?	芯持丸太	カエデ属
3群	8983	上	1.74	0.09		○	○			×	○	×	×	芯持丸太	芯持丸太	カツラ
3群	8984															スギ
3群	8985	上	3.85	0.17		○	○			×	○?	×	×	加工? 磨滅しているため人為かは不明。周辺の段は面ができた痕の可能性も。	分割・丸太不明	ヤナギ属
3群	8986	上	0.644	0.037		○		○		×	○	×	×	芯持丸太 杭①	杭丸太	カヤ
3群	8987	上					○			×	×	×	×	芯持丸太、瘤の部分? 根元の傷は古い可能性	芯持丸太	カエデ属
3群	8988	上	0.71	0.06		○	○			×	○	×	×	芯持丸太? 杭①	杭丸太	クリ
3群	8989	上	0.64	0.12		○		○		×	×	×	×	板材?	分割不明	カエデ属
3群	8990															イヌマキ
3群	8991															イヌマキ
3群	8992	上	0.68	0.12	?		○							芯持ち 幹から枝の部分を使用 杭①	杭丸太	ヤマグワ
3群	9000															ハンノキ属
3群	9001	中	0.64	0.07		○	○			○	×	×	×	枝部分? 芯持ち	芯持丸太	ケヤキ
3群	9101															ヤマグワ
3群	9102	中	1.39	0.19		○		○?		×	×	×	×	芯無、分割(5分の1ほど?)	放射状分割	アカガシ亜属
3群	9103	中	0.97	0.08		○	○			○	○?	×	×	杭 芯持丸太	杭丸太	カエデ属
3群	9105	中	1.655	0.085		○		○	○?	×	○	×	×	割材 芯持ち半割 部分あり加工中?	縦割り	シイノキ属
3群	9131	中					○			×	×	×	×		芯持丸太	トチノキ
3群	9132	中					○			×	×	×	×		芯持丸太	カエデ属
3群	9137	中					○			×	○	×	×	芯持ち、磨滅で減る、杭?	芯持丸太	カエデ属
3群	9163	中	1.88	0.15		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ムクロジ
3群	9164	中						○		×	×	×	×	芯無、分割? 外周部の一部	縦割り	ケヤキ
3群	9165	中	3.94	0.39		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	カツラ
3群	9166															カヤ
3群	9167	中	0.905	0.058		○		○		×	×	×	×		分割不明	スギ
3群	9175															カエデ属
3群	9176	中						○		×	×	×	×	芯持ち、分割(2分の1程度)	縦割り	カエデ属
3群	9177	中						○?		×	×	×	×	分割? 2分の1程度残存	分割・丸太不明	ムクノキ
3群	9178	中						○?		×	?	×	×	芯持ち、2分の1程度残存?	縦割り	ムクノキ
3群	9179															ムクノキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

出土位置	取上No	層位	長さ(m)	径・幅(m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	木取り	樹種
					有	無	丸	割	角							
3群	9180	中	1.89	0.4		○		○		×	○	×	×	割材 芯無 周辺縦割り 芯腐敗?	縦割り	アカガシ亜属
3群	9181															イヌマキ
3群	9183															ケヤキ
3群	9189	上	4.42	0.41		○		○	○	×	○	×	×	一部角柱状。先端4分の1程度に細くしている?	分割不明	エノキ
3群	9190	中	5.28	0.23		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ムクロジ
3群	9193	中	2.24	0.18		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	芯持丸太	アカガシ亜属
3群	9194	中	4.58	0.53		○		○		×	○?	×	×		分割不明	アカガシ亜属
3群	9195	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	芯持丸太	ムクロジ
3群	9196	中					○?			×	○	×	×	芯持ち、杭状、周辺は磨滅?	芯持丸太	カエデ属
3群	9197	中													分割・丸太不明	カエデ属
3群	9198	中						○		×	×	×	×	芯持ち、分割(2分の1程度)	縦割り	ヤブツバキ
3群	9199															ヤブツバキ
3群	9200	中						○		×	×	×	×	芯持ち? 4分の1ほど残存か?	縦割り	ケヤキ
3群	9201													杭		スギ
3群	9202	中	0.55	0.06	○		○			○	×	×	×	幹から枝部分	芯持丸太	ヤマグワ
3群	9203	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、周辺部わずかに欠(水流による磨滅?)	芯持丸太	ケヤキ
3群	9206	中													分割・丸太不明	カエデ属
3群	9207													杭		コナラ節
3群	9208	中					○			○	×	×	×	樹皮あり	芯持丸太	カエデ属
3群	9209	中	3.7	0.18		○	○			×	×	×	×		芯持丸太	アカメガシワ
3群	9210	中	3.35	0.25		○	○			×	○?	×	×		芯持丸太	ヤブツバキ
3群	9212													杭		ヤナギ属
3群	9213	中													分割・丸太不明	ヤマグワ
3群	9214	中					○			×	○?	×	×	芯持丸太 杭	杭丸太	ムクノキ
3群	9216	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、水流で磨滅	芯持丸太	ヤマウルシ
3群	9217	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	芯持丸太	ニワトコ
3群	9218	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	芯持丸太	ムクノキ
3群	9219	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分	芯持丸太	ヤマグワ
3群	9220	中	3.03	0.35		○		○		×	×	×	×		分割不明	ムクロジ
3群	9224	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、周辺の面は磨滅による?	芯持丸太	カエデ属
3群	9235	中					○			×	×	×	×	芯持丸太、水流により磨滅?	芯持丸太	ヤマグワ
3群	9236													杭		カツラ
3群	9237													杭		ヤマウルシ
3群	9238															ヤマグワ
3群	9240	上	2.73	0.4		○		○		×	○?	×	×		縦割り	ムクノキ

第V -13 表 949 構造物出土木材一覧

取上 No	層位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
8638	上	949 構	0.89	0.05		○		○		×	○	×	×	製品? 板状(板目)、杭列1	不明
8646	上	949 構	0.9	0.094		○		○	○	×	○	×	×	割材 板目 芯去	スギ
8656		949 構						○		×	×	×	×	分割(3分の1程度)	ムクロジ
8657		949 構						○		×	○	×	×	割材、杭	カヤ
8658		949 構						○?		×	○	×	×	転用材?	ヒノキ
8659		949 構						○		×	○	×	×	板材、転用?	スギ
8660	上	949 構	0.7	0.057		○		○	○	×	○	×	×	割材 転用部材? 芯持ち(1/4ほど)	ケヤキ
8661	上	949 構	0.91	0.08		○	○			○	×	×	×	芯持丸太	エノキ
8662		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭	ヤマウルシ
8663		949 構						○		×	○?	×	×	割材	ヤマグワ
8670	上	949 構	2.35	0.24		○	○			×	×	×	×		ヤナギ属
8671	上	949 構	1.59	0.22		○	○			×	×	×	×		エノキ
8672	上	949 構	0.875	0.065		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	シャシャンボ
8673		949 構					○			×	○?	×	×	芯持丸太、杭材	トチノキ
8674		949 構						○		×	○?	×	×	割材	ムクロジ
8675	上	949 構	0.74	0.05		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	ニワトコ
8676		949 構						○		×	○	×	×	板材、転用?	スギ
8677		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭材、枝部分	カエデ属
8678		949 構					○?			×	×	×	×	枝、幹から抜けた部分、自然に抜けたものか	イヌマキ
8679	上	949 構	1.36	0.1		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 先端加工? 二股部分有り	カエデ属
8680	上	949 構	0.92	0.1		○	○			×	×	×	×	芯持ち 根の枝部分?	ヤナギ属
8681	上	949 構	0.66	0.06		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 先端加工 杭 杭列10	カエデ属
8682	上	949 構	0.725	0.049		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 年輪が磨滅でやや切れる、杭列10	ヤマグワ
8683		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭 杭列10	オニグルミ
8684	上	949 構	1.21	0.25		○	○			×	○?	×	×	枝? 周辺部は加工?	トチノキ
8685		949 構					○			×	○?	×	×	芯持丸太、杭?	ヤマグワ
8686		949 構					○			×	○?	×	×	芯持丸太、杭① 杭列10	ムクロジ
8687		949 構						○		×	○?	×	×	割材 杭列10	ヤマグワ
8688		949 構						○		×	○?	×	×	割材 杭列10	ヤナギ属
8689		949 構						○		×	○	×	×	芯持丸太、杭? 杭列10	ヤマグワ
8690	上	949 構	1.008	0.053		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭(磨滅? 芯やや寄り)、杭列10	ヤマグワ
8691	上	949 構													ヤナギ属
8694	上	949 構	0.718	0.093		○		○		×	×	×	×	割材(1/3程度?) 芯一部有り	カエデ属
8695	上	949 構	0.66	0.45		○			○	×	○	×	×	板(板目)	シイノキ
8696	上	949 構	1.14	0.037		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	ニワトコ
8698		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭	ヤマグワ
8699	上	949 構	0.8	0.08		○		○		×	○	×	×	割材(板目) 芯去	スギ
8703	上	949 構	0.175	0.065		○		○	○	×	○	×	×	バラバラの為全長不明 板目板	スギ
8704	上	949 構	0.91	0.13		○	○			×	○	×	×	芯持丸太か 杭	スルデ
8705	上	949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭	ムクロジ
8713	上	949 構													アカガシ亜属
8714		949 構													ヤマグワ
8715		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	トチノキ
8717		949 構													スギ
8718		949 構													スギ
8720	上	949 構	3.91	0.35		○		○		×	×	×	×	芯あり? 辺材あり、外周部分乾燥によりひび割れ	カツラ
8727		949 構						○		×	×	×	×	芯去、分割、外縁部のみ	ヤマグワ
8728		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	カエデ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層 位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
8729		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、別の材に当たる部分が磨り減ったと思われるへこみあり	エノキ
8730		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太? 磨滅あり、先端は切断か	ヤマグワ
8731	上	949 構	3.41	0.14		○	○			×	×	×	○?	芯持丸太、やや磨滅	ハルニレ
8732		949 構													ヤブツバキ
8742		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太	エノキ
8743		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?、やや磨滅	ヤブツバキ
8744	上	949 構	1.345	0.1		○		?		×	○?	×	×	断面三角形に近い。 杭 芯持ち割材、杭列4	ヤマグワ
8745	上	949 構	1.114	0.08		○		○		×	×	×	×	芯去 割材 杭 杭列4	ヤマグワ
8749		949 構													イヌザンショウ
8750		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	カエデ属
8751		949 構													スギ
8752		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、枝部分? 先端は新しい欠損か	アカガシ亜属
8753		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分、新しい欠損あり	ムクノキ
8754	上	949 構	1.286	0.105		○		○		×	×	×	×	芯去? 割材	カツラ
8755		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、一部樹皮残存、傷は新しいものか。	カエデ属
8756		949 構					○?			×	×	×	×	芯寄り、細くしようとした可能性あり、節の部分なので割っているかは不明	カツラ
8757		949 構													ヒノキ
8758		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8759	上	949 構	1.135	0.085	○		○			×	○?	×	×	芯持丸太 二股部分	ヤブツバキ
8760		949 構													カエデ属
8761	上	949 構	1.625	0.15		○	?			×	○	×	×	芯持丸太? 二股部分を利用 杭	カエデ属
8762	上	949 構	0.59	0.078		○	○			×	○	×	×	芯持ち(寄?)丸太 杭、杭列8	クサギ
8763	上	949 構	0.97	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 新たな切断で一部欠損	カエデ属
8764		949 構					○			○	×	×	×	樹皮あり芯持丸太、傷は新しいもの	エノキ
8765		949 構						○		×	×	×	×	芯去、外周部3分の1程度	ムクノキ
8766		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太	ケヤキ
8767	上	949 構	0.94	0.102		○		○		×	×	×	×	芯抜け 杭 枝根元付近か? 杭列8	ヤマグワ
8768	上	949 構	1.38	0.06		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭	ヤブツバキ
8769		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、枝部分	ヤナギ属
8770		949 構													エノキ
8771	上	949 構	0.66	0.05		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列9	カエデ属
8772	上	949 構	0.7	0.058		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太? 欠損により先端不明磨滅で加工不明瞭	エノキ
8773		949 構													カエデ属
8774		949 構					○			×	○?	×	×	芯持丸太、外周部の傷古い可能性	エノキ
8776	上	949 構	0.81	0.073		○		○		×	○	×	×	芯去 割材 杭 杭列4	ヤマグワ
8778	上	949 構	0.82	0.06		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭? (両端欠) 芯寄り気味(磨滅による?) 先端加工? 磨滅? 杭列9	タブノキ
8779	上	949 構	0.89	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列9	ヤマグワ
8780		949 構													アカガシ亜属
8781		949 構													アカガシ亜属
8782	上	949 構	1.662	0.075		○		?		×	○	×	×	割材? 腐食? 杭	ヤマグワ
8783	上	949 構	0.85	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カヤ
8787	上	949 構	0.36	0.07		○		○		×	○?	×	×	バラバラで復元不能 丸太半割か? 1/4くらいになるのは新しい切断か? 杭列4	カエデ属
8788	上	949 構	0.623	0.063		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 枝先落とす	カエデ属
8789	上	949 構	0.858	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8790		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、へこみあり、他の材にあたっていた部分が磨り減った可能性	カエデ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
8791		949 構													スギ
8792	上	949 構	1.185	0.065		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 9	トチノキ
8793	上	949 構	0.74	0.045		○		○		○	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 9	タブノキ
8794		949 構													カツラ
8795		949 構													スギ
8796	上	949 構	0.91	0.08		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 9	シイノキ
8797		949 構						○		×	○	×	×	丸太、先端のみ加工 (加工痕は磨滅)	カエデ属
8799		949 構													ムクノキ
8818		949 構													カエデ属
8819		949 構													ヤマウルシ
8820		949 構													ヤブツバキ
8821	上	949 構	0.87	0.03		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太 杭 杭列 1	ヤブツバキ
8822	上	949 構	0.99	0.05		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 二股部分 端欠 杭 杭列 1	エノキ
8823	上	949 構	0.675	0.038		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 1	カエデ属
8824	上	949 構	0.69	0.04		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 バラバラで全長不明 杭列 1	アカメガシワ
8825		949 構													ムクノキ
8826	上	949 構	1.148	0.067		○	○			×	○	×	×	芯より	アカガシ亜属
8827	上	949 構				○		○		×	×	×	×	割材 ほぼ半割 芯去(腐?)	エノキ
8828		949 構													エノキ
8829	上	949 構	0.76	0.05		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太 杭 磨滅と欠損により 先端不明 杭列 1	ヤマグワ
8830		949 構													スギ
8831		949 構													ヤマグワ
8832		949 構						○		×	×	×	×	芯あり、分割(4分の1程度?)	カエデ属
8833		949 構													カエデ属
8834		949 構						○?		×	×	×	×	芯あり、分割(2分の1程度)	クリ
8835		949 構						○		×	×	×	×	芯去、外縁部の一部	カエデ属
8836		949 構													ヤマグワ
8837	上	949 構	0.86	0.057		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8838	上	949 構	0.73	0.045		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭	ヤマウルシ
8839	上	949 構	0.945	0.083		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	エノキ
8840	上	949 構	0.603	0.048		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 両端欠? 杭列 1	ヤブツバキ
8841	上	949 構	1.512	0.084		○	○			○?	×	×	×	芯持丸太 ヨコ木 杭列 1	イヌザンショウ
8842	上	949 構	0.87	0.074				○		×	○?	×	×	割材 芯去(腐?) 杭 杭列 4	スギ
8843	上	949 構	0.706	0.065		○	○			○?	○?	×	×	芯持丸太 杭 杭列 1	カエデ属
8844	上	949 構	0.88	0.05		○	○			×	×	×	×	芯持丸太(寄) 杭 先端欠損 有頭? 杭列 8	シイノキ
8845		949 構													ヤマグワ
8846	上	949 構	1.35	0.08		○	○			○	○?	×	×	芯持丸太 杭? 折れの為先端不 明 杭列 1	カエデ属
8854	上	949 構	1.25	0.12		○	○			×	?	×	×	芯去割材 周辺割りっぱなし	ヤマグワ
8855	上	949 構	1.32	0.07		○	○			×	×	×	×	割材? 磨滅強	ヤブツバキ
8856	上	949 構	0.824	0.067		○	○			×	○	×	×	芯持ち割材 杭	カエデ属
8857		949 構													カエデ属
8858		949 構						○		×	×	×	×	芯去、分割、周辺部のみ	カエデ属
8859		949 構						○						芯持丸太、枝の二股部分か。やや 扁平なのは土圧の影響?	トチノキ
8860		949 構						○		×	×	×	×	芯去、3分の1程度	エノキ
8861	上	949 構	0.59	0.047		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 ヨコ木	ヤブツバキ
8864		949 構						○		×	×	×	×	芯去、2分の1以下残存	カエデ属
8865	上	949 構	1.485	0.056		○	○			×	○	×	×	断面一部年輪切れる。磨滅のため か? 芯持丸太 杭①	ヤブツバキ
8866		949 構						○		×	×	×	×	芯あり、磨滅により2分の1程度。	ハンノキ
8867		949 構						○		×	○?	×	×	割材、先端を細く整形している可 能性	カエデ属
8868	上	949 構	0.29	0.07		○		○		×	○?	×	×	L字状割材 周辺芯去 バラバラ	ハンノキ
8869		949 構													樹皮

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
8870		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、枝部分か?	サカキ
8871	上	949 構	1.17	0.043		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 ヨコ木 杭状	タブノキ
8872	上	949 構	0.675	0.035		○	○			×	×	×	×	芯持丸太? 杭 横杭のひっかかり?	ヤブツバキ
8873	上	949 構	2.71	0.068		○	○			○	×	×	×	横木 芯持丸太 両端欠 杭列7	カエデ属
8874	上	949 構	1.2	0.069		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 (やや寄り 磨滅) 杭 両端欠	イヌザンショウ
8875	上	949 構	1.1	0.13		○		○		×	○?	×	×	先端磨滅か? 割材 芯あり半割 杭 杭列7	カエデ属
8876	上	949 構	1.81	0.07		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 一部年輪切れる。 摩滅か?	クサギ
8877	上	949 構	1.58	0.06		○		○		×	○	×	×	割材? 杭	カヤ
8878		949 構													スギ
8879		949 構						○		×	×	×	×	芯あり、2分の1程度	カエデ属
8880	上	949 構	0.975	0.035		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	タブノキ
8881		949 構													ムクノキ
8882		949 構													ムクノキ
8883		949 構													アカメガシワ
8884	上	949 構	1.28	0.055		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8885		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	エノキ
8886	上	949 構	0.895	0.035		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8887		949 構													カエデ属
8888		949 構													カエデ属
8889		949 構													エノキ
8890	中	949 構	2.72	0.13		○	○			×	×	×	×		ヤナギ属
8891	上	949 構	1.18	0.052		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8892		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、土圧により変形	カエデ属
8893		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	カエデ属
8894	上	949 構	1.05	0.056		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
8895		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	カエデ属
8896	上	949 構	0.448	0.03		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太 やや寄り? 杭列2	アオキ
8897	上	949 構	1.895	0.07		○		○		×	○	×	×	割材 芯去? 杭 磨滅気味	ヤマグワ
8898	上	949 構	0.736	0.053		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭?	ヤブツバキ
8899		949 構													カエデ属
8900		949 構													カヤ
8901	上	949 構	1.33	0.14		○		○?		×	○	×	×	芯寄り、分割? 根元に近い部分 刃物と思われる痕あり	ヤマグワ
8902		949 構						○		×	×	×	×	辺材を割っている。何かに使おう としていたのでは	スギ
8905	上	949 構	7.55	0.25	○		○			○	×	×	×	芯持丸太、半分ほど乾燥によるヒ ビワレ、凹凸激しいのは磨滅か	カツラ
8906	上	949 構	3.4	0.18		○	○			○	○	×	×	端部樹皮なし、芯持丸太、磨滅?	カエデ属
8907		949 構													カエデ属
8908		949 構					○			○				枝部分、芯持丸太	カエデ属
8909		949 構													エノキ
8910		949 構													カツラ
8911		949 構						○		×	×	×	×	芯あり、分割 (2分の1程度)	カツラ
8912		949 構													カツラ
8913		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	カエデ属
8914	上	949 構	1.3	0.06		○		○		×	○	×	×	半割? 杭	カエデ属
8915		949 構					○			○	×	×	×	芯持丸太、腐食で芯抜け、枝部分?	トチノキ
8916		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太、杭	カツラ
8917		949 構						○						芯去3分の1ほど、枝を落として いる可能性。	ヤブツバキ
8918		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	ヤマグワ
8919		949 構													エノキ
8920	上	949 構	1.04	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	ヤブツバキ
8921		949 構													ヤブツバキ
8922	上	949 構	2.03	0.21		○	○			×	○?	×	×		イヌザンショウ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層 位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	挟り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
8923	上	949 構	0.71	0.057		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 杭 杭列2	エノキ
8924	上	949 構	0.73	0.05		○	○			○	○	×	×	芯持ち 杭	アカメガシワ
8925		949 構													ヤブツバキ
8926	上	949 構	0.68	0.05		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	ヤブツバキ
8927		949 構													ハンノキ
8928		949 構						○		×	×	×	×	芯去、分割 (3分の1程度)	アカメガシワ
8929		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太	ヤナギ属
8930	上	949 構	1.37	0.05	○	○	○			×	○	×	×	芯持丸太? 杭 部分的に割材?	ヤマグワ
8932		949 構													ヤマグワ
8933	上	949 構	0.6	0.08		○		○		×	×	×	×	周辺部 (板目風の木取り) 杭列2	樹皮
8934		949 構													カエデ属
8935		949 構													カエデ属
8936	上	949 構	1.49	0.055		○		○		×	○?	×	×	芯持丸太 杭	カツラ
8937		949 構													タブノキ
8938		949 構						○		×	×	×	×	あまり大きくない木の外縁?	カツラ
8939		949 構													ヤマグワ
8940		949 構													カエデ属
8941		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太	ヤブツバキ
8942		949 構													カエデ属
8943		949 構													カエデ属
8944		949 構													カエデ属
8945	上	949 構	0.92	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太? 杭 杭列2	カエデ属
8946	上	949 構	0.97	0.054		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 年輪磨滅でやや切れる 杭列2	カエデ属
8947	上	949 構	0.62	0.03		○				×	○?	×	×	枝の曲がり部分も利用 芯持丸太 半分ほどに割る? (部分的) 杭 杭列2	カエデ属
8948	上	949 構	0.85	0.06		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列2	カエデ属
8955		949 構						○		×	×	×	×	芯抜け、分割 (3分の1程度?)、板目	クリ
8956	上	949 構	1.21	0.08		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 先端加工 杭	カエデ属
8957	上	949 構	0.76	0.14		○		○?		○	○	×	×	芯一部あり 断面半円	トチノキ
8958		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太	カエデ属
8959	上	949 構	0.89	0.13		○		○		○	×	×	×	割材 約半分 芯あり (先端部分はぬける)	カツラ
8960		949 構													カエデ属
8961		949 構													カエデ属
8962		949 構													カエデ属
8963		949 構													ヤナギ属
8964		949 構													スギ
8965		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太、やや扁平なのは土圧の影響か?	イイギリ
8966		949 構													ヤマウルシ
8967		949 構						○		×	×	×	×	芯去、分割、放射状分割?	エノキ
8968		949 構													カエデ属
8969		949 構													ヤマウルシ
8970		949 構						○		×	×	×	×	枝部分	カエデ属
8975	中	949 構	1.13	0.09		○	○			○	×	×	×	枝の根元。人為的な切断・加工痕は無し。先端尖るが、杭の可能性は低い	エノキ
8993	上	949 構	0.69	0.048		○	○			○	×	×	×	芯持ち	カエデ属
8994	上	949 構	0.57	0.04		○	○	○		×	○	×	×	芯持ち 断面半円状	ムクロジ
8995	上	949 構	0.79	0.08		○	○			×	×	×	×	枝か根の部分? 芯持ち 杭列2	ヤブツバキ
8996		949 構													スギ
8997		949 構													ヤナギ属
8999	上	949 構	2.85	0.12		○		○		×	○?	×	×	3分の2程度残存	カツラ
9002	上	949 構	1.064	0.058		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭	タブノキ
9005	上	949 構	1.123	0.05		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 磨滅で不明瞭 杭列5	カエデ属
9006	上	949 構	0.58	0.04		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭 磨滅 欠端?	ヤブツバキ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層 位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
9007	上	949 構	1.645	0.053		○		○		×	○	×	×	割材 (芯あり) 杭	ヤブツバキ
9008		949 構													カエデ属
9009		949 構													クリ
9010	上	949 構	0.335	0.057		○		○		×	×	×	×	割材? 新欠? 磨滅強 芯持ち?	不明
9011		949 構													カエデ属
9012		949 構													カエデ属
9013		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太	カツラ
9014	上	949 構	1.565	0.08		○		○		×	×	×	×	芯去 半割に近い?	タラノキ
9015		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太	カツラ
9016		949 構						○		×	○?	×	×	芯持丸太、杭状? つる植物が巻き ついていた痕あり	カエデ属
9017	上	949 構	0.57	0.07		○	○			×	×	×	×	断面楕円 芯持ち 杭列 2	ヤブツバキ
9018	上	949 構	0.86	0.084		○		○		×	○?	×	×	割材 芯持ち (ほぼ半~1/3) 杭	ムクノキ
9019	上	949 構	0.825	0.037		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭 摩滅 芯寄り	ヤブツバキ
9020	上	949 構	2.95	0.18		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太	カツラ
9021	上	949 構	1.98	0.08		○		○		○?	○?	×	×	芯去 4分の1~3分の1 残存 (部 分的?)。放射状分割?	ヤマグワ
9022	上	949 構	0.545	0.047		○	○			×	×	×	×	芯持丸太? 途中から割れてい る? 端欠	ムクノキ
9023	上	949 構	1.78	0.2		○		○		×	○?	×	×		トチノキ
9024	上	949 構	2.42	0.27	○		○			×	○	×	×	二股	ムクロジ
9025	上	949 構	0.745	0.08		○		○		×	○?	×	×	割材 芯持ち 1/3 くらい 杭	エノキ
9026		949 構						○		×	○	×	×	割材、板目	ムクロジ
9027		949 構													タブノキ
9028	上	949 構	0.9	0.065		○		○		×	×	×	×	割材 芯去半割 杭	クリ
9029		949 構													カエデ属
9030		949 構													ヤマウルシ
9031		949 構													カツラ
9032		949 構													イヌマキ
9033	上	949 構	0.538	0.055		○		○		×	○?	×	×	芯持ち割材か? 一部ケズレ? 杭 杭列 10	ヤマウルシ
9034		949 構													スギ
9035	上	949 構	0.81	0.08		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 2	ヤブツバキ
9036		949 構						○		○	○?	×	×	分割 (2分の1程度)、杭状	ヤナギ属
9037		949 構													カヤ
9038		949 構						○		×	×	×	×	芯去、周辺部 4分の1 ほど残存	カエデ属
9039		949 構						○		×	○?	×	×	芯持丸太	カエデ属
9040	上	949 構	0.57	0.02		○		○		×	○	×	×	先端尖り	スギ
9041		949 構													ケヤキ
9042	上	949 構	0.95	0.048		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭	アカガシ亜属
9043		949 構													シイノキ
9044		949 構													カエデ属
9045		949 構													カエデ属
9046		949 構													カエデ属
9047		949 構													カエデ属
9048		949 構													フジ属
9049		949 構													ヤナギ属
9050	上	949 構	0.76	0.06		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 杭列 5	カツラ
9051	上	949 構	0.73	0.05	○		○							枝分かれ部分有り 芯持ち	イヌザンショウ
9052		949 構													ヤナギ属
9053	上	949 構	0.45	0.09	?		○			×	×	×	×	芯持ち 幹から枝の部分?	アカガシ亜属
9055		949 構						○		×	○?	×	×	分割 (3分の1程度)、杭	カエデ属
9056	上	949 構	0.563	0.03		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭	エノキ
9057		949 構													ムクノキ
9058	上	949 構	1.04	0.1		○	○			×	○?	×	×	芯持ち 加工?	カエデ属
9059		949 構													アカガシ亜属
9060		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太、土圧で扁平	カエデ属
9061		949 構													カエデ属

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層 位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
9062		949 構						○		×	×	×	×	芯去、3分の1ほど残存、磨滅	カエデ属
9063		949 構													ヤナギ属
9064		949 構						○		×	○?	×	×	杭状、加工ほとんどなし	カエデ属
9065		949 構													カエデ属
9066		949 構						○		×	○	×	×	枝の根元部分、杭としてサンプルあげ	ニワトコ
9067	上	949 構	1.075	0.08		○		○		×	×	×	×	割材 芯持ち 半割 杭 杭列4	シイノキ
9068	上	949 構	1.109	0.047		○	○			×	○	×	×	芯持丸太? 杭 二股部分	クリ
9069		949 構													ヤナギ属
9070	上	949 構	0.67	0.06		○	○			×	×	×	×	芯持ち 杭	ヤナギ属
9071	上	949 構	0.58	0.035		○	○			○	×	×	×	根部分か?	アカガシ亜属
9073		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太、枝部分? 杭列4	サルナシ
9074		949 構						○?		×	○	×	×	分割の可能性	カエデ属
9075	上	949 構	1.02	0.045		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太 やや寄り磨滅? 二股部分 杭	カエデ属
9076		949 構						○		×	×	×	×	芯去、大径木の辺材の一部か	ムクロジ
9077	上	949 構	0.56	0.05		○	○			×	×	×	×	芯持丸太	カエデ属
9078		949 構						○		×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	ヤナギ属
9079		949 構						○		×	○	×	×	芯持丸太、枝部分? 杭状に加工	スギ
9080		949 構						○		×	×	×	×	割材、板目	カエデ属
9081		949 構						○		×	×	×	×	枝部分	カエデ属
9082		949 構													カエデ属
9083		949 構													カエデ属
9084		949 構						○		×	×	×	×	元は芯持丸太が磨滅か。枝部分?	カエデ属
9085	上	949 構	0.415	0.05		○		○		×	×	×	×	板目 割材 芯去? 端部欠損磨滅	カエデ属
9086		949 構													フジ属
9087		949 構						○		×	○?	×	×	芯あり、分割、直径10~15cmの木の一部、先端加工か	アカメガシワ
9088	上	949 構	0.79	0.06		○		○		×	×	○	×	磨滅のため加工不明 割材 芯持ち半割 一部被熱	アカガシ亜属
9089	上	949 構	0.37	0.034		○	○?			○	×	×	×	芯持丸太? 復元不能 先端不明	カエデ属
9090		949 構						○		×	×	×	×		カエデ属
9091		949 構													エノキ
9092		949 構						○?		×	×	×	×	芯去、半分ほど残存	ムクノキ
9093	上	949 構	5.56	0.31		○	○		○	×	○?	×	×	芯持丸太、先端杭状に加工? 加工痕はなし	カエデ属
9094		949 構													スギ
9095	上	949 構	4.61	0.08		○		○		×	○?	×	×	トレンチで切断、何分割かしてあるものが磨滅?	ヤマグワ
9096	上	949 構	2.21	0.43		○		○		×	×	×	×		ニワトコ
9097	上	949 構	2.62	0.25		○	○			×	○?	×	×		ヤナギ属
9098	上	949 構	0.925	0.04		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭	カエデ属
9099		949 構						○?		×	○?	×	×	周辺部に抜けあり、割っている面付近がやや丸くなるのは磨滅か? 周囲の傷には古いものもある可能性	トチノキ
9100		949 構													カエデ属
9104	上	949 構	0.88	0.055		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 芯寄り 磨滅	ヤマグワ
9106		949 構													ムクノキ
9107		949 構													カツラ
9108	上	949 構	0.92	0.09		○		○		×	○	×	×	芯去 断面は板状~三角?	アカガシ亜属
9109	上	949 構	0.646	0.05		○		○		×	○	×	×	芯持ち割材 杭 杭列3	カヤ
9110		949 構													ヤブツバキ
9111		949 構													ヤマウルシ
9112		949 構													カエデ属
9113		949 構													カエデ属
9114		949 構						○		○	×	×	×	樹皮	樹皮
9115		949 構													ヤマグワ
9116		949 構													ヤナギ属
9117		949 構													アカメガシワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層 位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
9118	上	949 構	0.51	0.06		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 先端加工 杭 杭列3	カツラ
9119	上	949 構	0.6	0.07		○	○			×	○	×	×	断面半円 杭列3	ヤマグワ
9120	上	949 構	0.56	0.064		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列3	シノキ
9121		949 構													ヤマグワ
9122	上	949 構	0.75	0.054		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列3	イヌザンショウ
9123	上	949 構	0.735	0.047		○	○			×	○?	×	×	芯持丸太 杭 先端折れ(磨減か?) 杭列3	ムクノキ
9124		949 構						○		×	×	×	×	割れたものか	トチノキ
9125		949 構													カエデ属
9126	上	949 構	0.685	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列3	ハンノキ
9127	上	949 構	0.56	0.042		○	○			×	○	×	×	杭 芯持丸太 杭列3	アカガシ亜属
9128		949 構													タラノキ
9129	上	949 構	2.91	0.15		○	○			×	○?	×	×	芯抜け	ケヤキ
9133		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分	カエデ属
9134		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、芯寄り、人為的な分割の可能性	ヤナギ属
9135		949 構													ヤマグワ
9136		949 構					○			×	×	×	×	芯持ち、3分の1ほど残存、分割?	トチノキ
9138		949 構						○?		×	×	×	×	芯あり、2分の1程度に分割、土圧によりやや扁平	カエデ属
9139		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分、周辺部やや磨減	カヤ
9140		949 構						○		×	×	×	×	芯あり、辺材あり、2分の1程度?	カエデ属
9141		949 構													オニグルミ
9142		949 構													カエデ属
9143		949 構													エゴノキ
9144		949 構						○		×	×	×	×	芯去、2分の1程度	カツラ
9145		949 構													ムクロジ
9146		949 構													ブナ科(不明)
9147	上	949 構	0.56	0.1		○	○?			○	×	×	×	芯持丸太? 端欠損	カエデ属
9148		949 構													ヤナギ属
9149		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝二股部分?	カエデ属
9150		949 構													カエデ属
9151		949 構					○			○?	×	×	×	芯持丸太、枝部分、樹皮?	ケヤキ
9152		949 構													ケヤキ
9153	上	949 構	0.52	0.045		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 一部年輪切れるまたは磨減か?	ヤナギ属
9154	上	949 構	0.69	0.035		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭 やや芯寄り(磨減?)	カエデ属
9155		949 構													不明
9156		949 構						○		×	○	×	×	芯去、周辺? 割ったものの先端尖らせる。杭	ムクロジ
9157		949 構													ヤナギ属
9158		949 構													カエデ属
9159		949 構													アカガシ亜属
9160		949 構													スギ
9161		949 構						○		×	×	○	×	先端が被熱、芯あり、2分の1程度	ケヤキ
9162	上	949 構	1.42	0.19		○	○			○	×	×	×	949 構造物最下部、下面に樹皮残存	カツラ
9168		949 構													ヤマグワ
9169		949 構													アカガシ亜属
9170		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分?	ヤナギ属
9171		949 構													カヤ
9172		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太	ムクノキ
9173		949 構													アカガシ亜属
9181	中	949 構	0.77	0.055		○	○?			×	○	×	×	芯寄り 割材? 杭 磨減強	不明
9182		949 構													カエデ属
9183	中	949 構	0.66	0.04		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 杭 端欠	不明
9184		949 構					○			×	○	×	×	芯持丸太 枝部分、先端加工あり、杭?	ヤマグワ

第V章 本高弓ノ木遺跡出土木質遺物の樹種からみた古植生とその利用

取上 No	層位	出土 位置	長さ (m)	径・幅 (m)	枝		断面			樹皮	加工	被熱	抉り	備考	樹種
					有	無	丸	割	角						
9185	上	949 構	0.84	0.045		○	○			×	×	×	×	芯持丸太 杭 杭列 5	サカキ
9186	上	949 構	0.825	0.048		○		?		○	×	×	×	割材 (ほぼ半割) 杭列 5	タブノキ
9187		949 構													カエデ属
9188		949 構					○			×	×	×	×	芯持丸太、枝部分? やや扁平なのは土圧の影響か	トチノキ
9204	上	949 構	0.895	0.16		○		○		×	×	×	×	割材 芯持ち 磨減で加工不明	カエデ属
9205	上	949 構	0.701	0.055		○	○			×	○	×	×	芯持丸太? 杭 磨減強	カエデ属
9211	中	949 構	3.21	0.22	○		○			×	○	×	×		シラキ
9215		949 構													不明
9221	上	949 構	0.395	0.054		○	○			×	○	×	×	芯持丸太 杭 杭列 6	エノキ
9222		949 構													シイノキ
9223		949 構													ハルニレ
9225	上	949 構	0.725	0.11		○		○		○	×	×	×	半割 (掘削時?) 杭?	エノキ
9226		949 構													シイノキ
9227		949 構													ヤブツバキ
9234	上	949 構	1.125	0.048		○	○			○	○	×	×	芯持丸太 杭 やや芯寄り (磨減?)	ヤブツバキ
9244	上	949 構	0.71	0.048		○	○			○	×	×	×	芯持丸太 杭 磨減 杭列 6	エゴノキ

第4区掲載木器観察表

報告書掲載 番号	取上No	出土位置			器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構				長さ	幅	高さ	径		
第Ⅲ-1-1図1	23	3C-2i	第3-1-2a層		部材	棒状	芯去	43.3	4.9	2.9	-	ヒノキ	
第Ⅲ-1-1図2	214	4C-4i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	底板?	板材	追柁目	46.5	22.4	2.4	-	スギ	
第Ⅲ-1-1図3	187	4C-4i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	棒状製品	棒状	芯さり	60.2	2.3	1.7	-	スギ	
第Ⅲ-1-1図4	219	4C-4i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	矢板	板材	追柁目	156	13.6	1.7	-	スギ	
第Ⅲ-1-1図5	166	4C-4i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	矢板	板材	板目	97.3	13.5	4.5	-	スギ	
第Ⅲ-1-2図6	165	4C-4i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	部材	板材	柁目	43	4.3	2.1	-	スギ	
第Ⅲ-1-2図7	161	4C-4i・5i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	板材	板材	板目	48.2	3.6	1.2	-	スギ	
第Ⅲ-1-2図8	216	4C-5i	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	8溝	部材?	板材	板目	46.9	9.1	1.7	-	スギ	
第Ⅲ-1-2図9	152	4C-4h	第3-1-2a層下面 (上部遺構)	9溝	両頭製品	板材	柁目	81.3	7.1	4.3	-	スギ	
第Ⅲ-1-3図1	288	4C-4i	第3-1-2a層下面 (下部遺構)	40溝	部材	板材	追柁目	85.8	15.6	2.9	-	スギ	
第Ⅲ-1-4図2	291-①②	4C-5i	第3-2a層下面	40溝	丸木船?	分割材	平行分割	196.5	60.9	10.5	-	ムクノキ	半裁した割材 をくりぬいて 製作

第5区掲載木器観察表

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量(最大cm)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-1-1図1	892	4C-9i	第2a層～ 第3a層			部材	板材	柁目	17.2	4.2	1.2		アカガシ 亜属	
第IV-1-1図2	1055	5D-1a	第2a層～ 第3a層			矢板	板材	柁目	115.1	15.2	1.8		スギ	
第IV-1-1図3	2118	4C-7i	第2a層～ 第3a層			矢板	板材	板目	134.2	18.5	4.5		スギ	
第IV-1-2図4	2101	4C-7i	第2a層～ 第3a層			杭	角材	板目	88.2	5.7	5.5		スギ	
第IV-1-2図5	2247	4C-7i	第2a層～ 第3a層			杭	板材	板目	45	6.5	3.3		スギ	
第IV-1-2図6	891	4C-8j	第2a層～ 第3a層			杭	板材	板目	43.2	4	2.9		スギ	
第IV-1-2図7	814	4C-10j	第2a層～ 第3a層			杭	板材	板目	35	3.8	2.1		スギ	
第IV-1-2図8	1220-1	4C-8i	第2a層～ 第3a層			杭	板材	板目	22.6	2.6	1.3		スギ	
第IV-2-1図1	763	4C-10j	第3a層			有孔板材	板材	追柁目	30.8	12.3	1.7		スギ	
第IV-2-1図2	2009	4D-10a	第3-1a層			矢板	板材	板目	141.5	4.5	2.2		スギ	
第IV-2-1図3	2714	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	113.7	6.6	3.6		スギ	
第IV-2-1図4	2706	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	86	4.7	4.2		スギ	
第IV-2-1図5	2693	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	106.6	5.6	3.4		スギ	
第IV-2-1図6	2692	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	87	5.5	3.5		スギ	
第IV-2-1図7	2713	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	54.4	5.1	2.7		スギ	
第IV-2-1図8	2695	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	角材	68	5.2	5		スギ	
第IV-2-1図9	2694	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	75	5	4.4		スギ	
第IV-2-2図10	2699	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	57	4.6	4.3		スギ	
第IV-2-2図11	2700	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	54.3	8	3.7		スギ	
第IV-2-2図12	2718	4C-10j	第3-1 a層			杭	分割材	放射状 分割	77.5	9	6.1		スギ	
第IV-2-3図13	2715	4C-10j	第3-1 a層			矢板	板材	板目	108.5	8.7	3.6		スギ	有孔
第IV-2-3図14	2624	4C-10j	第3-1 a層			板状製品	板材	柁目	130.3	4.5	2.5		スギ	
第IV-2-3図15	2620	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	71	4.5	4.5		スギ	
第IV-2-3図16	2629	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	78.1	3.9	3.9		スギ	
第IV-2-3図17	2621	4C-10j	第3-1 a層			杭	角材	芯去	43	4.6	2.8		スギ	
第IV-3図1	2880	5D-10d		1溝		有孔板材	板材	板目	70	12.4	2.6		スギ	
第IV-3図2	532	4D-8b		1溝		椀	割材	横木取 り	(残存高) 2.9			(底径) 7.7	ケヤキ	外面黒色塗 料付着
第IV-4-1図1	2121	4C-9i		6溝		田下駄	板材	板目	35.8	9.6	2.2		スギ	
第IV-4-1図2	2012	4D-10a		6溝		田下駄	板材	追柁目	37.2	10	1.7		スギ	
第IV-4-1図3	2007	4D-10a		6溝		板状製品	板材	柁目	80.4	21.2	5		スギ	
第IV-4-1図4	2500	4D-9a		6溝		板状製品	板材	柁目	80.6	4.3	2.7		スギ	
第IV-4-1図5	1468-1	4C-9j		6溝		杭?	丸太	芯持ち	246.4			11.6	ヤナギ属	
第IV-4-2図	2355	4C-10j		209 土坑		部材	板材	板目	61.4	5.4	1.8		スギ	
第IV-4-3図1	6439	4D-10a		664 構造物		田下駄	板材	板目	51	15.4	2.2		スギ	
第IV-4-3図2	6446	4C-10j		664 構造物		田下駄	板材	板目	55.5	17	2.5		スギ	
第IV-4-3図3	6535	4C-10j		664 構造物		杭	角材	芯去	112.4	4.4	4		スギ	
第IV-4-3図4	6603	4D-10a		664 構造物		杭	丸太	芯去	61.4			4.4	スギ	
第IV-4-3図5	6524	4C-10j		664 構造物		矢板	板材	板目	137.9	7	4.1		スギ	
第IV-4-3図6	6609	4D-10a		664 構造物		矢板	板材	板目	57.6	6.8	3.85		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-4-3図7	6613	4D-10a		664 構造物		矢板	板材	板目	55.3	6.5	3.75		スギ	
第IV-4-4図8	6494	4C-10j		664 構造物		矢板	板材	板目	66.2	14.9	4.8		スギ	
第IV-4-5図1	1185	4C-7i		2溝	上部 構造物	田下駄	板材	板目	43	14	1.3		スギ	
第IV-4-5図2	1179	4C-7i		2溝	上部 構造物	田下駄	板材	追柁目	39.8	13.9	1.8		スギ	
第IV-4-5図3	1705	4C-10j		2溝	上部 構造物	田下駄	板材	追柁目	37.2	9.5	1.9		スギ	
第IV-4-5図4	1616	4C-7i		2溝	上部 構造物	田下駄	板材	板目	44.5	9.4	2.1		スギ	
第IV-4-5図5	1664	4C-7i		2溝	上部 構造物	不明製品	板材	板目	14.9	27.7	3.3		スギ	机脚? 田下駄?
第IV-4-5図6	1663	4C-7i		2溝	上部 構造物	有頭製品	板材	板目	30.3	3.3	1.1		スギ	
第IV-4-6図7	968	4C-7i		2溝	上部 構造物	建築部材	板材	板目	203	23	4.3		スギ	
第IV-4-6図8	967	4C-7i		2溝	上部 構造物	有孔板材	板材	追柁目	152.2	23.4	4.6		スギ	建築部材?
第IV-4-6図9	1622	4C-7i		2溝	上部 構造物	有孔板材	板材	板目	60	9.2	3		スギ	建築部材?
第IV-4-7図10	1625	4C-7i		2溝	上部 構造物	有孔板材	板材	柁目	36	8.5	2.5		スギ	建築部材?
第IV-4-7図11	1175	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	100	11.6	5		スギ	有孔 転用品
第IV-4-7図12	1001	4C-7j		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	124	10.3	5.4		スギ	有孔 転用品
第IV-4-7図13	1006	4C-7j		2溝	上部 構造物	杭	丸太	芯持ち	141.5			9.4	スギ	
第IV-4-7図14	1630	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	43.8	4.5	2.5		スギ	
第IV-4-8図15	960	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	151.8	16.4	5.3		スギ	
第IV-4-8図16	964	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	139	16.9	4.7		スギ	
第IV-4-9図17	961	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	101.8	14.5	4.6		スギ	
第IV-4-9図18	962	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	115.8	16.2	6.7		スギ	
第IV-4-9図19	965	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	140.5	14.5	5.5		スギ	
第IV-4-10図20	966	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	108.4	17.7	5.1		スギ	
第IV-4-10図21	969	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	87	14.5	3.8		スギ	
第IV-4-10図22	1190	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	81.4	5.8	2.1		スギ	欠き込みあり 転用品
第IV-4-10図23	1187	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	74.3	5.4	3.6		スギ	分割材の可 能性あり
第IV-4-10図24	989	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	55	7	2.4		スギ	欠き込みあり 転用品
第IV-4-10図25	988	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	59.4	6.4	2.9		スギ	
第IV-4-10図26	984	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	板材	板目	46.1	4.3	2.2		スギ	
第IV-4-10図27	1192	4C-7i		2溝	上部 構造物	矢板	角材	芯去	29	6.3	4.5		スギ	
第IV-5-1図1	1262	6D-3e		2溝		田下駄	板材	柁目	31	11.3	18.6		スギ	
第IV-5-1図2	1594	5D-9d		2溝		田下駄	板材	板目	44.7	14.6	1.1		スギ	
第IV-5-1図3	2662	5D-5c		2溝		田下駄	板材	板目	24	16.2	1.8		スギ	
第IV-5-1図4	1295	4C-8j		2溝		田下駄	板材	板目	38	17	3.3		スギ	
第IV-5-1図5	1497	5D-1a		2溝		田下駄	板材	追柁目	33	17	2.4		スギ	転用品

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-5-2図6	7386	5C-1j		2溝		鋤状木製品	板材	板目	34.1	18	1.7		スギ	
第IV-5-2図7	1874	5D-2a		2溝		槽	分割材	横木取り	47	8.5	5.5		スギ	
第IV-5-2図8	1447	4C-8j		2溝		有頭製品	板材	板目	22	3.3	1.3		スギ	
第IV-5-2図9	1284	4C-7i		2溝		有頭製品	板材	板目	19.5	2.7	1.7		スギ	
第IV-5-3図10	6050	5D-5d		2溝		不明製品	板材	板目	16.4	15	2.7		スギ	表面焦げあり
第IV-5-4図11	866	6D-4e		2溝		柱材	丸太材	芯持ち	298.6			11.6	ヒノキ	
第IV-5-4図12	1840	5D-2b	中層砂層	2溝		柱材	丸太材	芯持ち	91.6	9	7.3		イヌマキ	裏面焦げ
第IV-5-4図13	2044	4C-7i	中層砂層	2溝		柱材	板材	追榫目	60.1	6.8	4		スギ	
第IV-5-4図14	6007	4C-9j		2溝		柱材	板材	板目	42	6.3	1.8		スギ	
第IV-5-4図15	2127	5D-2b	中層砂層	2溝		柱材	角材	芯去	72.4	10.2	8		スギ	
第IV-5-5図16	1147	6D-2e	中層砂層	2溝		梁・根太	板材	板目	135.5	5	3		スギ	
第IV-5-5図17	2660	5D-5c	中層砂層	2溝		梁・根太	板材	榫目	120.5	5.1	3.4		スギ	
第IV-5-5図18	1086	5D-10e・ 6D-1e	中層砂層	2溝		垂木	角材	芯去	51.2	5.6	4.5		スギ	
第IV-5-5図19	1263	6D-3e	中層砂層	2溝		垂木?	角材	芯持ち	26.8	4.5	3.4		カヤ	
第IV-5-5図20	6198	5D-3c		2溝		小舞	角材	芯去	127.3	2.4	2.3		スギ	
第IV-5-6図21	1128	6D-3e	中層砂層	2溝		有頭製品	丸太材	芯持ち	227.6			6.5	スギ	
第IV-5-6図22	6141	5D-4c		2溝		有頭製品 (両頭)	丸太材	芯持ち	245			7.1	ニヨウマ ツ	
第IV-5-6図23	6434	4C-10j		2溝		有頭製品	丸太材	芯持ち	169.4			5.3	スギ	
第IV-5-6図24	1560	5D-1a		2溝		有頭製品 (両頭)	丸太材	芯持ち	60	7.2	6.3		スギ	建築部材?
第IV-5-7図25	1844	5D-2b	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	板目	216.9	22.6	3.5		スギ	建築部材?
第IV-5-7図26	928	6D-3e	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	板目	298.6			11.6	スギ	建築部材?
第IV-5-7図27	1503	5D-1a		2溝		有孔板材	板材	板目	127	15.7	3		スギ	建築部材?
第IV-5-7図28	2100	5D-2b	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	追榫目	39.5	11	1.5		スギ	建築部材?
第IV-5-8図29	1872	5D-2a・ 2b	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	板目	333	13.6	5		スギ	建築部材?
第IV-5-8図30	1887	5D-3b		2溝		有孔板材	板材	板目	296	25.5	12		スギ	建築部材?
第IV-5-8図31	2278	4C-7i	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	榫目	69.5	14.5	3.5		スギ	焦げあり 建築部材?
第IV-5-8図32	1512	5D-1a		2溝		有孔板材	板材	板目	79.2	8	1.3		スギ	建築部材?
第IV-5-8図33	2815	5D-1c	中層砂層	2溝		有孔板材	板材	板目	137.7	21.9	2.2		スギ	建築部材?
第IV-5-9図34	2270	4C-8j	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	311	8.6	4.5		スギ	転用品
第IV-5-9図35	6261	4C-8j		2溝		矢板	板材	板目	146.9	4.1	2.2		スギ	転用品
第IV-5-9図36	2268	4C-8j	中層砂層	2溝		杭	角材	芯去	160.5	6.4	4.9		スギ	転用品
第IV-5-10図37	2680	5D-4c		2溝		杭	角材	芯去	164.4	4.2	3.8		スギ	転用品?
第IV-5-10図38	2672	5D-4c		2溝		杭	角材	芯去	132.4	4	3.4		スギ	転用品
第IV-5-10図39	2301	4C-8j	中層砂層	2溝		杭	丸太材	芯持ち	132.6			3.2	スギ	
第IV-5-11図40	2021-1	4C-7i	中層砂層	2溝		杭	丸太材	芯去	134.4			6.4	スギ	
第IV-5-11図41	2937	5D-9d		2溝		杭	丸太材	芯去	41.8			4.6	サカキ	
第IV-5-11図42	922	6D-2e	中層砂層	2溝		杭	丸太材	芯去	52	1.6	1.5		スギ	
第IV-5-11図43	1448	4C-8j		2溝		杭	分割材	放射状 分割	99.6	9.9	5.2		スギ	
第IV-5-11図44	2276	4C-8j	中層砂層	2溝		杭	角材	芯去	83.5	4.5	3.3		スギ	
第IV-5-12図45	1288	5D-6d	中層砂層	2溝		杭	角材	芯去	105	4	3.6		スギ	焦げあり
第IV-5-12図46	861	6D-1e	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	103.5	5.4	3.1		スギ	
第IV-5-12図47	1502	5D-1a	中層砂層	2溝		矢板	板材	追榫目	80.1	5.8	3.2		スギ	
第IV-5-12図48	1039	6D-2e	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	158.8	8.5	4.2		スギ	
第IV-5-12図49	1836	5D-2b	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	92.3	4.8	3.6		スギ	
第IV-5-12図50	6349	4C-9j		2溝		矢板	板材	板目	60.2	5.9	3.2		スギ	
第IV-5-13図51	6322	4C-9j		2溝		矢板	板材	追榫目	75.1	2.9	1.2		スギ	
第IV-5-13図52	6136	5D-4c		2溝		矢板	板材	板目	135.9	7.6	3.2		スギ	
第IV-5-13図53	1885	5D-3b		2溝		矢板	板材	板目	155.7	9.4	5.3		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-5-13図54	2671	5D-5c	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	113.5	7.5	4.9		スギ	
第IV-5-14図55	2512	4C-8i		2溝		矢板	板材	板目	84.5	9.1	2.9		スギ	
第IV-5-14図56	1098	6D-3e	中層砂層	2溝		矢板	板材	板目	26.5	6.7	1.5		スギ	転用品
第IV-5-14図57	1100	6D-3e	中層砂層	2溝		矢板	板材	追衤目	131.5	27	2.4		スギ	
第IV-5-14図58	2528	4C-8i		2溝		矢板	板材	板目	75.5	11	3.5		スギ	
第IV-5-14図59	2578	4C-6i		2溝		矢板	板材	板目	16.3	13.5	3.5		スギ	楔?
第IV-5-15図60	2442	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭2)	杭	丸太材	芯去	82.9	3.5	2.9		スギ	
第IV-5-15図61	2457	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭4)	矢板	板材	衤目	91.8	4.7	3.3		スギ	
第IV-5-15図62	2458	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭5)	矢板	板材	板目	186	8	4		スギ	穿孔跡あり。 転用品
第IV-5-16図63	2441	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭1)	杭	角材	芯去	116	4.4	3.9		スギ	
第IV-5-16図64	2456	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭3)	杭	分割材	放射状 分割	105	12.8	6		スギ	
第IV-5-16図65	2479	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭6)	杭	分割材	放射状 分割	117.8	8.1	7		スギ	
第IV-5-16図66	2480	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭7)	杭	分割材	放射状 分割	125.6	10.8	4.9		スギ	
第IV-5-16図67	2481	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭8)	杭	分割材	放射状 分割	106.1	7.4	6.4		スギ	
第IV-5-17図68	2559	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭10)	杭	分割材	放射状 分割	129	9	7		スギ	
第IV-5-17図69	2560	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭11)	杭	分割材	放射状 分割	122.8	10.5	6		スギ	
第IV-5-17図70	2561	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭12)	杭	分割材	放射状 分割	128.2	9.1	8.9		スギ	
第IV-5-17図71	2562	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭13)	杭	分割材	放射状 分割	126.5	12	8.5		スギ	
第IV-5-17図72	2563	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭14)	杭	分割材	放射状 分割	119	10	6		スギ	
第IV-5-18図73	2564	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭15)	杭	分割材	放射状 分割	119.2	9.4	6.6		スギ	
第IV-5-18図74	2565	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭16)	杭	分割材	放射状 分割	120.5	10.5	8		スギ	
第IV-5-18図75	2566	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭17)	杭	分割材	放射状 分割	120	11.1	6.9		ヒノキ	
第IV-5-18図76	2567	6D-4e		2溝	溝内杭列1 (杭18)	杭	分割材	放射状 分割	131	8	7.6		スギ	
第IV-5-19図1	766	6D-6e		4落ち込み		田下駄	板材	衤目	43.9	9	1.9		スギ	
第IV-5-19図2	5735	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物 25 材Y	田下駄	板材	板目	20.7	7.4	1.1		スギ	転用品
第IV-5-19図3	1358	6D-6e	中層砂層	4落ち込み		鋤状木製 品	板材	板目	32.4	11	13		スギ	
第IV-5-19図4	1242	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		大足	板材	板目・ 衤目	55	49.8	4.1		スギ	部品それぞれ で板目・ 衤目がある
第IV-5-19図5	1873	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		大足	板材	板目	61.1	6.6	1.4		スギ	
第IV-5-20図6	5342	6D-5e		4落ち込み	北側石積み 下部材B	掛矢	丸太材	芯持ち	41.6	13.2	10.7		ニヨウマ ツ	
第IV-5-20図7	3237	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 材A	掛矢	丸太材	芯持ち	63.9	15.5	9.4		ヤブツバ キ	
第IV-5-20図8	5610	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材P	腰掛脚	板材	板目	27.4	17.2	1.8		スギ	
第IV-5-20図9	4197	6D-5e		4落ち込み		腰掛脚	板材	板目	21.5	2.8	1.1		スギ	
第IV-5-20図10	5058	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物27 材A	火きり板	板材	板目	21.5	2.8	1.1		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量(最大c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	高さ	径		
第IV-5-20図11	4732	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 材G	火きり板	板材	板目	33.2	2.2	1		スギ	
第IV-5-21図12	1353	6D-6d	底面	4落ち込み		槽	分割材	横木取り	45.5	17.2	1.3		スギ	
第IV-5-21図13	5543	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 木19	槽	分割材	横木取り	84.4	27.7	4		スギ	
第IV-5-21図14	1351	6D-6d	底面	4落ち込み		白	分割材	縦木取り	(残存高) 19.3			(口径) 48.7	ヤナギ属	
第IV-5-22図15	1352	6D-6d	底面	4落ち込み		白	分割材	縦木取り	(器高) 55.9			(口径) 48. (脚部径) 40.0	ヤナギ属	
第IV-5-23図16	1362	6D-6d	底面	4落ち込み		鳥形木製 品	角材	芯去	18.3	3.8	3.4		スギ	
第IV-5-23図17	5343	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物27 材2B	不明製品	板材	板目	42.2	13.8	2.4		スギ	腰掛脚?
第IV-5-23図18	5807	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物29 材D	不明製品	板材	追柁目	28.8	3.1	1.2		スギ	
第IV-5-23図19	5670	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材T	不明製品	板材	追柁目	28.2	3.1	1.2		スギ	
第IV-5-23図20	5738	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物29 材A	不明製品	板材	板目	28	3.4	1.3		スギ	
第IV-5-23図21	5706	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材U	不明製品	板材	板目	31.5	2.3	1.2		スギ	
第IV-5-24図22	5457	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 杭15	不明製品	板材	板目	93.9	5.4	2.6		スギ	
第IV-5-24図23	5609	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材O	不明製品	角材	芯去	59.8	3	2		スギ	
第IV-5-24図24	5551	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材G	不明製品	角材	芯去	45.8	2.1	1.9		スギ	
第IV-5-24図25	5550	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材F	不明製品	角材	芯去	45.3	2.8	1.6		スギ	
第IV-5-24図26	5523	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材E	不明製品	角材	芯去	44.8	2.8	1.5		スギ	
第IV-5-24図27	5590	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 材K	不明製品	角材	芯去	45.5	2.7	1.6		スギ	
第IV-5-24図28	1421	6D-6d	砂層 最下層	4落ち込み		不明製品	角材	芯去	59.1	2.9	2.1		カヤ	
第IV-5-24図29	5533	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 木10	不明製品	角材	芯去	41.2	2.6	1.5		スギ	
第IV-5-24図30	4440	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物20 材B	不明製品	板材	柁目	27.5	7.5	0.5		スギ	穿孔跡あり
第IV-5-24図31	1268	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		不明製品	板材	柁目	14.5	3.8	0.4		スギ	
第IV-5-24図32	915	6D-5e		4落ち込み	杭9	不明製品	板材	板目	30	3	1.1		スギ	
第IV-5-24図33	5304	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物27 材X	不明製品	板材	板目	45.5	5.3	1.2		スギ	
第IV-5-25図34	4653	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 材B	棒状製品	角材	芯去	73.5	1.4	1.1		スギ	
第IV-5-25図35	4653	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 材B	棒状製品	角材	芯去	70.2	1.35	1.05		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-5-25図36	4653	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 材B	棒状製品	角材	芯去	64.9	1.5	0.8		スギ	
第IV-5-25図37	1726-1	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		棒状製品	角材	芯去	56	1.2	0.9		スギ	
第IV-5-25図38	1726-1	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		棒状製品	角材	芯去	52	1.2	0.9		スギ	
第IV-5-25図39	1726-1	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		棒状製品	角材	芯去	43	1.2	0.9		スギ	
第IV-5-26図40	5835	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 横木2B	柱	丸太材	芯去	227.8	15.7	7.8		スギ	
第IV-5-26図41	4176	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物9 横木H	柱	丸太材	芯持ち	389.7	17.2	8.8		スギ	
第IV-5-26図42	3257	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 横木R	柱	丸太材	芯持ち	183.7			16.2	スギ	焦げあり
第IV-5-27図43	1322	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		柱	丸太材	芯持ち	252			9.5	ニヨウマツ	
第IV-5-27図44	5102	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物27 横木C	柱	丸太材	芯持ち	207.9	11.3	7.3		スギ	
第IV-5-27図45	3104	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物7 横木C	柱	丸太材	芯持ち	317.2			11.3	ニヨウマツ	2つに切断
第IV-5-27図46	3048	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物9 材B	建築部材	板材	板目	138.1	20.6	4.7		スギ	
第IV-5-27図47	4420	6D-5e・6e		4落ち込み	木製 構造物20 横木B	桁	板材	板目	408.2	10	4.6		スギ	
第IV-5-28図48	4418	6D-5e・6e		4落ち込み	木製 構造物20 横木B	垂木	角材	芯去	356.9	14.8	8.5		スギ	
第IV-5-28図49	1423	6D-6d	砂層 最下層	4落ち込み		梁・根太	板材	板目	233.9	8.2	5.2		スギ	
第IV-5-28図50	4171	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物9 横木G	梁・根太	角材	芯持ち	165.9	15.8	11		スギ	
第IV-5-28図51	4941	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物23 縦木A	梁・根太	丸太材	芯持ち	85.9	9.5	6.7		イヌマキ	
第IV-5-29図52	5095	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭25	梁・根太	板材	板目	167.5	9.5	6		ムクロジ	
第IV-5-30図53	4686	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物21 材B	建築部材 (壁板)	板材	板目	192.9	12.8	1.4		スギ	
第IV-5-30図54	5319	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物27 板18	建築部材 (壁板)	板材	板目	148.9	18.5	1.9		スギ	
第IV-5-30図55	5572	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 木33	建築部材 (壁板)	板材	板目	74.8	10.1	1.7		スギ	
第IV-5-30図56	1214	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		梯子	板材	追板目	60.7	11.4	4.3		スギ	
第IV-5-31図57	4888	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物24 横木B	有頭製品	丸太材	芯持ち	425.5	21.6	14.8		ゴヨウマ ツ	
第IV-5-31図58	5716	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 横木W	有頭製品	丸太材	芯持ち	183.7			16.2	ニヨウマ ツ	
第IV-5-31図59	4711	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物21 横木E	有頭製品	丸太材	芯持ち	131.4			17.1	ニヨウマ ツ	
第IV-5-31図60	4313	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物13 横木B	有頭製品	丸太材	芯持ち	394.5			14.3	ムクノキ	
第IV-5-31図61	1163	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		有頭製品	丸太材	芯持ち	174	7	5.5		イヌマキ	
第IV-5-32図62	1693	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		有頭製品	板材	板目	124.3	13.2	6.9		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量(最大cm)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-5-32図63	1258	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		有頭製品	板材	板目	103.3	5.9	3.3		スギ	
第IV-5-32図64	1265	6D-5d	中層砂層	4落ち込み		有頭製品	丸太材	芯去	31.5	17.6	1.2		スギ	
第IV-5-32図65	3215	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物3下 部 杭43	有頭製品	角材	芯去	95.6	4.3	2.8		ムクノキ	
第IV-5-33図66	4911	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物23 杭61	杭	丸太材	芯持ち	133.7	10.5	8.4		イヌマキ	転用品
第IV-5-34図67	5087	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭20	杭	丸太材	芯持ち	322.6	6	5.2		サカキ	有頭
第IV-5-34図68	5078	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭13	杭	丸太材	芯持ち	306.5	7.8	5.3		サカキ	有頭 樹皮あり
第IV-5-34図69	5086	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭19	杭	丸太材	芯持ち	178.4			6.8	カエデ属	有頭 樹皮あり 焦げあり
第IV-5-35図70	3163	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 杭21	有頭製品	丸太材	芯持ち	144.7			5.6	ヤナギ属	
第IV-5-35図71	2213	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物5 杭26	有頭製品	丸太材	芯持ち	88.3			5.7	サカキ	
第IV-5-35図72	3012	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物7 杭17	有頭製品	丸太材	芯持ち	33.3			5.7	ニヨウマ ツ	樹皮あり
第IV-5-35図73	3018	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物1 杭10	有頭製品	丸太材	芯持ち	35.2			4.6	シイノキ 属	
第IV-5-35図74	1854-1	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		杭 (支保工)	丸太材	芯持ち	144	122	13.3		クリ	二股部分
第IV-5-36図75	4591	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物20 横木M	有頭製品	丸太材	芯持ち	342.5			13	カヤ	
第IV-5-36図76	3256	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 横木P	有頭製品	丸太材	芯持ち	241.8			6.5	ニヨウマツ	樹皮あり
第IV-5-36図77	4948	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物24 横木E	有頭製品	丸太材	芯持ち	158.4			10.6	アカガシ 亜属	樹皮あり
第IV-5-36図78	1742	6D-6d	砂層 最下部	4落ち込み		有頭製品	丸太材	芯持ち	171.8	11.4	8		ケヤキ	
第IV-5-37図79	3154	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 杭13	有頭製品	丸太材	芯持ち	170.3			9	シイノキ 属	
第IV-5-37図80	4147	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物8 杭32	有頭製品	丸太材	芯持ち	75.4	7.7	5.9		ヤブツバ キ	樹皮あり
第IV-5-37図81	5598	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 縦木D	有頭製品	丸太材	芯持ち	209.3			12.6	カヤ	樹皮あり
第IV-5-37図82	5593	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 横木D	杭	丸太材	芯持ち	235.9			7.4	イヌマキ	
第IV-5-38図83	1164	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		杭	丸太材	芯持ち	219.6			9	モミ属	
第IV-5-38図84	4983	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物23 杭73	杭	丸太材	芯持ち	126.3	7.45	6.3		スギ	
第IV-5-38図85	3098	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物11 横木D	杭	丸太材	芯持ち	95.6			9.6	ヤナギ属	樹皮あり
第IV-5-39図86	5077	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭10	杭	角材	芯去	152.5	8.6	8		スギ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-5-39図87	4912	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物23 杭62	杭	角材	芯去	138.2	4.9	4.7		スギ	
第IV-5-39図88	899	6D-6d		4落ち込み	杭7	杭	角材	芯去	76.4	4	3.5		スギ	穿孔あり 転用品
第IV-5-39図89	1019	6D-5e	中層砂層	4落ち込み	杭11	杭	角材	芯去	60	4.2	3		スギ	
第IV-5-39図90	898	6D-6d		4落ち込み	杭6	杭	角材	芯去	58.3	4.7	4		スギ	
第IV-5-39図91	893	6D-6e		4落ち込み	杭1	杭	角材	芯去	38.5	3.8	3.9		スギ	
第IV-5-40図92	4618	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 杭1	杭	角材	芯去	239	4.2	3.1		スギ	欠き込みあり 転用品
第IV-5-40図93	3205	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物3 下部 杭40	矢板	板材	板目	104.6	5.5	2.7		スギ	転用品
第IV-5-40図94	5589	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 杭40	矢板	板材	板目	113.9	5	3.3		スギ	転用品
第IV-5-41図95	4889	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物24 杭18	杭	角材	芯去	161.3	5.5	4.1		スギ	
第IV-5-41図96	3188	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物3 下部 杭5	杭	角材	芯去	124.9	6.8	5.7		スギ	
第IV-5-41図97	5444	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物25 板3	矢板	板材	板目	143.3	18.5	1.9		スギ	穿孔あり 転用品
第IV-5-41図98	5185	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物27 材0	矢板	板材	板目	97.4	9.8	1.6		スギ	
第IV-5-41図99	5064	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物27 材B	矢板	板材	板目	95.8	10.5	1.7		スギ	
第IV-5-42図 100	5389	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物27 板19	矢板	板材	板目	244.5	23.7	8.1		スギ	
第IV-5-42図 101	4768	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 杭34	矢板	板材	板目	215.9	18.7	6.8		スギ	
第IV-5-42図 102	5318	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物27 板17	矢板	板材	板目	195.6	33.5	4		スギ	
第IV-5-42図 103	5330	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物27 材Y	矢板	板材	板目	41	10	1.4		スギ	穿孔あり 転用品?
第IV-5-42図 104	4669	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物22 杭16	矢板	板材	板目	69.6	15	1.8		スギ	穿孔あり 転用品?
第IV-5-43図 105	4583	6D-5e		4落ち込み	木製 構造物21 杭47	矢板	板材	板目	239.3	13.3	6.1		スギ	
第IV-5-43図 106	1158	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		矢板	板材	板目	151	7.8	6		スギ	
第IV-5-43図 107	1846	6D-6d	中層砂層	4落ち込み	木製 構造物20 縦木J	矢板	板材	板目	253	24.3	5.2		スギ	穿孔あり 転用品
第IV-5-44図 108	2063	6D-6d		4落ち込み	木製 構造物3 横木C	矢板	板材	板目	254.8	8.9	4.4		スギ	焦げあり 穿孔あり 転用品
第IV-5-44図 109	1409	6D-6d	中層砂層	4落ち込み		矢板	板材	板目	117	8	1.6		スギ	穿孔あり 転用品
第IV-5-44図 110	5090	6D-6e		4落ち込み	木製 構造物26 杭21	矢板	板材	板目 (芯持ち)	297.6	18.4	7.3		スギ	焦げあり 欠き込みあり 転用品

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第Ⅳ-5-45 図 111	5037	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板9	壁板	板材	板目	301.6	21.8	2.1		スギ	穿孔あり
第Ⅳ-5-45 図 112	5034	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板10	壁板	板材	板目	269.6	14.6	1.6		スギ	穿孔あり
第Ⅳ-5-45 図 113	5036	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板12	壁板	板材	板目	250	14.1	3.9		スギ	穿孔あり
第Ⅳ-5-46 図 114	5031	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板13	壁板	板材	板目	240.1	14.7	2.6		スギ	穿孔あり
第Ⅳ-5-46 図 115	5035	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板11	壁板	板材	板目	249.5	13.8	2.1		スギ	
第Ⅳ-5-46 図 116	5018	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板1	壁板	板材	板目	175.5	18.3	1.5		スギ	
第Ⅳ-5-47 図 117	5020	6D-6e		4落ち込み	板敷 構造物 板3	根太	板材	板目	157.6	15.4	6.4		スギ	
第Ⅳ-5-48 図 118	4952	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横2	有頭製品 (両頭)	角材	芯去	183.7	4	2.8		スギ	断面は 半円形
第Ⅳ-5-48 図 119	4953	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横3	有頭製品 (両頭)	角材	芯去	126	3.2	1.9		スギ	断面は 半円形
第Ⅳ-5-48 図 120	4954	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横4	有頭製品 (両頭)	角材	芯去	79.8	3.1	2.2		スギ	断面は 半円形
第Ⅳ-5-48 図 121	4951	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横1	有頭製品 (両頭)	角材	芯去	246.1	3.3	1.7		スギ	断面は 半円形
第Ⅳ-5-48 図 122	4967	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横11	棒状製品	角材	芯去	174.6	2.9	2.3		スギ	断面は 半円形
第Ⅳ-5-49 図 123	4957	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 縦2	棒状製品	角材	芯去	143	3.8	2.1		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-49 図 124	4958	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 縦3	棒状製品	角材	芯去	140.6	3.2	2.6		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-49 図 125	4966	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横10	棒状製品	角材	芯去	119.7	3	2.6		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-49 図 126	4955	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 縦1	棒状製品	角材	芯去	97.4	3.4	2.1		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-50 図 127	4965	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横9	棒状製品	角材	芯去	91.2	3.2	1.7		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-50 図 128	4962	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横6	棒状製品	角材	芯去	63.7	2.9	1.6		スギ	断面は 隅丸方形
第Ⅳ-5-50 図 129	4956	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 縦5	棒状製品	角材	芯去	63.8	2.1	1.4		スギ	
第Ⅳ-5-50 図 130	4961	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 縦4	杭	丸太材	芯去	85			3.1	スギ	
第Ⅳ-5-50 図 131	4963	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横7	棒状製品	角材	芯去	42.4	3.1	2		スギ	
第Ⅳ-5-50 図 132	4964	6D-6e		4落ち込み	板敷 上台形 横8	棒状製品	角材	芯去	40.4	2.5	1		スギ	
第Ⅳ-6-1 図1	7070	5D-1b		708溝		膝柄	丸太材	芯持ち	31.5	(身幅) 3.5	(身厚) 2.7	(柄径) 1.8	カヤ	

報告書掲載 番号	取上 No	出土位置				器種	形状	木取り	法量 (最大 c m)				樹種	備考
		グリッド	層位	遺構	構造物等				長さ	幅	厚さ	径		
第IV-6-1図2	7050	4C-10j		708溝		不明製品	板材	柃目	50	14.8	2.3		スギ	柄部分? に穿孔
第IV-6-1図3	8722	4C-6i		708溝		矢板	板材	板目	24	24.1	3.2		スギ	楔?
第IV-6-1図4	8723	4C-6i		708溝		矢板	板材	柃目	26.7	12.5	4.7		スギ	楔?
第IV-6-1図5	8724	4C-6i		708溝		矢板	板材	板目	22.5	14.8	4.4		スギ	楔?
第IV-6-1図6	8725	4C-6i		708溝		矢板	板材	柃目	12.4	10.1	3.2		スギ	楔?
第IV-6-1図7	9174	4C-8i		708溝		杭	分割材	放射状 分割	85	8.4	6		ムクロジ	
第IV-6-2図1	8848	4C-7j		952溝	溝内杭列	杭	角材	芯去	58.1	7.8	6.7		スギ	穿孔あり 転用品
第IV-6-2図2	9245	4C-7j		952溝	溝内杭列	杭	角材	芯去	53.3	9.4	6.6		スギ	転用材
第IV-6-2図3	9247	4C-6j		952溝	溝内杭列	杭	角材	芯去	62.3	6.9	5.1		スギ	
第IV-7-1図1	7817	5D-1a		710溝		鋏先	板材	柃目	32.7	17.7	3.8		アカガシ 亜属?	樹種は肉眼 観察による
第IV-7-1図2	7803 ・ 7804	5D-1 b		710溝		二脚盤	割材	横木取り	(器高) 10.3			(口径) 19.4	ヤマグワ	
第IV-7-1図3	8554	5D-2b		710溝		飾り弓	丸太	芯去	5.4	1.5	1		サルナシ マタタビ 属	表面 赤色塗彩
第IV-7-2図4	7766	5D-2c		710溝		斧柄未成 品?	丸太	芯持ち	120	(身幅) 10.3	(身厚) 6.2	(柄径) 4.7	カヤ	樹皮あり 二股部分
第IV-7-2図5	8140	5D-1c		710溝		掛矢	丸太	芯持ち	57.3	8.4	6.7		イヌマキ	使用痕あり
第IV-7-2図6	9199	4C-8i		710溝		掛矢	丸太	芯持ち	47.3	19.9	16.4		ヤブツバ キ	使用痕あり
第IV-7-3図7	8651	5D-1c		710溝		掛矢	丸太	芯持ち	89.5	32.3	12.2		ヤマグワ	
第IV-7-3図8	8811	4C-7i		710溝		杭	丸太材	芯持ち	80.8			16.6	カキノキ	
第IV-7-3図9	7728	5D-1 b		710溝		矢板	板材	追柃目	56	20.1	7.8		スギ	
第IV-7-3図10	8164	5D-1c		710溝		不明製品	丸太材	芯持ち	15	1	1		モミ属	
第IV-7-3図11	8589	5D-1a		710溝		不明製品	板材	板目	6.6	5.4	1.6		スギ	
第IV-7-4図12	8463	5D-1a		710溝		部材?	分割材	放射状 分割	92.9	9.9	7.7		ヤマグワ	穿孔あり?
第IV-7-4図13	8187	5D-1c		710溝		板材	板材	柃目	38.9	16.6	4.7		アカガシ 亜属	
第IV-7-4図14	8188	5D-1c		710溝		板材	板材	柃目	50.9	21	2.9		アカガシ 亜属	
第IV-7-5図1	8691	4C-8i		949 構造物		部材	丸太材	芯持ち	99.6	12.7	12.4		ヤナギ属	
第IV-7-5図2	8751	4C-9i		949 構造物		不明製品	板材	板目	110.6	9	2		スギ	
第IV-7-5図3	9121	4C-8i		949 構造物		杭	丸太材	芯持ち	57.2			6.8	ヤマグワ	
第IV-7-5図4	8780	4C-8i		949 構造物		不明製品	板材	板目	75.7	12.7	4.4		アカガシ 亜属	

圖 版
PLATE

1 第4区包含層・8溝
出土木器
(第III-1-1・2図)



2 第4区8・9溝出土木器
(第III-1-1・2図)



3 第5区第2a~第3a層出
土部材(第IV-1-1図)



图版 2



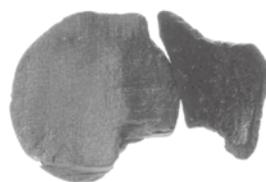
1 第5区第2a~第3a層出土木板（第IV-1-1圖）



2 第5区第3a層出土木器（第IV-2-1~3圖）



3 第5区1溝出土椀(外面)
(第IV-3圖1)



1 第5区1溝出土椀(内面)
(第IV-3图1)



2 第5区6溝出土木器
(第IV-4-1图)



3 第5区209土坑出土不明製品
(第IV-4-2图)

図版 4



1 第5区664 構造物出土木器 (第IV-4-3 図)



2 第5区2 溝上部木製構造物出土田下駄 (第IV-4-5 図)



1 第5区2溝上部木製構造物出土不明製品 (第IV-4-5 図)



2 第5区2溝上部木製構造物出土建築部材
(第IV-4-6 図7)



3 第5区2溝上部木製構造物出土杭・矢板
(第IV-4-7・9 図)

图版 6



1 第5区2溝出土田下駄
(第IV-5-1 図)



2 第5区2溝出土田下駄
(第IV-5-1 図5)



3 第5区2溝出土田下駄
拡大
(第IV-5-1 図5)



1 第5区2溝出土鋤状木器 (第IV-5-2図6)



2 第5区2溝出土槽 (第IV-5-2図7)



3 第5区2溝出土不明製品 (第IV-5-3図10)



第 5 区 2 溝出土柱材 (第 IV - 5 - 4 图 11)



1 第5区2溝内出土柱材
拡大1
(第IV-5-4図11)



2 第5区2溝内出土柱材
拡大2
(第IV-5-4図11)



3 第5区2溝出土柱材
(第IV-5-4図12)

图版 10



1 第5区2溝出土垂木 (第IV-5-5图)



2 第5区2溝出土兩頭製品 (第IV-5-6图)



3 第5区2溝出土建築部材 (第IV-5-6图 24)



1 第5区2溝出土建築部材 (第IV-5-7図)



2 第5区2溝出土建築部材 (第IV-5-8図29)



3 建築部材拡大1 (第IV-5-8図29)



4 建築部材拡大2 (第IV-5-8図29)



5 第5区2溝出土転用杭 (第IV-5-9・10図)

图版 12



1 第5区2溝出土垂木
(第IV-5-5图)



2 第5区2溝出土矢板
(第IV-5-14图56)



3 第5区2溝出土矢板
(第IV-5-14图57)



1 第5区2溝内杭列出土杭（第IV-5-15～18図）



2 第5区4落ち込み出土田下駄（第IV-5-19図2）

図版 14



1 第5区4落ち込み出土
鋤状木器
(第IV-5-19図3)



2 第5区4落ち込み出土
大足
(第IV-5-19図4)



3 第5区4落ち込み出土
大足
(第IV-5-19図5)



1 第5区4落ち込み出土
掛矢
(第IV-5-20図6)



2 第5区4落ち込み出土
腰掛
(第IV-5-20図8・9)



3 第5区4落ち込み出土
火きり板
(第IV-5-20図)

図版 16



1 第5区4落ち込み出土
槽 (第IV-5-21 図 12)



2 第5区4落ち込み出土
槽 (第IV-5-21 図 13)



3 第5区4落ち込み出土
臼 (外面)
(第IV-5-22 図 14)



1 第5区4落ち込み出土臼（内面）（第IV-5-22図14）



2 第5区4落ち込み出土臼（第IV-5-22図15）



1 第5区4落ち込み出土
臼（内面）
（第IV-5-22 図15）



2 第5区4落ち込み
出土鳥形木製品
（第IV-5-23 図16）



3 第5区4落ち込み出土
不明製品
（第IV-5-23 図17）



1 第5区4落ち込み出土
不明製品
(第IV-5-23図)

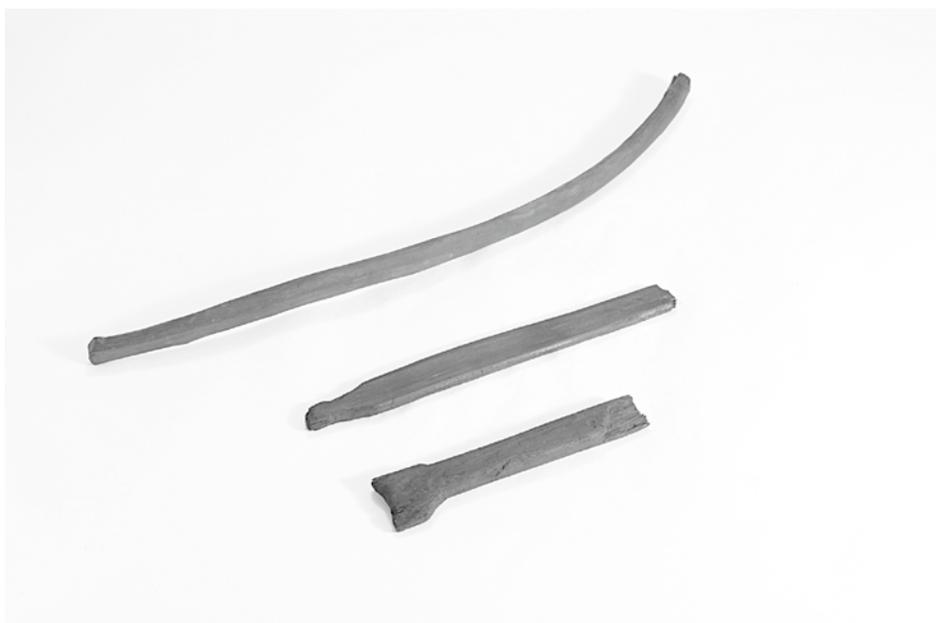


2 第5区4落ち込み出土
不明製品
(第IV-5-24図22)



3 第5区4落ち込み出土
不明製品
(第IV-5-24図)

図版 20



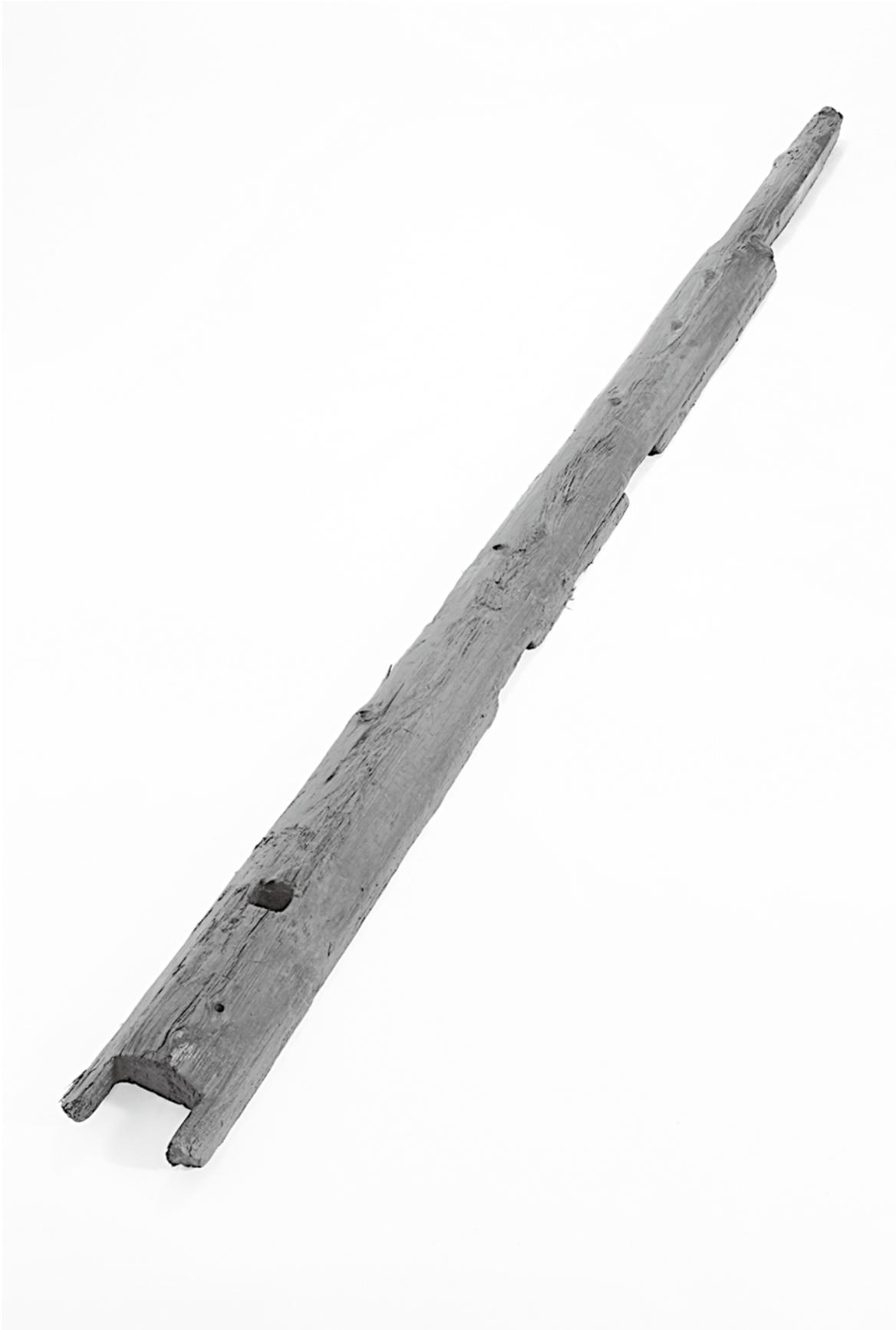
1 第5区4落ち込み出土
不明製品
(第IV-5-24図)



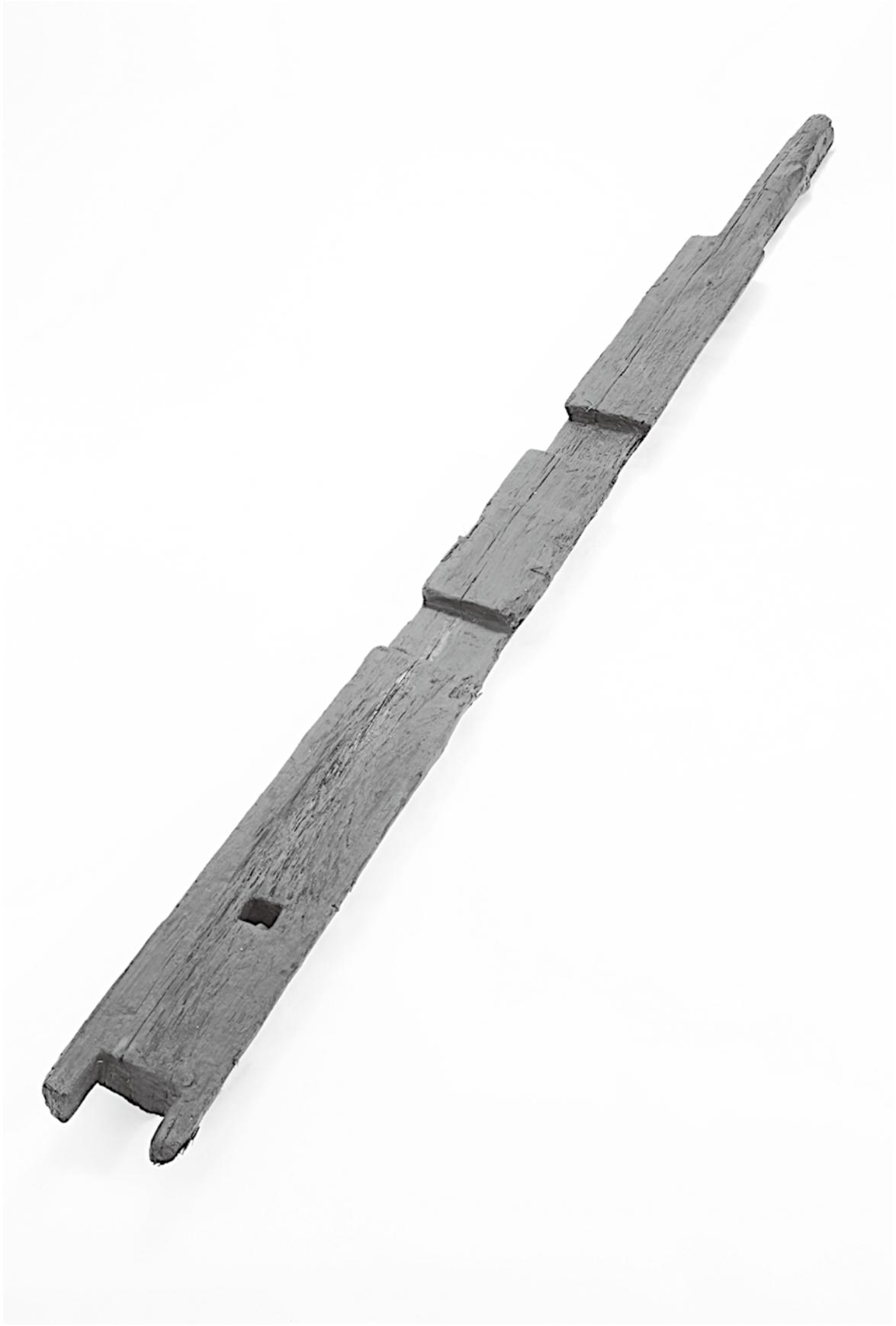
2 第5区4落ち込み出土
棒状製品(素材?)
(第IV-5-25図)



3 第5区4落ち込み出土
棒状製品2(素材?)
(第IV-5-25図)



第5区4落ち込み出土柱材（第IV-5-26図40）



第5区4落ち込み出土柱材（内面）（第IV-5-26图40）



1 第5区4落ち込み出土柱材 (第IV-5-26 図41)



2 柱材材大1 (第IV-5-26 図41)



3 柱材拡大2 (第IV-5-26 図41)



4 第5区4落ち込み出土柱材 (第IV-5-27 図44)



5 第5区4落ち込み出土柱材 (第IV-5-27 図45)

図版 24



1 柱材拡大1 (第IV-5-27 図45)



2 柱材拡大2 (第IV-5-27 図45)



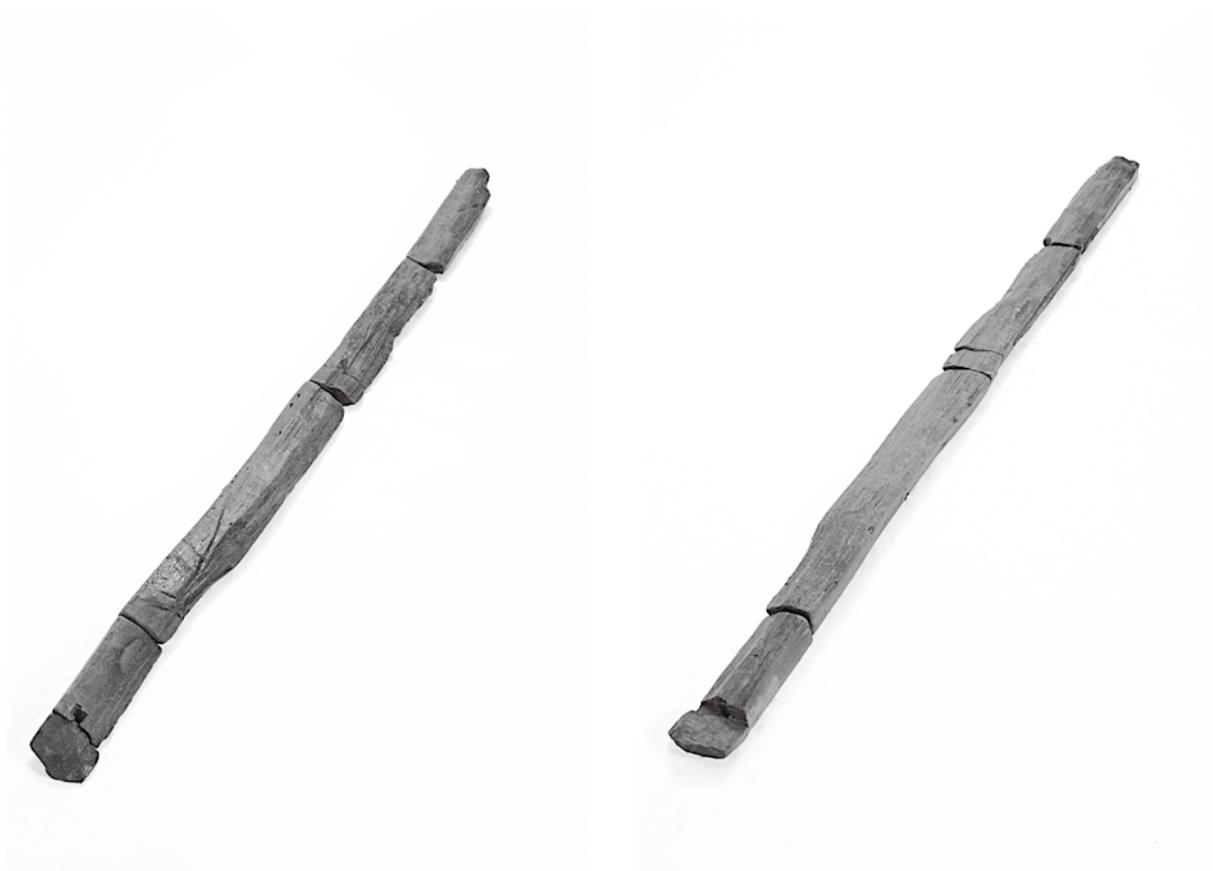
3 第5区4 落ち込み出土建築部材 (第IV-5-28 図49)



4 第5区4 落ち込み出土柱材? (第IV-5-27 図46)



1 第5区4落ち込み出土柱材? (内面) (第IV-5-27 図46)



2 第5区4落ち込み出土建築部材
(第IV-5-29 図52)

3 第5区4落ち込み出土建築部材(裏)
(第IV-5-29 図52)

図版 26



1 第5区4落ち込み出土板材(第IV-5-30図) 2 第5区4落ち込み出土有頭製品(第IV-5-31図58)



3 第5区4落ち込み出土梯子(第IV-5-30図56)



1 第5区4落ち込み出土有頭製品 (第IV-5-32 図) 2 第5区4落ち込み出土転用杭 (第IV-5-33 図 66)



3 第5区4落ち込み出土有頭製品
(第IV-5-34 図 68)

4 第5区4落ち込み出土有頭製品
(第IV-5-36 図 77)



1 第5区4落ち込み出土転用杭 (第IV-5-40 図)



2 第5区4落ち込み出土転用杭 (第IV-5-44 図 108)



3 第5区4落ち込み台形棒出土木器 1 (第IV-5-50 図)



第5区4落ち込み台形杵出土木器2 (第IV-5-48~50 図)

图版 30



1 台形棒扩大 1
(第IV-5-48图 118)



2 台形棒扩大 2
(第IV-5-49图 123)



3 台形棒扩大 3
(第IV-5-50图 127)



第5区4落ち込み板敷遺構出土板材



1 第5区708溝出土斧柄
(第IV-6-1图1)



2 斧柄扩大
(第IV-6-1图1)



3 第5区708溝出土
不明製品
(第IV-6-1图2)



1 第5区 708 溝出土矢板 (第IV-6-1 図)



2 第5区 952 溝出土杭 (第IV-6-2 図)



3 第5区 861 ピット出土礎板 (取上No. 7500・7501)



1 第5区710溝出土鍬先(第IV-7-1图1)



2 鍬先(裏面)(第IV-7-1图1)



3 第5区710溝出土二脚盤(第IV-7-1图2)

- 1 第5区710溝出土
飾り弓
(第IV-7-1図3)



- 2 飾り弓 (裏面)
(第IV-7-1図3)



- 3 第5区710溝出土
斧柄?
(第IV-7-2図4)





1 斧柄? 扩大
(第IV-7-2图4)



2 第5区710沟出土挂矢
(第IV-7-2图)



3 第5区710沟出土挂矢
(第IV-7-3图7)



1 第5区710溝出土
不明製品
(第IV-7-3図)



2 第5区710溝出土
放射状分割材
(第IV-7-4図)



3 第5区710溝出土
分割材
(取上No.7669)



1 第5区710沟出土分割材（取上No.7670）



2 第5区710沟出土分割材（取上No.7675）



3 第5区710沟出土分割材（取上No.7688）



1 第5区710溝出土分割材（取上No.7845）



2 第5区710溝出土分割材（取上No.8627）



3 第5区949構造物出土木器（第IV-7-5図）

報告書抄録

ふりがな	もとだかゆみのきいせき（ごく）に							
書名	本高弓ノ木遺跡（5区）Ⅱ							
副書名	一般国道9号（鳥取西道路）の改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	X I							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	下江健太、中原計							
発行年月日	西暦2014年（平成26年）3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとだかゆみのきいせき（ごく） 本高弓ノ木遺跡（5区）	とっとりしもとだか 鳥取市本高97、 109、110-2、 112-2、113-2、 218-1、218-2、 219-1～3、220- 1・2、221-1・2、 222-1～5、224- 1・2、225-1～3	31201	3-0388	35° 28' 55"	134° 11' 51"	20210501 ～ 20220305 20220426 ～ 20230224	7,350㎡	国道9号線 （鳥取西道路） 道路改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
本高弓ノ木遺跡（5区）	集落跡、 生産遺跡	縄文時代後・晩 期弥生時代前期 ～終末期 古墳 時代前・後期、 古代、中世		河川跡、溝 土坑 水田跡		土器 （縄文土器、弥 生土器、土師器、） 木製品	木材の集積（弥 生時代開始期）、 四隅突出型の盛 土（弥生時代後 期）水利施設（古 墳時代前期）	
要約	<p>本高弓ノ木遺跡（5区）の発掘調査では、縄文時代から弥生時代、弥生時代から古墳時代の移行期の重要な遺構や遺物を多数発見した。弥生時代開始期に調査区内に流れ込んでいた河川（710溝）は埋没の過程で、木材の集積に利用されており、突帯文土器とともに鳥取県東部地域で最古相の遠賀川式土器が出土している。また、突帯文土器の器面には、イネ科栽培植物の種実の圧痕を伴うものが多く認められた。また、古墳時代前期には、調査区を縦走するように大型の溝（2溝）が掘削され、それに伴う池状の落ち込み（4落ち込み）には、木製の構造物が構築されていた。池状の落ち込みと2溝の接続部には、水の流れを遮るように土堤が築かれており、周辺で利用する水を管理、調整するための水利施設と考えられた。水利施設からは、本高弓ノ木遺跡の南側の丘陵上に築かれた古墳時代前期の前方後円墳（本高14号墳）の築造と同時期の土器が出土している。その他、弥生時代中期後葉から終末期の遺構・遺物、古代の水田跡等を検出した。</p>							

一般国道9号(鳥取西道路)の改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 XI

鳥取県鳥取市

本高弓ノ木遺跡(5区) II
【遺物(木器)編】

発行 平成26年3月10日

編集 公益財団法人 鳥取県教育文化財団

発行者 鳥取県教育委員会
〒683-0845 鳥取県鳥取市東町1丁目271番地
電話 (0857)26-7934

印刷 (有) 米子プリント社
